

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	VU	VU	NT	NT	NT
2010	VU	VU	NT	VU	
1998					



八王子市 2015 年 7 月 13 日

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	●	●	CR	CR	
2010	●	●	VU		
1998			A		



奥多摩町 2018 年 7 月 3 日

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	●	●	CR	CR	
2010	●	●	EN		
1998			A		



静岡県 2010 年 7 月 23 日

コ克蘭

Liparis nervosa

被子植物
ラン科

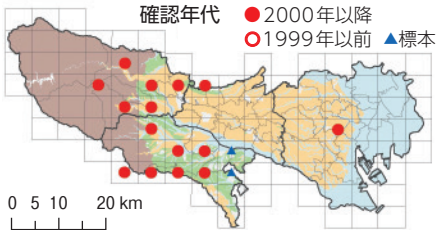
■ **種の特性と生育状況**：本州（福島県以南）、四国、九州、西南諸島に分布する多年草で、暖温帯の樹林下に生育する。葉はゆがんだ広楕円形で鋭頭、長さ5～15cm。花茎は高さ15～30cm。花期は6～7月で、5～10個の花をまばらにつける。花は暗紫色、唇弁はくさび状倒卵形、中央が凹んで反り返る。都内では、各地の常緑樹と落葉樹の混じる樹林、雑木林、竹林の林床に生育する。近年、各地で増加傾向にある。

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採、市街地開発、採取。

■ **特記事項**：

執筆者 新井二郎

文献一覧 243, 322



ホザキイチヨウラン

Malaxis monophyllos

被子植物
ラン科

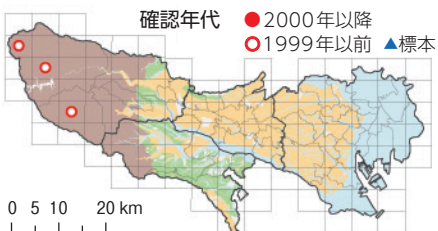
■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州（近畿以北）、四国に分布する多年草で、冷温帯から亜寒帯の樹林下に生育する。葉は基部にふつう1個つき、広卵形、長さ4～8cm。花茎は高さ15～30cm。花期は7～8月で、淡緑色の小さな花を多数穂状につける。都内では、西多摩の冷温帯上部の針葉樹林内などに稀に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採、採取、遷移進行・植生変化、シカの食害。

■ **特記事項**：

執筆者 新井二郎

文献一覧 24, 152, 168



アリドオシラン

Myrmechis japonica

被子植物
ラン科

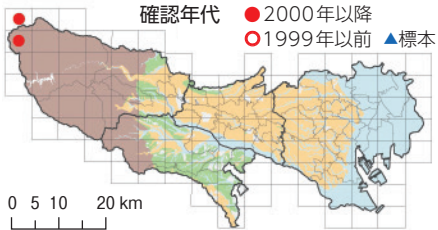
■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州（近畿以北）、四国に分布する多年草で、冷温帯から亜寒帯の樹林内に生育する。葉は広卵形、長さ5～12mm、幅4～8mm、3～5個まばらにつく。花茎は高さ5～10cm。花期は7～8月で、花を1～3個つける。花は白色ときに薄桃色のつば状で、唇弁の先端は広がり2裂する。都内では、西多摩の山地の冷温帯樹林内に稀に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採、採取、遷移進行・植生変化、シカの食害。

■ **特記事項**：

執筆者 新井二郎

文献一覧 170



フウラン

Neofinetia falcata

被子植物
ラン科

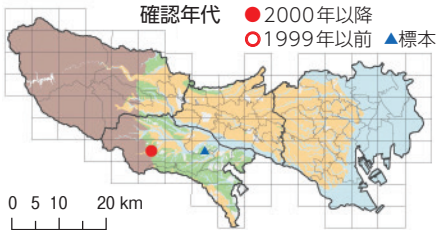
■ **種の特性と生育状況**：本州（関東南部以西）、四国、九州、南西諸島に分布する多年草で、亜熱帯から暖温帯の樹上や岩上に着生する。基部から四方に根を長く伸ばす。茎は短く、やや束生する。葉は広線形、多肉質で硬く湾曲し、長さ5～10cm。花期は6～7月で、長さ3～10cmの花茎に白色の花を3～5個つける。萼片と側花弁は長さ約1cmの線状披針形、唇弁は浅く3裂し、距は線形で長さ4～5cm、湾曲して下垂する。都内では、南多摩の山地の常緑樹に着生するが、ウメに着生することもある。

■ **生存を脅かす要因**：採取。

■ **特記事項**：本来の自生ではなく、樹木に着生させ植栽しているものがあるので、注意が必要である。

執筆者 新井二郎

文献一覧 17, 246



ヒメフタバラン

Neottia japonica

被子植物
ラン科

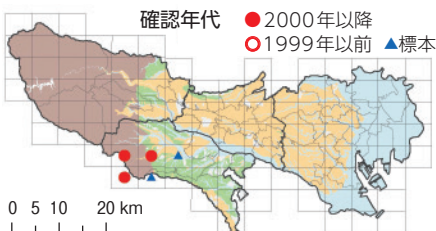
■ **種の特性と生育状況**：本州、四国、九州に分布する多年草で、暖温帯に生育する。茎は直立し、高さ5～10cm。葉は卵状三角形、長さ幅ともに1～2cm、基部は切形または浅心形。花期は3～5月、淡紫褐色の花を2～6個まばらにつける。萼片と側花弁は長さ2～3mm、後方に反曲。唇弁は長さ6～8mm、逆Y字形、中心部にT字形の隆起がある。都内では、南多摩の丘陵地や山地の樹林内に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：各種開発、森林伐採、人の踏みつけ、採取、遷移進行・植生変化。

■ **特記事項**：

執筆者 新井二郎

文献一覧 17, 22, 243



アオフタバラン

Neottia makinoana

被子植物
ラン科

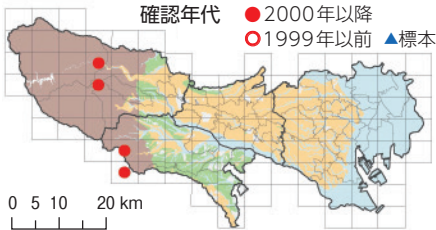
■ **種の特性と生育状況**：本州、四国、九州に分布する多年草で、冷温帯の樹林内に生育する。茎は直立し、高さ10～20cm。葉は茎の下方にあって三角状卵形、鈍頭、基部は切形または浅心形、長さ幅ともに1～3cm、基部は切形または浅心形。花期は7～8月、帯緑色の花を5～20個まばらにつける。唇弁は長さ5～6mm、先端は2裂、裂片は卵形で円頭。都内では、南多摩と西多摩の山地の樹林内に稀に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採、採取、遷移進行・植生変化。

■ **特記事項**：日本固有種である。

執筆者 新井二郎

文献一覧 168, 243



区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	●	●	CR	●	CR
2010	●	●	CR	●	VU
1998			UK		



八王子市 2022 年 7 月 22 日

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	●	●	CR	●	CR
2010	●	●	CR	●	
1998			A		



八王子市 1996 年 4 月 11 日

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	●	●	CR	EN	EN
2010	●	●	CR	CR	
1998			A		



青梅市 1995 年 8 月 12 日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	EX	—	CR	—	CR
2010	CR	EX	—	—	EN
1998	D				



八王子市 2021 年 5 月 28 日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	DD	EN	EN	CR	EN
2010	DD	VU	VU	—	
1998			B		



八王子市 1997 年 6 月 4 日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	—	—	CR	CR	—
2010	—	—	EX	CR	—
1998			D		



秋田県 2012 年 6 月 25 日

被子植物ラン科

ムカゴサイシン

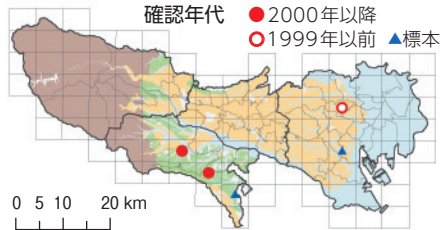
Nervilia nipponica

■ **種の特性と生育状況**：本州（関東地方以西）、四国、九州に分布する多年草で、暖温帯の林下に生育する。地下の球茎からシュートを伸ばし、まず開花、結実し、その後葉を 1 枚根生する。花茎は帯紫色、高さ約 10cm。花期は 5 ～ 6 月、花は 1 個を頂生し、紅紫色、筒状で完全には開かない。花後に出る葉は角張った心円形、長さ幅とも 3 ～ 5cm。都内では、南多摩での生育確認があるが、ごく稀に生育するだけである。

■ **生存を脅かす要因**：人の踏みつけ、採取、遷移進行・植生変化。

■ **特記事項**：過去に、区部（現・林試の森公園）や八王子（森林総合研究所多摩森林科学園）からの報告があるが、その後同地では確認できなくなっている。日本固有種である。

執筆者	新井二郎
文献一覧	75, 270, 281, 287



被子植物ラン科

ヨウラクラン

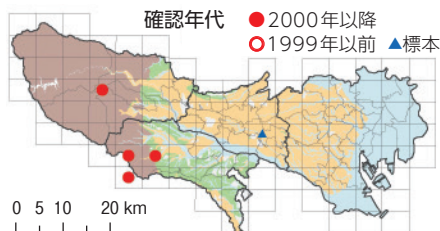
Oberonia japonica

■ **種の特性と生育状況**：本州（宮城県以南）、四国、九州、西南諸島に分布する多年草で、暖温帯の樹幹や岩上に着生する。茎は長さ 1 ～ 4cm で束生し、下垂する。葉は袴状で扁平、2 列に互生し、長さ 1 ～ 3cm、幅 2 ～ 5 mm、急鋭頭。花期は 5 ～ 6 月、茎頂に長さ 2 ～ 8cm の花茎をつけ、淡黄褐色の小花が多数密に輪生する。都内では、多摩地域の丘陵地や山地の空中湿度が高い樹林や岩上に着生する。区部では現状不明。

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採、採取。

■ **特記事項**：

執筆者	新井二郎
文献一覧	17, 219, 243, 270



被子植物ラン科

コケイラン

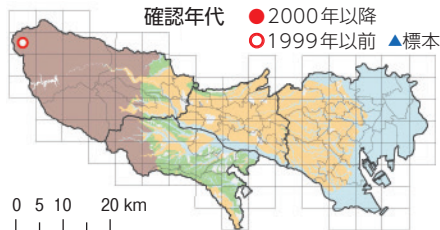
Oreorchis patens

■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州、四国、九州に分布する多年草で、冷温帯から亜寒帯にかけての樹林下に生育する。葉は 2 個根生し、披針形で長さ 20 ～ 30cm、幅 1 ～ 3 cm。花茎は高さ 30 ～ 40cm。花期は 5 ～ 7 月で、多数の黄褐色の花を総状につける。萼片と側花弁は披針形、唇弁は約 1 cm 白色で斑点があり、距はない。都内では、西多摩の山地深部の湿った落葉広葉樹林内に極めて稀に生育する。南多摩の丘陵地には未確認の情報があるが、山地では絶滅した可能性が高い。

■ **生存を脅かす要因**：森林開発、採取、遷移進行・植生変化。

■ **特記事項**：

執筆者	新井二郎
文献一覧	168



区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	—	—	CR	CR	VU
2010	—	—	CR	CR	
1998			UK		



山梨県 1993 年 6 月 10 日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	—	—	CR	CR	
2010	—	—	CR		
1998			B		



長野県 2013 年 8 月 28 日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	—	—	EN	EN	
2010	—	—	VU		
1998			A		



長野県 2007 年 8 月 27 日

被子植物ラン科

サカネラン

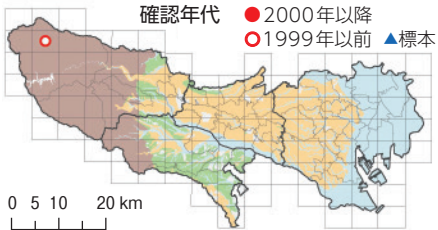
Neottia papilligera

■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州（中部地方以北）、九州に分布し、暖温帯から冷温帯の樹林内に生育する菌従属栄養植物。根茎は地中に直立、先が上向きする肉質の根を多数束生。地上茎は太く多肉で直立し、高さ 20 ～ 40cm、下部に膜質鞘状葉を互生する。花期は 5 ～ 6 月で、花序は汚白色花が多数総状に密生する。茎上部、子房、花には縮れた褐色の腺毛が密生する。萼片と側花弁は倒卵形、唇弁は基部がやや袋状で先端が 2 裂。都内では、南多摩、西多摩の山地の落葉樹林内にごく稀に生育していたが、近年、生育を確認できていない。

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採、遷移進行・植生変化。

■ **特記事項**：

執筆者	新井二郎
文献一覧	168, 243, 247



被子植物ラン科

タカネフタバラン

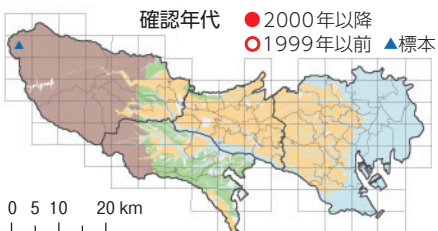
Neottia puberula

■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州（中部地方以北）に分布する多年草で、冷温帯から亜寒帯の樹林内に生育する。茎は高さ 15 ～ 20cm。葉は腎円形で基部は心形、長さ 15 ～ 30mm、幅 20 ～ 30mm。花期は 8 ～ 9 月で、淡緑褐色の花を 5 ～ 10 個まばらにつける。萼片は狭長楕円形、側花弁は線形。唇弁は長さ 5 ～ 8mm、先端は 2 裂、裂片は楕円形で鈍頭。都内では、西多摩の亜高山帯針葉樹林内に稀に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採、採取、遷移進行・植生変化、シカの食害。

■ **特記事項**：

執筆者	新井二郎
文献一覧	24, 168



被子植物ラン科

ミヤマモジズリ

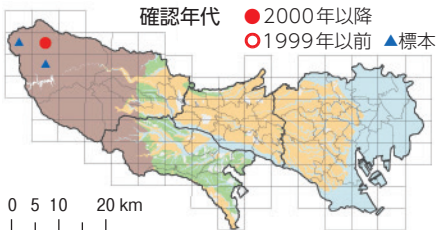
Neottianthe cucullata

■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州（中部地方以北）、四国に分布する多年草で、冷温帯から亜寒帯の樹林内に生育する。茎は高さ 10 ～ 20cm。葉は長楕円形で、長さ 3 ～ 6cm、幅 1 ～ 2.5cm。花期は 7 ～ 9 月で、淡紅紫色の花を総状に多数つける。萼片と側花弁は狭披針形。唇弁は 3 裂し、長さ 8mm、距は唇弁より短く、前方に曲がる。都内では、西多摩の高標高地の樹林内や岩上に稀に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：石灰採掘、採取、遷移進行・植生変化。

■ **特記事項**：

執筆者	新井二郎
文献一覧	24, 168, 292



	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	●	●	●	CR	CR	CR
2010	●	●	●	VU		
1998				A		



山梨県 2016 年 7 月 31 日

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	●	●	CR	CR	CR	EN
2010	●	●	CR	●		
1998				UK		



新潟県 2021 年 8 月 6 日

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	●	EX	CR	CR	CR	
2010	●	EX	EN	EN		
1998				A		



八王子市 1993 年 6 月 13 日

オオバナオオヤマサギソウ

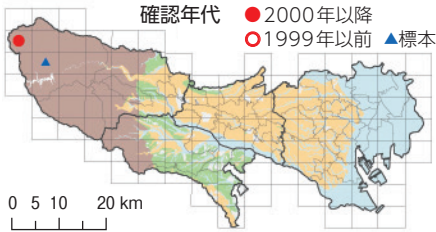
被子植物
ラン科

■ **種の特性と生育状況**：本州（東北～近畿地方）、四国、九州に分布する多年草で、冷温帯の林内に稀に生育する。茎は高さ 40 ～ 60cm。葉はふつう 2 枚が大きく、倒卵状狭長楕円形で長さ 10 ～ 20cm、幅 4 ～ 8cm。花期は 7 ～ 8 月、淡緑白色の花を穂状につける。オオヤマサギソウに比べ花の各部分が大きく、距の長さは 30 ～ 40mm と長い。都内では、西多摩の山地深部の樹林内に極めて稀に生育する

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採、採取、遷移進行・植生変化。

■ **特記事項**：日本固有種である。

執筆者	新井二郎
文献一覧	168



イヌマムカゴ

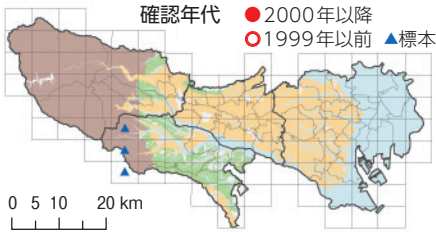
被子植物
ラン科

■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州、四国、九州に分布する多年草で、暖温帯から冷温帯の山地の林内や林縁に生育する。茎は高さ 20 ～ 40cm。葉は長楕円形で周辺が波打ち、長さ 8 ～ 15cm、幅 2 ～ 4cm、茎の中ほどに 2 ～ 3 枚つける。花期は 7 ～ 8 月、小さな花を多数つける。萼片と側花弁は淡緑色、長さ 1.5 ～ 2mm、兜状になる。唇弁は白色で舌状、長さ 2 ～ 3mm。距は長さ 1 ～ 1.5mm、棍棒状で下垂する。都内では、南多摩の山地樹林下での記録があるが、現状不明。

■ **生存を脅かす要因**：採取、管理放棄、遷移進行・植生変化。

■ **特記事項**：西多摩でも、2010 年頃、檜原村から生育の報告があるが、その後確認できなくなっている。日本固有種である。

執筆者	新井二郎
文献一覧	243, 327



ツレサギソウ

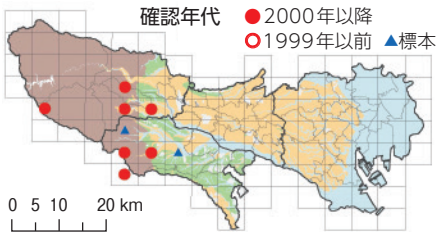
被子植物
ラン科

■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州、四国、九州に分布する多年草で、暖温帯から冷温帯の山地の日当たりの良い草地や湿った林内に生育する。茎は高さ 40 ～ 60cm。葉は長楕円形、長さ 10 ～ 20cm、幅 4 ～ 7cm、茎の下部に 4 ～ 6 枚つける。花期は 5 ～ 6 白色の花を多数つける。萼片と側花弁は長さ 6 ～ 7mm、兜状になり、側萼片は後方に反る。唇弁は長さ 2 ～ 3mm、基部両側に突起がある。距は長さ 13 ～ 15mm、舌状で下垂する。距は長さ 3 ～ 4cm、子房に沿って伸びる。都内では、南多摩から西多摩にかけての丘陵地、山地のやや湿った草地、林縁などに稀に生育する。北多摩では絶滅したものと考えられる。

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採、草地開発、採取、管理放棄、遷移進行・植生変化。

■ **特記事項**：

執筆者	新井二郎
文献一覧	17, 168, 219, 224, 243, 270



	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	EX	EX	EX	EX	EX	NT
2010	EX	EX	EX	EX		
1998	D					



神奈川県 2013 年 8 月 19 日

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	●	●	●	EN	EN	
2010	●	●	●	EN		
1998				B		



奥多摩町 2010 年 8 月 18 日

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	EX	EX	EX	EN	EN	
2010	●	EX	EX	EN		
1998				A		



神奈川県 2013 年 7 月 19 日

サギソウ

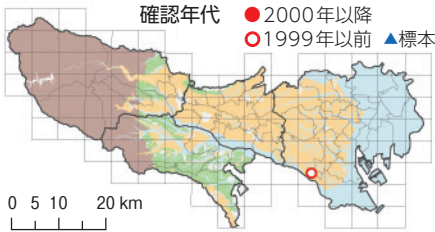
被子植物
ラン科

■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州、四国、九州に分布する多年草で、暖温帯から亜寒帯の湿地に生育する。茎は高さ 15 ～ 40cm。下部に広線形で長さ 5 ～ 10cm の葉を 3 ～ 5 枚つける。花期は 7 ～ 8 月、白色でシラサギを思わせる花を 1 ～ 4 個つける。花は径約 3cm、萼片は緑色で長さ 2 ～ 2.5mm、側花弁と唇弁は白色。唇弁は 3 裂、扇状に展開した側裂片の先が糸状に細裂する。都内では、かつて区部や多摩地域各所の湿地に自生していた記録はあるが、最近の報告は無く、絶滅したものと考えられる。

■ **生存を脅かす要因**：湿地開発、観光開発、市街地開発、採取。

■ **特記事項**：

執筆者	新井二郎
文献一覧	46, 104, 270



ジンバイソウ

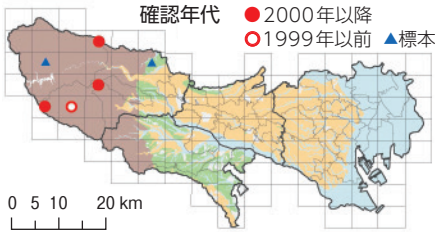
被子植物
ラン科

■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州、四国、九州に分布する多年草で、冷温帯の樹林内に生育する。茎は高さ 20 ～ 40cm。葉は 2 個根生し、長楕円形、長さ 5 ～ 12cm、幅 3 ～ 6 cm、表面に光沢があり、縁は波状に縮れる。花期は 8 ～ 9 月、淡緑色の花を 5 ～ 10 個まばらにつける。唇弁は広線形で長さ 7 ～ 10mm。距は前方に湾曲、長さ 15 ～ 20mm。都内では、西多摩の山地深部の落葉広葉樹林内に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採、採取、遷移進行・植生変化、シカ食害。

■ **特記事項**：日本固有種である。

執筆者	新井二郎
文献一覧	168



ミズチドリ

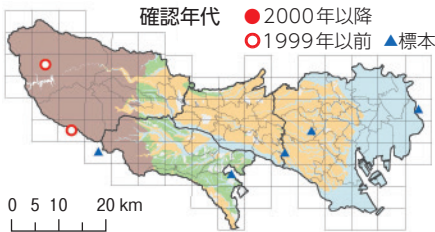
被子植物
ラン科

■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州、四国、九州に分布する多年草で、暖温帯から亜寒帯の明るい湿地や林縁に生育する。茎は高さ 50 ～ 90cm。葉は 5 ～ 12 個互生し、下方の葉は大きく、線状披針形で長さ 10 ～ 20cm、幅 1 ～ 2cm。花期は 6 ～ 7 月、茎頂に多数の白色の花を穂状につける。萼片、側花弁は長さ 4 ～ 5mm、唇弁は長さ 6 ～ 8mm、距は長さ 10 ～ 12mm で下垂する。都内では、西多摩の山地の草原、丘陵地の谷戸の湿地に生育するが、西多摩以外の丘陵地の湿地のものは消失。

■ **生存を脅かす要因**：湿地開発、草地開発、採取、管理放棄、遷移進行・植生変化。

■ **特記事項**：都立大学牧野標本館には、1890 年から 1920 年代にかけて、杉並区大宮八幡宮、江戸川区小岩、狛江市などから採集された標本が残されている。

執筆者	新井二郎
文献一覧	168, 243, 253



区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	●	●	EX	EX	
2010	●	●	EX	●	
1998					



長野県 2021 年 8 月 7 日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	●	DD	EN	VU	VU
2010	●	DD	VU	VU	
1998		A	A		



八王子市 2016 年 7 月 31 日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	●	●	EX	EX	NT
2010	●	●	EX	EX	
1998			D		



長野県 2011 年 7 月 23 日

コバノトンボソウ

被子植物ラン科

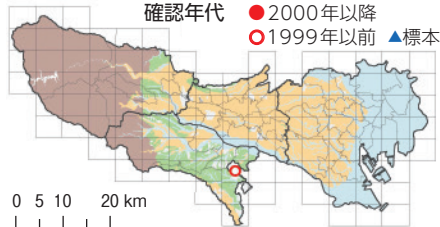
Platanthera tipuloides subsp. nipponica

■**種の特性と生育状況**：北海道、本州、四国、九州に分布する多年草で、暖温帯の日当たりの良い湿った草原に生育する。茎は直立し、高さ 20 ～ 40cm、繊細。葉は茎の下部に 1 個、広線形で長さ 3 ～ 7cm、基部は茎を抱く。花期は 6 ～ 8 月、淡黄緑色の小花を数個つける。距は長さ 12 ～ 18mm と長く、後方にはね上がる。都内では、南多摩の丘陵地の日当たりの良い湿った草地などに生育していたが、絶滅したものと考えられる。

■**生存を脅かす要因**：草地開発、管理放棄、遷移進行・植生変化。

■**特記事項**：

執筆 者新井二郎
文献一覧 211



トンボソウ

被子植物ラン科

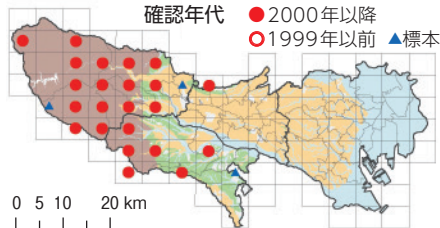
Platanthera ussuriensis

■**種の特性と生育状況**：北海道、本州、四国、九州に分布する多年草で、暖温帯から亜寒帯の樹林内や林縁に生育する。茎は高さ 15 ～ 35cm。葉は茎の下部に 2 個、やや接してつき、狭長楕円形で長さ 5 ～ 15cm、幅 1 ～ 3cm。花期は 7 ～ 8 月、淡緑白色の小花を多数つける。背萼片と側花片は重なって兜状、側萼片は横に開き反る。唇弁は T 字形で、距は白色で前方に下垂する。都内では、多摩地域の山地の林内や丘陵地の湿地に生育するが、北多摩では現状不明。

■**生存を脅かす要因**：森林伐採、湿地開発、管理放棄、遷移進行・植生変化。

■**特記事項**：

執筆 者新井二郎
文献一覧 17, 243, 270



トキソウ

被子植物ラン科

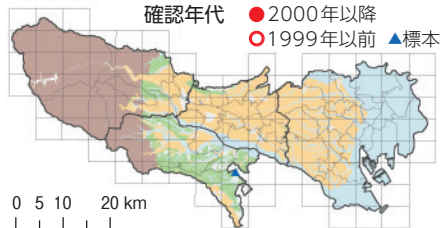
Pogonia japonica

■**種の特性と生育状況**：北海道、本州、四国、九州に分布する多年草で、暖温帯から亜寒帯の日当たりの良い湿地に生育する。茎は高さ 10 ～ 30cm。葉は 1 個、茎中央につき、披針形で長さ 4 ～ 10cm。花期は 5 ～ 7 月、淡紅色の花を 1 個つける。花被片は長さ 20 ～ 25mm、側花弁と唇弁には濃紅紫色の条が入り、唇弁には肉質突起が密生する。都内では、かつて南多摩や西多摩の丘陵地谷戸の日当たりの良い湿地に生育していたが、絶滅したものと考えられる。

■**生存を脅かす要因**：湿地開発、採取、遷移進行・植生変化。

■**特記事項**：

執筆 者新井二郎
文献一覧 17, 184



区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	●	●	CR	CR	
2010	●	●	VU	VU	
1998			B		



町田市 2004 年 5 月 22 日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	●	●	●	VU	VU
2010	●	●	●	NT	
1998			B		



山梨県 2019 年 8 月 1 日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	●	●	●	EX	EX
2010	●	●	●	VU	
1998			A		



長野県 2012 年 7 月 19 日

ヤマサギソウ

被子植物ラン科

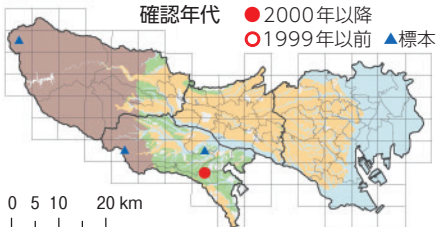
Platanthera mandarinorum var. oreades

■**種の特性と生育状況**：北海道、本州、四国、九州に分布する多年草で、暖温帯から冷温帯の日当たりの良い草地に生育する。茎は高さ 20 ～ 40cm。葉は下部の 1 個が大きく、線状長楕円形で長さ 5 ～ 11cm、幅 1 ～ 1.5cm。花期は 5 ～ 7 月、黄緑色の花を 10 個ほどつける。背萼片は広卵形、側萼片は披針形、側花弁は鎌形、唇弁は舌状。距は長さ 7 ～ 12mm、後方に水平に伸びる。都内では、南多摩、西多摩の丘陵地や山地の日当たりの良い草地に稀に生育する。

■**生存を脅かす要因**：草地開発、採取、遷移進行・植生変化。

■**特記事項**：

執筆 者新井二郎
文献一覧 168



ヒツバキソチドリ

被子植物ラン科

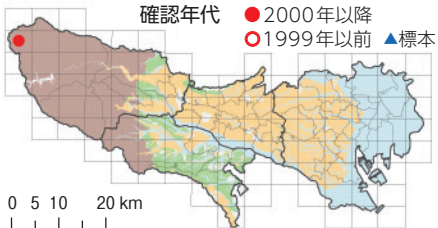
Platanthera ophrydioides f. monophylla

■**種の特性と生育状況**：本州（中～西部）、四国、九州に分布する多年草で、亜高山帯の針葉樹林内に生育する。茎は高さ 15 ～ 30cm、稜線がある。葉は茎の下部に 1 個つき、楕円形で長さ 3 ～ 6cm。花期は 7 ～ 8 月、淡黄緑色の小花を穂状に 5 ～ 15 個まばらにつける。唇弁は広線形で、長さ 6 ～ 8mm。距は長さ 6 ～ 10mm、前方に湾曲する。都内では、西多摩の亜高山帯針葉樹林内に稀に生育する。

■**生存を脅かす要因**：採取、管理放棄。

■**特記事項**：以前はキンソチドリとされていたものである。

執筆 者新井二郎
文献一覧 168



オオヤマサギソウ

被子植物ラン科

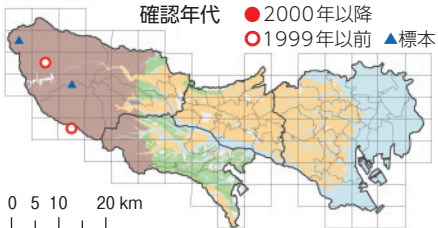
Platanthera sachalinensis

■**種の特性と生育状況**：北海道、本州、四国、九州に分布する多年草で、冷温帯から亜寒帯の林下に稀に生育する。茎は高さ 40 ～ 60cm。葉は普通 2 枚が大きく、倒卵状狭長楕円形で長さ 10 ～ 20cm、幅 4 ～ 7cm、表面に光沢がある。花期は 7 ～ 8 月、淡緑色の花を多数穂状につける。距は細く、長さは 15 ～ 20mm。都内では、西多摩の山地上部の樹林内に極めて稀な植物であるが、すでに 40 年以上確認されておらず絶滅したものと考えられる。

■**生存を脅かす要因**：森林伐採、採取、遷移進行・植生変化。

■**特記事項**：

執筆 者新井二郎
文献一覧 168



区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	EX	VU	VU	NT	NT
2010	EX	CR	VU	VU	
1998		D			



八王子市 2010 年 5 月 7 日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	•	•	EN	VU	VU
2010	•	•	VU	VU	
1998			A		



八王子市 1998 年 5 月 31 日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	－	－	CR	CR	EN
2010	•	•	VU	VU	
1998			A		



八王子市 2003 年 6 月 26 日

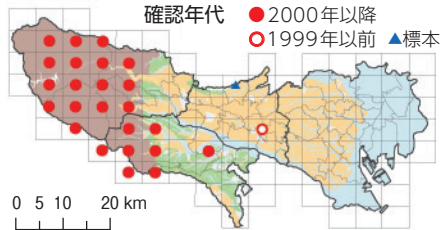
被子植物 ラン科
カヤラン <i>Thrixspermum japonicum</i>

■ **種の特性と生育状況**：本州（岩手県以南）、四国、九州に分布する多年草で、暖温帯の樹木や岩上に着生する。茎は長さ3～7cm、分枝せず葉鞘に包まれる。葉は10～20個、2列に互生し、披針形で長さ2～4cm。花期は3～5月、葉腋から細い花茎を出し、淡黄色の花が2～6個垂れ下がる。唇弁は浅い袋状で内面に赤紫色の斑紋がある。都内では、多摩地域の丘陵地から山地にかけて生育し、モミヤカヤなどの針葉樹、ウメなどに着生している。区部では絶滅したものと考えられる。

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採、採取。

■ **特記事項**：

執筆者	新井二郎
文献一覧	17, 152, 219, 243, 270



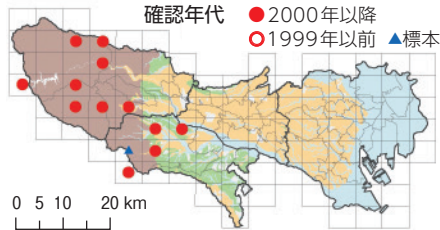
被子植物 ラン科
ヒトツボクロ <i>Tipularia japonica</i>

■ **種の特性と生育状況**：本州、四国、九州に分布する多年草で、冷温帯から暖温帯にかけての樹林内に生育する。葉は1個、やや長い柄があり、長さ4～7cmの卵状楕円形で鋭先頭。表面は光沢のある深緑色で中肋に白条、裏面は紫色。花期は5～6月で、高さ20～30cmの花茎に、紫褐色を帯びた淡黄緑色の小花を5～10個まばらにつける。萼片と側花弁は細く、唇弁は浅く3裂、距は約5mmで後方に細長く伸びる。都内では、南多摩と西多摩の山地の樹林内に稀に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：人の踏みつけ、採取。

■ **特記事項**：

執筆者	新井二郎
文献一覧	168, 219, 243, 247



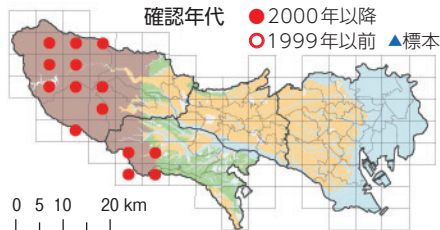
被子植物 ラン科
キバナノショウキラン <i>Yuania amagiensis</i>

■ **種の特性と生育状況**：本州（関東地方以西）、四国、九州に分布し、暖温帯から冷温帯にかけての落葉広葉樹林内に生育する菌従属栄養植物。地上茎は高さ20～50cm、全体に黄褐色を帯びる。花期は6～7月で、上向きに半開した淡黄褐色の花を5～15個つける。唇弁は袋状で、前方に曲がる大型の太い距をつける。都内では、南多摩と西多摩の山地で、落葉広葉樹林の沢沿いなど、湿った所に稀に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採、人の踏みつけ、遷移進行・植生変化、動物による食害。

■ **特記事項**：

執筆者	新井二郎
文献一覧	168, 219, 243, 247



区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	•	DD	•	CR	CR
2010	•	DD	•	EN	
1998				A	



奥多摩町 2008 年 6 月 25 日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	•	•	•	EN	EN
2010	•	•	•	CR	
1998				A	



奥多摩町 2021 年 6 月 16 日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	EX	EX	CR	CR	CR
2010	EX	EX	CR	CR	
1998				A	



静岡県 2018 年 7 月 25 日

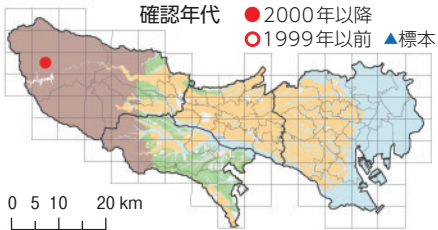
被子植物 ラン科
ヤマトキシソウ <i>Pogonia minor</i>

■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州、四国、九州に分布する多年草で、冷温帯の日当たりの良い草地に生育する。茎は高さ10～20cm。葉は茎の中部に1個つき、長楕円形で長さ3～7cm。花期は6～8月、茎頂に上向きで淡紅色の花を1個つける。花はほとんど開かず、萼片は線状披針形で長さ12mm、側花弁も萼片と同長だが幅がやや広い。唇弁は長楕円形で3裂し、中裂片に肉質突起が密生。都内では、西多摩の山地上部の日当たりの良い湿性草地に稀に生育する。北多摩に記録のあるものは現状不明。

■ **生存を脅かす要因**：草地開発、採取、遷移進行・植生変化。

■ **特記事項**：

執筆者	新井二郎
文献一覧	168, 270



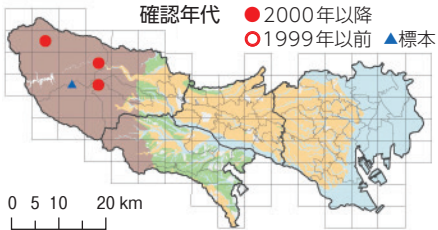
被子植物 ラン科
ウチョウラン <i>Ponerorchis graminifolia</i>

■ **種の特性と生育状況**：本州、四国、九州に分布する多年草で、山地の湿った岩壁などに生育する。茎は球状の塊根から斜上し、高さ7～20cm。葉は2～3個、広線形で長さ7～12cm。上方はやや湾曲し、基部は茎を抱く。花期は6～8月、淡紅紫色の花を数個～20個総状につける。萼片、側花弁は長さ約6mm、唇弁は長さ約15mmで3裂する。距は長さ10～15mmで、湾曲する。都内では、西多摩の高標高地の湿潤な岩壁に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：石灰採掘、採取。

■ **特記事項**：

執筆者	新井二郎
文献一覧	24, 168



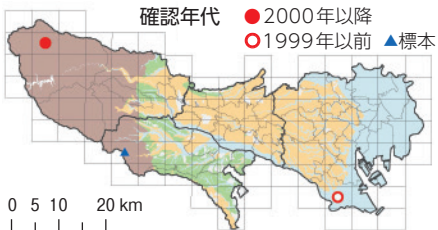
被子植物 ラン科
クモラン <i>Taeniophyllum glandulosum</i>

■ **種の特性と生育状況**：本州（福島県以南）、四国、九州、南西諸島に分布する多年草で、熱帯から暖温帯の樹幹や枝に着生する。根は長さ2～10cm、灰緑色で扁平、放射状に末生して樹皮に密着する。花期は5～7月、長さ約1cmの細い花茎を1～5本出し、1～3花を総状につける。花は淡緑色で筒状。都内では、南多摩と西多摩の丘陵地から山地にかけての樹木に稀に着生する。区部と北多摩では絶滅したと考えられる。

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採、採取。

■ **特記事項**：

執筆者	新井二郎
文献一覧	17, 153, 219, 243, 246, 270



	区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	●	●	●	●	●	●
2010	●	●	●	●	●	●
1998						



八王子市（植栽）1977年5月10日

	区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	●	●	●	●	●	●
2010	●	●	●	●	●	●
1998						



八王子市 2010年5月31日

	区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	●	●	●	●	●	●
2010	●	●	●	●	●	●
1998						



府中市（植栽）2006年5月13日

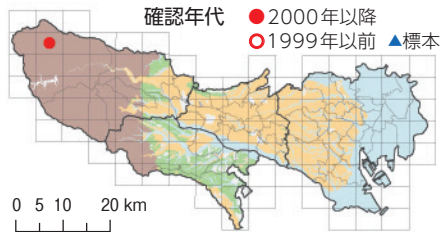
被子植物 アヤメ科

■ **種の特性と生育状況**：全国の山地や岩場に生育する日本固有の多年生草本。葉は叢生し、斜上して先が垂れ、長さ20～40cm。葉質は薄くて柔らかく、葉脈が明瞭である。常緑のシャガ (*I. japonica*) に対して、本種は冬期に落葉し、葉の表面には光沢が無い。花茎は高さ15～30cmで、頂部に2～3個の花を付ける。花は直径4～5cmで淡青紫色、外花被片に黄色の斑紋と紫色の脈がある。花期は5～6月。都内では、西多摩の石灰岩地に稀に生育し、現在確認されている自生地はごく少ない。

■ **生存を脅かす要因**：石灰採掘、園芸採取、遷移進行・植生変化、自然災害、基質・基物の減少及び消失。岩場の崩壊や植生遷移の進行、園芸目的の採取などが生存を脅かす主な要因であると考えられる。

■ **特記事項**：園芸目的の採取を禁止する旨を示すサインやリーフレットの設置など、登山者に対するマナー啓発を含め、本種の保全を目的とした総合的な対策を講じることが望ましい。

執筆者	小林健人
文献一覧	79, 168, 173, 324



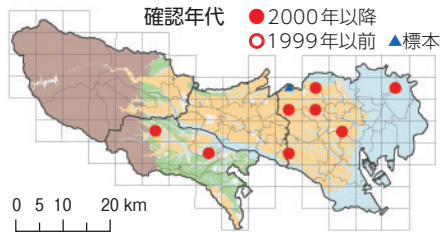
被子植物 アヤメ科

■ **種の特性と生育状況**：全国の池沼や湿地に生育する大型の多年生草本。通常、抽水状態で生育する。高さ50～100cmの花茎の茎頂に、青紫色の花を付ける。外花被片の中央には白い筋がある。花期は5～6月。葉は剣状で長さ30～60cmになり、主脈は発達しない。都内では、区部の低地と北多摩および南多摩の丘陵地にかけて分布し、池沼や谷戸の湿地に極めて稀に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：湿地、池沼の改変や谷戸田の管理放棄による植生遷移の進行、園芸目的の採取などが生存を脅かす主な要因と考えられる。

■ **特記事項**：園芸目的の採取に対するマナー啓発の実施や、自生地における植生遷移の抑制を行うことが望ましい。なお、本種は栽培されることが多く、野生個体と植栽個体との判別がしばしば困難である。

執筆者	小林健人
文献一覧	238, 243, 270



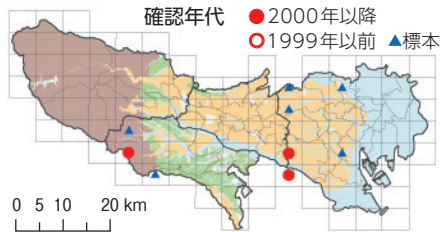
被子植物 アヤメ科

■ **種の特性と生育状況**：全国の日当たりの良い草地に生育する多年生草本。高さ30～60cmの花茎の茎頂に、直径約8cmの紫色の花を付ける。外花被片は広倒卵形で平開し、基部には黄色地に紫色の細い綾状の脈がある。野生下でも稀に白花品種が見られ、シロアヤメ (f. *albiflora*) と呼ばれる。花期は5～7月。葉は剣状で長さ30～50cmになり、主脈は目立たない。都内では、多摩部の山地草原や丘陵地の向陽草地に生育するが、減少傾向にある。近年の区部での記録の大半は植栽由来と考えられ、自生の個体群はすでに絶滅した可能性が高い。

■ **生存を脅かす要因**：草地の改変や植生遷移の進行、園芸目的の採取などが生存を脅かす主な要因と考えられる。

■ **特記事項**：工事の際に本種の保全に配慮することや、定期的な草刈りによる草地の維持、園芸目的の採取に対するマナー啓発の実施を行うことが望ましい。なお、本種は栽培されることが多く、野生個体と植栽個体との判別がしばしば困難である。

執筆者	小林健人
文献一覧	17, 25, 28, 168, 270



	区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	●	●	●	●	●	●
2010	●	●	●	●	●	●
1998						



八王子市 1995年10月5日

	区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	●	●	●	●	●	●
2010	●	●	●	●	●	●
1998						



八王子市 2013年8月7日

	区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	●	●	●	●	●	●
2010	●	●	●	●	●	●
1998						



八王子市 2022年6月17日

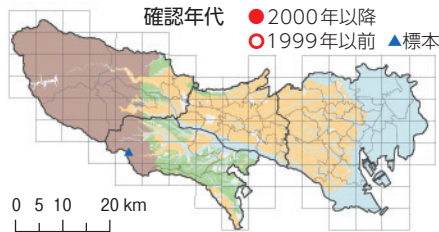
被子植物 ラン科

■ **種の特性と生育状況**：本州（関東地方以西）、四国、九州、西南諸島に分布する多年草で、亜熱帯から暖温帯にかけての樹林下に生育する。茎の下部は匍匐して先は立ち上がり、高さ10～20cm。葉は長さ3～5cm、卵状楕円形で、4～5枚つける。花期は8～10月、紅色がかった黄褐色の花をまばらにつける。背萼片と側花弁は密着して兜を作り、側萼片は平開する。都内では、南多摩の山地の落葉広葉樹林内に生育していたが、近年は確認できず、絶滅したと考えられる。

■ **生存を脅かす要因**：採取、遷移進行・植生変化。

■ **特記事項**：

執筆者	新井二郎
文献一覧	23, 243



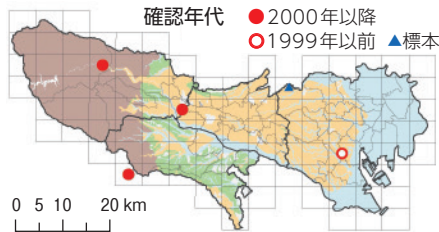
被子植物 アヤメ科

■ **種の特性と生育状況**：関東以西の山地草原に生育する多年生草本。葉は剣状で幅が広く、長さ30～50cm、扇状に出る。花茎は高さ60～100cmで直立し、2～3分枝した上部の枝先に数個の膜質の苞が付く。苞の中から、橙黄色で内面に暗赤色の斑点が多数ある花が2～3個出る。花は直径3～4cmで各花被片は同形同大で平開する。花期は8～9月。都内では、南多摩および西多摩の山地稜線上の疎林内や草原に稀に生育する。観賞用に栽培されることが多く、北多摩や区部における最近の生育報告はいずれも栽培由来品であると考えられ、自生品はすでに絶滅した可能性が高い。

■ **生存を脅かす要因**：草地開発、園芸目的の採取、草地の植生遷移の進行による樹林化などが生存を脅かす主な要因であると考えられる。

■ **特記事項**：山地草原の定期的な草刈りの実施や、園芸目的の採取に対するマナー啓発を行うなど、本種の保全を目的とした総合的な対策を講じることが望ましい。

執筆者	小林健人
文献一覧	17, 152, 223, 243, 270



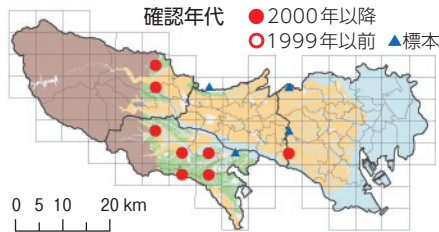
被子植物 アヤメ科

■ **種の特性と生育状況**：全国の湿原や湿った草地に生育する大型の多年生草本。高さ50～100cmの花茎の茎頂に、赤みの強い濃紫色の花を付ける。外花被片の中央には黄色い筋がある。花期は6月上旬から7月。葉は剣状で長さ30～60cmになり、主脈が発達する。都内では、多摩部の台地から丘陵地にかけて分布し、谷戸や台地脚部の湿地に面した草地に極めて稀に生育する。かつては区部の池沼や湿地などにも生育していたが、激減した。なお、本種は古典園芸植物として多くの品種が知られる「花菖蒲」の原種である。

■ **生存を脅かす要因**：湿地開発、土地造成、園芸採取、管理放棄、遷移進行・植生変化。他県では、栽培品の「花菖蒲」との自然交雑による遺伝子汚染の事例も報告されており、注意が必要である。

■ **特記事項**：園芸目的の採取に対するマナー啓発の実施や、自生地における植生遷移の抑制を行うことが望ましい。都市公園等では、実生による個体の保護増殖や近接する生育適地への植え戻し、本種の生育を考慮した草刈りや攪乱管理など、積極的な保全対策を実践しているケースもある。

執筆者	小林健人
文献一覧	30, 48, 270



	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	●	●	●	●	●	●
2010	●	●	●	●	●	●
1998				●		



あきる野市 2020 年 10 月 6 日

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	EX	VU	VU	VU	VU	
2010	EX	VU	VU	VU		
1998				C		



八王子市 2016 年 3 月 22 日

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	EX	CR	CR	CR	CR	
2010	EX	VU	VU	VU		
1998	UK					



山梨県 2007 年 10 月 7 日

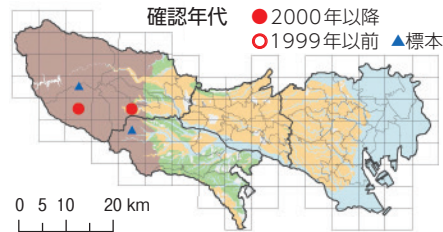
被子植物 ヒガンバナ科
ステゴビル <i>Allium inutile</i>

■ **種の特性と生育状況**：本州（茨城、愛知、岐阜、京都）に分布する多年草。鱗茎は球形、ノビルに似るがネギ臭はない。根出葉は扁平な線形。花茎は高さ 15 ～ 30cm、9 ～ 10 月に数個の白色の花を散形状につける。原野に生育し、礫質でやや湿潤な斜面を好む。西多摩の丘陵から山地の草地や雑木林、果樹園などの林床にごく稀に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採、人の踏みつけ、不適切な環境管理、管理放棄、遷移進行・植生変化・自然遷移。産地が局限され、自生地である草地の消失や樹林の荒廃などが生存を脅かす主な要因である

■ **特記事項**：林床の下草刈り、間伐などにより林内照度の向上を図ることが望ましい。

執筆者	御手洗望
文献一覧	152, 170



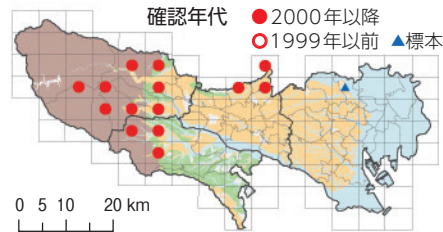
被子植物 ヒガンバナ科
ヒメニラ <i>Allium monanthum</i>

■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州、四国に分布する多年草。地下に卵形の鱗茎がある。葉は線形で 1 ～ 2 個。4 ～ 5 月にかけて、高さ 5 ～ 10cm の細い花茎の頂部に 1 ～ 数個の白または淡紅色の花をつける。多摩部では台地から丘陵、山地下部の林縁や疎林の林床に生育する。カタクリなどの春植物と混生することが多い。区部では絶滅したと考えられる。

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採、草地開発、土地造成、人の踏みつけ、過剰利用、管理放棄、遷移進行・植生変化・自然遷移。

■ **特記事項**：開発等に際して自生地を保全することや、冬季の落葉かきや下草刈りなどの適切な林床管理を行うことが望ましい。

執筆者	御手洗望
文献一覧	9, 105, 243



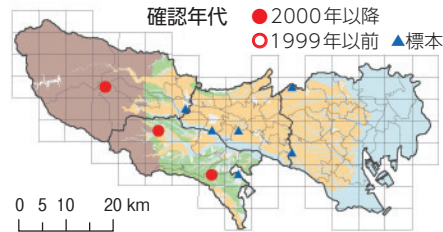
被子植物 ヒガンバナ科
ヤマラッキョウ <i>Allium thunbergii</i>

■ **種の特性と生育状況**：本州、四国、九州に分布する多年草。鱗茎は狭卵形で、外皮は灰白色。花茎は高さ 30 ～ 60cm。葉は円筒形、中空で長さ 20 ～ 50cm。花茎の先端に紅紫色の多数の花を球状の散形花序につける。花期は 9 ～ 10 月。西多摩の山地の草原、南多摩や北多摩の丘陵や段丘崖などの草地にごく稀に生育する。区部では過去の記録があるが絶滅したと考えられる。

■ **生存を脅かす要因**：不適切な環境管理、管理放棄、遷移進行・植生変化。

■ **特記事項**：多摩部での近年の生育状況が不明のため、現状の把握が必要である。

執筆者	御手洗望
文献一覧	170, 243



	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	●	●	●	●	●	
2010	●	●	●	●	●	
1998			C			



神奈川県 1995 年 7 月 13 日

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	●	●	●	●	●	
2010	●	●	●	●	●	
1998	A					



府中市 2006 年 5 月 13 日

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	DD	NT	NT	NT	NT	
2010						
1998						



町田市 2009 年 7 月 19 日

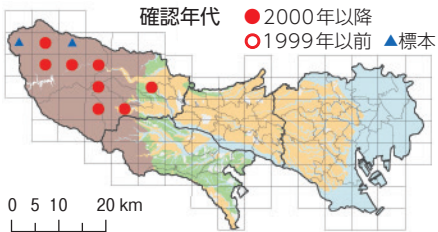
被子植物 ワスレグサ科
ゼンテイカ <i>Hemerocallis middendorffii</i> var. <i>esculenta</i>

■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州中部以北の山地や亜高山帯に分布する日本固有の多年生草本。山地草原や岩崖地、ときに海岸の崖地などに生育する。匍匐枝はなく、根はほとんど膨らまない。葉は根生し、長さ 60 ～ 70cm。花茎は高さ 60 ～ 80cm で、茎頂の 2 出集散花序に橙黄色～橙赤色の花を数個付ける。花期は 7 ～ 8 月。都内では、西多摩の高標高地のみに分布し、渓谷沿いの岩崖地に稀に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：人が近づけない岩礫地での生育がほとんどであり、園芸目的の採取による衰退の可能性は小さいが、護岸整備や林道整備などが生存を脅かす主な要因であると考えられる。

■ **特記事項**：自生地で工事を行う際は、本種の保全に配慮することが望ましい。近年、南多摩の山地林縁や林道付近等で本種の生育が確認されているが、古い記録が無いことなどから、鑑賞目的で人為的に導入されたものである可能性が高い。今後、新たな生育地が確認された際には、自生であるかどうかの判断を慎重に検討するべきである。

執筆者	小林健人
文献一覧	28, 152, 168, 173, 324



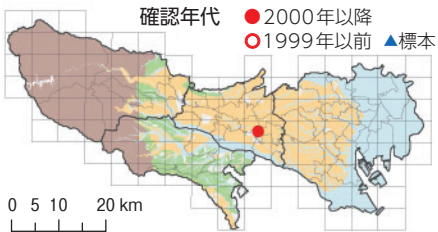
被子植物 ワスレグサ科
ムサシノキスゲ <i>Hemerocallis dumortieri</i> var. <i>musashiensis</i>

■ **種の特性と生育状況**：本州（東京）の丘陵地に局所分布する日本固有の多年生草本。よく手入れされた落葉広葉樹林の樹林下や林縁草地に生育する。花茎は高さ 60 ～ 80cm。外観はゼンテイカに酷似するが、本種は花被片が狭いこと、花筒が短いこと、苞はより円みがあることなどが異なる。また、葉はゼンテイカよりも細い。花期は同属ではもっとも早く、4 月下旬～ 5 月。花に芳香があるのも特徴である。都内では、北多摩の台地南端に残された小丘陵地のみに分布し、北西斜面を中心とした落葉広葉樹林内や林縁草地に約 1 万 5 千株が生育する。公園管理者や保全団体等の地道な保護活動により、生育は安定している。

■ **生存を脅かす要因**：雑木林の管理放棄や園芸目的の採取が生存を脅かす主な要因であると考えられる。

■ **特記事項**：個体群を安定的に保つためには、林縁の草地管理に加え、雑木林の下草刈り等の林床管理を継続し、明るい疎林状態を維持することが重要である。また、管理作業と併せて、園芸目的の採取に対する注意喚起、マナー啓発等も積極的に推進することが望ましい。

執筆者	小林健人
文献一覧	25, 269, 270



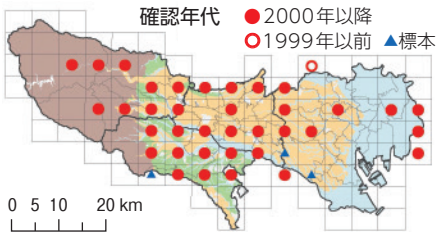
被子植物 ワスレグサ科
ノカンゾウ <i>Hemerocallis fulva</i> var. <i>disticha</i>

■ **種の特性と生育状況**：北海道を除く全国のエ縁草地、裾狩り斜面、河川堤防などに生育する大型の多年生草本。高さ 50 ～ 70cm の花茎の上部に、7 ～ 8 月頃、橙赤色の 6 弁花を複数付ける。花は、枯れると子房ごと落ちて結実しないものが多い。近縁のヤブカンゾウ（重弁花）と比べ、葉幅が 10 ～ 15mm と狭く、色は緑色。また、形態が酷似するハマカンゾウとは、葉質がより薄く冬期に枯れること、開花期がやや早いこと、内陸部に生育することなどにより区別される。都内では、平地から低山地にかけて広く分布するが、やや減少傾向にある。特に区部における分布の現状については情報が不足しており、適正な評価が困難である。

■ **生存を脅かす要因**：各種開発に伴う造成や河川の護岸改修、植生遷移の進行などによる、本種の生育に適した草地環境の減少が生存を脅かす主な要因であると考えられる。

■ **特記事項**：工事に際して自生地を保全することや、定期的な草刈りなどの管理を行うことが望ましい。都市部では、グラウンドカバー資材として本種や本種に近縁の園芸品種が各地で導入されており、時に、自生由来の個体群かどうかの判断が難しい場合もある。

執筆者	小林健人
文献一覧	4, 265, 272



区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	●	●	●	EX	EX
2010	●	●	●	VU	
1998			A		



山梨県 1996年6月14日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	－	－	VU	NT	VU
2010					
1998					



八王子市 2018年4月18日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	●	●	－	VU	VU
2010	●	●	●	VU	
1998			C		

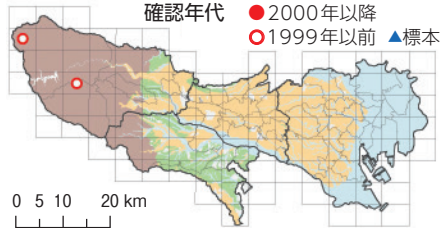


被子植物
クサスギカズラ科

■ **種の特性と生育状況**：北海道、および本州中部（愛知県）以北に分布する多年草。亜高山帯の針葉樹林や落葉樹林下に群生する。細長い根茎があり、地上茎は高さ8～15cm。茎葉は2個あって互生し、葉は三角状心形。5～7月、茎先端の総状花序に白色4弁花を多数咲かせる。果実は液果で球形、赤色に熟す。都内では、西多摩の山地、天祖山、御前山などで記録されているが、近年の報告がなく、絶滅したものと考えられる。

■ **生存を脅かす要因**：本種が生育する亜高山帯植生域が西多摩ではもともと狭い範囲に限定されていたことに加え、シカをはじめとした野生動物による食害、石灰採掘による自生地の破壊等により、絶滅に至ったものと考えられる。

■ **特記事項**：本種はマイヅルソウと酷似するため、分布実態に不明な点が多い。同定には、ヒメマイヅルソウの葉幅が細く、茎の上部や花序に柱状突起が見られ、葉裏は有毛、葉縁細胞が毛状、あるいは鋸歯状をしていることをルーペ等で確認する必要がある。



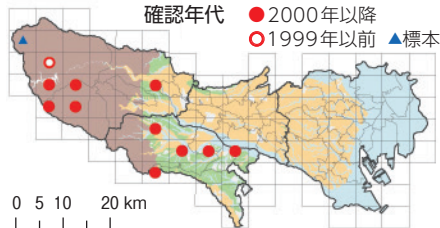
執筆者 内野秀重
文献一覧 26, 168

被子植物
クサスギカズラ科

■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州、四国、九州に分布する多年草。茎は斜上し、高さ20～70cm、葉は互生し、卵状長楕円形、長さ6～15cm、3～8個つく。雌雄同株。円錐花序で、花は白色。花期は5～7月。丘陵から山地の樹林の林床に生育する。南多摩ではごく稀。西多摩では各地で見られるが、ニホンジカの食害を受け、小型化した株が多い。

■ **生存を脅かす要因**：遷移進行・植生変化、シカの食害。

■ **特記事項**：



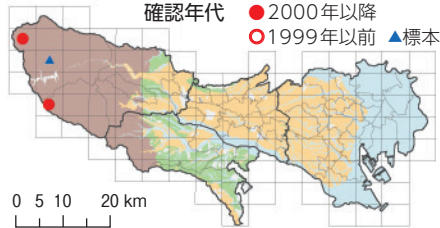
執筆者 御手洗望
文献一覧 62, 170, 243

被子植物
クサスギカズラ科

■ **種の特性と生育状況**：本州（奈良以北）に分布する多年草。根茎はやや太く、節高で横に這う。茎は斜上し、高さ50～70cm、下部に膜質の鱗片がある。葉は互生し、長さ10～15cm。雌雄異株。円錐花序で、花は白色または緑白色。花期は5～6月。西多摩の山地上部の樹林内に稀に生育する。ニホンジカの食害を受け、小型化した株が多い。

■ **生存を脅かす要因**：遷移進行・植生変化、シカの食害。

■ **特記事項**：



執筆者 御手洗望
文献一覧 170

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	●	●	EN	VU	VU
2010	●	●	VU	VU	
1998			C		



八王子市 2006年8月13日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	VU	VU	NT	NT	VU
2010	VU	VU	NT	NT	
1998					



八王子市 1997年8月12日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	－	CR	CR	DD	CR
2010	●	CR	VU	DD	
1998			C		



八王子市 1989年5月4日

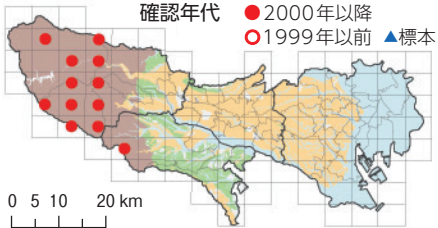
被子植物
ヒガンバナ科

■ **種の特性と生育状況**：本州（関東以西）、九州に分布する多年草。葉は長さ30～40cm、幅10～15mm と幅広く、淡緑色。地上に花茎だけを立て、茎頂に2～5個の花を散形花序につける。キツネノカミソリに酷似するが、花が多少大きく、雄しべと雌しべは花の外へ長く飛び出る。花期は8月。しばしば群生する。渓谷林内から林縁の礫質草地などに生育する。都内では南多摩から西多摩の山地に局所的に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採、採取。もともと東京都本土部には自生地が少なく、山林の荒廃、林道整備による環境改変、園芸目的の採取などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。

■ **特記事項**：キツネノカミソリと酷似しているために見逃されている場合もあると思われ、山地を中心に現状を再確認することが望ましい。

執筆者 田畑伊織
文献一覧 243



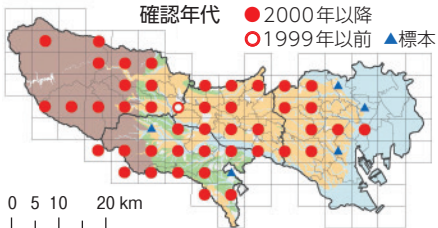
被子植物
ヒガンバナ科

■ **種の特性と生育状況**：本州、四国、九州に分布する多年草。鱗茎は広卵形で、外皮は黒褐色。葉は早春に出て帯状、長さ30～40cm、初夏に枯れる。8月頃に高さ30～50cm の花茎を立て、頂部に黄赤色の3～5花を散形花序につける。よく結実する。多摩部の台地から丘陵、山地の斜面下部、区部の低地の肥沃な樹林内や旧河道の草地などに群生する。

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採、土地造成、人の踏みつけ、過剰利用、管理放棄、遷移進行・植生変化・自然遷移。自生地は広範囲に残っているが、都市域での開発による自生地の消失、樹林の荒廃などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。

■ **特記事項**：

執筆者 御手洗望
文献一覧 9, 202, 243



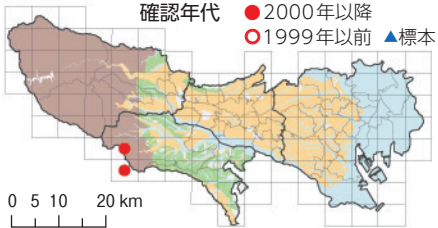
被子植物
クサスギカズラ科

■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州、四国、九州に分布する多年草。茎は高さ50～100cm、上部でよく分枝する。鱗片葉は小型の膜質で長さ1mm、葉状枝は葉腋に3～7個束生し、長さ1～2cm、線形、扁平でゆるく湾曲する。雌雄異株。花は総状花序につく。花被は広鐘形で長さ2～3mm、淡黄緑色。花期は5～6月。多摩部の丘陵から山地の草原、落葉樹林や常緑針葉樹林などの疎林内にごく稀に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：管理放棄、遷移進行・植生変化。

■ **特記事項**：多摩部での近年の生育状況が不明のため、現状の把握が必要である。

執筆者 御手洗望
文献一覧 28, 243



区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	EX	EX	EX	EX	NT
2010	CR	EX	EX	・	
1998	D	D			



静岡県 2022 年 9 月 21 日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	VU	NT	VU	VU	NT
2010	NT	NT	NT	NT	
1998	B				



日野市 2019 年 7 月 19 日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	EX	DD	－	EX	NT
2010	EX	DD	－	－	
1998					



被子植物

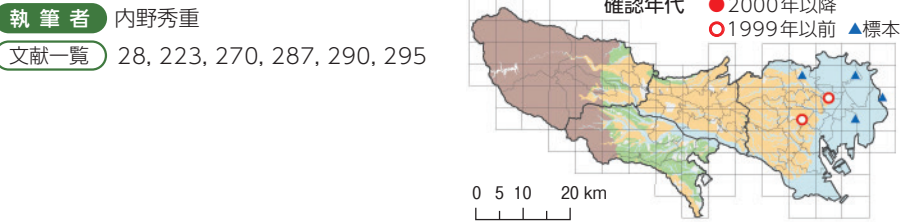
ミズアオイ科

Monochoria korsakowii

■ **種の特性と生育状況**：全国の池沼や河川水路、水田などの浅水域に生育する一年生の抽水植物。葉は根生し、線形の沈水葉から円心形の抽水葉まで変化する。7 ～ 10 月、花茎を長く伸ばし、総状花序に青紫色の花をつける。都内全域に記録があり、特に、葛飾区、江戸川区、荒川区、台東区、練馬区など、区部低地における分布が顕著だが、現在、全ての地域で絶滅に準じた状況となっている。

■ **生存を脅かす要因**：河川や湿地の改修、水質汚濁、除草剤の使用などでダメージを受けるが、攪乱停止など消極的な環境改変にも強い影響を受けてしまう植物である。

■ **特記事項**：攪乱依存植物であり、発生は不安定で年次変動がある。



被子植物

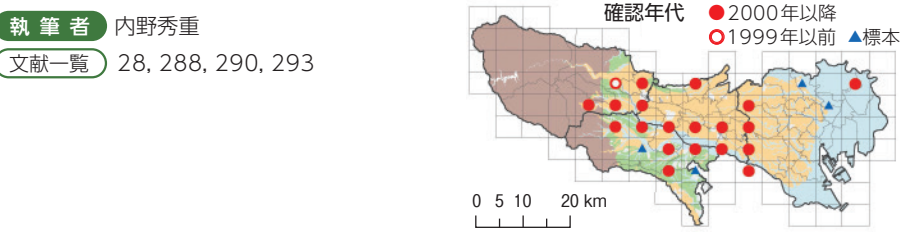
ガマ科

Sparganium stoloniferum

■ **種の特性と生育状況**：全国の河川水辺や池沼、用水路などに生育する抽水性の多年草。草丈は最大で 200cm に達し、匍匐した地下茎から新株を伸ばし群生する。葉は剣状線形で片側だけに稜が発達する。6 ～ 8 月、茎上部の花序から枝を出し、雌雄別々に頭花をつけ、熟して球形の集合果となる。都内では西多摩から区部の低地に散在するが、生育地は限られている。

■ **生存を脅かす要因**：河川及び湿地の開発整備、また、土地造成により、本種の生育環境が奪われてきた。キショウブ等、水辺の外來植物との競合も顕著である。

■ **特記事項**：ミクリ類のなかではもっとも水質の富栄養化に強く、止水域にも流水域にも適応して生育することができる。



被子植物

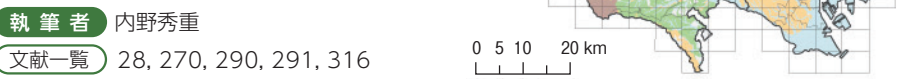
ガマ科

Sparganium fallax

■ **種の特性と生育状況**：全国の池沼や水路、湿地などに生育する多年生の抽水植物。泥中に走出枝をのばして群生する。7 ～ 8 月に開花し、花序は分枝せず、雄性頭花と雌性頭花が上下に分かれてつく。雌性頭花の柄は最下の頭花のみあるか、全て主軸と合着して腋上性となる。区部では練馬区、江戸川区、港区などに自生していたが絶滅。北多摩の台地や狭山丘陵域、また西多摩北東部からの報告もあるが、近似種との誤認の可能性もあり、多摩部においては分布実態のさらなる解明が必要である。

■ **生存を脅かす要因**：区部では土地造成により生育地が消滅したほか、丘陵地では管理放棄や植生の遷移により、生育に適した環境が失われている。

■ **特記事項**：本種は東日本ではもともと分布量が少なく稀であるが、ミクリやナガエミクリ、ヒメミクリなどと混同しやすく、慎重な同定が欠かせない。



区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	VU	EN	VU	VU	
2010	VU	VU	NT	NT	
1998					



多摩市 1988 年 5 月 20 日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	・	－	EX	EN	EN
2010					
1998					



奥多摩町 2019 年 6 月 13 日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	VU	EN	NT	NT	VU
2010	VU	VU	NT	NT	
1998					



八王子市 1998 年 4 月 30 日

被子植物

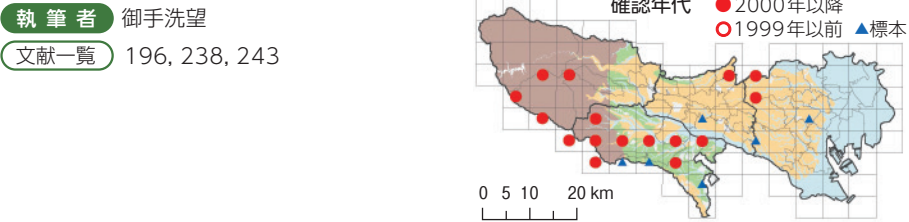
クサスギカズラ科

Polygonatum involucratum

■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州、四国、九州に分布する多年草。茎は斜上し、高さ 20 ～ 40cm、倒卵状楕円形の葉を互生する。葉腋から花柄を下垂し、先に普通 2 個の苞葉をつけ、その内側に淡緑白色で壺状筒形の花を 2 個つける。花期は 5 ～ 6 月。都内本土部の山地から丘陵、台地の段丘崖にかけて、疎林の林床、林縁、草地などに生育する。分布範囲は広いが自生地は少ない。

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採、土地造成、人の踏みつけ、過剰利用、管理放棄、遷移進行・植生変化・自然遷移。

■ **特記事項**：



被子植物

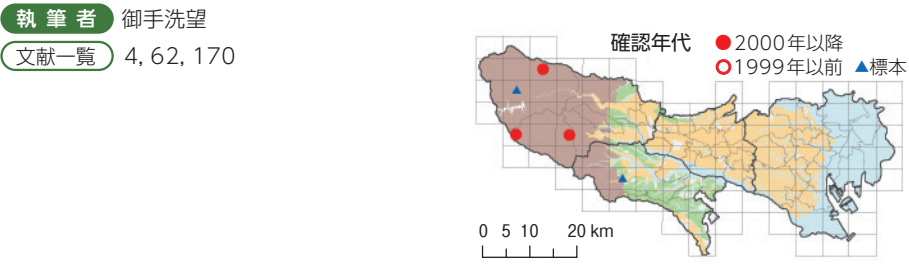
クサスギカズラ科

Polygonatum macranthum

■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州、四国、九州に分布する多年草。ナルコユリに比べて大型で、茎は高さ 80 ～ 130cm。花期は 5 ～ 7 月。花は葉腋に 2 ～ 4 個がついて下垂する。花糸の基部は肥厚し、先を除き細突起がある。葯は花糸より短い。樹林の明るい林床に生育する。南多摩では過去の記録があるのみで絶滅したと考えられる。西多摩では山地にごく稀に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：遷移進行・植生変化、シカの食害。

■ **特記事項**：



被子植物

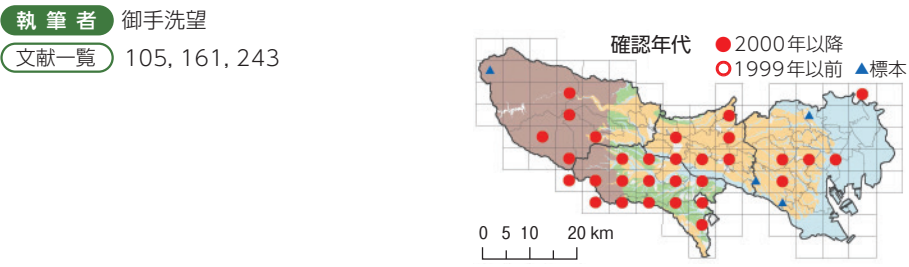
クサスギカズラ科

Polygonatum odoratum var. *pluriflorum*

■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州、四国、九州に分布する多年草。地下茎は長く横に這う。茎は高さ 35 ～ 80cm、稜があり、斜上する。葉は長楕円形で上に反り、長さ 8 ～ 10cm、裏面は粉白色。白色で先端が緑色を帯びた筒形の花を葉腋から下垂してつける。花期は 4 ～ 6 月。都内本土部に広く分布し、山地では稜線の防火帯などの草地、丘陵や台地の草地、河川堤防の草地などに生育する。しばしば群生する。

■ **生存を脅かす要因**：管理放棄、遷移進行・植生変化、シカの食害。

■ **特記事項**：



区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	EX	EN	EN	EN	
2010	EN	VU	NT	VU	
1998		C			



八王子市 1985 年 9 月 18 日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	EX	EN	EN	EN	
2010	EX	EN	EN	EN	
1998		B	B		



八王子市 1987 年 9 月 20 日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	－	－	CR	CR	VU
2010	－	－	CR	CR	
1998			B		



1987 年 10 月 10 日

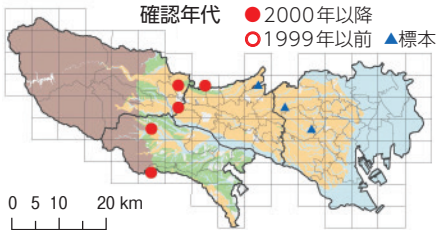
被子植物 ホシクサ科

■ **種の特性と生育状況**：本州以西の水田や休耕田等の湿地に生育する一年生の湿生植物。葉は線形でロゼット状。8～9月に開花し、頭花は球状卵形で花床は無毛。都内のホシクサ属ではもっとも分布量が多かったと考えられるが、区部においては現在絶滅、北多摩から西多摩、南多摩の限られた耕作水田中に自生地が散在する状況となっている。

■ **生存を脅かす要因**：本種はほぼ水田環境に依存しており、水田面積の減少とともに自生地が減少してきた。また、水田環境が残されていても、除草剤の使用により生育は不可能となる。

■ **特記事項**：

執筆者	内野秀重
文献一覧	28, 243, 270, 290, 291, 295



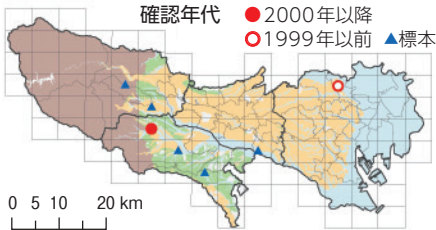
被子植物 ホシクサ科

■ **種の特性と生育状況**：全国に分布する湿生植物で、池畔や休耕田の湿地、田の畔などに生育する一年草。根生葉の先は尖り、8～9月頃、30cm程度の花径を伸ばして白色頭花をつける。花は2数性で、総苞片は卵状披針形で花より長い。都内全域に記録があるが、区部においては絶滅。現在は丘陵帯以下の安定した貧栄養湿地にわずかな自生地が残されているにすぎない。

■ **生存を脅かす要因**：土地造成による谷戸湿地の埋め立て、管理の停止、湧水の減少、除草剤の使用などが減少要因と考えられる。

■ **特記事項**：他のホシクサ類に見られるように水田内に生えることはあまりない。

執筆者	内野秀重
文献一覧	28, 54, 243, 270



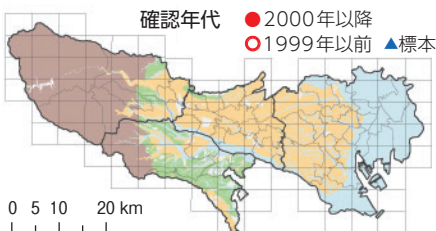
被子植物 ホシクサ科

■ **種の特性と生育状況**：関東以西の池沼周囲や休耕田などの水湿地に生育する一年草。葉はロゼット状で細く長さ4～10cm、先端は尖る。頭花は球形で黒藍色。花床には密に毛がある。都内では、区部や北多摩においての分布の記録がなく、南多摩の八王子高尾山周辺域や西多摩の一部に過去の記録があるのみで、近年の実態がいずれも明らかでないことから、絶滅に近い状態にあると推測される。

■ **生存を脅かす要因**：自生地はきわめて極限される状態であったことに加え、湿地環境の変化、農業使用などの影響があり衰退したものと推測される。

■ **特記事項**：文献記録や標本に乏しく、実態の再調査が必要である。

執筆者	内野秀重
文献一覧	243, 247, 287



区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	VU	VU	VU	DD	VU
2010	NT	NT	NT	－	
1998		B	B		



日野市 2019 年 7 月 5 日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	CR	CR	DD	DD	CR
2010	DD	－	DD	－	
1998		UK	UK		



八王子市 2021 年 6 月 26 日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	EX	CR	EN	EN	EN
2010	NT	CR	VU	VU	
1998		C			



八王子市 1989 年 9 月 3 日

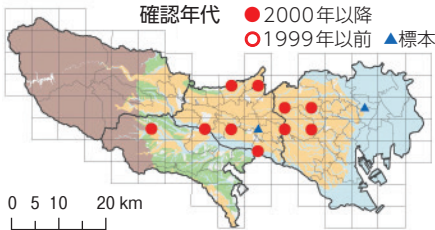
被子植物 ガマ科

■ **種の特性と生育状況**：全国の池沼、河川や水路、湧水などに生育する多年生の抽水植物。水底に走出枝を伸ばして株を群生する。葉は線形で背稜があり、流水域ではしばしば沈水形で生育する。6～9月、開花個体は水上に花径を伸ばし、雄性、及び雌性の頭花を上下につける。都内では丘陵帯以下の湧水性の池や河川、用水路に現在も分布するが、河床の改変等により消滅した地域も少なくない。

■ **生存を脅かす要因**：湧水の埋め立て、河川・水路の改修により自生地が失われる他、湧水の枯渇や水質汚濁、不適切な水路管理等、複合的要因により減少が進んでいる。

■ **特記事項**：ミクリ類のなかではもっとも湧水への依存度が高く、基本的に流水環境にのみ生育する。

執筆者	内野秀重
文献一覧	28, 243, 289, 290, 291, 293



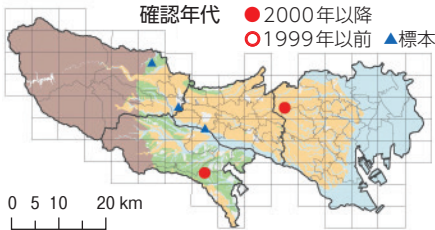
被子植物 ガマ科

■ **種の特性と生育状況**：全国の池沼や水路、湿原などに生育する多年生の抽水～湿生植物。泥中に走出枝を伸ばして群生、葉は細く6mm程度。6～9月、花序枝は下部で分枝する場合としない場合があり、雄性頭花と雌性頭花を数個ずつ花茎上下につける。区部では練馬区三宝寺池に知られ、現存する。北多摩は情報不足により現状不明。2020年、八王子市別所長池のため池でかいぼりにより個体群が復活し、南多摩にも産することが明らかとなった。

■ **生存を脅かす要因**：湿地の埋め立てや改変により生育地が失われたほか、湧水の枯渇や水質汚濁、植生の遷移などにより衰退が進んだものと考えられる。

■ **特記事項**：本種はミクリ類のなかでも浅水域を好み、湿地に生育する傾向が強い。

執筆者	内野秀重
文献一覧	28, 95, 222, 270



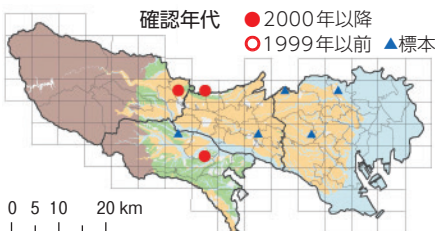
被子植物 ホシクサ科

■ **種の特性と生育状況**：全国の湿地や水田に生育する一年生の湿生植物。葉は線状披針形。開花は9～10月で、頭花は半球形、総苞片は短く倒卵形で鈍頭。都内では、区部では絶滅し、北多摩（西多摩境界部）と南多摩の水田や湿地に散発的に発生するのみできわめて危機的な状態にあると言って良い。水田環境のほとんどない西多摩の山地部には分布が見られない。

■ **生存を脅かす要因**：水田依存度の高い植物であり、耕作停止や水田放棄に伴い自生地が失われる。また、水田環境が残されていても農薬使用により生育環境は悪化する。

■ **特記事項**：

執筆者	内野秀重
文献一覧	28, 243, 288, 290, 291, 295



	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	EX	CR	CR	EN	CR	
2010	－	NT	NT	－		
1998			B			



八王子市 2007年6月18日

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	EX	・	・	・	EX	
2010	NT	－	－	－		
1998	UK					



町田市（植栽）2022年5月9日

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	CR	CR	CR	CR	CR	
2010	－	VU	VU	－		
1998						



八王子市 2021年8月25日

ヒロハノコウガイゼキショウ

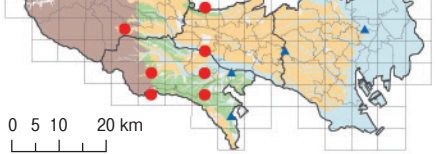
Juncus diastrophanthus

被子植物
イグサ科

■ **種の特性と生育状況**：全国の池沼や湿地、休耕田に生育する抽水性の多年草。葉は剣状多管質で淡い緑色、茎は広翼を持つ。6～7月、狭く開出した集散花序に頭花をつけ1頭花に4～12花がある。さく果は3稜状で著しく突出して花被片の2倍長。区部にも古い標本（都立大学牧野標本館 MAK116575北区田端1900年採集・牧野富太郎）があるが現在は絶滅。西多摩や北多摩、南多摩の丘陵湿地にわずかに現存するにすぎない。

■ **生存を脅かす要因**：地開発による湿地の消滅、攪乱湿地の放棄、農業の使用等が主要な衰退要因と考えられる。

■ **特記事項**：本種はコウガイゼキショウやハナビゼキショウと紛らわしい部分があり、十分に認識されていない。実態把握には近似種とともに正確な調査が必要である。



執筆者 内野秀重
文献一覧 48, 290, 291

イヌイ

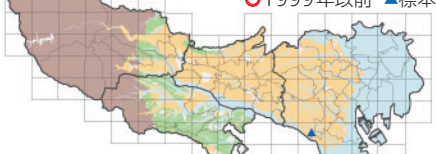
Juncus fauriei

被子植物
イグサ科

■ **種の特性と生育状況**：北海道、及び本州の沿海地やその周辺湿地に生育する多年草。地下茎は横走して群生、茎は著しく扁平でねじれる。5～6月に偽側生した花序をつける。区部の古い標本（TNS1019718世田谷区1935.5.10野村達郎）があるのみで、現在は絶滅している。隣接する千葉県での分布状況などから、東京湾岸部を特徴づける植物の一つであったことが推測されるが、明治以降の湾岸開発により絶滅したものと推測される。

■ **生存を脅かす要因**：都市開発による大規模な湾岸整備、河口部の護岸整備等が絶滅の要因になったことは明らかである。

■ **特記事項**：南多摩にも公園調整池における採集記録があるが、導入植物に随伴してきたものと考えられる。



執筆者 内野秀重
文献一覧 42, 67, 270, 362

タチコウガイゼキショウ

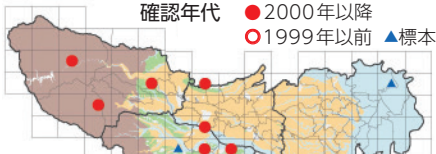
Juncus krameri

被子植物
イグサ科

■ **種の特性と生育状況**：全国の池沼や河岸湿地、休耕田などに生育する湿生の多年草。植物体は直立性が顕著で、草丈40～80cmに達する。葉は円筒形で単管質、夏から秋、やや密な頭状集散花序に花をつける。西多摩の溪谷河岸から河川中流域、低地まで記録があるが、現在では、多摩川を中心に、安定した湿性裸地に生育地が点在するのみとなっている。

■ **生存を脅かす要因**：土地造成で自生地が失われたほか、河川湿地への依存性が強いと推測される本種は、護岸整備等による湿性裸地の消滅等による影響が大きい。

■ **特記事項**：小さい個体はアオコウガイゼキショウに似るが、本種の同定では、果実が短く花被片と同長、先端は急に細くなり先端だけ突出するという特徴に留意したい。



執筆者 内野秀重
文献一覧 249, 287, 289, 290, 291, 294

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	EX	－	CR	DD	CR	
2010	EX	EN	EN	EN		
1998			A			



八王子市 2016年10月1日

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	EX	・	・	・	EX	
2010						
1998	B					



千葉県 2001年8月4日

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	DD	CR	EN	DD	EN	
2010	DD	VU	NT	－		
1998						



町田市 2020年5月27日

ニッポンイヌノヒゲ

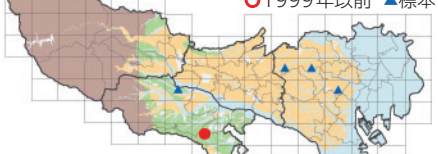
Eriocaulon taquetii

被子植物
ホシクサ科

■ **種の特性と生育状況**：全国の池沼周囲などに生育する一年生の湿生植物。葉は披針状線形。9～10月に開花し、総苞片は披針形で頭花より長い。都内では、南多摩の湿地にごくわずかに現存するにすぎない。区部ではかつて江戸川区や練馬区、渋谷区などに産したが絶滅。また、西多摩では情報不足となっており、よく似た近縁種とともに生育実態の把握が必要である。

■ **生存を脅かす要因**：区部では土地造成に伴う湿地開発によって生育地が失われた。それ以外の地域では本来自生地が少ないうえに、湧水の枯渇や植生遷移、また、水田耕作の停止や農業使用等で、自生地が極小まで減ってしまったものと考えられる。

■ **特記事項**：寺崎日本植物図譜（奥山1979）には、東京近郊多摩川畔に自生する本種の挿図が描かれている。



執筆者 内野秀重
文献一覧 28, 48, 208, 243

ドロイ

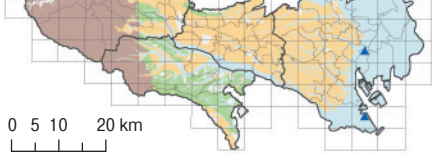
Juncus gracillimus

被子植物
イグサ科

■ **種の特性と生育状況**：全国の海岸近くの砂質湿地や、河口部護岸等に生育する湿生の多年草。根茎を伸ばして群生し、茎は円筒状、葉は細い線形。5～7月、集散花序に花を単生する。都内での分布は沿海地に限られ、江東区、千代田区、大田区などから古い標本が得られており、1900年前後は当地に自生していたものである。しかし、湾岸開発と整備により、絶滅したものと考えられる。

■ **生存を脅かす要因**：湾岸開発・整備により水辺の塩性湿地が改変され、生育環境が失われた。イヌイ同様、昭和初期には消滅に近い状態に至ったものと推測される。

■ **特記事項**：本種は一見クサイと酷似していて誤認しやすい。区部は開発が全域に及んではいるものの、生育を見逃している可能性もあり、今後の再発見が期待される。



執筆者 内野秀重
文献一覧 270, 294

ハナビゼキショウ

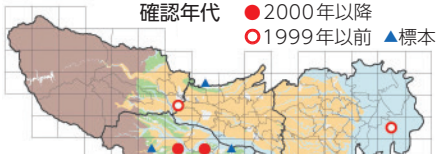
Juncus alatus

被子植物
イグサ科

■ **種の特性と生育状況**：本州以西の湿地、池沼周囲、休耕田等に生育する湿生の多年草。葉は剣状扁平で多管質。5～7月、4～10花からなる頭状集散花序を展開する。さく果は赤褐色を帯び、強い光沢がある。文献上は、都内の広範囲に記録があるが、現在は多摩丘陵や狭山丘陵の良好な湿地に生育は限られ、区部における現状も明らかでない。

■ **生存を脅かす要因**：各種の土地開発により生育環境の湿地が消滅したほか、残された谷戸田や林縁湿地などの管理の放棄や遷移の進行、農業の使用等が本種の生存をさらに脅かしている。

■ **特記事項**：十分に果実が着色していない花後まもない株はヒロハノコウガイゼキショウに似ており、誤認しないように同定には細心の注意が必要である。



執筆者 内野秀重
文献一覧 249, 288, 290, 291, 294, 295

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	CR	DD	CR	DD	CR
2010	●	DD	NT	－	
1998			B		



八王子市 2016年5月18日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	VU	VU	VU	NT	VU
2010					
1998					



八王子市 2006年5月21日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	EX	－	EN	DD	EN
2010	－	－	NT	－	
1998	C		C		



八王子市 2017年4月28日

被子植物
イグサ科

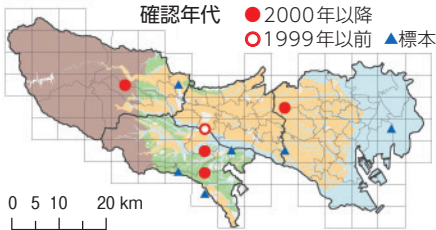
ハリコウガイゼキショウ

Juncus wallichianus

- **種の特性と生育状況**：全国の池沼や休耕田、湿地などに生育する多年生の抽水～湿生植物。葉は円筒形で単管質。春から夏にかけ、集散状の頭花に3～8個の小花をつける。コウガイゼキショウ類の中でもとりわけ水湿で湧水などの豊富な立地を好む傾向が強い。区部から西多摩までの全てのエリアに分布していたが、現存する場所はきわめて少なく、良好な状態を保つ湿地にわずかに残存するにすぎない。
- **生存を脅かす要因**：土地造成や湿地開発で自生地が失われてきたほか、湧水湿地の環境悪化、攪乱湿地の管理放棄、遷移の進行等により生育環境がさらに悪化している。
- **特記事項**：区部に関する文献は見当たらないが、都立大学牧野標本館には1900年代初頭の標本が残されている（MAK116832江戸川区19140802採集者不明）。

執筆者 内野秀重

文献一覧 28, 95, 243, 270, 280



被子植物
イグサ科

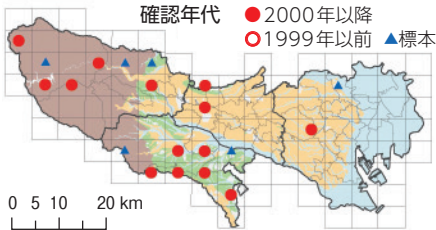
ヤマスズメノヒエ

Luzula multiflora

- **種の特性と生育状況**：全国の山野の路傍、林縁草地などに生える多年草。葉はイネ科状で縁に長毛を持つ。開花はスズメノヤリより遅く、5～7月。花序は数個の長い柄のある小頭花に分かれ、花被片は広披針形で褐色を帯びる。そう果の半分長ほどの種沈を持つ。都内では全てのエリアに記録があるが、現在では西多摩の山地を除き、非常に稀な植物となっている。
- **生存を脅かす要因**：都市部においては土地造成に伴い自生地の大半が失われた。また、路傍や林縁の舗装化や除草剤の使用、草地の管理放棄、植生の遷移等により、生育条件の悪化が著しい。
- **特記事項**：

執筆者 内野秀重

文献一覧 28, 270, 287, 289, 290, 291



被子植物
イグサ科

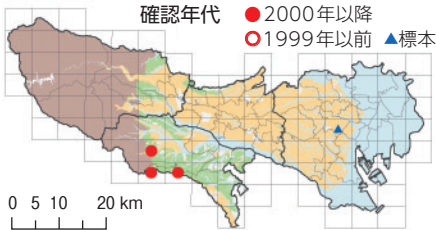
ヌカボシソウ

Luzula plumosa

- **種の特性と生育状況**：全国の丘陵～低山にかけての路傍や林縁、岩礫地などに生える多年草。根生葉は広線形でイネ科状、縁に長毛がある。4～6月、分枝した花序の先端に1個ずつ花をつけ、花被片は淡色で6個あり、先端は尖る。種子には同長の種枕がある。南多摩から西多摩低山帯にかけての渓崖地にのみ散見されるが、記録も少なく、従来、さほど多産する植物ではなかったものと推測される。
- **生存を脅かす要因**：山林や林道開発、河川改修などにより自生地が失われたほか、植生遷移、帰化植物の進出などによっても生育環境が狭められているものと考えられる。
- **特記事項**：区部において、唯一、渋谷区から標本が得られているが本来の自生品かどうかは疑問が残る（MAK343419渋谷区代々木明治神宮1960.5.22矢野佐）。

執筆者 内野秀重

文献一覧 28, 243, 247, 270



区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	●	●	CR	CR	
2010	●	●	VU		
1998			A		



金峰山 1991年7月31日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	DD	NT	VU	NT	NT
2010	DD	NT	NT	－	
1998					



八王子市 2020年9月19日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	NT	NT	NT	NT	
2010	NT	NT	NT	－	
1998		B			



瑞穂町 2021年6月20日

被子植物
イグサ科

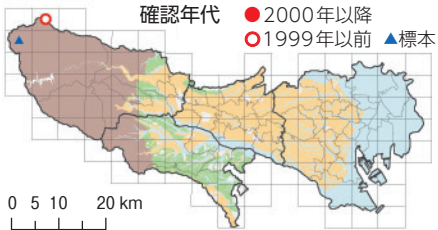
イトイ

Juncus maximowiczii

- **種の特性と生育状況**：北海道、及び本州中部以西の亜高山帯以上の岩場に生育する多年草。葉は糸状で柔らかく茎よりも長い。6月頃開花し、頭状花序に膜質で緑白色の花を数個つける。西多摩北西部の県境尾根を中心とした山域に記録があるが、近年は生育状況が確認できていない。本種は亜高山帯の岩礫地に生育するが、こうした立地環境は西多摩ではきわめて限定的であり、アクセスの困難な立地も多いことから、実態の把握が難しいのが現状である。
- **生存を脅かす要因**：本種の生育する亜高山帯的な岩礫地はもともと局限されており、これに加えて、植生の遷移や野生動物による食害なども懸念される。
- **特記事項**：都内生育記録はきわめて少ないが、都立大学牧野標本館に1点の標本が残されている（MAK278355奥多摩町1981.6.21鈴木和雄）。

執筆者 内野秀重

文献一覧 168



被子植物
イグサ科

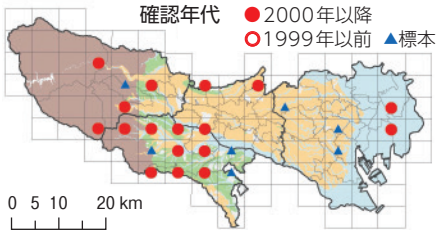
アオコウガイゼキショウ

Juncus papillosus

- **種の特性と生育状況**：全国の河川敷、休耕田等の湿地に生育する多年草。葉は円筒形で単管質、夏から秋にかけて頭状集散花序を展開する。さく果の先端は尖り、花被片の2倍長となるのが特徴。都内では西多摩や南多摩の丘陵地を中心に分布しているが、区部の生育地は少なく、実態は明らかでない。都立大学牧野標本館には、1800年代後半から1900年代初頭にかけて練馬区や新宿区で採集された標本が収められている。
- **生存を脅かす要因**：各種開発や湿地・河川護岸の整備で生育地が失われてきたほか、攪乱湿地の管理放棄、遷移の進行等により生育地の減少が進行している。
- **特記事項**：本種よりやや大型のタチコウガイゼキショウは形態が酷似し、間違えやすい。同定に際しては、果実の長さや先端形状などに着目する必要がある。

執筆者 内野秀重

文献一覧 270, 287, 288, 289, 291



被子植物
イグサ科

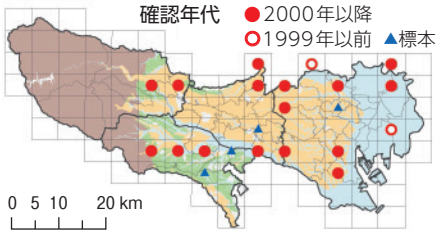
ホソイ

Juncus setchuensis

- **種の特性と生育状況**：本州以西の河川や池沼周囲の湿地、谷戸田などに生える湿生～抽水性の多年草。イグサに似るが茎は白緑色で顕著な縦溝がある。開花は5～6月、花序枝は著しく不同長でまばらに見える。都内では、多摩川の中流域から下流にかけて点在し、潜在的には区部低地に多く分布していたと考えられるが、開発により、自生地は限られたものとなっている。また、狭山丘陵に比べて多摩丘陵ではごく稀であるなど、丘陵域での分布量には差がある。
- **生存を脅かす要因**：河川開発、各種土地開発により生育環境が失われるほか、植生遷移、外来種コゴメイなどの進出の影響を受けているものと推測される。
- **特記事項**：

執筆者 内野秀重

文献一覧 28, 243, 251, 280, 294, 295



区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	EX	NT	NT	NT	
2010	—	NT	NT	NT	
1998					



多摩市 1981 年 9 月 6 日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	VU	●	●	VU	CR
2010	VU	●	●	●	
1998		A			



八王子市（植栽）1998 年 4 月 28 日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	EX	EN	EX	EN	
2010	EX	—	EX	—	
1998			B		



東大和市 2015 年 5 月 26 日

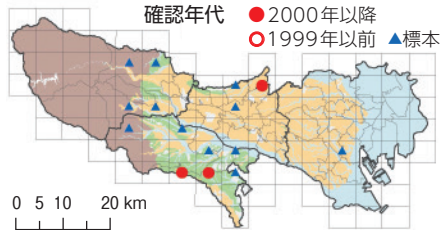
被子植物 カヤツリグサ科
イトハナビテンツキ <i>Bulbostylis densa</i>

■ **種の特性と生育状況**：全国に分布する一年草で、湿り気のある日当たりのよい芝地や荒れ地、湿地などに生える。茎や葉は叢生し、高さは8～25cm 程度。葉は糸状で茎より短い。果期は8～10月。花序は散形で、長さ3～5mm の小穂5～15個からなり、花序基部に1～3枚の短い針状の苞がつく。鱗片は卵形で長さ約1.7mm、先端はやや鈍頭で芒にならない。多摩地域の林道路傍、湿気のある日当たりのよい芝地や造成地、河川の高水敷の草地などに散発的に群生する。

■ **生存を脅かす要因**：本種の好む環境がかく乱によって生じた植生遷移初期の明るい環境で、かつ湿り気のある場所であることから、開発だけでなく、遷移の進行も本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる

■ **特記事項**：芝地では定期的な草刈り、それ以外の生育地でも適度なかく乱による植生遷移の進行を抑制するような管理を行うことが望ましい。

執筆者 仙仁径
文献一覧 2, 99, 243, 322



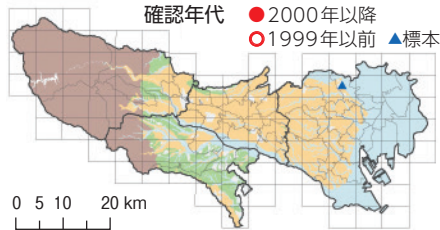
被子植物 カヤツリグサ科
トダスゲ <i>Carex aequialta</i>

■ **種の特性と生育状況**：関東地方以西の本州と九州に稀に分布する多年草で、河川敷や池沼の湿地に生える。叢生し、茎は高さ30～70cm 程度。葉は幅4～6mm で裏面は粉白を帯びる。花穂は3～5個が茎の先端に比較的近接してつく。頂小穂は雄性、側小穂は雌性で、側小穂の先端に少数の雄花がつくことがある。鱗片は緑白色で狭卵形、先端は鈍頭。果胞は花後に丸く膨らみ、2.5～3mm 程度。果期は5～6月。都内では荒川河川敷に存在した湿地で古い記録がある。

■ **生存を脅かす要因**：大河川河川敷や氾濫原の湿地が河川改修や開発により失われたことが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。

■ **特記事項**：もともと自生地の限られた種であるため、現存する自生地が発見された場合は、その環境を安定的に保全することが望ましい。

執筆者 仙仁径
文献一覧 270



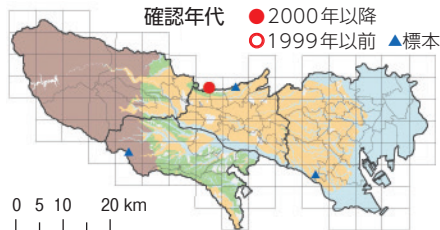
被子植物 カヤツリグサ科
ミノボロスゲ <i>Carex nubigena</i> subsp. <i>albata</i>

■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州（近畿以東）に分布する多年草で、山地の湿った路傍や、湿性草地の踏み跡などに生える。叢生し、茎は高さ20～60cm 程度。葉は幅2～3mm で濃緑色。花序は長さ3～5cm で多数の小穂がつく。小穂は長さ5～8mm で、先端に雄花、基部に雌花がつく。雌鱗片は赤褐色。果胞は三角状披針形で長さ4～4.5mm、脈があり先端はやや長い嘴になる。果期は5～7月。都内では多摩地域の丘陵や山地、区部の低地で記録があるほか、北多摩の多摩湖水域に現存が確認されている程度である。

■ **生存を脅かす要因**：もともと極めて稀であった。区部においては開発による生育地の消失が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられるが、南多摩での減少の理由は不明である。

■ **特記事項**：稀な種であるため、現存する自生地の環境を安定的に保全することが望ましい。

執筆者 仙仁径
文献一覧 99, 251



区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	NT	VU	EN	NT	VU
2010	NT	NT	NT	NT	
1998			A		



東村山市 1999 年 5 月 29 日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	EN	●	●	EN	
2010	NT	●	●	●	
1998					



江戸川区 2019 年 5 月 20 日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	EX	EN	CR	—	EN
2010	—	—	VU	—	
1998		C	B		



府中市 2022 年 9 月 11 日

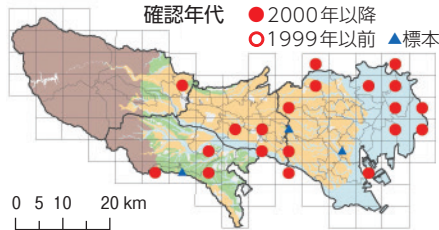
被子植物 カヤツリグサ科
ウキヤガラ <i>Bolboschoenus fluviatilis</i> subsp. <i>yagara</i>

■ **種の特性と生育状況**：沖縄を除く全国に分布する抽水性の多年草で、ため池などの浅い水辺に生え、群生することがある。地下茎は太くて長く伸びる。また茎の基部には塊茎がある。茎は高さ1～1.5m。葉は細長く、幅5～10mm。果期は7～9月。花序は散形で頂生し、複数の葉状苞がつく。小穂は長さ1～2cm。花被片は果実より短いか同長で、果実が熟しても宿存する。都内では、多摩地域や区部の川岸、湿地や池沼に生育している。

■ **生存を脅かす要因**：池沼や湿地の改変、河川の護岸改修が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。

■ **特記事項**：池沼の水辺や河川の護岸改修を行う際は、自生地を保全することや、水辺の浅水域の維持、また生育空間の日照確保が望ましい。

執筆者 仙仁径
文献一覧 99, 151, 243



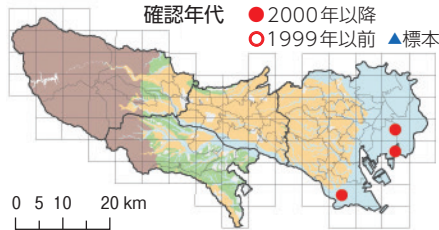
被子植物 カヤツリグサ科
イセウキヤガラ <i>Bolboschoenus planiculmis</i>

■ **種の特性と生育状況**：別名ヒメウキヤガラ。沖縄を除く全国に分布する抽水性の多年草で、ふつつ河口付近の潮間帯に生え、パッチ状に群生する。地下茎は長く伸びる。茎の基部にある塊茎は1年ほどで枯れると考えられる。茎は高さ40～80cm。果期は7～11月。長さ0.8～2cm の小穂が1～4個頂生し、1、2枚の葉状苞がつく。1枚の苞は直立する。花被片は果実が熟すと脱落する。都内では、区部の大河川の河口から5～7km ほど上流の塩性湿地に生育している。

■ **生存を脅かす要因**：河口部周辺にある塩性湿地の埋め立てや河川改修が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。

■ **特記事項**：河口部周辺の塩性湿地を保全していくことが望ましい。

執筆者 仙仁径
文献一覧 31, 67, 99



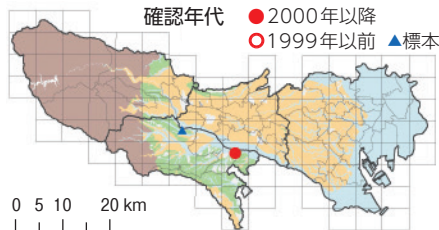
被子植物 カヤツリグサ科
ハタガヤ <i>Bulbostylis barbata</i>

■ **種の特性と生育状況**：本州以南に分布する一年草で、海岸や河川の日当たりの良い砂地や荒れ地、畑地に生える。茎や葉は叢生し、高さは5～20cm 程度。葉は糸状で茎より短い。果期は7～10月。花序は頭状で、長さ3～7mm の無柄の小穂が2～15個頂生し、基部に1～3枚の針状の苞がつく。鱗片は卵形で長さ約2mm、先端は鋭頭で外曲する。都内では、南多摩の河川敷の砂地で記録があるが極めて稀である。

■ **生存を脅かす要因**：他地域の自生地の環境を考えると、かつては東京湾沿岸や大河川の河川敷の砂地に生えていたと考えられるが、そのほとんどが開発や改修により失われたことが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。

■ **特記事項**：現在本種が生育する砂礫地を保全することが望ましいが、そのような環境はかく乱がないと維持されないことから、適切なかく乱を行うことが求められる。

執筆者 仙仁径
文献一覧 2, 99, 280



	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	EX	EX	－	－	EX	
2010	EX	●	●	●		
1998						



群馬県 1992 年 6 月 12 日

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	－	EN	CR	－	CR	VU
2010	●	VU	●	●		
1998						



八王子市 2012 年 5 月 24 日

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	EX	●	●	●	EX	VU
2010	EX	●	●	●		
1998						



群馬県 2001 年 5 月 26 日

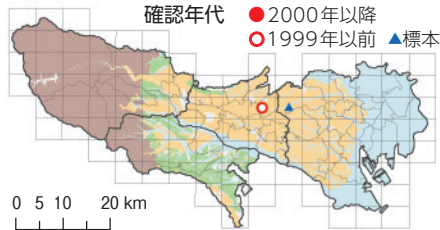
	被子植物 カヤツリグサ科
ハリガネスゲ	<i>Carex capillacea</i>

■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州、九州（稀）に分布する多年草で、丘陵や山地の湿地に生える。根茎は叢生し、茎は高さ 20 ～ 40cm 程度。葉は茎より短く、幅 1 ～ 1.5mm。長さ 0.5 ～ 1cm の小穂が 1 つだけ頂生する。小穂は先端に雄花、基部に雌花がつく。果胞は卵形で長さ 2.5 ～ 3mm、熟すと水平に開出する。果期は 5 ～ 6 月。都内では区部と北多摩で記録があるが、いずれも絶滅したと考えられる。

■ **生存を脅かす要因**：もともと稀であったが、消滅の理由は不明である。

■ **特記事項**：今後、現存する生育地が発見された場合は、その環境を安定的に保全する必要がある。

執筆者	仙仁径
文献一覧	99, 270



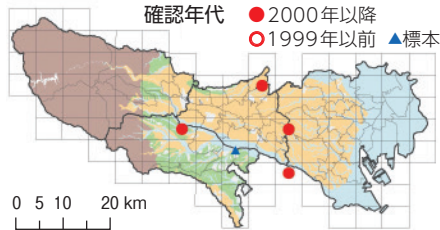
	被子植物 カヤツリグサ科
ジョウロウスゲ	<i>Carex capricornis</i>

■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州（中部以北）に分布する多年草で、河川敷や池沼などの定期的に攪乱を受ける湿地に生える。叢生し、茎は高さ 40 ～ 70cm。葉は茎より長く幅 4 ～ 6mm。花穂は 4 ～ 6 個が茎の先端に近接してつく。頂小穂は雄性、側小穂は雌性。果胞は狭披針形で長さ 7 ～ 9mm 程度、嘴は長くて口部は 2 裂して湾曲し、多数が中軸に平開してつく。果期は 5 ～ 7 月。都内では北多摩や南多摩の池沼や河川敷などで稀に見られる。

■ **生存を脅かす要因**：池沼や河川敷の改変が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。

■ **特記事項**：2020 年に井の頭公園でかいぼりを実施した後、本種が大量に発生したことから、自生地で定期的な攪乱を与えることが望ましいことが確認できた。

執筆者	仙仁径
文献一覧	62, 99, 236



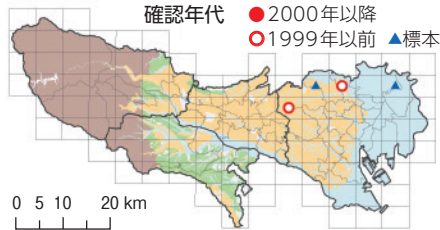
	被子植物 カヤツリグサ科
ヌマアゼスゲ	<i>Carex cinerascens</i>

■ **種の特性と生育状況**：本州（関東地方以北）に分布する多年草で、河川敷の湿地に生える。長い匍匐枝を出す。茎は高さ 30 ～ 80cm。葉は幅 2 ～ 3mm。花穂は 3 ～ 5 個が茎の先につく。頂小穂は雄性、側小穂は雌性。果胞は扁平で長さ 2 ～ 2.5mm 程度、嘴はほとんどなく口部は全縁。果期は 5 ～ 6 月。都内では区部荒川河川湿地などの記録や標本が残されているが、現在は絶滅している。

■ **生存を脅かす要因**：河川敷の改変が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。

■ **特記事項**：東京都立大学牧野標本館には板橋区志村（MAK221100牧野富太郎 18980522）をはじめ、北区、葛飾区などの標本が収められている。

執筆者	仙仁径
文献一覧	62, 87, 270



	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	CR	EX	EN	CR	EN	
2010	EX	－	EN	－		
1998	UK		C			



町田市 2014 年 5 月 15 日

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	EX	EN	VU	VU	VU	
2010	EX	VU	NT	VU		
1998						



八王子市 2002 年 4 月 20 日

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	EX	－	CR	EN	CR	
2010	VU	VU	VU	VU		
1998						



八王子市 1994 年 5 月 19 日

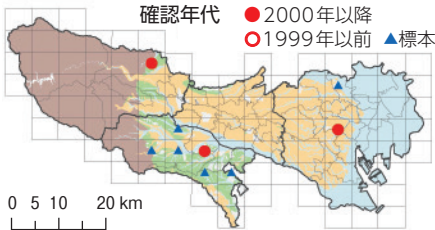
	被子植物 カヤツリグサ科
クロカワズスゲ	<i>Carex arenicola</i>

■ **種の特性と生育状況**：沖縄を除く全国に分布する多年草で、砂質の湿地などに生える。根茎は地中を長く這い、茎は高さ 10 ～ 30cm 程度で根茎上にまばらにつく。葉は幅 2 ～ 3mm。花序は長さ 1.5 ～ 3cm で数個の無柄の小穂がつく。小穂は長さ 5 ～ 8mm で、先端に雄花、基部に雌花がつく。鱗片は褐色。果胞は卵形で長さ 3 ～ 4mm、先端はやや長い嘴になる。果期は 5 ～ 6 月。都内では区部や多摩地域の草地などで確認されている。

■ **生存を脅かす要因**：丘陵での開発や植生遷移の進行、河川改修などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。

■ **特記事項**：現存する自生地は定期的に草刈りがなされており、今後も安定して同様の管理を実施することが望ましい。

執筆者	仙仁径
文献一覧	62, 243



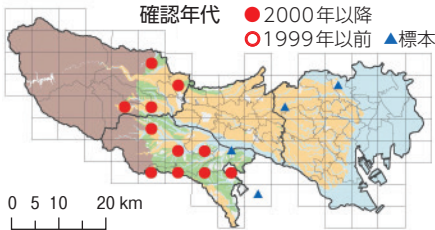
	被子植物 カヤツリグサ科
マツバスゲ	<i>Carex biwensis</i>

■ **種の特性と生育状況**：沖縄を除く全国に分布する多年草で、丘陵の湿地などに生える。根茎は叢生し、茎は高さ 20 ～ 40cm 程度。葉は茎より短く、幅 1 ～ 1.5mm。長さ 1 ～ 2cm の小穂が 1 つだけ頂生する。小穂は先端に雄花、基部に雌花がつく。果胞は卵形で長さ 1.5 ～ 2mm、熟すと水平に開出する。果期は 5 ～ 6 月。多摩部の谷戸田の畔や水路、湿地で確認されているが、区部では絶滅したと考えられる。

■ **生存を脅かす要因**：開発や谷戸田の放棄や改修、湿地の植生遷移の進行などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。

■ **特記事項**：谷戸田の周辺で見られることから、生育環境の適切な保全とともに、耕地整理や水路改修、除草剤散布などにより消滅しないよう、関係者・機関との連携が重要である。

執筆者	仙仁径
文献一覧	99, 162, 243



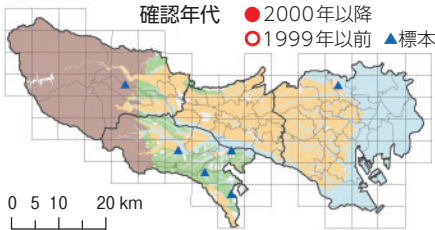
	被子植物 カヤツリグサ科
アワボスゲ	<i>Carex brownii</i>

■ **種の特性と生育状況**：沖縄以外の全国に分布する多年草で、湿った草地などに生える。叢生し、茎は高さ 30 ～ 80cm 程度。葉は幅 3 ～ 7mm で茎と同長か長い。花穂は 3 ～ 4 個が茎の先端に近接してつく。頂小穂は雄性、側小穂は雌性。果胞は花後に丸く膨らみ 3mm 程度で、中軸に対して開出してつく。果期は 5 ～ 6 月。都内では丘陵の谷戸田に隣接する草地などに生育するが、近年確実な生育情報が得られておらず、危機的状況となっている

■ **生存を脅かす要因**：丘陵の谷戸田に隣接する草地の減少が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。

■ **特記事項**：自生地が発見された場合は、その環境を安定的に保全するため、定期的な草刈りなどの管理が実施されることが望ましい。

執筆者	仙仁径
文献一覧	62, 87, 99



区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	VU	VU	NT	NT	VU
2010	VU	VU	NT	NT	
1998	C				



町田市 2013 年 4 月 30 日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	VU	EN	•	EN	EN
2010	EX	DD	•	•	
1998					



瑞穂町 2021 年 6 月 20 日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	•	•	•	VU	VU
2010	•	•	•	VU	
1998					



神奈川県 2011 年 5 月 16 日

被子植物

カヤツリグサ科

ホソバヒカゲスゲ

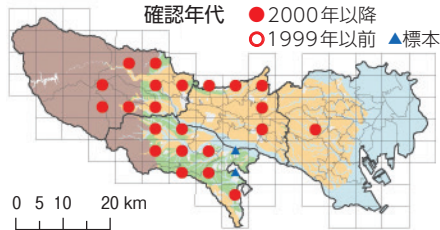
Carex humilis var. nana

■ **種の特性と生育状況**：北海道～九州に分布する多年草で、丘陵から山地の尾根など乾燥した林床や草地に生える。密に叢生する。茎は短く、高さ3～6cm程度。葉は細く、幅0.5～1.5mm。花穂は少数の花がつき、頂小穂は雄性、側小穂は雌性。果胞は紡錘形で長さ3mm程度、ほとんど嘴はなく、毛が生えている。果期は4～5月。都内では多摩地域の丘陵や山地の乾いた尾根や、区部の貧栄養で乾いた雑木林の林床などに生えている。

■ **生存を脅かす要因**：雑木林の落葉が農業で利用されなくなったことにより、堆積した落葉で雑木林が富栄養化し、生育適地である貧栄養な環境が減少していることが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。

■ **特記事項**：植生を適切に管理することで、本種が好む貧栄養な林床を維持していくことが望ましい。

執筆者 仙仁径
文献一覧 62, 87, 99, 161



被子植物

カヤツリグサ科

ウマスゲ

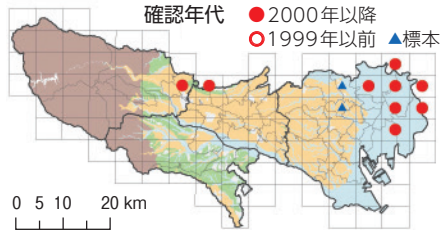
Carex idzuroei

■ **種の特性と生育状況**：本州（関東地方以西）、四国、九州に分布する多年草で、中下流河川敷や溜池の湿地や河畔林内等に生える。匍匐枝を伸ばし群生する。茎は高さ40～60cm程度。葉は幅4～8mm。花穂は3～4個つき、頂小穂は雄性、側小穂は雌性。果胞は長さ10～12mmと大きくて無毛、嘴は長い。果期は4～6月。都内では区部の荒川等の河川敷や、多摩地区の湿地に稀に生えている。

■ **生存を脅かす要因**：開発による氾濫原の消失、河川改修による環境変化が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。

■ **特記事項**：可能なかぎり自生地を維持し、河川改修の際も生物多様性に配慮した手法を導入することが望ましい。

執筆者 仙仁径
協力者 舟木匡志、内野秀重
文献一覧 62, 87



被子植物

カヤツリグサ科

イセアオスゲ

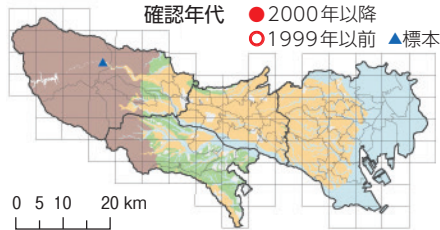
Carex karashidaniensis

■ **種の特性と生育状況**：本州（関東地方西南部、東海地方、紀伊半島）に分布する多年草で、山地林内の斜面や岩場に生える。叢生し、茎は高さ5～10cm程度で葉より短い。果期は5～6月。葉は幅1～2.5mm。花穂は3～5個つき、頂小穂は雄性、側小穂は雌性でまばらに雌花がつき、苞は花序より長い。果胞は長さ3～3.5mmで嘴は長い。都内では西多摩の高標高地の林縁岩上に生えている。

■ **生存を脅かす要因**：豪雨等による自生地の崩壊や、登山客による踏みつけなどが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。

■ **特記事項**：自生地での登山道の明確化や登山客のマナー向上を図ることが本種の保護につながると考えられる。図鑑記載がまるで認知が進んでいない種であるため、分布実態の調査が望まれる。

執筆者 仙仁径
文献一覧 62, 86, 87, 99, 162



区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	EX	VU	VU	NT	VU
2010	•	VU	VU	NT	
1998					



町田市 2019 年 4 月 28 日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	•	•	•	VU	VU
2010	•	•	•	VU	
1998			C		



青梅市 2022 年 5 月 6 日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	EX	DD	EN	NT	VU
2010	•	•	EN	NT	
1998			B		



青梅市 2019 年 6 月 5 日

被子植物

カヤツリグサ科

タマツリスゲ

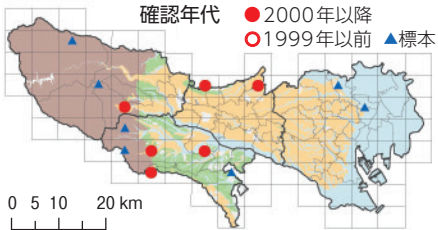
Carex filipes var. filipes

■ **種の特性と生育状況**：本州、四国、九州に分布する多年草で、落葉樹林内の草地に生える。根茎は短く、株になる。茎は高さ30～50cm。葉は幅2～4mm。花穂は3～4個が茎につく。頂小穂は雄性、側小穂は雌性で、ともに数個の花がまばらにつく。果胞は長さ5～6mm程度で嘴は長い。果期は4～6月。都内では台地から丘陵、低山帯の林地に稀に見られる。

■ **生存を脅かす要因**：雑木林の管理放棄による林床や林縁の環境変化が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。

■ **特記事項**：現存する自生地での適切な植生管理が望ましい。

執筆者 仙仁径
文献一覧 62, 87, 99, 162, 243



被子植物

カヤツリグサ科

サナギスゲ

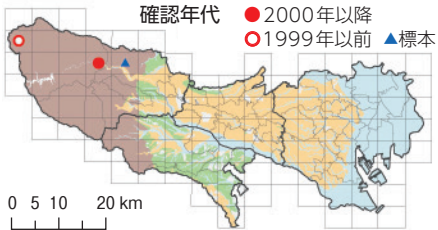
Carex grallatoria var. heteroclita

■ **種の特性と生育状況**：本州、四国、九州に分布する多年草で、山地林内の岩場や斜面に生える。叢生し、短い匍匐枝を伸ばすこともある。茎は高さ3～20cm。葉は幅1～2.5mm。茎頂に花穂が1つつく。先端に雄花、その下に雌花がともに数個まばらにつく。果胞は長さ2～2.5mm程度で毛が生えている。果期は5月。都内では奥多摩の高標高地岩場などで見られる。

■ **生存を脅かす要因**：登山道などでの踏みつけや、山林の改変による林床の環境変化が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。

■ **特記事項**：自生地に登山客が侵入しないよう、登山客のマナー向上を図るとともに、登山道の適切な管理が望まれる。

執筆者 仙仁径
文献一覧 62, 87, 99, 168



被子植物

カヤツリグサ科

ヤマアゼスゲ

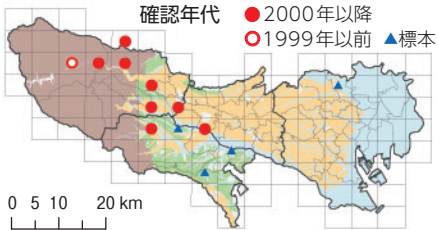
Carex heterolepis

■ **種の特性と生育状況**：北海道～九州に分布する多年草で、平地から山地の谷間の水辺などに生える。地下に匍匐枝があり、まばらに叢生する。茎は高さ20～60cm程度。葉は幅3～6mm。花穂は3～7個つき、頂小穂は雄性、側小穂は雌性。果胞は扁平で長さ2.5mm程度、嘴は急に短くとがり、口部は小さく二裂する。果期は5～6月。都内では南多摩と西多摩の山地溪流の水辺を中心に生えている。

■ **生存を脅かす要因**：もともと自生地は多くないが、河川改修や、豪雨による自生地の流出が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。

■ **特記事項**：不安定な環境に生えていることから、河川改修などでも植生に配慮した整備を行うつつ、現存する自生地を保全することが望ましい。

執筆者 仙仁径
文献一覧 62, 87, 168



	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020						
2010						
1998						



奥多摩町 1983 年 4 月 18 日

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020						
2010						
1998						



府中市 2019 年 5 月 22 日

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020						
2010						
1998						



八王子市 1984 年 5 月 14 日

被子植物
カヤツリグサ科

ヒエスゲ

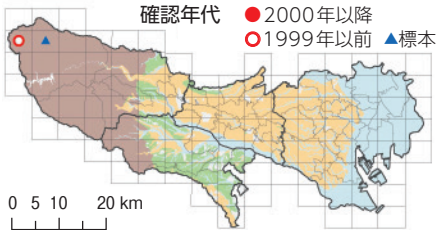
Carex longirostrata

■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州（中部以北）に分布する多年草で、山地の草原などに生える。匍匐枝はなく叢生する。茎は高さ 20 ～ 40cm。葉は幅 2 ～ 3mm。花穂は 2 ～ 3 個が茎につく。頂小穂は雄性で長い柄があり、側小穂は雌性で短く、少数の雌花がつく。果胞は広卵形で長さ 7 ～ 8mm 程度、嘴は長い。果期は 6 ～ 7 月。都内では西多摩の山地の石灰岩地に見られる。

■ **生存を脅かす要因**：石灰岩採掘による自生地減少が本種の生存を脅かす要因と考えられる。

■ **特記事項**：石灰岩地には他の場所とは異なる植物相が見られることから、本種を含めた包括的な保護対策が求められる。

執筆者 仙仁径
文献一覧 62, 87, 168



被子植物
カヤツリグサ科

チュウゼンジスゲ

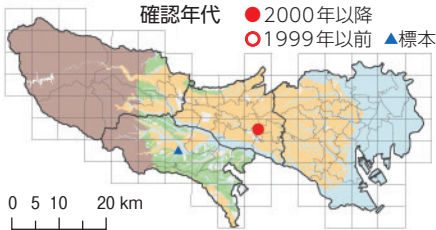
Carex longirostrata var. tenuistachya

■ **種の特性と生育状況**:本州（中部以北）、九州に分布する多年草で、山地の草原などに生える。匍匐枝があり、まばらに群生する。それ以外の形態的特徴についてはヒエスゲと同じである。都内では北多摩と南多摩の落葉広葉樹の疎林の下で見られ、自生地では群生している。

■ **生存を脅かす要因**：自生地が極めて限定されており、集団が孤立していることが本種の生存を脅かす要因と考えられる。

■ **特記事項**：スゲの分類では果期の花序などが同定の鍵となるが、本種は花付きが悪いため発見が難しく、これまで自生地が見過ごされてきた恐れがある。

執筆者 仙仁径
文献一覧 62, 87, 278



被子植物
カヤツリグサ科

ヤガミスゲ

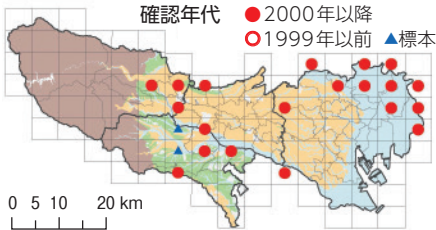
Carex maackii

■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州、九州に分布する多年草で、河川敷などの湿った草地に生える。叢生し、茎は高さ 40 ～ 70cm。葉は幅 3 ～ 6mm。花序は長さ 3 ～ 5cm で多数の小穂がつく。小穂は長さ 5 ～ 8mm で、先端に雄花、基部に雌花がつく。果胞は卵形で長さ約 3.5mm、縁に狭い翼があり先端は次第に狭くなって嘴となる。果期は 5 ～ 6 月。都内では主に大河川の河川敷の草地に見られるほか、池畔や丘陵部谷戸湿地にわずかに分布する。

■ **生存を脅かす要因**：自生地の改変のほか、ある程度攪乱を受ける草丈の低い草地に生えることから、植生遷移も本種の生存を脅かす要因と考えられる。

■ **特記事項**：他のパイオニア植物と同様に、いかにして適地を維持、創出するか、技術的・社会的課題に取り組む必要がある。

執筆者 仙仁径
文献一覧 62, 87, 99, 238



	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020						
2010						
1998						



青梅市 2021 年 6 月 7 日

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020						
2010						
1998						



府中市 2022 年 4 月 27 日

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020						
2010						
1998						



埼玉県 2022 年 5 月 23 日

被子植物
カヤツリグサ科

テキリスゲ

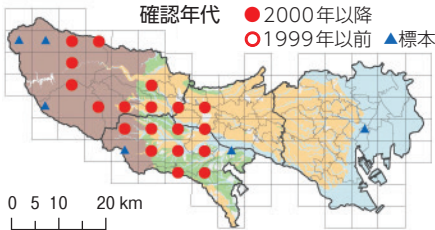
Carex kiotensis

■ **種の特性と生育状況**：北海道～九州に分布する日本固有の多年草で、山地の川岸などの湿った場所に生える。叢生し、茎は高さ 40 ～ 60cm 程度。葉は幅 4 ～ 8mm で茎葉ともざらつく。花穂は 4 ～ 7 個つき、頂小穂は雄性で先端に雌花がつく時もある。側小穂は雌性で多数の雌花がつき長く垂れ下がる。果胞は長さ 2 ～ 2.5mm で嘴は短い。果期は 5 ～ 7 月。都内では西多摩の山間部の水辺ではよく見かけるが、それ以外の地域では少なく、区部では標本記録のみ。

■ **生存を脅かす要因**：西多摩以外では、本種の生育地である水辺の改修が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。

■ **特記事項**：河川改修の施工後に、元の生育条件にできるだけ近づけるなど、生物多様性に配慮した河川改修を行うことが本種の保護につながると考えられる。

執筆者 仙仁径
文献一覧 62, 87, 99, 243



被子植物
カヤツリグサ科

クジュウツリスゲ

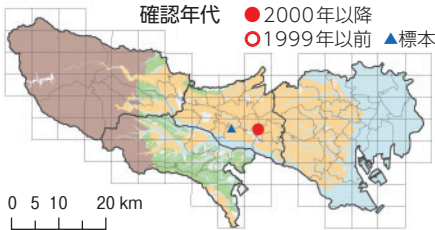
Carex kujuzana

■ **種の特性と生育状況**：本州（中部以北）、九州北部に分布する多年草で、山地の草原や明るい落葉樹林内に生える。匍匐枝を伸ばし、まばらに群生する。茎は高さ 30 ～ 60cm。葉は幅 3 ～ 5mm。花穂は 2 ～ 3 個が茎につく。頂小穂は雄性で長い柄があり、側小穂は雌性で、4 ～ 8 個の雌花がまばらにつく。果胞は長さ 6mm 程度で嘴は長い。果期は 5 ～ 6 月。都内では北多摩の丘陵の落葉広葉樹林内や林縁に稀に見られる。

■ **生存を脅かす要因**：現時点では自生地の雑木林が適切に管理されているため本種の生存が脅かされている状況ではないが、自生地が非常に孤立している点は注意を要する。

■ **特記事項**：非常に地味な植物であることから、存在に気付かれない可能性がある。

執筆者 仙仁径
文献一覧 62, 87, 99, 183



被子植物
カヤツリグサ科

アズマスゲ

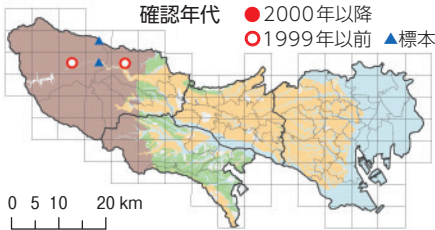
Carex lasiolepis

■ **種の特性と生育状況**：北海道～九州に分布する多年草で、乾いた山地の明るい樹林下や林縁法面などに生える。叢生し、茎は高さ 5 ～ 15cm 程度で葉より短い。葉は幅 3 ～ 5mm。花穂は 2 ～ 3 個つき、頂小穂は雄性、側小穂は雌性で少数の雌花がつく。果胞は長さ 4 ～ 4.5mm、基部は太い柄となる。果期は 4 ～ 5 月。全体にビロードのような軟毛が生える。都内では西多摩の山地に記録がある。

■ **生存を脅かす要因**：自生地の孤立が本種の生存を脅かす要因となっている。

■ **特記事項**：西多摩の山地における生育状況は不明であり、現在も自生しているのか調査する必要がある。

執筆者 仙仁径
文献一覧 62, 87, 162



区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	NT	NT	VU	NT	
2010					
1998					



日野市 2019年5月23日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	EX	EX	EX	EX	
2010	EX	EX	EX	EX	
1998	D	D			



茨城県 1988年5月9日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	EX	EX		VU	
2010					
1998					



奥多摩町 2013年6月30日

被子植物
カヤツリグサ科

ミコシガヤ

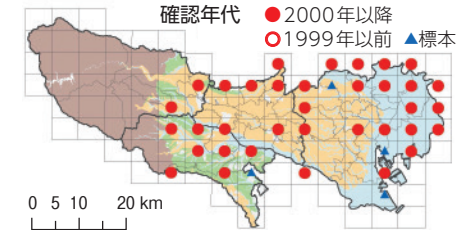
Carex neurocarpa

■ **種の特性と生育状況**：本州（近畿地方以東）に分布する多年草で、平地や河川敷などの湿った草地に生える。叢生し、茎は高さ30～60cm。葉は幅2～3mm。花序は長さ3～8cmで多数の小穂がつく。小穂は長さ4～8mmで、先端に雄花、基部に雌花がつく。果胞は卵形で長さ約3.5～4mm、上部の縁に幅広い波状の翼がある。果期は5～7月。都内では河川敷などの湿った草地に見られる。

■ **生存を脅かす要因**：河川敷の改修や、湿った草地の開発が本種の生存を脅かす要因と考えられる。

■ **特記事項**：特に区部の河川敷では比較的多く生えているが、南多摩においては減少が著しく、注意を要する。

執筆者 仙仁径
文献一覧 62, 87, 99, 162



被子植物
カヤツリグサ科

ヤチカワズスゲ

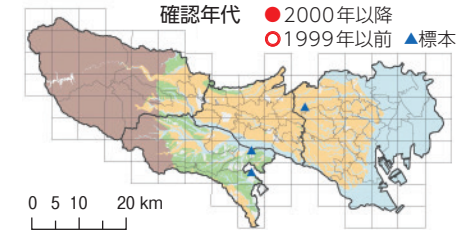
Carex omianai

■ **種の特性と生育状況**：北海道～九州に分布する多年草で、湿地に生える。ゆるく叢生し、茎は高さ30～60cm。葉は幅1.5～2.5mmで茎より短い。2～5個の小穂が茎の先の方にやや接近してつく。小穂は長さ6～15mmで、先端に雌花、基部に雄花がつく。果胞は卵状披針形で長さ約4～5mm、徐々に狭まり長い嘴になり、熟すと反りかえる。果期は5～6月。都内では区部の湧水地の湿地や、南多摩の丘陵の湿地などで記録がある。

■ **生存を脅かす要因**：もともと自生地が限られていたと思われ、さらに自生地の改変や開発によって絶滅したと考えられる。

■ **特記事項**：

執筆者 仙仁径
文献一覧 62, 87, 195, 270



被子植物
カヤツリグサ科

ヒカゲハリスゲ

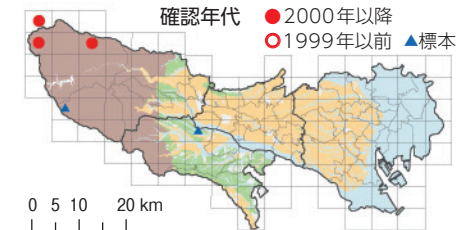
Carex onoei

■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州（紀伊半島以東）に分布する多年草で、山地の湿った場所に生える。叢生し、茎は高さ10～30cm程度。葉は幅1～3mm。花穂は長さ4～6mmで茎の先端に1個つき、上部に短い雄花部、その下に雌花がつく。果胞は長さ2.5～3mmで先端は嘴状、口部は2歯になる。果期は5～6月。都内では西多摩の高標高地の沢筋に見られる。かつては区部や北多摩の湿地にも生えていた。

■ **生存を脅かす要因**：本種は西多摩の高標高地に分布が限定されている。シカによる食害が心配される地域であるが本種への影響は不明である。

■ **特記事項**：現存調査が不足しており、今後の調査が必要である。

執筆者 仙仁径
文献一覧 62, 87, 99, 207, 314



区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	EX	EN	EX	CR	EN
2010	—	EN	EX	EX	
1998	A		A		



瑞穂町 2021年5月21日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	●	—	CR	—	CR
2010					
1998					



八王子市 2021年6月9日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	●	●	EN	VU	VU
2010	●	●	VU	VU	
1998			C		



町田市 2022年7月7日

被子植物
カヤツリグサ科

タチスゲ

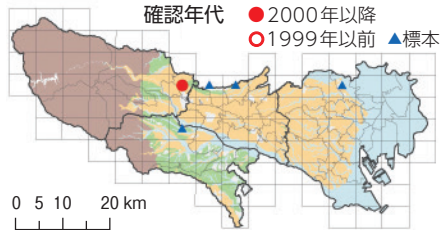
Carex maculata

■ **種の特性と生育状況**：本州東東南部以南～九州、南西諸島北部に分布する多年草で、湿地や湿った草地に生える。叢生し、茎は高さ30～70cm程度。葉は幅3～6mm。花穂は3～4個つき、頂小穂は雄性、側小穂は雌性。果胞は広卵形で長さ2.5mm程度、短い嘴がある。隆起した脈があり、密に乳頭状突起がある。果期は5～6月。都内では西多摩の丘陵の湿った草地にごく稀に生えている。

■ **生存を脅かす要因**：もともと自生地は多くなく、現存する自生地は非常に少ない。自生地の改変が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。

■ **特記事項**：現存する自生地においては今後開発されることはないが、植生遷移など環境の変化に留意する必要がある。

執筆者 仙仁径
文献一覧 62, 87, 99



被子植物
カヤツリグサ科

ホシナシゴウソ

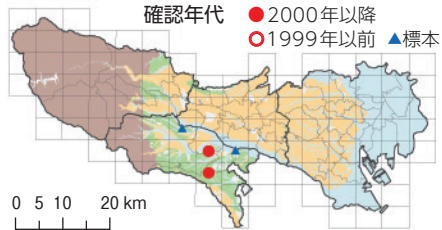
Carex maximowiczii var. levisaccus

■ **種の特性と生育状況**：本州に分布する多年草で、湿地に生える。叢生し、茎は高さ30～70cm程度。葉は幅3～6mm。花穂は2～4個つき、頂小穂は雄性、側小穂は雌性。果胞は卵形で長さ4～4.5mm程度、母種のゴウソより大きい。徐々に狭まり嘴になり、口部は2歯になる。果胞表面にはゴウソのような乳頭状突起がなく平滑。果期は5～6月。都内では南多摩の丘陵の湿地にごく稀に生えている。

■ **生存を脅かす要因**：もともと自生地は多くなく、現存する自生地は非常に少ない。自生地の改変や生育環境の悪化が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。

■ **特記事項**：自生地周辺の樹木が成長して被陰されるといった生育環境の悪化が生じないよう管理していく必要がある。

執筆者 仙仁径
文献一覧 62, 87, 99, 243, 283



被子植物
カヤツリグサ科

ヒメシラスゲ

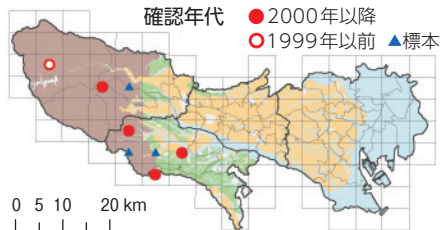
Carex mollicula

■ **種の特性と生育状況**：北海道～九州に分布する多年草で、山地の落葉広葉樹林内などに生える。匍匐枝を出し、疎生する。茎は高さ15～30cm。葉は幅4～8mm。花穂は3～6個が茎につく。頂小穂は雄性、側小穂は雌性で茎の上部に固まってつく。果胞は狭卵形で長さ3～4mm程度、数本の脈がある。果期は5～6月。都内では西多摩の山域を中心に生え、南多摩地域の陰湿な落葉広葉樹林下等でも見られる。

■ **生存を脅かす要因**：西多摩以外では自生地が限定されており、植生遷移による自生地の環境悪化が懸念される。西多摩の山域においては、シカによる食害が本種の生存を脅かす要因と考えられるが、実態は不明である。

■ **特記事項**：本種のように西多摩の山域に分布するスゲ属植物がどの程度シカによる食害の影響を受けているか、調査が必要である。

執筆者 仙仁径
文献一覧 62, 87, 168



	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	EX	DD	EN	EN	EN	
2010	EX	VU	VU	VU		
1998		D		D		



町田市 2017 年 6 月 12 日

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	•	CR	CR	CR	CR	
2010	•	CR	•	•		
1998		A				



八王子市 1995 年 5 月 3 日

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	NT	•	•	•	NT	
2010	NT	•	•	•		
1998		B				



江戸川区 2019 年 5 月 20 日

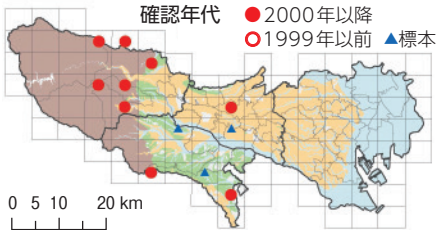
被子植物 カヤツリグサ科
タカネマスクサ <i>Carex planata</i>

■ **種の特性と生育状況**：北海道～九州に分布する多年草で、湿った樹林内や湿地に生える。叢生し、茎は高さ 30 ～ 80cm 程度。葉は幅 1.5 ～ 2.5mm。花序には 3 ～ 5 個の無柄の小穂がつく。小穂は卵形で長さ 6 ～ 10mm、先端に雌花、基部に少数の雌花がつく。果胞は広卵形で長さ約 4mm、縁に幅広い翼がある。果期は 5 ～ 7 月。都内では区部で絶滅し、多摩地域の丘陵の湿地などに稀に生える。

■ **生存を脅かす要因**：もともと自生地は多くなく、自生地の開発とともに、里山の管理放棄による植生遷移が本種の生存を脅かす主な要因と考えられる。

■ **特記事項**：本種のように里山環境に出現する種にとっては、環境の維持管理が重要であるが、近年その担い手が減少しており、大きな課題となっている。

執筆者 仙仁径
文献一覧 28, 47, 62, 87, 99



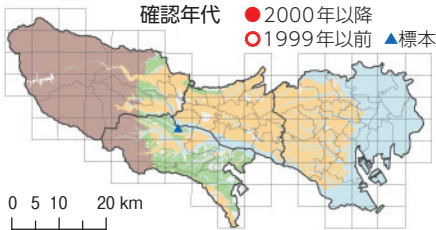
被子植物 カヤツリグサ科
タヌキラン <i>Carex podogyna</i>

■ **種の特性と生育状況**：北海道（西南部）、本州（中部以北）に分布する多年草で、山地の湿った斜面などに生える。ゆるく叢生する。茎は高さ 30 ～ 100cm。葉は幅 5 ～ 12mm。花穂は 3 ～ 6 個が茎につく。上部の 1 ～ 3 個の小穂は雄性、下方の 2 ～ 4 個の小穂は雌性で広楕円形、長い柄があり垂れ下がる。果胞は柄があり、狭披針形で長さ 12 ～ 15mm 程度、嘴は長い。果期は 6 ～ 8 月。都内では西多摩と南多摩との境界付近の多摩川岸崖地に生えていたが、近年の状況は不明。

■ **生存を脅かす要因**：もともと自生地が限られており、また自生地が浸食崖という不安定な環境である。

■ **特記事項**：現状が不明であることから、自生地およびその周辺の調査が必要である。

執筆者 仙仁径
文献一覧 2, 62, 87



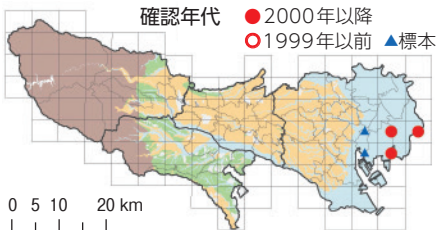
被子植物 カヤツリグサ科
コウボウシバ <i>Carex pumila</i>

■ **種の特性と生育状況**：北海道～南西諸島に分布する多年草で、海岸砂浜などに生える。長い匍匐枝を出しまばらに群生する。茎は高さ 10 ～ 30cm 程度。葉は幅 2 ～ 4mm。花穂は 2 ～ 6 個つき、上部の 2 ～ 3 個の小穂は雄性、下方の 2 ～ 4 個の小穂は雌性。果胞は卵状三角形、長さ 6 ～ 8mm 程度でコルク質。口部は 2 歯になる。果期は 5 ～ 6 月。都内では区部の砂浜や臨海部のコンクリートの隙間などに生える。

■ **生存を脅かす要因**：臨海部の環境変化が本種の生存を脅かす主な要因と考えられる。

■ **特記事項**：本種は砂浜だけでなく、護岸などの人工的な環境にも生えており、そういった場所の改修工事では生物多様性への配慮が求められる。

執筆者 仙仁径
文献一覧 62, 87, 99, 127



	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	•	•	EX	EX	EX	
2010	•	•	EX	EX		
1998				D		



多摩市 1983 年 5 月 17 日

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	EX	CR	—	DD	CR	
2010						
1998				D		



府中市 2016 年 5 月 25 日

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	VU	VU	NT	NT	VU	
2010	VU	VU	NT	NT		
1998		B		C		



多摩市 2018 年 3 月 27 日

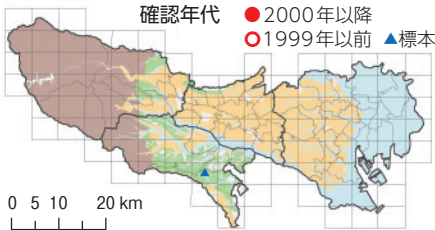
被子植物 カヤツリグサ科
オタルスゲ <i>Carex otaruensis</i>

■ **種の特性と生育状況**：北海道～九州に分布する多年草で、湿地に生える。叢生し、茎は高さ 30 ～ 60cm 程度。葉は幅 3 ～ 6mm。花穂は 4 ～ 6 個つき、頂小穂は雄性、側小穂は雌性で長い柄がある。果胞は卵状長楕円形、長さ 2.5 ～ 3mm 程度で表面は平滑。やや長い嘴になる。果期は 5 ～ 6 月。都内では南多摩や西多摩の丘陵の湿地に生えていたが絶滅したと考えられる。

■ **生存を脅かす要因**：もともと自生地は多くなく、自生地の改変などにより絶滅したと考えられる。

■ **特記事項**：東京都に隣接する神奈川県などで自生が確認されており、本種の好む谷戸奥の湿地などで再発見される可能性はある。

執筆者 仙仁径
文献一覧 28, 62, 87, 99



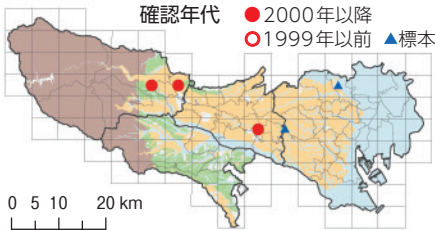
被子植物 カヤツリグサ科
ヒメゴウソウ <i>Carex phacota</i>

■ **種の特性と生育状況**：北海道～南西諸島に分布する多年草で、湿地や池畔に生える。叢生し、茎は高さ 20 ～ 60cm 程度。葉は幅 2 ～ 6mm。花穂は 3 ～ 5 個つき、頂小穂は雄性、側小穂は雌性。果胞は広楕円形、長さ 2mm 程度で表面は乳頭状突起に覆われる。嘴は短い。果期は 5 ～ 6 月。都内では本土部の湿地に点々と記録があるが絶滅した自生地が多く、北多摩の一部で確認されているほか、近年の実態は明らかでない。

■ **生存を脅かす要因**：もともと自生地は多くなく、自生地の開発や植生遷移などが本種の生存を脅かす要因と考えられる。

■ **特記事項**：本種が復活した自生地があることを考慮すると、埋土種子の存在が推定され、過去に自生が確認された地点で、環境の改善がなされることで復活する可能性はある。

執筆者 仙仁径
文献一覧 62, 87, 99, 278



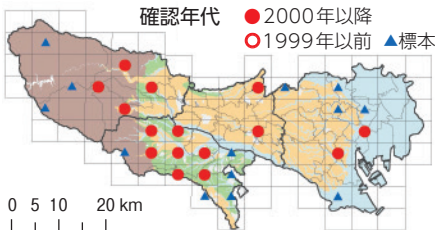
被子植物 カヤツリグサ科
ホンモンジスゲ <i>Carex pisiformis</i>

■ **種の特性と生育状況**：本州（関東地方南西部～静岡県東部）に分布する多年草で、丘陵の落葉広葉樹林内などに生える。まばらに叢生し、匍匐枝を出す。茎は高さ 20 ～ 40cm。葉は幅 2 ～ 3mm。花穂は 3 ～ 4 個が茎につく。頂小穂は雄性、側小穂は雌性、柄は短い。果胞は倒卵楕円形で長さ 3.5mm 程度、毛が生えており、先はやや急に短い嘴となる。果期は 4 ～ 5 月。都内では区部から多摩地区の丘陵や段丘崖の林内に見られる。

■ **生存を脅かす要因**：自生地の開発が本種の生存を脅かす主な要因と考えられる。

■ **特記事項**：

執筆者 仙仁径
文献一覧 62, 87, 99



	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	NT	－	NT	－	NT	
2010	DD	・	・	・		
1998						



八王子市 2018 年 8 月 14 日

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	NT	NT	VU	VU	VU	VU
2010	NT	NT	NT	NT		
1998		A		B		



台東区 1983 年 11 月 27 日

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	NT	NT	NT	DD	NT	
2010	NT	NT	NT	－		
1998						



八王子市 1995 年 9 月 5 日

イヌクグ

Cyperus cyperoides

被子植物
カヤツリグサ科

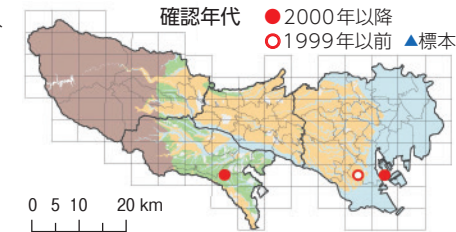
■ **種の特性と生育状況**：本州～南西諸島に分布する多年草で、海岸近くなどに生える。匍匐枝を伸ばす。茎は高さ 30 ～ 60cm。葉は幅 3 ～ 6mm。花序は複散房花序で、5 ～ 10 個の短い柄のある長さ 3 ～ 4cm の円柱形の小花序からなり、茎の先端に密生する。苞は 4 ～ 5 個あって葉状。果期は 8 ～ 10 月。都内では区部の沿海地から古い記録があるが、近年では旧江戸川河川敷で発見されている。また、もともと記録がなかった南多摩の路傍の草地で近年確認された。

■ **生存を脅かす要因**：区部の沿海地の開発が本種の生存を脅かす要因と考えられる。

■ **特記事項**：旧江戸川については不明であるが、南多摩の個体群は古くからの自生とは考えづらく、おそらく国内あるいは海外からの移入と考えられる。

執筆者 仙仁径

文献一覧 62, 99, 270, 284



カンエンガヤツリ

Cyperus exaltatus var. iwasakii

被子植物
カヤツリグサ科

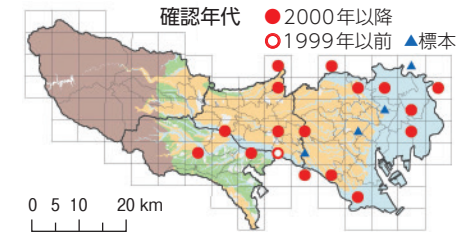
■ **種の特性と生育状況**：本州に分布する短命多年草で、河川敷の湿地や池畔などに生える。偶発的に生えることが多く、攪乱後に大群落が出現することもある。叢生し、茎は高さ 80 ～ 120cm。葉は幅 0.8 ～ 12mm。花序は幅が 10 ～ 30cm と大型の複散形花序で、5 ～ 10 個の柄のある長さ 1 ～ 1.5cm の小花序からなり、茎の先端に密生する。苞は花序より長く、4 ～ 5 個あって葉状、長さ 70cm を越える場合もある。果期は 9 ～ 10 月。都内では区部から多摩地域にかけての主に河川敷にある湿地や、河川敷にある池の縁などに生えている。

■ **生存を脅かす要因**：攪乱された環境を好むことから、土地の安定化による植生遷移などが本種の生存を脅かす要因と考えられる。

■ **特記事項**：朝鮮半島では広く栽培されており、茎を用いて数物などが作られている。

執筆者 仙仁径

文献一覧 62, 99, 236, 264



アオガヤツリ

Cyperus nipponicus

被子植物
カヤツリグサ科

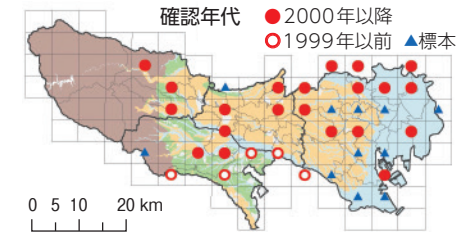
■ **種の特性と生育状況**：本州～九州に分布する一年草で、河川敷や池沼畔の湿地などに生える。叢生し、茎は高さ 5 ～ 25cm。葉は幅 1 ～ 2.5mm。花序は頭状で、3 ～ 7mm の小穂が密生し、ときに短い枝の先に小穂がつくこともある。苞は 3 ～ 4 個あって葉状で長い。果期は 8 ～ 10 月。都内では区部から多摩地域の河川敷や池沼畔の植生がまばらな湿地で点々と見られるが、一年草のため発生は安定しない。

■ **生存を脅かす要因**：本種に適した環境での開発や環境改変、さらに植生遷移による適地減少が本種の生存を脅かす主な要因と考えられる。

特記事項：

執筆者 仙仁径

文献一覧 62, 99, 161, 243, 284



	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	CR	EN	EN	EN	EN	
2010	DD	VU	VU	VU		
1998		A		A		



武蔵村山市・瑞穂町 2005 年 4 月 29 日

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	VU	・	・	・	VU	
2010	VU	・	・	・		
1998		C				



江戸川区 2021 年 6 月 12 日

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	EX	EX	－	－	EX	
2010	EX	EX	・	・		
1998						



北海道 1991 年 5 月 25 日

クサスゲ

Carex rugata

被子植物
カヤツリグサ科

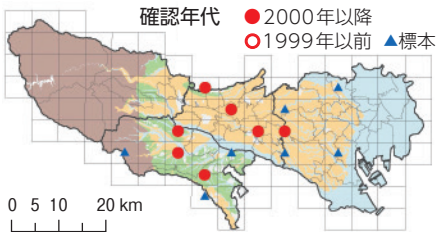
■ **種の特性と生育状況**：北海道（稀）～九州に分布する多年草で、湿った草地や明るい落葉広葉樹林内などに生える。短い根茎があり、まばらに叢生する。茎は高さ 25 ～ 30cm。葉は幅 2 ～ 3mm。花穂は 3 ～ 4 個が茎につく。頂小穂は雄性、側小穂は雌性で、いずれも短い。果胞は卵形で長さ 2.5 ～ 3mm 程度、果胞中央部はくびれ、口部は 2 歯。果期は 5 ～ 6 月。都内では区部西部から多摩地域の丘陵を中心とした斜面地の林内や林縁に見られる。

■ **生存を脅かす要因**：もともと自生地が局地的であることに加え、里山環境に自生地が多いことから、開発や管理放棄による植生遷移が本種の生存を脅かす要因と考えられる。

特記事項：

執筆者 仙仁径

文献一覧 62, 87, 99, 178, 283



シオクグ

Carex scabrifolia

被子植物
カヤツリグサ科

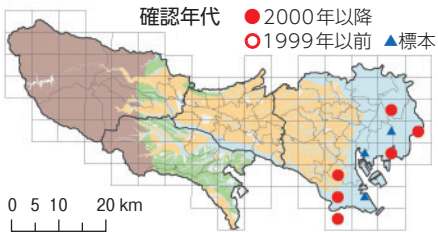
■ **種の特性と生育状況**：北海道～南西諸島に分布する多年草で、海岸や河口の塩性湿地などに生える。長い匍匐枝を出しまばらに群生する。茎は高さ 30 ～ 60cm 程度。葉は幅 1.5 ～ 3mm。花穂は 2 ～ 6 個つき、上部の 2 ～ 4 個の小穂は雄性、下方の 1 ～ 2 個の小穂は雌性。雌小穂が離れてつく点がコウボウシバとの区別点である。果胞は卵状三角形、長さ 6 ～ 8mm 程度でコルク質。口部は 2 歯になる。果期は 5 ～ 6 月。都内では区部の臨海部の海岸や、河川汽水域の湿地などに生える。

■ **生存を脅かす要因**：臨海部や河口の環境改変が本種の生存を脅かす主な要因と考えられる。

特記事項：

執筆者 仙仁径

文献一覧 62, 67, 87, 99, 127



オニナルコスゲ

Carex vesicaria

被子植物
カヤツリグサ科

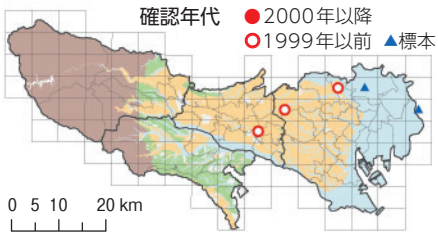
■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州、九州に分布する多年草で、河畔の湿地などに生える。匍匐枝を伸ばし群生する。茎は高さ 30 ～ 100cm。葉は幅 3 ～ 6mm。花穂は 4 ～ 6 個つき、上部の 2 ～ 3 個の小穂は雄性、下方の 2 ～ 4 個の小穂は雌性。果胞は卵形、長さ 6 ～ 8mm 程度。徐々に長い嘴になり、口部は 2 歯。果期は 5 ～ 8 月。都内では区部から北多摩の河川敷などの湿地での採集記録があるが現存せず、絶滅したと考えられる。

■ **生存を脅かす要因**：河川敷や池畔の湿地にあった自生地が開発などにより改変されたことが絶滅の原因と考えられる。

特記事項：

執筆者 仙仁径

文献一覧 62, 87, 270



区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	EN	EX	DD	EN	
2010	DD	NT	NT	—	
1998		C			



埼玉県 2022 年 4 月 24 日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	—	VU	VU	—	VU
2010					
1998					



八王子市 2021 年 6 月 9 日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	EX	•	•	•	EX
2010	EX	•	•	•	
1998					



被子植物
カヤツリグサ科

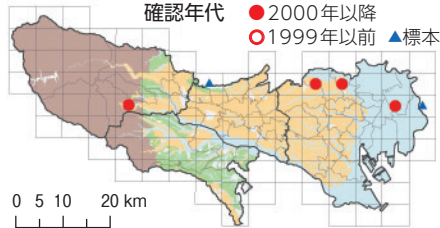
セイタカハリイ
Eleocharis attenuata

■ **種の特性と生育状況**：本州～南西諸島に分布する多年草で、湿地などに生える。叢生し、茎は高さ 25 ～ 55cm。茎の先端に 1 つだけつく小穂は卵形から広卵形で、長さ 7 ～ 12mm 程度。よく似たハリイやエゾハリイと比べると、花柱の基部が幅広いことや、6 本ある刺針状花被片の長さが瘦果と同長か少し長い程度と他の 2 種より短い。果期は 7 ～ 10 月。都内では区部と多摩地域の湿地や水田に極めて稀に生える。北多摩では絶滅したと思われる、南多摩も現状は不明である。

■ **生存を脅かす要因**：元々希少であったことに加え、自生地 of 湿地や水田の開発や環境変化が本種の生存を脅かす主な要因と考えられる。

■ **特記事項**：

執筆者 仙仁径
文献一覧 62, 99, 270, 284, 295



被子植物
カヤツリグサ科

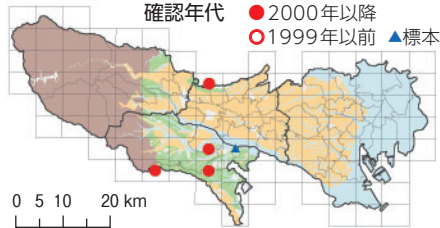
オオハリイ
Eleocharis congesta

■ **種の特性と生育状況**：本州～南西諸島に分布する多年草、あるいは一年草で、池沼畔や丘陵の湿地などに生える。叢生し、茎は高さ 20 ～ 30cm。茎の先端につく小穂は狭卵形で、長さ 6 ～ 8mm 程度、ときに小穂基部に腋芽ができる。よく似たハリイは瘦果が 0.7 ～ 0.8mm なのに対して 1mm 程度と大きいことで区別できる。6 本ある刺針状花被片の長さは瘦果の約 2 倍。果期は 7 ～ 11 月。都内では西多摩を除く多摩地域の丘陵の池畔や湿地で点々と記録があるが稀。

■ **生存を脅かす要因**：元々希少であることや、自生地 of 開発、植生遷移が本種の生存を脅かす主な要因と考えられる。

■ **特記事項**：学名については狭義の *Eleocharis pellucida* f. *Elata* とする説もある

執筆者 仙仁径
協力者 内野秀重
文献一覧 99, 243, 284



被子植物
カヤツリグサ科

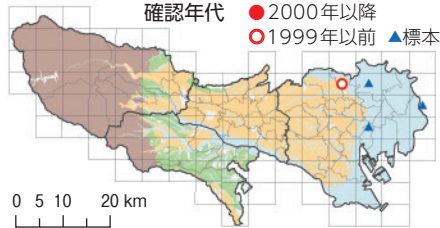
クロハリイ
Eleocharis kamtschatica f. *reducta*

■ **種の特性と生育状況**：北海道～九州に分布する多年草で、海岸近くの湿地などに生える。長い匍匐枝を出し、ところどころで叢生する。茎は高さ 15 ～ 50cm。茎の先端に 1 つだけつく小穂は卵形から披針形で、長さ 7 ～ 20mm 程度。母種であるヒメハリイは 6 本の刺針状花被片があるのに対して、本種はないか、痕跡状に退化していることにより区別される。果期は 7 ～ 10 月。都内では区部の荒川河川敷にあった湿地での古い記録があるが近年の記録はなく、絶滅したと考えられる。

■ **生存を脅かす要因**：元々希少であったことに加え、自生地 of 湿地が改変されたことが絶滅した原因と考えられる。

■ **特記事項**：

執筆者 仙仁径
文献一覧 62, 99, 270



区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	EN	DD	EN	—	EN
2010	VU	—	—	—	
1998					



茨城県 2002 年 10 月 17 日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	NT	VU	VU	VU	VU
2010					
1998					



八王子市 2012 年 9 月 19 日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	—	—	EX	—	EX
2010	—	—	EX	—	
1998			UK		



群馬県 2022 年 11 月 3 日

被子植物
カヤツリグサ科

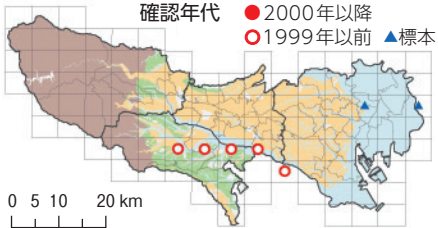
シロガヤツリ
Cyperus pacificus

■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州に分布する一年草で、河川敷や池沼畔の湿地などに生える。叢生し、茎は高さ 5 ～ 20cm。葉は幅 1 ～ 2mm。花序は多数の小穂が密に頭状につき、長さ、幅とも 5 ～ 10mm 程度。ときに花序枝を出すアオガヤツリと異なり、本種は花序枝が出ることはない。苞は 3 ～ 6 個あって葉状。果期は 8 ～ 10 月。都内では区部から西多摩を除く多摩地域の河口付近や河川敷の湿地で点々と記録があるが、散発的な発生で極めて稀。

■ **生存を脅かす要因**：元々希少であったことと、本種に適した環境での開発や環境変化が本種の生存を脅かす主な要因と考えられる。

■ **特記事項**：

執筆者 仙仁径
文献一覧 62, 99, 161, 284, 294



被子植物
カヤツリグサ科

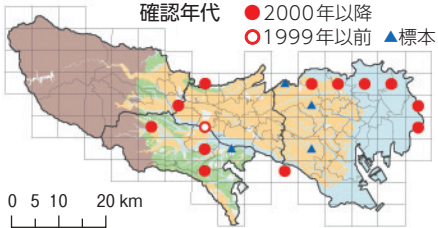
ミズガヤツリ
Cyperus serotinus

■ **種の特性と生育状況**：北海道～南西諸島に分布する多年草で、河川敷湿地や休耕水田、池畔などに生える。叢生し、茎は高さ 50 ～ 100cm。葉は幅 5 ～ 8mm。花序は複生、花序枝は 3 ～ 7 本ほど出る。小花序は長さ 2 ～ 4cm。苞は花序より長く、3 ～ 4 個あって葉状。果期は 8 ～ 10 月。都内では区部から多摩地域にかけての主に河川敷や池沼畔などの湿地に生えている。

■ **生存を脅かす要因**：本種の生育に適した環境での開発や環境変化が、本種の生存を脅かす主な要因と考えられる。

■ **特記事項**：

執筆者 仙仁径
文献一覧 62, 99, 243, 284



被子植物
カヤツリグサ科

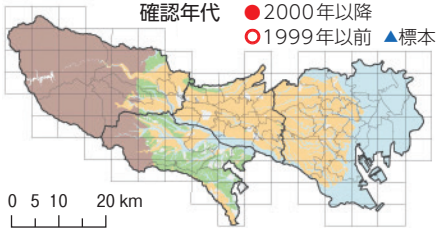
ヒメガヤツリ(ミズハナビ)
Cyperus tenuispica

■ **種の特性と生育状況**：本州（東北地方南部以西）～南西諸島に分布する多年草で、湿地や水田の畔などに生える。叢生し、茎は高さ 10 ～ 25cm。葉は幅 2 ～ 6mm。花序は散房花序で、花序枝が多数出ることから、別名のミズハナビの名がついた。花序枝の先には 3 ～ 5 個の小穂が掌状につく。苞は葉状で花序と同長程度、1 ～ 2 個つく。果期は 8 ～ 11 月。都内では各地から記録があるがいずれも絶滅している。

■ **生存を脅かす要因**：丘陵部での開発や環境変化が本種の生存を脅かす主な要因と考えられる。

■ **特記事項**：別名ミズハナビが共通するヒナガヤツリと形態も似ており誤認しやすいので同定には注意したい。

執筆者 仙仁径
文献一覧 62, 99, 270



区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	EX	VU	VU	VU	
2010	EX	EX	NT	NT	
1998		C			



八王子市 1987 年 8 月 6 日

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	EX	EX	EX	EX	
2010	EX	EX	EX	EX	
1998			D		



長野県 1987 年 7 月 4 日

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	VU	－	VU	－	VU
2010					
1998		B			



八王子市 2021 年 6 月 17 日

シカクイ

被子植物
カヤツリグサ科

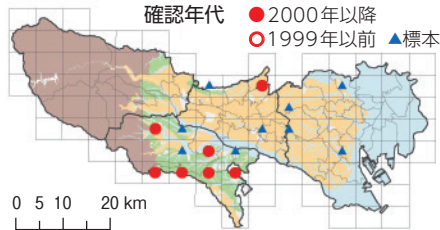
Eleocharis wichurae

■ **種の特性と生育状況**：北海道～南西諸島に分布する多年草で、山地から平地の湿地などに生える。叢生し、茎は高さ 20 ～ 55cm で、名前の通り断面は四角形。茎の先端に 1 つだけつく小穂は広披針形で、長さ 8 ～ 25mm 程度、幅は 4.5 ～ 6mm。披針状花被片にはリボン状の突起があり羽毛状になる。果期は 7 ～ 10 月。都内では南多摩の丘陵の湿地などを中心に各地で記録があるが、区部では絶滅したと考えられる。

■ **生存を脅かす要因**：自生地の湿地の管理放棄による植生遷移や、水田での除草剤使用などが本種の生存を脅かす要因と考えられる。

■ **特記事項**：

執筆者	仙仁径
文献一覧	2, 62, 99, 243, 284



サギスゲ

被子植物
カヤツリグサ科

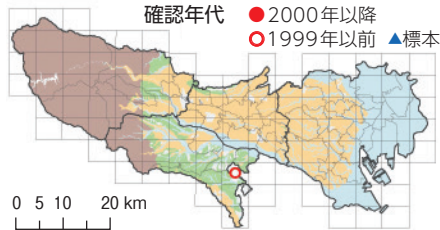
Eriophorum gracile

■ **種の特性と生育状況**：北海道～本州（近畿地方以東）に分布する多年草で、湿地に生える。匍匐枝を伸ばして広がる。茎は高さ 20 ～ 60cm。茎の先端に 2 ～ 5 個の柄のある小穂をつける。開花時の小穂は長楕円形で長さ 5 ～ 10mm 程度。花被片は多数あり、花後に長さ 2cm 程に伸び、白く綿毛のようになる。果期は 6 ～ 8 月。都内での過去の分布は不明であるが、確実な自生地である南多摩の丘陵の湿地では絶滅した。

■ **生存を脅かす要因**：南多摩の丘陵の湿地においては開発により生育環境が破壊されて絶滅した。

■ **特記事項**：

執筆者	仙仁径
文献一覧	62, 99, 184



コアゼテンツキ

被子植物
カヤツリグサ科

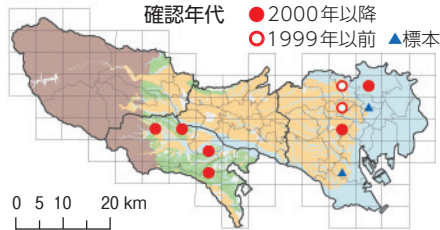
Fimbristylis aestivalis

■ **種の特性と生育状況**：本州に分布する一年草で、湿地や水田の畔などに生える。叢生し、茎は高さ 5 ～ 15cm。花序は複散形で、小穂は長さ 3 ～ 7mm 程度。メアゼテンツキとよく似ているが、花柱の基部に下向きに生える長毛があるメアゼテンツキとは異なり、本種には花柱の基部は無毛である。果期は 8 ～ 10 月。都内本土部では区部や南多摩において散見されるが、多くの個体が生育している自生地もある。

■ **生存を脅かす要因**：湿地や水田の畔の改修、除草剤の使用などが本種の生存を脅かす要因と考えられる。

■ **特記事項**：

執筆者	仙仁径
文献一覧	62, 99, 203, 270



区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	CR	－	EN	DD	EN
2010					
1998					



八王子市 2021 年 8 月 27 日

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	EX	EX	・	EX	EX
2010	EX	・	・	・	
1998		UK			



栃木県 2006 年 5 月 13 日

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	EX	CR	CR	CR	VU
2010	EX	DD	VU	－	
1998		C	C		



神奈川県 2018 年 6 月 13 日

クログワイ

被子植物
カヤツリグサ科

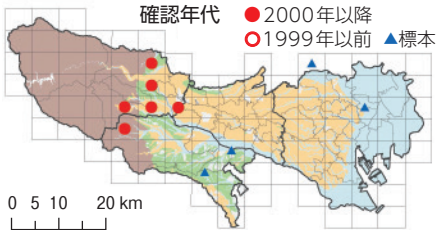
Eleocharis kuroguwai

■ **種の特性と生育状況**：本州～九州に分布する多年草で、湖沼、ため池、湿地などに生える。長い匍匐枝を出し、ところどころで叢生する。茎は高さ 40 ～ 90cm、幅は 3 ～ 4mm。茎は中空で横隔壁があり、乾燥すると節があるように見える。茎の先端に 1 つだけつく小穂は円柱形で、長さ 20 ～ 40mm 程度。同属の他種とは、茎と小穂の幅がほぼ同じであることで区別できる。果期は 7 ～ 10 月。都内では北多摩以外の水田や湿地で記録があるが稀である

■ **生存を脅かす要因**：元々自生地が少ないに加え、自生地の湿地の改変や、水田での除草剤使用などが本種の生存を脅かす要因と考えられる。

■ **特記事項**：

執筆者	仙仁径
文献一覧	62, 99, 243, 284



オオヌマハリイ(ヌマハリイ)

被子植物
カヤツリグサ科

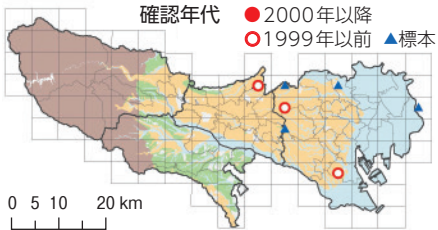
Eleocharis mamillata var. cyclocarpa

■ **種の特性と生育状況**：北海道～九州に分布する多年草で、山地の湖沼や湿地などに生える。長い匍匐枝を出し、ところどころで叢生する。茎は高さ 30 ～ 70cm、幅は 2 ～ 5mm。茎の先端に 1 つだけつく小穂は披針形または卵形で、長さ 10 ～ 30mm 程度、幅は 3 ～ 6mm。クログワイとは小穂が茎よりも太くなること、茎に横隔壁がないことなどで区別できる。果期は 7 ～ 10 月。都内では南多摩以外の水辺で記録があるが、絶滅したと考えられる。

■ **生存を脅かす要因**：元々自生地が少ないに加え、自生地の湿地の改変が本種の生存を脅かす要因と考えられる。

■ **特記事項**：

執筆者	仙仁径
文献一覧	62, 99, 270



コツブヌマハリイ

被子植物
カヤツリグサ科

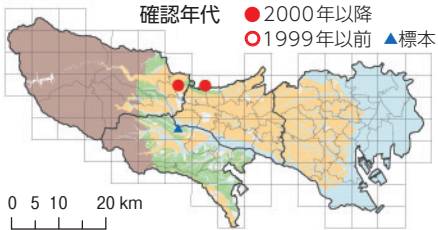
Eleocharis parvinux

■ **種の特性と生育状況**：本州（東北地方、関東地方）に分布する多年草で、大きな河川の氾濫原や池沼などに生える。長い匍匐枝を出し、のちに叢生する。茎は高さ 30 ～ 60cm、幅は 1 ～ 2mm。茎の先端に 1 つだけつく小穂は披針形で、長さ 10mm 程度。オオヌマハリイと似ているが、オオヌマハリイの果実が長さ 1.5 ～ 2mm なのに対し、本種は 1 ～ 1.2mm と小さいことで区別できる。果期は 6 ～ 8 月。都内では区部から多摩地域の河川敷や丘陵の湿地で記録があるが極めて稀。

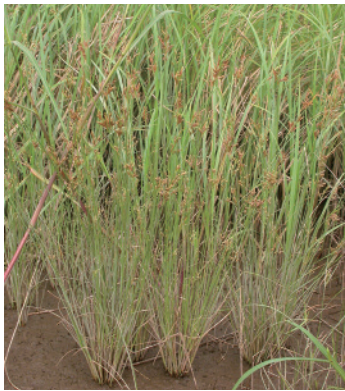
■ **生存を脅かす要因**：元々稀少であることや、自生地の開発、氾濫原の減少が本種の生存を脅かす主な要因と考えられる。

■ **特記事項**：

執筆者	仙仁径
文献一覧	2, 62, 99



区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	CR	●	●	●	CR
2010	DD	●	●	●	
1998					



千葉県 2008 年 9 月 15 日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	NT	●	●	●	NT
2010	NT	●	●	●	
1998					



江戸川区 2021 年 6 月 12 日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	VU	EN	－	DD	VU
2010	NT	NT	NT	NT	
1998		C	B		



千葉県 1993 年 10 月 20 日

ナガボテンツキ

Fimbristylis longispica

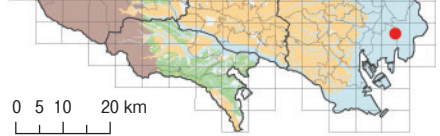
被子植物
カヤツリグサ科

■ **種の特性と生育状況**：本州～九州に分布する多年草で、海岸湿地に生える。叢生し、茎は高さ 40 ～ 60cm。花序は散形、小穂は狭長楕円形で長さ 10 ～ 20mm。テンツキに似ているが、毛のあるテンツキに対して無毛であること、小穂がより長いことなどから区別がつく。果期は 8 ～ 10 月。都内では区部東部の河口に近い汽水域の岸辺で見つかったりしているだけである。

■ **生存を脅かす要因**：開発や改修工事による海岸湿地の消滅が本種の生存を脅かす要因と考えられる。

■ **特記事項**：本種が東京湾在来の植物であり、危機的な状態にあることを河川・港湾管理関係者間で認識し、実態調査と保全対策が図られる必要がある。

執筆者	仙仁径
文献一覧	62, 67, 99, 294



イソヤマテンツキ

Fimbristylis sieboldii

被子植物
カヤツリグサ科

■ **種の特性と生育状況**：本州（関東地方、北陸地方以西）～南西諸島に分布する多年草で、海岸付近の草地などに生える。やや叢生し、茎は高さ 15 ～ 40cm。花序は散形で 1 ～ 5 個の小穂がつく。小穂は狭卵形または狭長楕円形で長さ 7 ～ 13mm。苞は葉状で花序と同長または長い。果期は 8 ～ 10 月。都内では区部の沿岸部に点々と生えている。

■ **生存を脅かす要因**：本来の自生地は開発や改変により失われたと考えられる。現在は海岸の護岸の隙間などに生えていることが多く、護岸改修が本種の生存を脅かす要因になる可能性がある。

■ **特記事項**：本種もナガボテンツキ同様、東京湾在来の植物であり、河川・港湾管理関係者間で認識され、保全対策が図られることが望ましい。

執筆者	仙仁径
協力者	内野秀重
文献一覧	62, 67, 99, 284, 294



アゼテンツキ

Fimbristylis squarrosa

被子植物
カヤツリグサ科

■ **種の特性と生育状況**：北海道？、本州、四国に分布する一年草で、名前の通り水田の畔や湿地などに生える。叢生し、茎は高さ 10 ～ 20cm。花序は 1 ～ 3 回分枝し、小穂は広披針形で長さ 4 ～ 10mm。植物体に毛が生えていること、鱗片に外向きに曲がる長い芒があることなどが本種の特徴である。果期は 8 ～ 10 月。都内では南多摩以外での記録があるが、地点は少なく、現存しているかどうか不明な自生地も多い。

■ **生存を脅かす要因**：開発や植生遷移が本種の生存を脅かす要因と考えられる。

■ **特記事項**：

執筆者	仙仁径
文献一覧	62, 99, 294



区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	DD	DD	EX	CR	CR
2010	DD	DD	－	－	
1998			UK		



熊本県 1992 年 7 月 28 日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	CR	EN	VU	NT	EN
2010	CR	EN	VU	NT	
1998		B	B		



八王子市 2007 年 9 月 27 日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	EX	EX	DD	●	EX
2010	EX	DD	●	●	
1998					



ノテンツキ

Fimbristylis complanata f. exaltata

被子植物
カヤツリグサ科

■ **種の特性と生育状況**：本州～南西諸島に分布する多年草で、日当たりの良い湿った草地などに生える。根茎は短く、あまり叢生しない。茎は高さ 20 ～ 80cm。花序は 2 ～ 3 回分枝し、小穂は多数つき、長さ 5 ～ 8mm 程度。よく似たヒメヒラテンツキ是一年草である点や、小穂がより小さいことなどが本種との相違点である。果期は 7 ～ 10 月。都内では西多摩での報告があるが現状は不明。また区部と北多摩では古い記録はあるものの近年の確実な情報がなく、南多摩では絶滅したと考えられる。

■ **生存を脅かす要因**：過去の記録がある河川敷や低地では開発や環境改変により本種が消滅したと考えられる。

■ **特記事項**：

執筆者	仙仁径
文献一覧	4, 28, 62, 99, 270, 284



クロテンツキ

Fimbristylis diphylloides

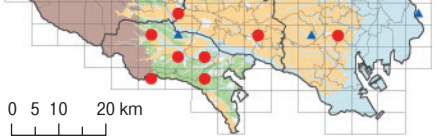
被子植物
カヤツリグサ科

■ **種の特性と生育状況**：本州～南西諸島に分布する一年草で、湿地や水田の畔など日当たりの良い湿った草地に生える。やや叢生し、茎は高さ 10 ～ 50cm。花序は散形または複散形、小穂は卵形で長さ 4mm 程度、色は暗褐色。よく似たテンツキと比べ、本種の方が全体的に小さい。果期は 8 ～ 10 月。都内では区部から多摩地域の水田の畔や河川敷の草地などに点々と生えるが、区部や北多摩では稀である。

■ **生存を脅かす要因**：開発による自生地の消滅や、谷戸田の管理放棄による植生遷移などが本種の生存を脅かす要因と考えられる。

■ **特記事項**：

執筆者	仙仁径
文献一覧	62, 99, 243, 284



アオテンツキ

Fimbristylis dipsacea

被子植物
カヤツリグサ科

■ **種の特性と生育状況**：本州～九州に分布する一年草で、平地の湿地やため池の岸辺に生える。やや叢生し、茎は高さ 5 ～ 15cm。花序は散形で 10 数個の小穂がつく。小穂は卵円形で長さ 3 ～ 6mm、淡緑色。テンツキ属の中では特に小型で、株がロゼット状であること、さらに瘦果にこん棒状の突起があることから区別がつく。果期は 8 ～ 11 月。都内では区部から西多摩を除く多摩地域で記録があるが、現存する自生地は知られておらず、絶滅した可能性がある。

■ **生存を脅かす要因**：開発やため池の護岸による自生地の消滅などが本種の生存を脅かす要因と考えられる。

■ **特記事項**：神奈川県三浦市のため池ではかい掘り後に本種が出現しており、過去の自生地では現在も埋土種子が眠っている可能性が考えられる。

執筆者	仙仁径
文献一覧	62, 99, 270, 284, 322



区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	－	CR	－	DD	CR
2010	－	DD	－	DD	
1998					



区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	CR	－	－	－	CR
2010	VU	VU	－	－	
1998					



葛飾区 2003 年 9 月 9 日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	VU	VU	VU	DD	VU
2010					
1998					



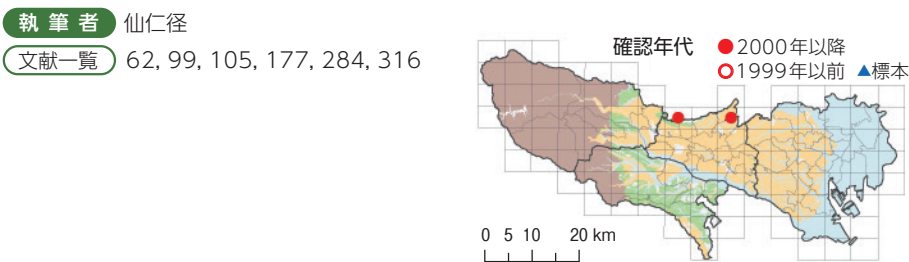
町田市 2020 年 9 月 24 日

被子植物
カヤツリグサ科

ヒメホタルイ

Schoenoplectiella lineolata

- **種の特性と生育状況**：北海道～南西諸島に分布する多年草で、池沼畔の浅水中などに生える。地下茎が横に長く伸びて所々から茎を単生する。茎は高さ 6 ～ 30cm。花序は小穂 1 個だけで側生し、花序より先に茎状の苞がある。小穂は狭披針形で長さ 8 ～ 11mm。近縁なホタルイは柱頭が 3 岐するが、本種は 2 岐であることで区別できる。果期は 7 ～ 10 月。都内では北多摩および西多摩の透明度の高い池で採集されているが、現状は不明である。
- **生存を脅かす要因**：池の開発や改修、水質悪化が本種の生存を脅かす要因と考えられる。
- **特記事項**：

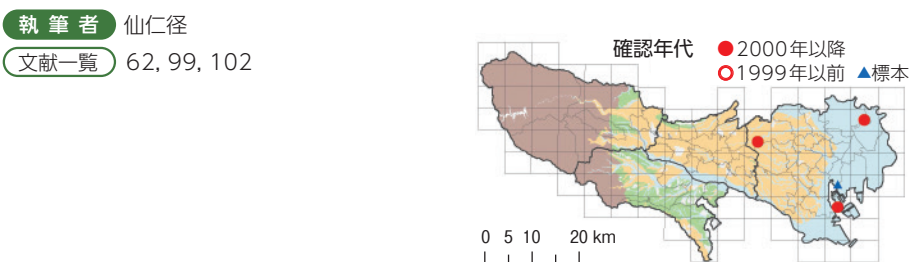


被子植物
カヤツリグサ科

タタラカンガレイ

Schoenoplectiella mucronata var. *latarana*

- **種の特性と生育状況**：本州～九州に分布する多年草で、池沼や水田などにやや稀に生える。叢生し、茎は高さ 30 ～ 50cm。花序は仮側生して頭状で、花序より先に茎状の苞がある。小穂は 5 ～ 10 個つく。カンガレイとよく似ているが、断面が 3 角形の茎の角に逆 3 角形の翼がつくのが特徴である。果期は 8 ～ 10 月。都内では区部の限られた池沼でのみ確認されている。
- **生存を脅かす要因**：元々希少であることに加え、自生地の改変や消失が本種の生存を脅かす要因と考えられる。
- **特記事項**：

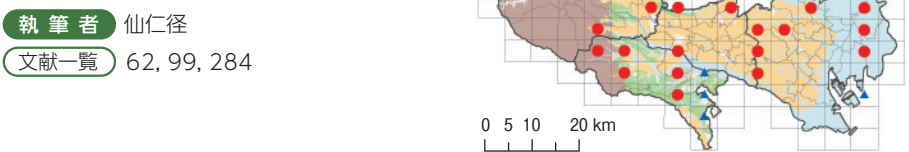


被子植物
カヤツリグサ科

カンガレイ

Schoenoplectiella triangulata

- **種の特性と生育状況**：北海道～南西諸島に分布する多年草で、池沼や川岸の湿地などに生える。叢生し、茎は高さ 35 ～ 130cm。花序は偏側生して頭状で、花序より先に茎状の苞がある。小穂は 2 ～ 25 個つく。よく似たタタラカンガレイとは茎の角は鋭角で翼がない点が異なる。またサンカクイともよく似るが、柱頭が 2 裂するサンカクイに対し本種は 3 裂する。花期は 7 ～ 10 月。都内では区部から多摩地域の池沼や丘陵の湿地などに生えている。なお、一部の自生地は植栽されたものであるため注意を要する。
- **生存を脅かす要因**：自生地の改変や消失、環境変化が本種の生存を脅かす要因と考えられる。
- **特記事項**：一部の自生地ではかいぼりなどのかく乱後に大量の個体が発生したことがあり、現在は消滅した自生地でも埋土種子による復活はあり得るかも知れない。



区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	VU	EN	EN	EN	
2010	NT	NT	NT	NT	
1998					



千葉県 1995 年 11 月 21 日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	・	EX	EX	・	EX
2010	・	CR	CR	・	
1998			A		



愛知県 1986 年 8 月 26 日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	EX	－	－	EX	VU
2010	EX	・	・	・	
1998					



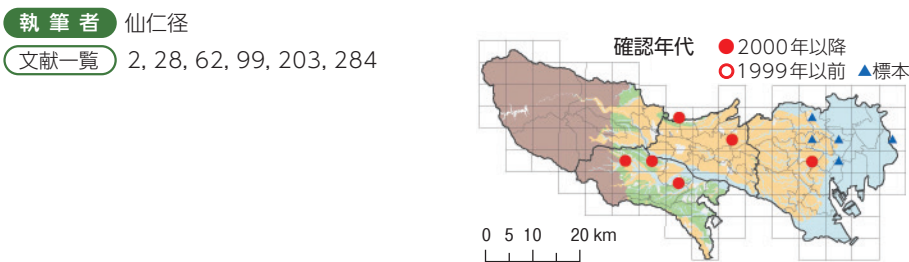
神奈川県 2004 年 7 月 1 日

被子植物
カヤツリグサ科

メアゼテンツキ

Fimbristylis velata

- **種の特性と生育状況**：本州～九州に分布する一年草で、平地の水田の畔や、池沼縁の裸地などに生える。叢生し、茎は高さ 10 ～ 20cm。花序は散形で 1 ～ 3 回分枝し、小穂は披針形で長さ 4 ～ 6mm。アゼテンツキとよく似ているが、本種の方が鱗片の芒が短く外向きに曲がない。果期は 8 ～ 10 月。都内では区部から多摩地域にかけての水田の畔などに点々と生えているが極めて稀。
- **生存を脅かす要因**：開発による水田の減少が本種の生存を脅かす要因と考えられる。
- **特記事項**：よく似た種があり、同定違いによって見逃されている可能性が考えられる。

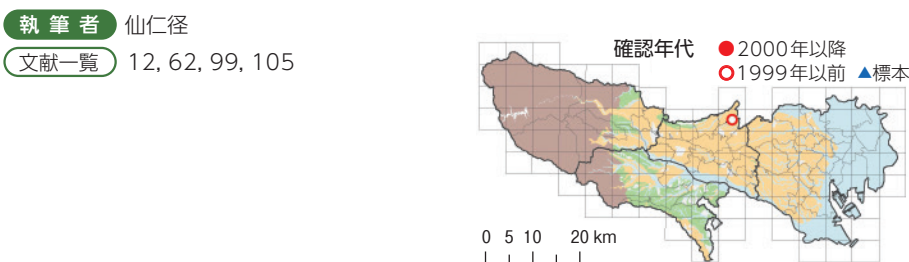


被子植物
カヤツリグサ科

コイヌノハナヒゲ

Rhynchospora fujiiiana

- **種の特性と生育状況**：北海道～九州に分布する多年草で、平地や丘陵の湿地などに生える。まばらに叢生し、茎は高さ 30 ～ 100cm。花序は 3 ～ 6 の分花序に分かれ、分花序は散房状。小穂は密につき披針形で長さ 5 ～ 6mm。茎などが細いことから「犬の鼻ひげ」の和名がつけられた。果期は 8 ～ 10 月。都内では北多摩と南多摩の湧き水に涵養された崖や池沼周囲の貧栄養な湿地にごく稀に生えていたが、絶滅したと考えられる。
- **生存を脅かす要因**：自生地の開発や環境変化によって絶滅したと考えられる。
- **特記事項**：よく似た和名のコイヌノヒゲはホシクサ科植物である。

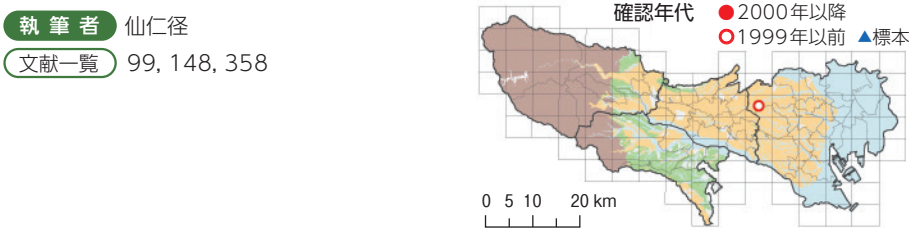


被子植物
カヤツリグサ科

ハタベカンガレイ

Schoenoplectiella gemmifera

- **種の特性と生育状況**：本州（関東地方以西）～九州に局所的に分布する多年草で、湧水地やそこから流出する水路などに生える。叢生し、茎は高さ 50 ～ 120cm で、全体または一部が水没している。花序は仮側生して頭状で、花序より先に茎状の苞がある。小穂は 5 ～ 20 個つき、卵形で長さ約 10mm。柱頭が 3 岐するカンガレイなどの近縁種に対し、本種は 2 ないし 3 岐であることが異なる。果期は 8 ～ 10 月。都内では区部の湧水地周辺での採集記録があるが、絶滅したと考えられる。
- **生存を脅かす要因**：自生地の環境変化によって絶滅したと考えられる。
- **特記事項**：非常に分類が難しい分類群のため、専門家による詳細な調査が必要である。



区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	●	DD	EX	DD	EX
2010	●	DD	EX	DD	
1998		A		A	



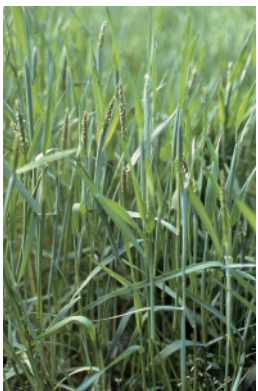
神奈川県 2011 年 8 月 29 日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	DD	EX	－	●	EX
2010	CR	CR	－	－	NT
1998					



茨城県 1988 年 5 月 10 日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	DD	NT	VU	NT	NT
2010	NT	NT	NT	NT	
1998		B			



八王子市 1985 年 4 月 20 日

被子植物

カヤツリグサ科

コシンジュガヤ

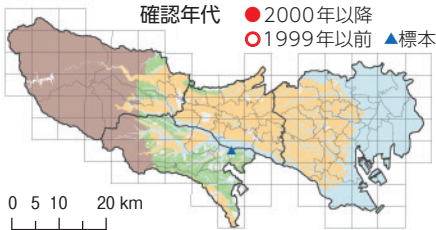
Scleria parvula

■ **種の特性と生育状況**：本州～九州に分布する一年草で、湿地に生える。叢生し、茎は高さ 25 ～ 90cm。花序は円錐形で 2 ～ 4 節あり、分花序は 3 ～ 8 個で、まばらに小穂をつける。苞は葉状で、小穂は雄花と雌花に分かれている。瘦果は球形で幅は 2mm 程度、白色で表面に細かい格子紋がある。本種の和名は瘦果を真珠に例えたものである。果期は 7 ～ 10 月。都内では多摩地域の丘陵の湿地や、池沼畔などでの記録はあるが、南多摩では絶滅し、北多摩・西多摩では現状不明である。

■ **生存を脅かす要因**：開発による湿地消滅や、池沼の改変などが本種の生存を脅かす要因と考えられる。

■ **特記事項**：

執筆者	仙仁径
文献一覧	62, 99, 195, 284



被子植物

イネ科

ヒメコヌカグサ

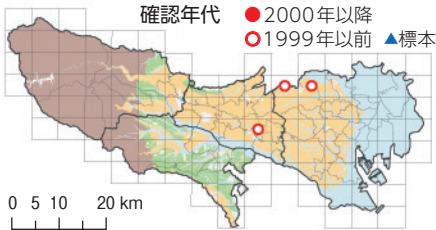
Agrostis valvata

■ **種の特性と生育状況**：関東地方以西の半日陰の湿地などに生育する多年生草本。近縁のコヌカグサやヤマヌカバと比べて全体に軟弱である。根茎が短く、茎は単生状となり、高さ 40 ～ 70cm で平滑。長さ 7 ～ 15cm の扁平な葉を数枚付ける。円錐状の花序は枝がざらつき、小穂をまばらに付ける。小花が苞穎よりやや大きい点で他種と区別できる。花期は 6 月。都内では、区部の低湿地および北多摩の谷戸において古い記録があるのみで、もともと稀である。特に区部の分布状況については情報が不足しており、現状把握が望まれる。

■ **生存を脅かす要因**：開発による池沼の埋立てや貧栄養な湿地の消失、植生の変化などが生存を脅かす主な要因であると考えられる。

■ **特記事項**：本種の記録がある場所での再確認が期待される。再発見された際には、自生地の保全と湿地の適切な管理を行うことが望ましい。

執筆者	小林健人
文献一覧	25, 270



被子植物

イネ科

セトガヤ

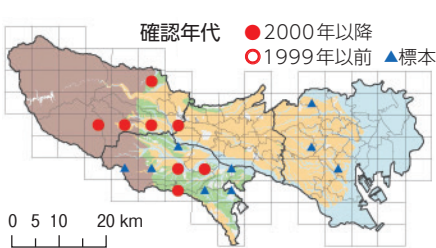
Alopecurus japonicus

■ **種の特性と生育状況**：関東地方以西の水田、休耕田、湿地などに生育する一年生草本。近縁のスズメノテッポウと似ており、田起こし前の水田等にしばしば混生する。高さ 20 ～ 60cm で、茎の頂端に円柱状の花序が一つ付く。花期は 4 ～ 5 月。スズメノテッポウとは、小穂は長さ 5 ～ 6mm と大きく、芒が長く突き出ること、薊が白いことなどにより区別できる。都内では、平地から丘陵地にかけて広く分布するが、減少傾向にある。特に南多摩においては、谷戸田の減少や耕作放棄地の増加による影響が顕著である。区部での分布状況については情報が不足しており、現状把握が望まれる。

■ **生存を脅かす要因**：水田の減少や消失、耕作放棄、早稲の導入、除草剤の多用などが生存を脅かす主な要因であると考えられる。

■ **特記事項**：除草剤の使用を控えることや、水田を中心とする里地環境の一体的な保全を行うことが望ましい。また、本種は競合種の少ない田起こし前の水田に群落を形成し、短期間のうちに開花・結実する生態を持つことから、早稲の導入や冬期湛水農法の影響を受けやすい点にも留意すべきである。

執筆者	小林健人
文献一覧	17, 30, 270



区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	EX	EX	EX	EX	
2010	EX	EX	EX	EX	
1998			D		



岩手県 1999 年 7 月 30 日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	EN	EN	EN	EN	EN
2010	VU	VU	VU	NT	
1998					



八王子市 2018 年 8 月 19 日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	EN	EN	EN	EN	EN
2010	VU	VU	VU	－	
1998		B			



葛飾区 2000 年 9 月 26 日

被子植物

カヤツリグサ科

シズイ

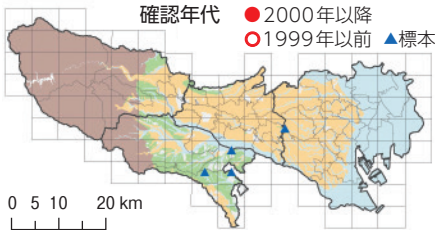
Schoenoplectus nipponicus

■ **種の特性と生育状況**：北海道～九州に分布する多年草で、池沼や水田などに生える。地下茎を長く伸ばしてまばらに群生し、茎は高さ 20 ～ 70cm で断面は三角形。花序はまばらな複散房状で、小穂は狭卵状楕円形で長さ 10 ～ 22mm、3 ～ 20 個つく。総苞片は直立し、茎と同様に断面は三角形で長さ 10 ～ 27cm。長い根生葉をつけることで近縁種と区別できる。果期は 7 ～ 9 月。都内では区部から多摩地域の池沼に生えていたようであるが、近年の記録はなく、絶滅したと考えられる。

■ **生存を脅かす要因**：自生地の池沼の開発による消滅、改変、水質の変化などにより絶滅したと考えられる。

■ **特記事項**：

執筆者	仙仁径
文献一覧	62, 99, 284



被子植物

カヤツリグサ科

コマツカサススキ

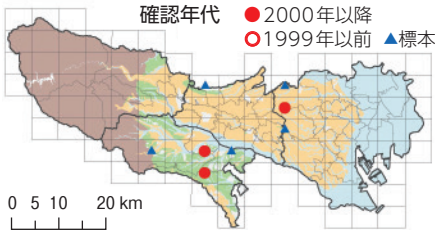
Scirpus fuirenoides

■ **種の特性と生育状況**：本州～九州に分布する多年草で、湿地などに生える。叢生し、茎は高さ 80 ～ 120cm。側生の分花序は 1 ～ 2 個の球状花序からなり、頂生の分花序は散房状で 3 ～ 6 本の枝先に球状花序をつける。球状花序は 10 ～ 20 個の小穂からなる。小穂は楕円形で長さ 5 ～ 7mm。総苞は葉状で花序より長い。よく似たマツカサススキは多数の分花序からなるが、本種は側生のものが 1 ～ 2 個と少ない。果期は 8 ～ 10 月。都内では区部から多摩地域の湿地や水田周辺に生えているが、現存する自生地は非常に少ない。

■ **生存を脅かす要因**：湿地の開発による消滅や、植生遷移などが本種の生存を脅かす要因と考えられる。

■ **特記事項**：

執筆者	仙仁径
文献一覧	62, 99, 243, 284



被子植物

カヤツリグサ科

マツカサススキ

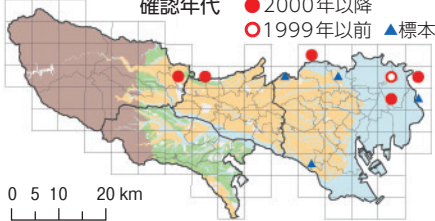
Scirpus mitsukurianus

■ **種の特性と生育状況**：本州～九州に分布する多年草で、平地の湿地などに生える。叢生し、茎は高さ 100 ～ 150cm。花序は複散房状で 2 ～ 3 個の分花序からなり、頂生の分花序は大きい。分花序は 10 ～ 20 個の小穂からなる。小穂は楕円形で長さ 4 ～ 6mm。総苞は 3 ～ 5 個、葉状で花序より長い。鱗片は披針形で、よく似たコマツカサススキは長卵形である。果期は 8 ～ 10 月。都内では区部から多摩地域の河川敷の湿地や、池沼のほとりに稀に生えている。

■ **生存を脅かす要因**：河川敷の環境改変や、開発による池沼の消滅などが本種の生存を脅かす要因と考えられる。

■ **特記事項**：

執筆者	仙仁径
文献一覧	62, 99, 129, 161, 284



区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	EX	EX	DD	－	DD
2010	●	DD	－	－	
1998		C			



高知県 1988 年 11 月 7 日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	●	●	●	DD	DD
2010	●	●	●	VU	
1998			C		



区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	VU	NT	VU	VU	
2010					
1998					



八王子市 2019 年 10 月 8 日

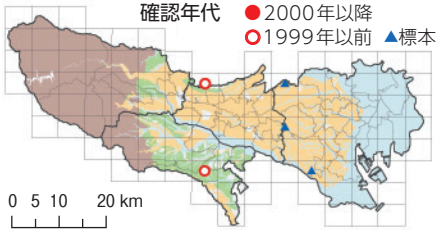
被子植物 イネ科
ヒメアブラススキ <i>Capillipedium parviflorum</i>

■ **種の特性と生育状況**：本州以西の台地～丘陵地に分布する多年生草本。谷戸田の土手や湿地に面した草地などに生育する。茎は下方で分枝し、まばらに叢生、高さ 50 ～ 100cm で節に開出した軟毛がある。葉は長さ 8 ～ 20cm で薄く細長い。円錐花序の枝は数回分枝し、短い総を多数付ける。総には有柄小穂と無柄小穂が対になって付き、有柄小穂は小型で芒が無く、雄性または中性花、無柄小穂は細長い芒を持つ両性花。花期は 8 ～ 11 月。都内では、かつては西多摩を除く地域の、丘陵地の谷戸および台地脚部の湿地に面した斜面などに稀に生育していたが、近年は確実な生育の記録が無い。

■ **生存を脅かす要因**：もともと分布量が少ないことに加え、谷戸の埋立てや管理放棄などが生存を脅かす主な要因であると考えられる。

■ **特記事項**：自生地においては、本種の生活史を考慮しつつ、裾刈りなどの適切な草地管理を行うことが望ましい。

執筆者 小林健人
文献一覧 25, 223



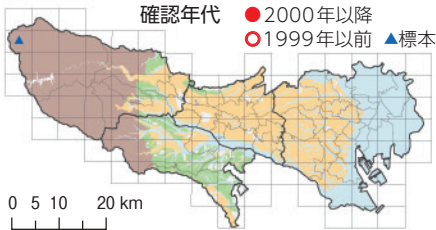
被子植物 イネ科
フサガヤ <i>Cinna latifolia</i>

■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州中部以北の亜高山帯～山地帯上部に分布する多年生草本。やや湿った陰地の樹林下に生育する。茎は高さ 80 ～ 120cm で直立する。葉は線状披針形でざらつき、長さ 12 ～ 25cm。円錐花序は先が下垂し、輪生状の細い枝に小穂をまばらに付ける。小穂は扁平で 1 小花からなり、長さ 3 ～ 3.5mm。花期は 7 ～ 8 月。都内では、西多摩の高標高地に分布するが、近年の生育状況は不明である。

■ **生存を脅かす要因**：森林開発、道路建設、局所分布。分布が局限され、森林環境の広範囲な改変、遷移進行・植生変化などが生存を脅かす主な要因であると考えられる。

■ **特記事項**：都内での主要な産地である雲取山をはじめ、西多摩の高標高地における生育状況の把握を急ぐとともに、自生地の森林を可能な限り保全することが望ましい。

執筆者 小林健人
文献一覧 26, 168, 173



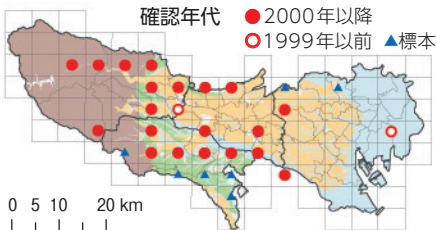
被子植物 イネ科
チョウセンガリヤス <i>Cleistogenes hackelii</i>

■ **種の特性と生育状況**：本州、四国、九州の乾いた草地などに生育する多年生草本。茎は細く直立し、高さ 40 ～ 100cm。葉は水平に開出し、長さ 4 ～ 10cm で披針形。上部の葉鞘には開出した長毛がある。花序は、頂部の葉鞘の中から出ない閉鎖花の個体と、葉鞘から抜き出て 2 ～ 4 本の枝を開出して各枝に 1 ～ 4 個の小穂を付ける個体がある。小穂は 2 ～ 4 小花からなる。都内では、区部から西多摩にかけて広く分布し、低湿地や丘陵地の谷戸、台地脚部の湿地などで確認されているが、各地で減少傾向にある。北多摩には本種の生育に適した環境が比較的多く残っており、多摩川中流域の河川敷等に自生地が点在する。

■ **生存を脅かす要因**：谷戸の造成や河川の護岸改修、管理放棄による遷移の進行など、本種の生育に適した日当たりの良い草地環境の減少が生存を脅かす主な要因であると考えられる。

■ **特記事項**：選択的草刈り等による自生地の保全や低茎草地の適切な維持管理を行うことが望ましい。本種は植物体が華奢で目立たないため、調査等でも見逃されている可能性があり、希少種として認識した上で、注視していく必要がある。

執筆者 小林健人
文献一覧 17, 25, 160, 168, 243, 270



区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	●	●	VU	VU	
2010	●	●	VU		
1998			C		



長野県 1987 年 8 月 29 日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	DD	VU	VU	VU	VU
2010	NT	NT	NT	NT	
1998					



八王子市 2019 年 4 月 21 日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	●	●	●	VU	VU
2010	●	●	●	VU	
1998			A		



宮城県 2000 年 8 月 1 日

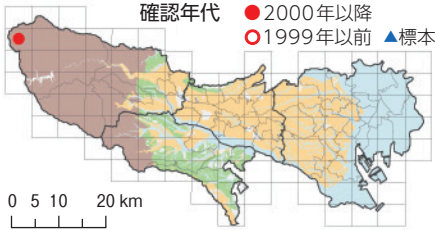
被子植物 イネ科
タカネコウボウ <i>Anthoxanthum horsfieldii</i> var. <i>japonicum</i>

■ **種の特性と生育状況**：本州、四国、九州の亜高山帯～山地帯上部に分布する日本固有の多年生草本。山頂付近や稜線上の風衝草原に生育する。茎は高さ 20 ～ 60cm で、少数束生する。葉は扁平で上面に軟毛があり、長さ 10 ～ 20cm。円錐花序は先が下垂してまばらに短い枝を分け、3 小花からなる小穂をまばらに付ける。花期は 6 ～ 7 月。同属でユーラシア原産のハルガヤとは、花序の形態こそ異なるが、小穂の構造や乾くとクマリンの香りを放つなどの点で近似している。都内では、西多摩の高標高地に分布するが、近年は雲取山のシカ柵内で確認されているのみであり、その他の自生地においては現況調査を要する。

■ **生存を脅かす要因**：高標高地の防火帯草地における草刈りの停止や、シカの食害などが生存を脅かす主な要因であると考えられる。

■ **特記事項**：自生地の保全およびシカ柵の設置など、適切な管理を行うことが望ましい。本種の生育する草地は、他の多くの希少植物にとっても良好な環境が維持されていると考えられるため、計画的、総合的に保全管理を行うことが求められる。

執筆者 小林健人
文献一覧 168, 173, 217, 218



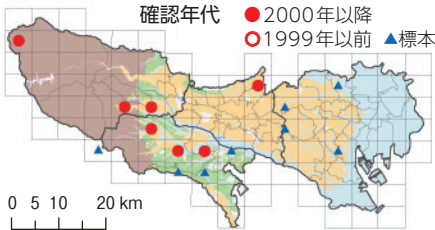
被子植物 イネ科
コウボウ <i>Anthoxanthum nitens</i> var. <i>sachalinense</i>

■ **種の特性と生育状況**：全国的林縁草地、芝草地、土手、河川堤防などに生育する多年生草本。白色の根茎が長く這い、高さ 20 ～ 50cm の花茎をまばらに立てる。円錐花序は長さ 4 ～ 8cm で、2 ～ 3 本の枝に、淡黄褐色で光沢のある小穂を数個付ける。小穂は大きく、長さ幅ともに 4 ～ 6mm。3 小花からなり、苞穎は膜質で卵円形。花期は 3 ～ 5 月と早い。都内では、平地から低山地にかけて広く分布するが、自生地は多くない。特に区部においては分布情報が不足しており、現状把握が望まれる。

■ **生存を脅かす要因**：谷戸の造成や河川の護岸改修、管理放棄による遷移の進行など、本種の生育に適した草地環境の減少が生存を脅かす主な要因であると考えられる。

■ **特記事項**：自生地の保全や低茎草地の適切な維持管理を行うことが望ましい。なお、小穂がより小さく、護穎の色や毛の形態が異なるタイプをヒメコウボウとして区別する見解もあるが、両者を明確に判別するのは一般に困難であることから、本種に含めて扱う。他方で、ヨーロッパ原産の外来種、セイヨウコウボウが芝生種子などに混入して帰化している可能性があり、注意が必要である。

執筆者 小林健人
文献一覧 28, 243, 270



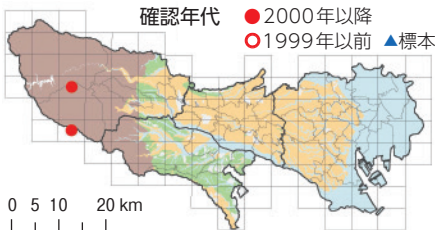
被子植物 イネ科
コウヤザサ <i>Brachyelytrum japonicum</i>

■ **種の特性と生育状況**：本州、四国、九州の山地に分布する多年生草本。林縁や疎林の林床などに生育する。根茎は多節で短い。茎は高さ 40 ～ 70cm で細く、束生する。葉は薄く有毛で、長さ 4 ～ 10cm。葉の基部には高さ 2 ～ 3mm の葉舌がある。円錐花序はごくまばらに小穂を付け、枝を分けない個体では総状花序のように見える。小穂は 1 小花からなり、長さ 1 ～ 1.5cm の芒がある。花期は 6 ～ 8 月。都内では、主に西多摩の山地深部に分布するが、産地は限られる。

■ **生存を脅かす要因**：森林の開発や林道整備などによる森林環境の改変が生存を脅かす主な要因であると考えられる。近年はシカによる食害も報告されている。

■ **特記事項**：生育情報に基づき現状の再確認を行うことに加え、自生地を可能な限り保全することが望ましい。

執筆者 小林健人
文献一覧 17, 166, 168, 173



	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	－	VU	VU	DD	VU	VU
2010	－	－	VU	－		
1998			A			



町田市 1995 年 5 月 22 日

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	DD	VU	VU	VU	VU	
2010	VU	VU	NT	VU		
1998	C					



瑞穂町 1997 年 6 月 14 日

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	EX	EX	－	EX	EX	
2010	EX	EX	－	・		
1998	D					



栃木県 2004 年 5 月 22 日

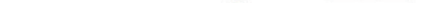
被子植物 イネ科
ミズタカモジ <i>Elymus humidus</i>

■ **種の特性と生育状況** : 本州、四国、九州の水田や休耕田、用水路などに生育する冬緑性の多年生草本。茎は高さ 40 ～ 60cm で束生し、倒伏して下部の節から枝を出す。また、結実後に倒伏した茎は節から発根し、栄養繁殖を行う。穂状花序は長さ 10 ～ 20cm で直立し、小穂が花軸に圧着する。花期は 5 ～ 7 月。小穂の護穎は無毛平滑で、先端に 20 ～ 30mm の直立した芒を持つ点で、生育環境が共通するムツオレグサと区別できる。近縁のカモジグサとは、小穂が花軸に圧着し、太い花軸を持つことなどにより区別できる。都内では、多摩川中流域に残存する水田の周囲や南多摩の谷戸田などで確認されているが、いずれも生育は不安定であり、減少傾向にある。

■ **生存を脅かす要因** : 水田の消失や早稲の導入、除草剤の多用などが生存を脅かす主な要因であると考えられる。

■ **特記事項** : 除草剤の使用を控えることや、水田を中心とする里地環境の一体的な保全を行うことが望ましい。また、本種は競合種の少ない田起こし前の水田に群落を形成し、短期間のうちに開花・結実する生態を持つことから、早稲の導入や冬期湛水農法の影響を受けやすい点にも留意すべきである。

執筆者 小林健人 文献一覧 243, 282



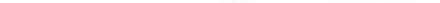
被子植物 イネ科
ムツオレグサ <i>Glyceria acutiflora</i>

■ **種の特性と生育状況** : 本州、四国、九州の谷戸田や休耕田、湿地などに生育する半抽水性の多年生草本。茎は高さ 20 ～ 70cm で基部は地を這い、節より発根する。円錐花序は長さ 10 ～ 30cm で直立し、長い柄のある小穂が花軸に圧着することから、一見すると総状花序に見える。小穂は円柱状で 10 ～ 15 程度の小花が並び、芒を欠く。成熟した小花がばらばらとなって脱落する様子が、和名「六つ折れ草」の由来である。通常、花期は 5 ～ 6 月であるが、初秋の頃まで開花していることもある。都内では、平地から丘陵地にかけて広く分布するが、やや減少傾向にある。特に区部における分布の現状については情報が不足しており、適正な評価が困難である。

■ **生存を脅かす要因** : 湿地開発や造成、水田の消失や乾田化、除草剤の多用などが生存を脅かす主な要因であると考えられる。

■ **特記事項** : 除草剤の使用を控えることや、水田を中心とする里地環境の一体的な保全を行うことが望ましい。

執筆者 小林健人 文献一覧 17, 25, 243



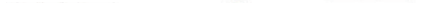
被子植物 イネ科
ウキガヤ <i>Glyceria depauperata</i> var. <i>infirma</i>

■ **種の特性と生育状況** : 本州以北の低地に分布する抽水性または浮葉性の多年生草本。茎は匍匐する下部の節から単生し、高さ 1 ～ 1.5m。葉は長さ 3 ～ 9cm で上部の葉は水面に浮く。円錐花序の枝は直立し、10 ～ 18 個ほどの小花からなる小穂が中軸に寄り添って付く。護穎の長さは 4 ～ 5.5mm。花期は 5 ～ 7 月。都内では、南多摩を除く各地域での記録があるものの、近年は生育に関する確実な情報が途絶えており、絶滅した可能性が高い。

■ **生存を脅かす要因** : 土地造成や池沼の埋め立て等による生育環境の変化が生存を脅かす主な要因であると考えられる。

■ **特記事項** : 過去に記録のある自生地の再調査が望まれる。なお、基準変種のヒメウキガヤ (var. *depauperata*) は、護穎の長さが 2.5 ～ 3.5mm と小型である点で見分けられるが、都内では確認されていない。また、同属で北アメリカ原産のセイヨウウキガヤ (*G.occidentalis*) の帰化が国内でも確認されており、本種との誤認には注意が必要である。

執筆者 小林健人 文献一覧 25, 28, 270



	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	・	－	EX	－	EX	NT
2010	・	－	EX	－		
1998	D		D			



岡山県 1985 年 9 月 30 日

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	・	・	DD	DD	DD	
2010	・	・	・	VU		
1998			C			



山形県 1988 年 8 月 1 日

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	EX	NT	NT	NT	NT	
2010	－	VU	VU	－		
1998	B					



八王子市 1987 年 10 月 26 日

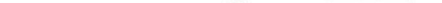
被子植物 イネ科
ヒナザサ <i>Coelachne japonica</i>

■ **種の特性と生育状況** : 本州、四国、九州の水辺に分布する半抽水性の一年生草本。日本固有種である。貧栄養な湿地やため池などに生育する。茎は地上を這い、節ごとに枝を出して直立し、高さ 5 ～ 20cm。葉は披針形で無毛、長さ 1 ～ 3cm で葉舌を欠く。円錐花序に緑白色の小穂を少数付ける。小穂の護穎は無脈。花期は 8 ～ 10 月。都内では、多摩市岩ノ入池にのみ生育していたが、開発に伴う池の埋立てにより自生地が消失し、絶滅した。

■ **生存を脅かす要因** : 湖沼開発、湿地開発、遷移進行・植生変化・局所分布。開発による自生地の消失が主な減少要因であると考えられる。

■ **特記事項** : 他県においてはホシクサやハリイの仲間などと同所的に生育することが多く、貧栄養な湿地と同様な環境があれば、再発見の可能性はあると思われる。自生が発見された場合には、自生地の保全および適切な管理を速やかに進めることが望ましい。

執筆者 小林健人 文献一覧 79, 184, 196



被子植物 イネ科
コメススキ <i>Deschampsia flexuosa</i>

■ **種の特性と生育状況** : 全国の高山帯～亜高山帯に分布する多年生草本。最終氷期の遺存種と考えられている。日当たりの良い砂礫地や草原、岩場などに生育する。茎は高さ 20 ～ 60cm で直立し、密に束生する。葉は糸状で長さ 5 ～ 15cm、大部分が根生する。円錐花序は数本の枝を分け、光沢のある小穂をまばらに付ける。小穂は 2 小花からなり、長さ 4 ～ 7mm の 2 本の芒が小穂外に突き出す。花期は 7 ～ 8 月。都内では、西多摩の高標高地にのみ分布するが、近年の生育状況は不明である。

■ **生存を脅かす要因** : 森林開発、道路建設、遷移進行・植生変化、登山道周辺の踏み付け、土壌の浸食などが生存を脅かす要因であると考えられる。

■ **特記事項** : 都内での主要な産地である雲取山をはじめ、西多摩の高標高地の森林全体について、可能な限り保全することが望ましい。

執筆者 小林健人 文献一覧 26, 168, 173



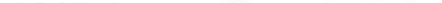
被子植物 イネ科
カリマタガヤ <i>Dimeria ornithopoda</i>

■ **種の特性と生育状況** : 全国の向陽湿地に分布する一年生草本。全体に小型で、第二小花の護穎に芒がほとんど見られないタイプをヒメカリマタガヤ (f. *microchaeta*) として区別し、主に、丘陵地の谷戸湿地に狭義のカリマタガヤ、丘陵上部～低山地の山頂草地や稜線上にヒメカリマタガヤがそれぞれ生育する。茎は細く下部で分枝し、高さ 10 ～ 30cm。葉は長さ 3 ～ 7cm で、葉鞘とともに、基部のわずかに膨らんだ長毛がまばらに生える。花序は長さ 3 ～ 8cm の総が二又状となり、一見、メヒシバ属の植物に似る。メヒシバ属の植物では小穂が腹背に扁平であるのに対し、本種は小穂が左右から扁平であることなどから区別できる。花期は 9 ～ 10 月。都内全域の平地～低山地に点々と分布するが、分布量は少なく、区部では絶滅したものと思われる。

■ **生存を脅かす要因** : 開発による生育環境の減少や谷戸田の管理放棄による生育環境の悪化が生存を脅かす主な要因であると考えられる。

■ **特記事項** : 自生地の保全および湿地や草地の草刈りなど、適切な管理を行うことが望ましい。

執筆者 小林健人 文献一覧 17, 25, 243, 270



区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	DD	VU	EN	VU	
2010	VU	NT	NT	NT	
1998		C			



八王子市 1982 年 5 月 30 日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	EN	EN	CR	CR	EN
2010	NT	NT	NT	NT	
1998		A		UK	



町田市 2020 年 7 月 29 日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	NT	NT	NT	NT	
2010	NT	NT	NT	—	
1998		C			



八王子市 1996 年 9 月 29 日

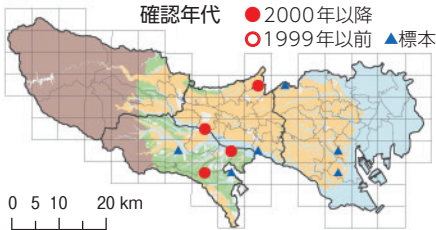
被子植物 イネ科

■ **種の特性と生育状況**：全国の平地から低山地に分布する多年生草本。谷戸の裾刈り草地や河川堤防の芝草地などの向陽草地に生育する。茎は直立し、高さ25～70cmで束生する。葉は長さ5～15cmで、縁にはまばらに軟毛がある。円錐花序は直立し、枝が短いために穂状花序のように見えるが、開花時に限り枝が開出して幅広となる。小穂の多くは3小花からなる。花期は5～7月。都内では、かつては本土部全域の各地に生育していたことが記録されているが、近年は減少の一途を辿り、現存する自生地は多摩地域の谷戸や河川敷などに限られる。区部での現在の生育状況は不明である。

■ **生存を脅かす要因**：谷戸や河川敷等の半自然草地の改変や消滅、植生遷移の進行などが生存を脅かす主な要因であると考えられる。

■ **特記事項**：丘陵地の谷戸や、その他の草地における適度な草刈りを継続し、本種の生育環境である低茎草地を維持することが望ましい。また、生育情報が不足している区部を中心として、過去に記録のある自生地の再調査が急がれる。

執筆者	小林健人
文献一覧	17, 25, 28, 196, 249, 270



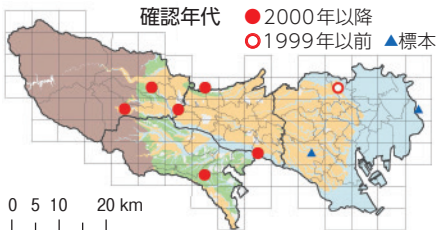
被子植物 イネ科

■ **種の特性と生育状況**：本州以西の水湿地に生育する多年生草本。長い匍匐茎を伸ばして多数に分枝し、高さ20～40cm。ざらつきがあり、茎の節部には下向きの剛毛が密生する。葉も著しくざらつき、平らで長さ5～15cm。円錐花序は直立し、軸から1本ずつ斜出する枝の基部近くから先端にかけて、1小花からなる小穂を嵌め込み状に付ける。小穂は細く、白色～紅紫色。雄しべは6本（※後述の2種は3本）で、開花時には垂れ下がる黄色い葯が目立つ。花期は8～10月。花の無い個体では、同属のサヤヌカグサやエゾノサヤヌカグサと酷似するため、同定には注意が必要である。都内では、かつては本土部全域の水田に生育していたが、現在は極めて稀である。

■ **生存を脅かす要因**：自生環境である小河川や水路などの改変、除草剤の多用などが生存を脅かす要因であると考えられる。

■ **特記事項**：除草剤の使用を抑えるとともに、本種の生態を考慮した保全対策を講じることが望ましい。

執筆者	小林健人
文献一覧	28, 30, 196, 270, 294



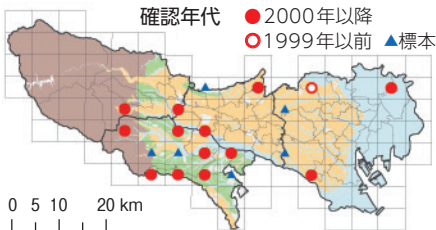
被子植物 イネ科

■ **種の特性と生育状況**：全国の低地から丘陵地に分布する多年生草本。水田周辺や河川敷、谷戸など各所の湿地に生育する。茎は高さ50～100cmで、基部から立ち上がる可直立する。ざらつきがあり、茎の節部には下向きの剛毛が密生する。葉も著しくざらつき、平らで長さ15～25cm。円錐花序は大きく、軸から1本ずつ出る枝の上方に1小花からなる小穂をまばらに付ける。花序の下部は葉鞘に包まれ、閉鎖花を付けるものが多い。花期は8～10月。同属のサヤヌカグサと混同されやすいが、本種はより明るく湿った環境を好み傾向があり、小穂がより短く剛毛が目立つこと、花序の枝が少なく小穂が重なり合って付くこと、葉が柔らかいことなどにより区別できる。都内では、区部から西多摩にかけて広く分布し、低湿地や丘陵地の谷戸、台地脚部の湿地などで確認されているが、全体として減少傾向にある。

■ **生存を脅かす要因**：水湿地の改変や植生遷移の進行、水田環境の消失や除草剤の多用などが生存を脅かす要因であると考えられる。

■ **特記事項**：自生地の保全や湿地の攪乱、除草剤の使用を抑えるなどの配慮をすることが望ましい。

執筆者	小林健人
文献一覧	25, 28, 101, 196, 243, 270



区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	•	—	NT	NT	NT
2010	—	—	NT	NT	
1998			C		



八王子市 1983 年 5 月 24 日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	•	VU	EN	VU	EN
2010	•	VU	VU	VU	
1998		A		A	



青梅市 1997 年 11 月 6 日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	EX	EX	•	•	EX
2010	EX	•	•	•	
1998					



千葉県 1986 年 7 月 9 日

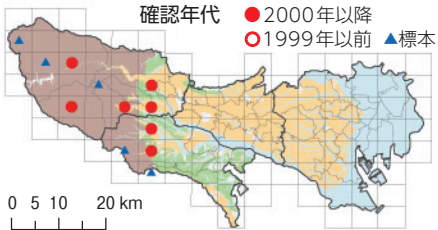
被子植物 イネ科

■ **種の特性と生育状況**：全国の丘陵地～山地に分布する多年生草本。渓谷沿いの樹林地や河畔林の林床など、主に水辺に近い疎林内に生育する。太く短い根茎を持ち、茎は高さ70～120cmで少数が叢生する。葉は扁平、基部近くで表裏が反転し、長さ10～20cm。穂状花序は、別属のカモジグサなどと似てゆるやかに下垂し、無柄の小穂が疎らに2列に付く。花軸や茎上部には軟毛が密生する。苞穎は針状で永存性。花期は5～6月。都内では、南多摩および西多摩の丘陵地から山地にかけてやや稀に分布する。

■ **生存を脅かす要因**：各種開発による河畔林をはじめとした疎林などの自生地環境の消滅、遷移進行による植生荒廃などが本種の生存を脅かす要因であると考えられる。

■ **特記事項**：自生地の保全および、荒廃傾向にある樹林地においては、適度な下草刈り等の適切な林床管理を行うことが望ましい。

執筆者	小林健人
文献一覧	17, 168, 173, 217, 243



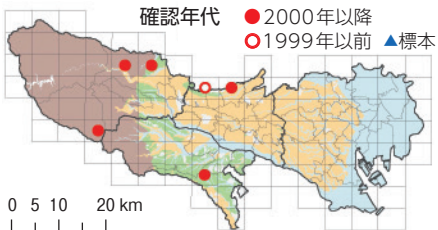
被子植物 イネ科

■ **種の特性と生育状況**：関東地方以西の丘陵地～低山地に生育する暖地性の多年生草本。半日陰の路傍や小湿地などにマット状の群落を作る。茎は這い、節ごとに発根して高さ5～10cmの直立茎を立てる。葉は長さ1～2cmで幅の広い長楕円形。葉の上面と葉鞘口部に立毛がある。円錐花序の枝は細く、小穂をまばらに付ける。同属のチゴザサと異なり、小穂の柄には帯状の腺が見られない。花期は9～10月。近似のニコゲヌカキビ（北アメリカ原産）とは、茎が這い、茎や花序軸が無毛であることなどから区別できる。都内では、青梅丘陵や狭山丘陵に自生地が点在するほか、多摩丘陵の一部にも分布するが、産地は少ない。

■ **生存を脅かす要因**：極端な環境の改変や、それに基づく植生の変化などが生存を脅かす主な要因であると考えられる。

■ **特記事項**：近年、南多摩の山間部からも新たな自生地が見つかった。既知の自生地とともに、安定した土壌の保全、人の踏みつけへの注意喚起、適度な草刈りなど、本種の生態を考慮した保全対策を講じることが望まれる。

執筆者	小林健人
文献一覧	17, 28, 30, 322



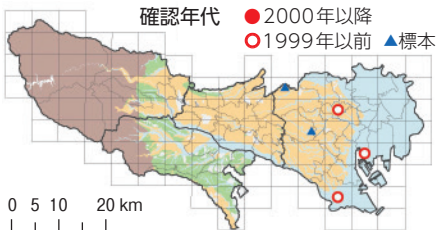
被子植物 イネ科

■ **種の特性と生育状況**：本州、四国、九州の海辺の砂地や河川沿いの湿地に生育する多年生草本。茎は基部が斜めに倒れ、高さ30～80cmで束生する。葉は平らで長さ15～30cm。茎、節部、葉、葉鞘などは無毛である。花序は2本の扁平な総からなる三稜形。小穂は花軸の外側に多数圧着し、長柄の第一小穂と短柄の第二小穂が対になって付く。第一小穂は2個の雄性小花、第二小穂は1個の両性小花と1個の雄性小花からなる。花期は7～8月。都内では、区部および北多摩の埋立地や河川などの湿地に生育していたが、近年は確認されておらず、絶滅したものと考えられる。

■ **生存を脅かす要因**：河川開発、海岸開発、湿地開発、土地造成。河口部の湿地の消失により、本種の生育環境が失われることが生存を脅かす主な要因であると考えられる。

■ **特記事項**：水辺の自然再生が実施された場所などで復活が見られるかどうか、現状の再確認が望まれる。

執筆者	小林健人
文献一覧	270, 294



区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	DD	DD	EN	EN	EN
2010	VU	EX	NT	NT	
1998	UK				



八王子市 2007年11月21日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	VU	●	●	●	VU
2010	VU	●	●	●	
1998		B			



大田区 1991年8月23日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	DD	●	●	●	DD
2010	DD	●	●	●	
1998					



島根県 1987年11月18日

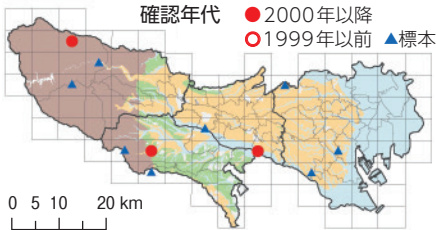
被子植物 イネ科
キダチノネズミガヤ <i>Muhlenbergia ramosa</i>

■ **種の特性と生育状況**：本州中部以西の温帯林に分布する多年生草本。丘陵地から低山への移行帯の源流部や、湿った樹林内、沢筋の林縁草地などに生育する。根茎は長く這い、圧着した紙質の薄い鱗片に覆われる。茎は高さ40～100cmで斜上または直立する。葉は軟らかく、長さ8～15cmで中央脈は目立たない。茎上方で多数の枝を分け、円錐花序を付ける。小穂は灰緑色から淡紫色で1小花からなり、護穎の中央脈は伸出して長さ5～8mmの細長い芒となる。花期は9～10月。都内では、古くは区部から西多摩にかけて広く分布していたと考えられるが、現在は極めて稀である。特に区部については、生育に関する確実な情報が無く、絶滅した可能性がある。■ **生存を脅かす要因**：森林開発等による河川源流部等の樹林開発、荒廃が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。

■ **特記事項**：過去に記録のある自生地 of 再調査はもとより、主な生育環境である河川源流部の樹林、河岸段丘崖線の樹林などを総合的に保全することが望ましい。なお、同定に際しては、小穂の形態と合わせて根茎を確認するなど、同属のネズミガヤ類との区別点を精査し、慎重に行うべきである。

執筆 者 小林健人

文献一 覧 25, 28, 168, 173, 249, 270



被子植物 イネ科
アイアシ <i>Phacelurus latifolius</i>

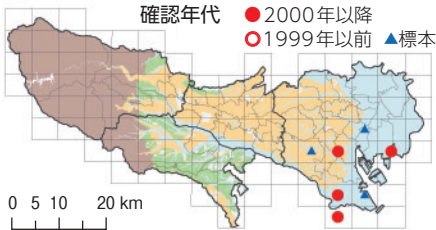
■ **種の特性と生育状況**：全国の海辺の湿地や河口域に生育する大型の多年生草本。根茎は長く這い、硬い鱗片に覆われる。茎は高さ80～160cmで束生する。葉は幅広で長さ20～40cm、主脈は太く明瞭。花序は5～10本の総が掌状に並び、節ごとに有柄小穂と無柄小穂が対になって付く。小穂は雄性と両性の2小花からなる。花期は6～9月。都内では、区部の沿岸部の塩性湿地に生育するが、産地は限られる。

■ **生存を脅かす要因**：沿岸部の開発に伴う、干潟や砂浜などの塩性湿地の広範囲な消失が、本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。

■ **特記事項**：残された汽水域の植生を保全するとともに、塩性湿地の環境回復などを行うことが望ましい。

執筆 者 小林健人

文献一 覧 31, 67, 129, 270, 294



被子植物 イネ科
セイタカヨシ(セイコノヨシ) <i>Phragmites karka</i>

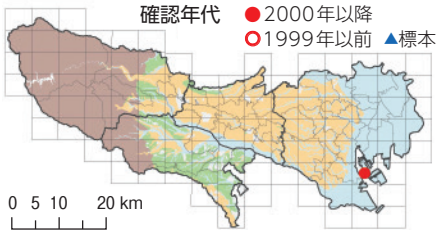
■ **種の特性と生育状況**：本州以西の沿岸部や河口域に分布する大型の多年生草本。塩性湿地や河川敷の湿地、海辺などに生育する。全体としてヨシに似るが、茎は光沢があり、高さ2～4m、直径2cmに達する。葉は硬く、長さ40～70cmで茎と鋭角をなして直立する。円錐花序は大きく、ヨシと異なり垂れ下らずに直立する。小穂や小花の構造はヨシと共通するが、本種の小穂はヨシの半分以下と小型である。花期は8～11月。都内では区部のみに分布し、臨海部で記録されているが、産地は極限される。

■ **生存を脅かす要因**：河口部の砂浜、塩性湿地などの生育環境の広範囲の消失が、本種の生存を脅かす主な減少要因であると考えられる。

■ **特記事項**：本種は東京湾土着のフロラの一つとされ、残された塩性湿地などにおける復活や再発見が望まれる。

執筆 者 小林健人

文献一 覧 67, 270, 294



区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	DD	VU	DD	CR	VU
2010	NT	—	—	—	
1998		C			



渋谷区 1990年8月15日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	DD	DD	DD	VU	VU
2010	●	—	—	NT	
1998					



檜原村 2022年8月10日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	CR	EX	CR	EX	CR
2010	EX	EX	VU	—	
1998			A		



練馬区 2021年9月21日

被子植物 イネ科
アゼガヤ <i>Leptochloa chinensis</i>

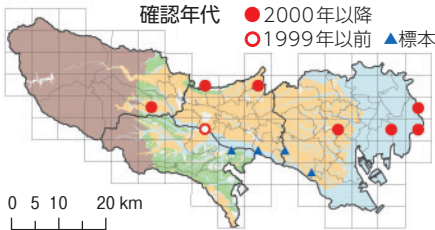
■ **種の特性と生育状況**：本州以西の低地に分布する一年生草本。水田内や畦畔、農耕地周辺の湿地、河川敷などに生育する。茎は横に這った基部から立ち上がり、高さ30～70cmでまばらに束生する。葉は青緑色で細く、長さ7～15cm。葉鞘は扁平で無毛。花序は中軸から多数の総がブラシ状に開出し、枝の下側に小穂が隙間なく付く。小穂は5～7小花からなり、赤紫色を帯びる。花期は8～10月。都内では、西多摩の水田内にわずかに生育するほか、区部や北多摩の庭園内の湿地、河川敷等に散発的に記録されている。南多摩では現状が不明となっている。

■ **生存を脅かす要因**：主要な自生環境である水田面積の減少、さらに圃場整備や不適切な環境管理等が生存を脅かす主な要因であると考えられる。

■ **特記事項**：本種の生育を関係者で情報共有し、保全対策を検討することが望ましい。なお、北アメリカ原産のニセアゼガヤ（ニブイロアゼガヤ）が都内にも帰化している可能性があり、同定の際には注意が必要である。

執筆 者 小林健人

文献一 覧 101, 105, 129, 270, 294



被子植物 イネ科
ミチシバ <i>Melica onoei</i>

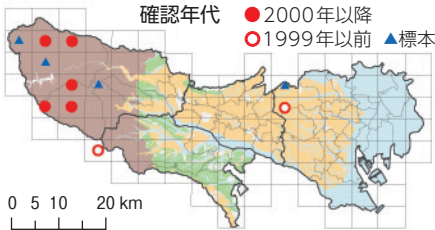
■ **種の特性と生育状況**：関東地方以西の亜高山帯～山地帯に分布する大型の多年生草本。明るい樹林の林縁や林道沿いの草地などにやや稀に生育する。茎は高さ90～150cmで触るとざらつき、十数個の節がある。葉は長さ15～30cmでやや硬い。円錐花序は、枝が半輪生状に開出または斜開し、まばらに小穂を下垂して付ける。花期は8～9月。都内では、主に西多摩の高標高地に点々と見られるが、分布は限定される。また、古い記録のある区部、北多摩、および南多摩においては近年記録が途絶えており、現状不明である。

■ **生存を脅かす要因**：高標高地の林縁草地等の改変や植生遷移の進行が生存を脅かす主な要因であると考えられる。

■ **特記事項**：自生地周辺において草地や疎林の適切な管理を継続することが望ましい。近年、南多摩の雑木林に接する外周法面草地において、本種の生育が新たに確認されたが、自然分布ではなく、造成土あるいは吹付種子に混入して他所から持ち込まれたものである可能性が高い。

執筆 者 小林健人

文献一 覧 152, 166, 168, 173, 217, 270



被子植物 イネ科
ヌマガヤ <i>Moliniopsis japonica</i>

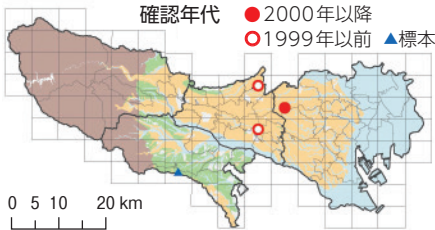
■ **種の特性と生育状況**：全国の高層湿原や貧栄養性湿地などに生育する大型の多年生草本。根茎は節間が短く横に伏し、鱗片が密生する。茎は高さ30～120cmで直立し、平滑、無毛。叢生し、しばしば群落を形成する。葉は線形で硬く、長さ30～50cmで表面に光沢がある。散形花序の枝先に小穂を1つつ付ける。小穂は光沢があり、複数の両性小花からなる。花期は8～10月。都内では、かつては広範囲に分布していたと考えられるが、北多摩および西多摩においてはすでに絶滅した可能性が高く、南多摩においても近年は記録が途絶えており、現状不明となっている。区部では、練馬区石神井公園の三宝寺池沼沢植物群落内に唯一、現存する。

■ **生存を脅かす要因**：開発による湧水湿地の消失、植生遷移の進行による陸地化や乾燥化などが生存を脅かす主な要因であると考えられる。

■ **特記事項**：本種の記録がある場所での再確認が期待される。再発見された際には、本種の生活史を考慮した自生地の保全と湿地の適切な管理を行うことが望ましい。

執筆 者 小林健人

文献一 覧 25, 238, 249, 270



区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	DD	NT	NT		NT
2010	－	NT	NT		
1998	UK				



あきる野市 2018 年 10 月 31 日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	CR	EN	VU	－	VU
2010	CR	EN	VU	－	
1998	UK				



八王子市 2014 年 10 月 24 日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	・	・	・	EN	EN
2010	・	・	・	VU	
1998			A		



三重県 1999 年 8 月 15 日

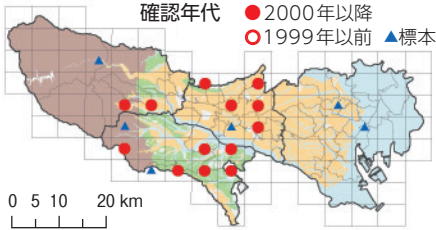
被子植物 イネ科
アズマザサ <i>Sasaella ramosa</i>

■ **種の特性と生育状況**：本州および九州の主に太平洋側の平地～山地に分布する多年生常緑ササ類。林縁や林床、川岸などに生育する。根茎は地中を這い、毎年新しい茎を出す。茎は高さ 1 ～ 2 m で直立。節からは通常 1 本の枝が出て、枝先に 3 ～ 7 枚の葉を付ける。葉は長さ 20 ～ 25 cm で、裏面に軟毛が密生する。円錐花序には長い柄がある。花期は 5 月。都内では、多摩地域の山地林内や台地、丘陵地の疎林内、川岸などに群落が局在するが少ない。ただし、西多摩においては丘陵地から低山地に広く分布し、生育も安定している。一方で、区部の分布状況については情報が不足している。

■ **生存を脅かす要因**：平地林や斜面林の伐採や改変が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。

■ **特記事項**：東京都本土部全域での再確認が望まれる。加えて、本種の基準産地が北多摩の武蔵野地域であることから、特にこの地域での自生地の保全は急務である。なお、和名が混同されやすいアズマネザサ (*Pleiblastus chino*) は本種とは別属異種であり、注意を要する。

執筆者	小林健人
文献一覧	17, 25, 28, 105, 243, 270



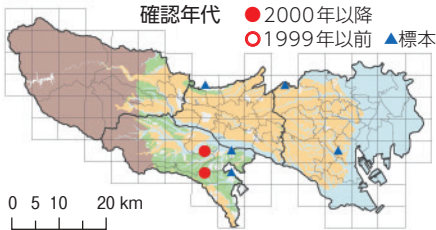
被子植物 イネ科
ヒゲシバ <i>Sporobolus japonicus</i>

■ **種の特性と生育状況**：本州、四国、九州の丘陵地から低山地に分布する一年生草本。ローム層の露出した粘土質の湿性裸地や低茎草地、湿った造成草地などに生育する。全草に微細な腺点が散生する。茎は高さ 5 ～ 25 cm で直立し、枝が無いが、まばらに枝を分ける。葉は狭披針形で長さ 2 ～ 7 cm、縁に腺点および基部の膨らんだ硬い長毛が疎生する。円錐花序の枝は短く直立し、1 小花からなる小穂が密に並ぶことから、穂状花序のように見える。花期は 8 ～ 10 月。都内では、西多摩を除く地域の丘陵地から低山地にかけて分布するが、自生地は限られる。特に区部においては減少が著しく、近年は報告が途絶えていることから、絶滅した可能性がある。

■ **生存を脅かす要因**：湿地や芝草地の減少が生存を脅かす主な要因であると考えられるが、生活史や生態に不明な点が多い。

■ **特記事項**：定期的な草刈りの実施など、湿性草地を適切に維持することが望ましい。なお、植物体が小型で目に付きにくいため、同所的に生えることの多いウシクサやコブナグサの群落を手掛かりとするなど、丁寧な調査を行うことで、都市公園等でも自生地の再発見が期待できる。

執筆者	小林健人
文献一覧	17, 25, 196, 243, 249, 270



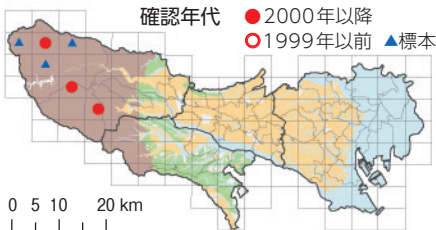
被子植物 イネ科
ヒロハノハネガヤ <i>Stipa coreana</i> var. <i>kengii</i>

■ **種の特性と生育状況**：全国の山地に分布する日本固有の多年生草本。林縁草地や樹林下などに生育する。茎は高さ 60 ～ 100 cm で直立し、少数が束生する。葉は扁平で長さ 10 ～ 30 cm。円錐花序は直立し、少数の直立する枝を分けるが、小穂が軸に圧着して付くことから総状花序に見える。小穂は 1 小花からなる。護穎は有毛で 3 脈を持ち、先端部から長さ 2 ～ 3 cm の直立した太い芒が出る。花期は 8 ～ 9 月。同属のハネガヤとは、花序が閉じて穂状～総状に見えることにより容易に区別できる。都内では、主に西多摩の高標高地の林縁草地等に分布するが、産地は限られる。

■ **生存を脅かす要因**：森林の開発や草地の植生遷移の進行が生存を脅かす主な要因であると考えられる。

■ **特記事項**：植生遷移の進行や森林環境の荒廃が生じないよう、自生地のモニタリングおよび適切な管理を継続し、保全に努めることが望ましい。

執筆者	小林健人
文献一覧	28, 152, 166, 168, 173, 218



区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	・	・	DD	EN	EN
2010	・	・	・	VU	
1998			A		



青梅市 1991 年 4 月 27 日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	DD	－	－	DD	DD
2010					
1998					



福岡県 2021 年 9 月 18 日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	EX	NT	NT	NT	NT
2010	－	NT	NT	NT	
1998	B	B			



八王子市 2013 年 9 月 30 日

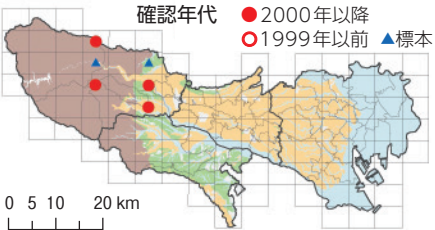
被子植物 イネ科
ムカゴツツリ <i>Poa tuberifera</i>

■ **種の特性と生育状況**：本州、四国、九州の山地に稀に生育する日本固有の多年生草本。多年草である一方、横走する根茎は持たない。茎は高さ 20 ～ 40 cm で束生し、基部の 2 ～ 3 節が数珠状に膨らむ。葉は淡緑色で、長さ約 10 cm。越年生で、翌年の 4 ～ 6 月に円錐花序を出す。花序枝はまばらで、各枝に 1 ～ 3 個の小穂が付く。同属のタミゾイチゴツナギも茎の基部が球状に膨れる特徴を持つ点で似ているが、本種は多年草であり、花序が著しくまばらで、茎葉もより細いことなどから区別できる。都内では、西多摩の山地渓谷沿いなどに点的に分布している。なお、南多摩における現在の生育状況は不明である。

■ **生存を脅かす要因**：山林の改変やオーバーユースによる登山道周辺の踏み付けが生存を脅かす主な要因であると考えられる。

■ **特記事項**：植物体が小型で繊細であるために見逃されやすく、林道付近や渓谷沿いを注意深く調査することで、新たな自生地が見つかる可能性は高い。自生地においては、渓谷林を可能な限り保全するとともに、登山におけるマナーの向上を図ることが望ましい。

執筆者	小林健人
文献一覧	18, 28, 217



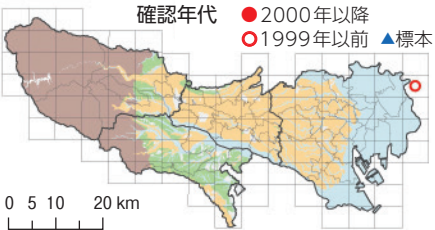
被子植物 イネ科
ウキシバ <i>Pseudoraphis sordida</i>

■ **種の特性と生育状況**：本州、四国、九州の池沼や水湿地に生育する水生の多年生草本。茎は水中を伸びて長さ 80 cm 程度、そこから直立した枝が水面に出て高さ 20 ～ 60 cm ほどになる。葉は淡緑色で長さ 2 ～ 4 cm。花序は基部が葉鞘中にあり、15 ～ 30 本の枝からなる。枝の中ほどにそれぞれ 1 小穂を圧着して付け、小穂は雄花と雌花の 2 小花からなる。花期は 7 ～ 9 月。都内では、西多摩および区部での記録があるものの、近年は生育に関する確実な情報が途絶えており、絶滅した可能性が高い。

■ **生存を脅かす要因**：河川、池沼の開発や埋立て、護岸改修、水質の悪化などが生存を脅かす主な要因であると考えられる。

■ **特記事項**：過去に記録のある自生地の再調査が望まれるとともに、自然度の高いため池や水湿地の整備を行う際には、本種の生育を見逃さないよう注意が必要である。

執筆者	小林健人
文献一覧	28, 207, 223



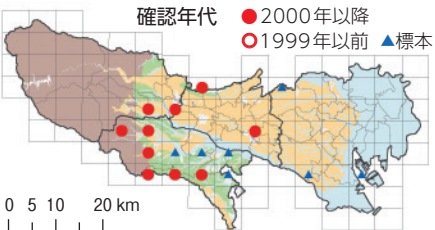
被子植物 イネ科
ヌメリグサ <i>Sacciolepis indica</i> var. <i>oryzeterum</i>

■ **種の特性と生育状況**：本州以西の休耕田や湿地などに生育する一年生草本。茎は高さ 30 ～ 60 cm で、数本ずつ基部から直立する。葉は長さ 10 ～ 20 cm。穂状に密集した円錐花序は円柱状で、手持ち花火を立てたように見える。花期は 8 ～ 10 月。近縁のハイヌメリと似ているが、本種はより湿った環境を好む傾向があるほか、茎が基部から直立して背丈が高いことや、花序が長く褐紫色から黒紫色を帯びることなどにより区別できる。都内では、丘陵地の谷戸や台地脚部の水田畦畔、休耕田、水路などに広く生育するが、減少傾向にある。区部では近年の記録が無く、絶滅の可能性が高い。

■ **生存を脅かす要因**：水田の消失や耕作放棄、除草剤の多用などが生存を脅かす主な要因であると考えられる。

■ **特記事項**：除草剤の使用を抑えることや、休耕田などを湿地の状態に保つことが望ましい。

執筆者	小林健人
文献一覧	17, 25, 30, 207, 243, 270



区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	CR	●	●	●	CR
2010	EX	●	●	●	
1998					UK



豊島区 2022 年 3 月 21 日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	●	●	●	EN	NT
2010	●	●	●	VU	
1998			C		



大分県 1993 年 9 月 22 日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	CR	DD	VU	VU	CR
2010	CR	CR	VU	VU	
1998		A	B		



八王子市 1994 年 4 月 22 日

キケマン

Corydalis heterocarpa var. *japonica*

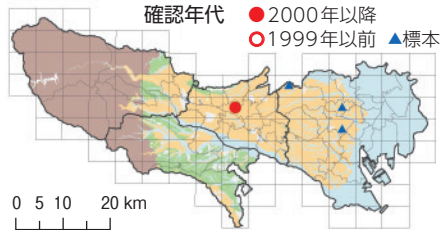
■ **種の特性と生育状況**：本州（関東以西）、四国、九州、南西諸島に分布する越年草。茎は太く中空、高さ 40 ～ 60cm。よく分枝する。葉は広卵状三角形で、2 ～ 3 回 3 出複葉である。総状花序は長さ 5 ～ 10cm、多数の花を密につける。花期は 3 ～ 6 月。黄色花で距は短い。過去の記録より、海岸から台地部に点々と分布していたと推測される。現在は区部にわずかに生育する。

■ **生存を脅かす要因**：過去の記録に豊島、板橋、練馬、江東、東京湾沿岸、田町、丸の内、上野とあり、分布域が人間活動の場と重なったこと、沿岸部では埋立て、海岸林の喪失、台地域では土地造成が本要因と考えられる。

■ **特記事項**：東京都の海岸線は、縄文時代以降頻繁に動いており、内陸での記録はその付近まで海があった時代に分布していた名残りと考えられる。元来、大きな自然圧（崖の崩落、砂の移動など）を受ける不安定立地に生育し、造成地や路傍にも見られる。このため、市街地等における生育個体も、この種本来の自然分布の可能性がないかどうか慎重に判断する必要がある。

執筆者 池田博・宮崎卓

文献一覧 237, 270, 353



ナガミノツルケマン(ナガミノツルキケマン)

Corydalis raddeana

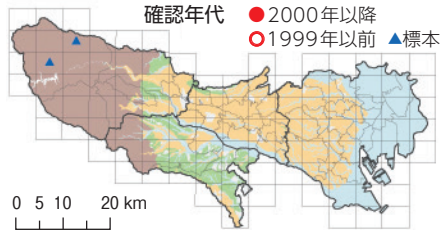
■ **種の特性と生育状況**：本州と九州に分布し、林縁や草地に生える越年草。全草無毛で、茎には稜があり、地に伏し、長さ 1m 以上に達する。葉は互生し有柄、三角形で、長さ幅とも 7 ～ 12cm になり、2 ～ 3 回 3 出複葉。花は 7 ～ 10 月、鮮黄色で長さ 15 ～ 20mm、苞は狭卵形で幅 2 ～ 5mm。さく果は線状倒卵形で、幅 2 ～ 2.5mm、種子はほぼ 1 列に並ぶ。西多摩に分布するが少ない。

■ **生存を脅かす要因**：もともと少ない植物である。主に人為管理がなされている草地や林縁に生育し、管理の放棄が主な要因である。また、道端や造成地などにも生育することから、林道の維持管理、治水治山の工事などによっても個体数の多くが失われる危険がある。

■ **特記事項**：国外では、朝鮮半島から中国（東北）、台湾、シベリア東部に分布することから、大陸系の植物と考えられる。

執筆者 池田博・宮崎卓

文献一覧 63



ヤマブキシソウ

Hylomecon japonica

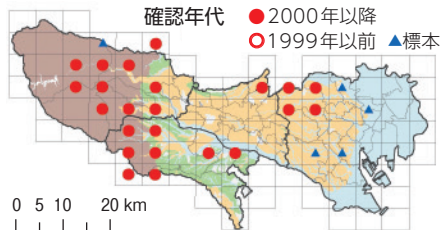
■ **種の特性と生育状況**：本州、四国、九州に分布する多年草。根生葉は羽状複葉で、小葉は 5 ～ 7 個。茎は高さ 30 ～ 40cm。花期は 4 ～ 6 月。花弁は黄色で 4 枚、長さ 2 ～ 2.5cm。さく果は線形で長さ 3 ～ 5cm、径約 3mm、直立し、やや多数の種子を含む。低地の明るい樹林内に生育する。都内では、段丘崖から丘陵や低山斜面下などの肥沃で明るい落葉樹林内に群生する。区部では、現存するが非常に少ない。また、北多摩は今回情報不足の判定となり、自生個体は確認できない状態である

■ **生存を脅かす要因**：区部、北多摩に関しては各種開発による土地造成、山林伐採である。南多摩、西多摩でも土地造成、山林伐採による影響はあるが、里山の管理放棄により、生育地が本種の生育に適さなくなったことも大きい。また、栽培目的による採取の対象でもある。

■ **特記事項**：情報不足の北多摩では、1960 年に清瀬市で採集された標本が都立大学牧野標本館にある。また、飯泉（1961）によれば、当時清瀬には群生地が見られたということである。

執筆者 池田博・宮崎卓

文献一覧 17, 25, 219, 270, 366



区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	DD	DD	VU	VU	
2010	NT				
1998		C			



八王子市 1993 年 9 月 11 日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	DD	DD	VU	VU	
2010					
1998					



八王子市 2019 年 10 月 8 日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	EN	EN	CR	DD	EN
2010	EX	EX	EX	EX	
1998					



日野市 2021 年 7 月 30 日

ハネガヤ

Stipa pekinensis

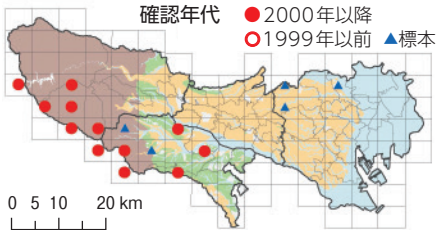
■ **種の特性と生育状況**：本州以北の丘陵地～山地に分布する大型の多年生草本。やや湿った草地や林縁、疎林下などに生育する。伐採跡地に生じた草地などにも出現することがある。葉は高さ 80 ～ 150cm で、分枝せずに直立する。葉は表面がざらつき、長さ 30 ～ 60cm。円錐花序は直立し、ざらつきのある枝が半輪生する。枝の上半部に、1 小花からなる有毛の小穂をまばらに付ける。護穎の中央脈は長さ 20 ～ 25mm のよじれた芒となって伸出する。花期は 8 ～ 9 月。都内では、南多摩の丘陵地の疎林下や西多摩の稜線付近の防火帯草地などに比較的多く見られるが、全体として減少傾向にある。また、区部と北多摩では自生地に関する情報が不足しており、絶滅が危ぶまれる。

■ **生存を脅かす要因**：植生遷移の進行による草地の樹林化や疎林の荒廃などが、生存を脅かす主な要因であると考えられる。

■ **特記事項**：自生地の保全や定期的な草刈りなどの適切な管理を継続的に実施することが望ましい。

執筆者 小林健人

文献一覧 25, 28, 168, 196, 243, 249, 270



メガルカヤ

Themeda barbata

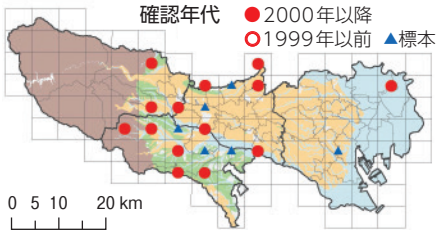
■ **種の特性と生育状況**：本州以西に分布する大型の多年生草本。谷戸の裾刈り草地や河川堤防の芝草地などの向陽草地に生育する。茎は直立し、高さ 70 ～ 100cm で株立ちとなる。葉は長さ 30 ～ 50cm で、脈間にはまばらに長毛がある。葉鞘には長毛が疎らに生える。葉腋から出る短い枝の先に総が付き、総は数個の苞状葉からなる。苞状葉の内部に 2 小花からなる小穂が 6 個付く。これらのうち、両性小穂の第 2 小花の護穎はねじれた長い芒となり、乾湿の変化と連動してこの芒が回転することで、小穂を地中に潜り込ませる性質がある。花期は 8 ～ 11 月。都内では、南多摩および北多摩の丘陵地の谷戸や河川堤防草地、西多摩の自然草地などに点々と分布するほか、区部でもわずかに記録されているが、全域で減少傾向にある。

■ **生存を脅かす要因**：各種開発による自然草地の減少、丘陵地の谷戸の管理放棄や植生遷移の進行などが生存を脅かす主な要因であると考えられる

■ **特記事項**：適度な草刈りを継続し、本種の生育環境である草地環境を維持することが望ましい。また、河川堤防草地等の自生地においては、刈り取り時期の見直しや選択的草刈りの実施などが本種の保全に際して効果的である。

執筆者 小林健人

文献一覧 14, 25, 28, 30, 196, 243, 249, 270



マツモ

Ceratophyllum demersum

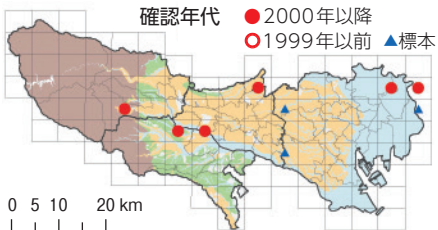
■ **種の特性と生育状況**：全国の湖沼やため池、河川や水路などに生育する沈水性の浮遊植物。茎は盛んに分枝、葉は 5 ～ 8 輪生し裂片の縁には鋸歯がある。5 ～ 8 月、茎の節に雌雄別々の花をつけるが、開花を見ない集団も存在する。果実には 3 本の刺状突起がある。都内では河川中～下流域の流れの緩やかな水系に生育地が散在していたが、高度成長期に激減し、区部および多摩部の河川や用水路中にわずかな産地が残されているに過ぎない。

■ **生存を脅かす要因**：河川改修等による生育地の消滅、水質汚濁、外来生物による食害などのほか、近年は、河川の異常出水による散逸などが懸念される。

■ **特記事項**：葛飾区水元には果実上方にさらに 2 本の突起があるゴハリマツモの記録がある（本田ほか 1970）。

執筆者 内野秀重

文献一覧 28, 177, 179, 289, 290, 294



	区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	●	●	EN	VU	VU	
2010	●	●	VU	VU		
1998						



青梅市 2019年5月15日

	区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	CR	EN	EN	VU	VU	
2010	EN	EN	VU	VU		
1998	A		C			



八王子市 1997年4月25日

	区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	DD	DD	VU	NT	VU	
2010						
1998						



八王子市 2021年10月23日

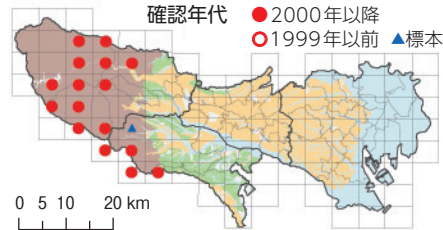
被子植物 メギ科
ルイヨウボタン <i>Caulophyllum robustum</i>

■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州、四国、九州に分布する多年草。高さ40～70cm。茎葉は2～3回3出複葉。小葉は長楕円形で全縁、長さ4～8cm、幅2～4cm、先端はとがる。花は4～6月に咲き、緑黄色で径8～10mm、約10個が集散状につく。液果状の種子は球形で青色、径約8mm、それぞれに肥厚した珠柄をもつ。南多摩と西多摩の山地域、暖温帯上部から冷温帯の渓谷に面した疎林内、林縁などに生育する。

■ **生存を脅かす要因**：増水による溪流沿いの斜面崩壊、山林荒廃など。山林の適切な管理が望まれる。栽培目的の採取の対象にもなる。

■ **特記事項**：南多摩の山地域に関しては、都立大学牧野標本館に複数の産地の標本があるが、全て1960年代以前のものである。近年の確認個体はきわめて限られている。また、シカなどの食害に関しては、今のところ免れている。

執筆者	池田博・宮崎卓
文献一覧	17, 168, 173, 243, 366



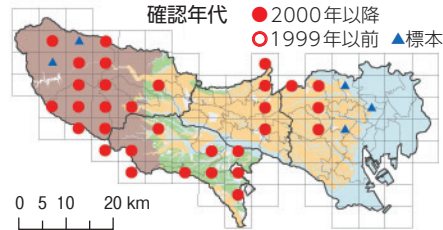
被子植物 メギ科
イカリソウ <i>Epimedium grandiflorum</i> var. <i>thunbergianum</i>

■ **種の特性と生育状況**：北海道（西南部）、本州（主に太平洋側）、九州に分布する多年草。地下茎は発達してひげ根を多数出す。地上茎は高さ20～40cm、葉は1～3回3出羽状複葉。小葉は卵形、長さ3～10cm、基部は心形、縁には刺状の毛が生える。葉の表面は無毛、裏面には開出毛が生える。花期は4～5月。花弁には長さ15～20mmの距がある。主として山地の落葉広葉樹林の林床に生育する。区部、北多摩、南多摩から西多摩の山地、丘陵地の主に雑木林とその林縁に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：区部、南多摩、北多摩では、宅地造成などにより自生地が失われた。また、開発を免れた生育地も、雑木林の管理放棄により個体群が衰退したところが多い。園芸目的の採取によっても生存が脅かされている。

■ **特記事項**：南多摩の雑木林では、管理放棄によりアズマネザサや常緑樹の稚樹が茂り、林内が暗くなったことによって本種が激減したと考えられる。里山として利用していた時代の雑木林の管理手法が、本種の生育に適していたと考えられる。

執筆者	池田博・宮崎卓
文献一覧	43



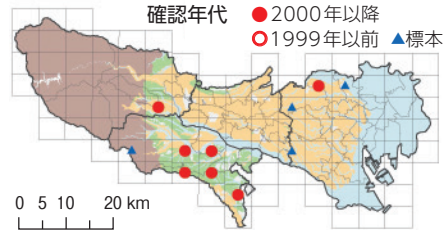
被子植物 キンポウゲ科
ツクバトリカブト <i>Aconitum japonicum</i> subsp. <i>maritimum</i>

■ **種の特性と生育状況**：本州（東北地方～関東地方、長野県）に分布する多年草で、ヤマトリカブトの亜種とされる。茎の高さ60～150cm、茎葉の葉身は五角形～五角形状円形、3全裂～3深裂し、ヤマトリカブトよりも切れ込みが深い。花は長さ5～10cmの小型の円錐花序に2～6個ほどつく。花柄には屈毛が生える。上萼片は僧帽形で嘴は長いか、あるいは時に円錐形で嘴は短い。袋果は16～20mmで直立する。林道沿いなどの明るい林縁や林内、山裾の草地に生育する。区部では少数ながらも現存する。北多摩では標本は残されているものの、現存は確認されていない。南多摩では部分的には多いが、その分布は偏在している。西多摩では生育環境も残っており、一定の個体数が残っている。

■ **生存を脅かす要因**：区部、北多摩では、都市開発による土地造成、原野や山林の改変である。南多摩でも、丘陵部の開発による山林伐採、草地の造成、雑木林や人為草地の管理放棄が減少要因となっている。

■ **特記事項**：本亜種は1987年に記載されたため、それ以前に採集された本亜種の標本は別名で標本庫に入っている可能性がある。本亜種の学名の変遷を把握して、過去の記録とも照合した上で現在の分布を把握することが望ましい。

執筆者	池田博・宮崎卓
文献一覧	63, 99, 243, 270, 366, 371



	区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	●	●	DD	EN	EN	
2010	●	●	●	VU		
1998				C		



2011年6月16日

	区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	EX	CR	EN	EN	EN	
2010	EX	EX	CR	CR		
1998	UK			C		



八王子市 1987年5月29日

	区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	●	●	EX	EN	EN	
2010	●	●	●	CR		
1998						



奥多摩町 2019年5月29日

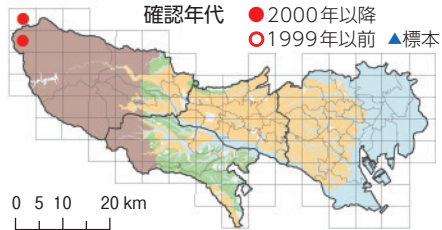
被子植物 ケシ科
オサバグサ <i>Pteridophyllum racemosum</i>

■ **種の特性と生育状況**：本州（中部以北）に分布する多年草。葉は長さ10～20cm、幅2.5～3cm、羽片は幅約3mm。花期は6～8月。花茎は高さ15～25cmになり、総状花序に花をつける。花序は長さ5～15cm。花は白色で、花弁は長さ約5mm。亜高山帯針葉樹林内に生育する。西多摩の亜高山帯の林床に生育する。生育地ではある程度の個体数が見られるが、東京都では、分布域の亜高山帯の面積自体が非常に狭いため、希少な種と言える。また、南多摩にも記録があるが、現状は不明である。

■ **生存を脅かす要因**：亜高山帯の植物であるため、もともと分布域が局限されている。自生地は国立公園内であり、本種の採取は禁止されているが、美しい植物であるため盗掘の対象になる。近年、亜高山帯でもシカの食害が確認されており、本種に関してもシカの食害が危惧される。

■ **特記事項**：南多摩では暖温帯上部からの報告であり、自生地は深い渓谷部の岩礫地であるという。したがって生育地は、日射時間が短く、溪流の飛沫により夏季の暑さがやわらぐ立地ではないかと考えられる。再発見を期すには、そのような立地を注意深く探す必要がある。

執筆者	池田博・宮崎卓
文献一覧	136, 173



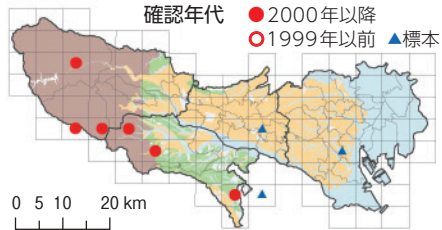
被子植物 ツヅラフジ科
コウモリカズラ <i>Menispermum dauricum</i>

■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州、四国、九州に分布する木本性つる植物。葉は腎円形、葉身は5～9浅裂し、基部は浅い心形または切形、長さ幅ともに7～13cm。葉柄が楕状につく。5～6月ごろ、円錐花序に淡緑色の小さな花を多数つける。果実は黒熟し腎円形、長さ約8mm。攪乱地や林縁の不安定立地に生育する。分布は局所的であり、西多摩や南多摩の山地から丘陵地にかけて散在する。

■ **生存を脅かす要因**：山林の開発や崖崩れ防止の工事、里山の管理の放棄など。元来、本種は林縁などの不安定立地に生育し、自然、人為の様々な攪乱、ストレスにより、開花結実しにくい条件下で生育している。

■ **特記事項**：本種は大陸系の遺存植物といわれており、熱帯、亜熱帯を中心に分布する日本産ツヅラフジ科では、数少ない温帯域中心の分布を示す。そのため、都内本土部の全域に記録はあるものの、地質の古い西多摩が分布の中心ではないかと考えられる。

執筆者	池田博・宮崎卓
文献一覧	17, 63, 173



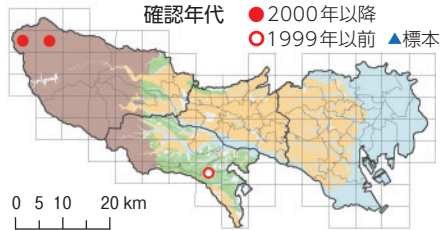
被子植物 メギ科
ヒロハヘビノボラズ <i>Berberis amurensis</i>

■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州、四国、九州の石灰岩地や超塩基性立地に分布する落葉低木。茎は高さ3mほどに達し、幹は分枝し灰褐色、縦に稜と溝がある。葉は倒卵形から楕円形、鈍頭から円頭、長さ3～10cm、幅1.5～3cm。花期は5～6月頃、短枝の先にやや垂れる総状花序を出し、花は十数個で黄色、径約6mm。果実は楕円形で長さ10～11mm、赤熟する。西多摩の石灰岩地に生育する。南多摩にも記録はあるが、現存は確認出来ていない。

■ **生存を脅かす要因**：元来少ない植物である。露岩地に生育するため、自然災害による消失も危惧される。栽培目的の採取対象にもなる。茎や葉には刺があるため、シカなどの食害は免れていると考えられる。

■ **特記事項**：西多摩での分布には地質との関係が考えられる。南多摩は非石灰岩地であるため、本種は痩せた露岩地、土壌の薄い立地に生育していたと考えられる。

執筆者	池田博・宮崎卓
文献一覧	168, 173, 205



	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020			CR	EN	EN	
2010			CR	CR		
1998			A			



青梅市 2021 年 2 月 9 日

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	EN	NT	NT		NT	
2010	NT	NT				
1998						



八王子市 1986 年 4 月 24 日

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	VU	NT	NT	NT	NT	
2010						
1998						



八王子市 2021 年 4 月 8 日

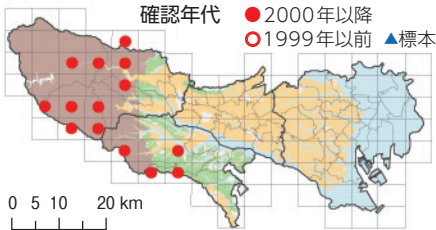
	被子植物 キンポウゲ科

■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州、四国、九州に分布する多年草。茎は高さ 15 ～ 30cm。葉は互生し、3 ～ 4 回羽状に分裂する。花期は 3 ～ 4 月。花は黄金色、径 3 ～ 4cm、数個の萼片と 20 ～ 30 個の花弁がある。花弁は長さ 2cm 内外で、萼片より長い。そう果は倒卵形で長さ 4 ～ 5mm、全体に短毛が生える。南多摩および西多摩の山地の落葉広葉樹林内に生育し、適湿で肥沃な明るい林床を好む。

■ **生存を脅かす要因**：栽培目的の採取や、生育地であった里山の管理放棄があげられる。また、個体数を増やす目的で他地域の個体を山林に植えることがあるが、遺伝的な攪乱を生じる危険があり、好ましくない。

■ **特記事項**：本種には、「里に下ろす」という概念で、人家周囲の山林にまとめて植えられている個体かなりある。土地の所有者（フクジュソウの所有者）の理解を得たうえで、これらの個体の産地に関する聞き取りや、フクジュソウの保全への協力を得ることが望ましい。ミチノクフクジュソウ *A. multiflora* を含む。

執筆者 池田博・宮崎卓
文献一覧 17, 152



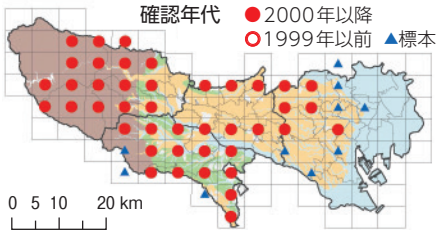
ニリンソウ	被子植物 キンポウゲ科
<i>Anemone flaccida</i>	

■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州、四国、九州に分布する多年草。葉は 3 全裂し、側裂片はさらに 2 深裂する。4 ～ 5 月頃、花茎の先に径 2cm ぐらいの花を 1 ～ 4 個つける。萼片は 5 ～ 7 枚、楕円形で白色、裏面はときに紅色を帯びる。そう果は楕円形で細毛を密生する。台地から丘陵地、山地まで分布し、段丘崖、谷筋などの適湿土壤に群落を形成する。区部や北多摩では都市の保全緑地に残っているが、生育地は限られている。南多摩では丘陵部での個体数の減少が著しい。西多摩ではランク外である。

■ **生存を脅かす要因**：都市整備、宅地開発による山林伐採、土地造成など。また、生育地である雑木林の管理が廃れることによって、必要な明るさが維持できず個体数が減少した。過去には山採りによって減少したこともある。

■ **特記事項**：早春に開花し、初夏には地上部が枯れてしまう生活形は、カタクリやフクジュソウなどと同様である（「春植物」、または「スプリング・エフェメラル」などと呼ばれる）。そのため、地上部のない休眠期間が長く、本種の確認が春季の調査でしか行えず、分布状況把握の支障となっている。

執筆者 池田博・宮崎卓
文献一覧 17, 266



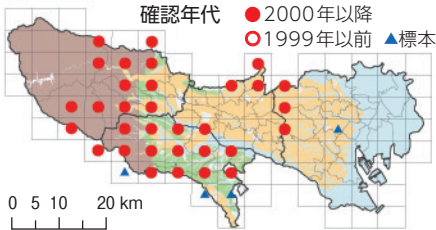
	被子植物 キンポウゲ科
---	----------------------------

■ **種の特性と生育状況**：本州、四国、九州に分布する。草地や林縁に生える多年草。根茎は水平に伸び、時に匍枝を出す。茎は直立し、高さ 18 ～ 40cm。根生葉は 1 ～ 2 回 3 出複葉で、小葉は両面無毛で広卵形、羽状に深く切れ込む。茎葉は 3 個で輪生し、3 全裂する。花期は 4 ～ 5 月。花は白色で頂生し、径 2.5 ～ 6cm。日当たりの良い雑木林、林縁を主な生育地としており、緑地そのものが少ない区部では減り方が顕著であり、今回絶滅危惧種に追加された。

■ **生存を脅かす要因**：区部では、各種開発による山林（雑木林、屋敷林等）伐採、土地造成が要因として大きい。北多摩、南多摩、西多摩では、上記の要因に加え、雑木林の管理放棄により、生育地が暗くなったことによる影響も大きい。また、栽培目的の採取などもある。

■ **特記事項**：北多摩は準絶滅危惧判定であるが、場所によってはニリンソウに比べ、かなり少ないという調査結果もあり、必ずしも現状を楽観視できない。

執筆者 池田博・宮崎卓
文献一覧 64



	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020			EN	EN	EN	
2010			VU	VU		
1998			B			



八王子市 1997 年 10 月 2 日

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020			CR	CR	CR	
2010			CR			
1998			C			



奥多摩町 2010 年 8 月 26 日

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020				CR	CR	
2010				CR		
1998			C			



北海道 1991 年 6 月 5 日

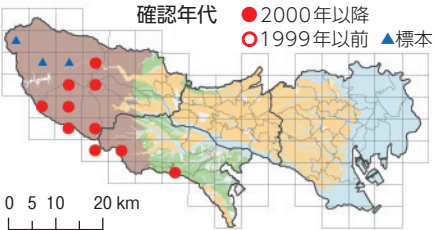
	被子植物 キンボウゲ科

■ **種の特性と生育状況**：本州（中部以北）に分布する多年草。茎は長さ 80 ～ 150cm。根生葉には柄があり、腎円形、5 ～ 7 中裂し、裂片は浅裂する。茎葉は小型、葉柄は短い。花期は 8 ～ 10 月。花序は総状で花序軸と花柄には曲がった毛が生える。雄しべは無毛。雌しべは 3 個で曲がった毛が生える。西多摩および南多摩の山地に分布する。南多摩の丘陵部にも記録があり、一部で域外保全されている。

■ **生存を脅かす要因**：丘陵部では山林伐採や土地造成が、山地域では樹林管理の放棄が主な要因と考えられる。また、本来は毒草ではあるが、西多摩ではシカの食害を受けていると考えられる。

■ **特記事項**：山地域でも、林内に光の通る夏緑広葉樹林内やその林縁に見られる。自然性が高い山地域の樹林である、モミヤカシ類の優占した樹林内は生育立地として向いていないと考えられる。

執筆者 池田博・宮崎卓
文献一覧 17, 152, 243



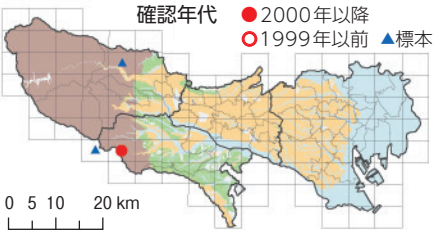
フジレイジンソウ <i>Aconitum</i> × <i>fudjisanense</i>	被子植物 キンポウゲ科
--	----------------

■ **種の特性と生育状況**：本州（東京西南部、神奈川?）に分布する多年草。茎は直立し、長さ 30 ～ 80cm で稜がある。葉は互生し、掌状に 5 ～ 7 中裂し、粗い鋸歯がある。花期は 8 ～ 10 月。花は淡紅紫色、総状花序につき、下から順に咲く。萼片の外面や花柄、花序の中軸には開出毛が生える。アズマレイジンソウに比べ、茎下部に稜があること、花柄や萼片基部に屈毛だけでなく開出毛が生えることなどで区別される。山地の樹林内に生育する。南多摩、西多摩の山地域に分布するが非常に少ない。

■ **生存を脅かす要因**：個体数が非常に少ない。レイジンソウとアズマレイジンソウの交雑起源と考えられ、種子による生殖能力も弱いと考えられる。管理放棄による林内のササ、ネザサ類などの鬱閉、自然災害などによる生育地の消失、改変などが生存を脅かす要因として考えられる。

■ **特記事項**：種子での繁殖力は非常に弱く、効率的な繁殖方法を確立し、早急な保全対策を講じる必要がある。

執筆者 池田博・宮崎卓
文献一覧 97, 99, 243, 253



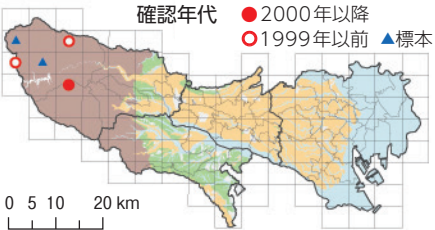
	被子植物 キンポウゲ科

■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州、四国、九州に分布する多年草。茎は高さ 40 ～ 70cm で分枝しない。葉は 2 ～ 3 回 3 出複葉。小葉は卵形または狭卵形で長さ 4 ～ 10cm、ときに 3 裂し、鋭尖頭。花期は 5 ～ 6 月。茎頂に短い総状花序をつける。花は白色。花弁はへら形で基部は狭まって爪になり、長さ 2 ～ 3mm。雄しべは長さ 4 ～ 6mm。液果は黒色、球形で径約 6mm。西多摩の石灰岩が分布する山地の冷温帯の落葉樹林内に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：自生地がもともと少ない局所分布の種である。また、毒性を持つと思われるが、シカなど動物の食害も懸念される。栽培目的の採取対象にもなる。

■ **特記事項**：都立大学牧野標本館の標本の採取地は概ね石灰岩の分布域に一致する。そのため、本種の分布には地質要因がはたらいっている可能性が考えられる。

執筆者 池田博・宮崎卓
文献一覧 152, 168, 173, 364, 366



	区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	●	●	EX	EN	EN	
2010	●	●	EX	VU		
1998				C		



三頭山 2008 年 7 月 2 日

	区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	EX	VU			VU	
2010	●	NT				
1998		C				



© 内野秀重

八王子市 2020 年 11 月 3 日

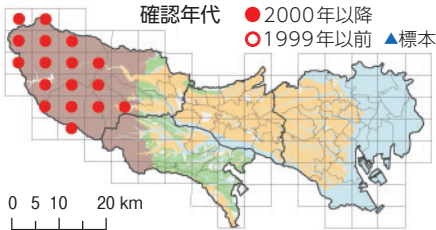
	区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	●	●	●	CR	CR	
2010	●	●	●	CR		
1998				B		



山梨県 1995 年 6 月 13 日

被子植物 キンボウゲ科
ヤマオダマキ <i>Aquilegia buergeriana</i>

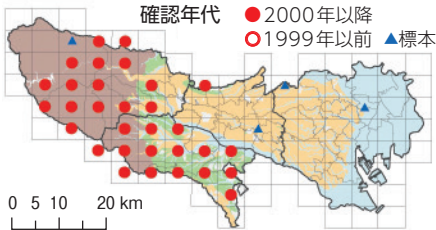
- **種の特性と生育状況**:北海道、本州、四国、九州に分布する多年草。茎は高さ30～70cmで、上部に軟毛が多い。小葉は扇形で長さ2.5～3.5cm。花期は6～8月。花は径3～3.5cm。萼片は狭卵形で紫褐色、花弁は黄色で長さ1.2～2.5cm、基部は距となる。袋果は長さ1.5～2cm、腺質の毛が密生する。温帯から亜寒帯の山地の林縁や道ばたの草むらに生育する。都内では、西多摩の山地草原や林道沿いの日当たりの良い場所に生育する。
- **生存を脅かす要因**:生育地が管理された草地や林縁の場合、管理の放棄による植生遷移の進行が考えられる。また、栽培目的の採取の対象ともなる。有毒植物ではあるが、草食動物への忌避効果は疑問であり、動物の食害も危惧される。
- **特記事項**:山間部では、人家に植えてあるのをよく見かける。他地域から導入したもの（園芸店で買った個体）の場合、このような栽培品から逸出したものが野生の在来品と誤認されるおそれがある。また、逸出品と在来品との交雑による遺伝子汚染も危惧される



執筆者 池田博・宮崎卓
文献一覧 17, 173

被子植物 キンボウゲ科
サラシナショウマ <i>Cimicifuga simplex</i>

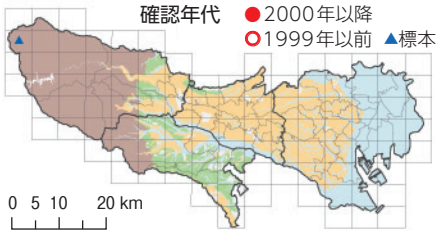
- **種の特性と生育状況**:北海道、本州、四国、九州に分布する多年草。茎は高さ40～150cm。根出葉や下部の茎葉は3回3出複葉で大きく、上部の茎葉は2～3回複葉で葉柄は短い。8～10月に、長い総状花序を出す。花は白色、萼片は広楕円形、長さ4～5mm、花弁は長さ3～5mm。袋果は長さ約1cmで、柄がある。種子には鱗片がある。草原や林縁、落葉広葉樹林内などに生育する。台地から丘陵地、山地の樹林内から林縁の適湿地に広く分布しているものの、区部では近年の確認はなく、北多摩でも減少が著しい。
- **生存を脅かす要因**:都市化による緑地面積の減少により、多くの個体が失われたと考えられる。森林伐採、土地造成が主な要因である。
- **特記事項**:区部については、都立大学牧野標本館には1898年に北区田端道灌山で採集された標本と、1938年に練馬区大泉で採集された標本があり、そのころまでは生育していたと考えられる。檜山(1965年)には「林下―少」とのみあり、産地名はあげられていない。



執筆者 池田博・宮崎卓
文献一覧 17, 194, 366

被子植物 キンボウゲ科
ミヤマハンショウヅル <i>Clematis alpina</i> subsp. <i>ochotensis</i> var. <i>fusijamana</i>

- **種の特性と生育状況**:北海道、本州(中部以北)に分布する木本性のつる植物。葉は2回3出複葉、小葉は卵状披針形。花は6～8月に新しい枝に頂生する。萼片は4枚、卵形で先はとがり、長さ2.5～3.5cm、紫色、縁には白毛を密生する。花弁は多数あり、へら型で細い毛が生え、蜜は分泌しない。そう果は倒卵形、長さ3～4mm、花柱は花後に伸張り羽毛状、長さ2.5～3.5cm。西多摩の冷温帯から亜高山帯に生育するが、個体数は非常に少ないと推測される。
- **生存を脅かす要因**:冷温帯から亜高山帯に分布の中心があるため、もともと東京都では垂直分布域が極めて狭く、個体数が少ないと考えられる。また、シカなどの草食動物の食害にあっていると推測され、「シカのいるところではほとんど消滅」との報告が今回の調査でなされた。乱獲の実情は不明だが、市場に出回っており、栽培目的の乱獲対象となり得る。
- **特記事項**:栽培方法が確立されており、今後、自生地の個体数の減少が著しい場合は、播種、挿し木などによる増殖も検討する必要がある。



執筆者 池田博・宮崎卓
文献一覧 152, 168, 173

	区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	●	●	EN	CR	EN	
2010	●	●	CR	CR		
1998						



八王子市 1996 年 3 月 24 日

	区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	CR	CR	VU	VU	VU	
2010	EX	VU	VU	VU		
1998		A				



八王子市 1997 年 3 月 30 日

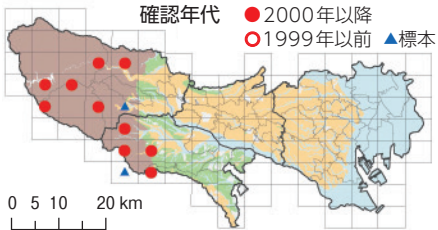
	区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	●	●	CR	VU	EN	
2010	●	●	CR	VU		
1998				A		



青梅市 2000 年 8 月 29 日

被子植物 キンボウゲ科
キクザキイチゲ <i>Anemone pseudoaltaica</i>

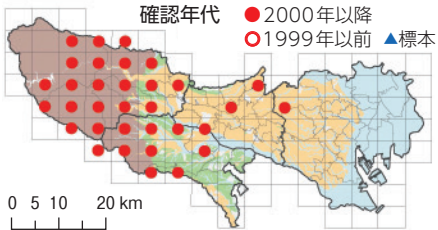
- **種の特性と生育状況**:北海道、本州(近畿以北)に分布する多年草。根生葉は2回3出複葉。花茎は高さ10～30cm、茎葉は3枚が輪生し、3出複葉で、小葉は羽状に深裂する。3～4月頃、径2.5～3cmの花を1個、花茎に頂生する。萼片は8～13枚で、線状長楕円形、淡紫色または白色。そう果は卵形で、細毛が密生する。西多摩では低地に分布し、非常に少ない。南多摩では小仏地域など低山に散在する。
- **生存を脅かす要因**:生育地は何らかの形で、里山として管理、利用されてきた樹林が多いため、管理放棄によるネズミ類や常緑樹による被圧が主な要因と考えられる。また、栽培目的の採取の対象にもなる。
- **特記事項**:神奈川県では、主にブナ帯(冷温帯)に生育するが、東京都では、むしろシイ・カシ帯(暖温帯上部)に分布の中心がある。隣接地域どうしで本種の垂直分布域が大きく異なっている要因については、今後の地域フロー研究の課題である。



執筆者 池田博・宮崎卓
文献一覧 99, 168, 173, 219, 243

被子植物 キンボウゲ科
アズマイチゲ <i>Anemone raddeana</i>

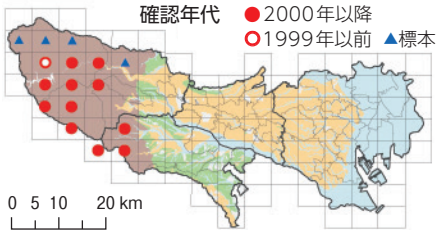
- **種の特性と生育状況**:北海道、本州、四国、九州に分布する多年草。根生葉は2回3出複葉。花茎は高さ15～29cm、長軟毛があるが、落ちやすい。茎葉は3枚が輪生し、3出複葉。3～4月頃、径2～3cmの花が1個、花茎に頂生する。萼片は8～13枚で、線状長楕円形、白色で裏面はやや紫色を帯びる。落葉樹林の樹林内や林縁、ときに草地にも生育する。区部、北多摩の丘陵部では管理された雑木林などに生育するが非常に少ない。南多摩の山地域と西多摩では、管理された樹林や明るい林内(常緑樹が少ない林分)、林縁などに生育する。
- **生存を脅かす要因**:区部、北多摩においては都市化による緑地面積そのものの減少が本要因である。東京都全域を通じては、山林伐採、土地造成、それに樹林の管理放棄が主な要因である。また、栽培目的の採取の対象ともなる。
- **特記事項**:檜山(1965)の時点で、武蔵野(北多摩と区部を含む)全体で「稀」と記されている。



執筆者 池田博・宮崎卓
文献一覧 173, 219, 270

被子植物 キンボウゲ科
レンゲショウマ <i>Anemonopsis macrophylla</i>

- **種の特性と生育状況**:本州(福島県から奈良県の太平洋側)に分布する多年草。茎は高さ40～80cm。葉は大型で2～4回3出複葉。花期は7～8月。花は径3～3.5cm。萼片は長楕円形で先は円く、長さ1.5～2cmで淡紫色。花弁は倒卵形で長さ1.2cm、開出せず、淡紫色でしばしば濃色となる。袋果は無毛で長さ1.5～2cm。落葉広葉樹林の林内や林縁に生育する。南多摩では山地に分布するが、非常に少ない。西多摩では山地に点在する。
- **生存を脅かす要因**:樹林の管理放棄や不適切な管理、登山道の変更、動物による食害などが本要因である。また、栽培目的の採取の対象にもなる。西多摩では、シカの食害により開花が見られない個体もある。
- **特記事項**:栽培品もよく見かけるが、他地域のものを野外や公園などに導入した場合、遺伝子汚染が危惧される。



執筆者 池田博・宮崎卓
文献一覧 17, 173

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	－	－	VU	－	VU	
2010						
1998						



八王子市（植栽）2008年4月21日

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	●	●	●	EN	EN	
2010	●	●	●	CR		
1998				A		



神奈川県 2009年3月9日

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	●	●	●	VU	VU	
2010	●	●	●	CR		
1998				A		



奥多摩町 2018年4月23日

シロバナハンショウヅル

Clematis williamsii

被子植物
キンボウゲ科

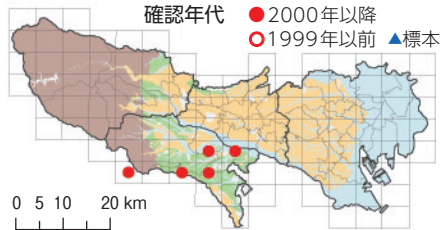
■ **種の特性と生育状況**：本州（関東南部から近畿南部の太平洋側）、四国、九州に分布するつる性の半低木。葉は1回3出複葉、小葉は卵形または長楕円形で3中裂する。花は1個で広鐘形。花期は4～6月。そう果は卵形、長さ4～5mmで冠毛がある。神奈川県では比較的多く、隣接する南多摩に点々と分布している。主に日当たりの良い林縁などに生える。

■ **生存を脅かす要因**：一般的には、林縁、樹林の管理放棄。また、開発による山林の伐採、土地造成が該当する。

■ **特記事項**：都市公園内で確認される例が多いため、施設などの維持管理の工事の際などは十分に留意する必要がある。近年確認された種であるが、もともと神奈川県では少なくとも、内陸部にも分布する。このため、温暖化による侵入者ではないと判断される。本種のように、神奈川県では比較的普通でありながら、東京都で少ない種には他にもキケマン、クサネム、ツルフジバカマなどがある。このような種の存在は今後解明すべき、地域フローラの課題である。

執筆者池田博・宮崎卓

文献一覧99, 143



ウスギオウレン

Coptis lutescens

被子植物
キンボウゲ科

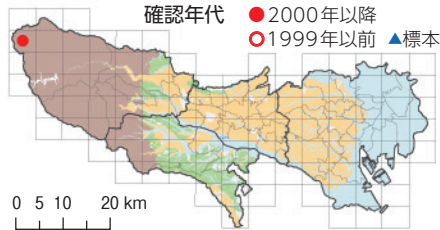
■ **種の特性と生育状況**：本州（東京、神奈川、山梨、静岡、長野）に分布する多年草。根茎は太く、多数のひげ根がある。根生葉はやや厚く、光沢がある。2回3出複葉から3回3出複葉で、縁には不揃いな鋭鋸歯がある。花期は3～4月。オウレンに似るが、萼片は狭く縁がやや波打ち、淡黄緑色。花弁は萼片より短く、同色または淡紫色を帯びる。西多摩の主に亜高山針葉樹林に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：主に亜高山帯に分布し、分布域が非常に狭い。鈴木（1984）の時点で、「亜高山帯に少ない」とある。また、鹿柵内に多いという報告があり、鹿柵の外では被害を受けていると見られる。栽培目的の採取の対象にもなる。

■ **特記事項**：隣接の神奈川県では、冷温帯を中心に本種が分布している。西多摩でも、より低標高域で確認される可能性がある。

執筆者池田博・宮崎卓

文献一覧99, 136, 168, 173



バイカオウレン（ゴカヨウオウレン）

Coptis quinquefolia

被子植物
キンボウゲ科

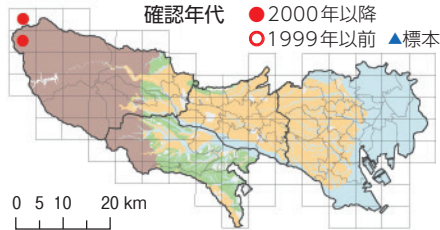
■ **種の特性と生育状況**：本州（福島以南）、四国に分布する多年草。匍枝を出して繁殖する。根生葉は鳥足状複葉で、小葉は5枚、倒卵形で3中裂する。花茎は高さ4～15cmで、上部に小型の苞をつけ、5～6月に1個の花が頂生する。花は径12～18mm、萼片は5枚で倒卵形、白色。花弁は黄色で腋部は浅い杯状。袋果は長さ6～9mm、柄は5～6mm。針葉樹林の樹林内や林縁に生育する。主に、西多摩の高標高地（主に亜高山帯）の針葉樹林内に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：もともと分布域の狭い局所分布の種である。東京都での分布は高標高域に限られ、かつ石灰岩の分布に対応している。また、シカなどの被害を受けていることも考えられる。栽培目的の採取の対象にもなる。

■ **特記事項**：西多摩での本種の分布は雲取山周辺、雲取～日原間など、概ね石灰岩の分布にも対応している。今後の本種の分布調査において、石灰岩との関係は留意しておくべきと考える。

執筆者池田博・宮崎卓

文献一覧136, 168, 173, 364, 366



	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	●	－	－	CR	CR	
2010	●	●	CR	CR		
1998						



岡山県 2007年7月23日

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	EX	CR	CR	CR	CR	
2010						
1998						



日野市 2018年5月1日

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	●	●	●	CR	CR	
2010	●	●	●	CR		
1998						



三頭山 2018年5月5日

フジセンニンソウ

Clematis chinensis var. fujisanensis

被子植物
キンボウゲ科

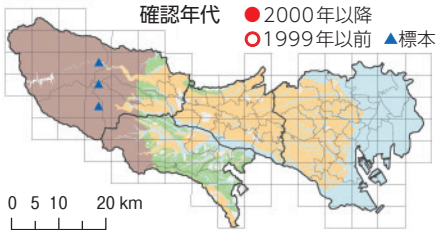
■ **種の特性と生育状況**：本州（関東南部から東海、岡山）、四国、九州に分布する木本性のつる植物。葉は羽状複葉で、小葉は多くは5枚で、ほぼ卵形。花期は8～9月頃。花序は円錐状。花弁状の萼片は白色で4枚、倒披針形。花柱には銀白色の長い毛を生じる。そう果は楕円状卵形。センニンソウに比べ葉が薄く、先がとがる傾向がある。また、乾燥させると植物体が黒くなる。一般に、日当たりの良い低木林や林縁に生育する。西多摩に記録があるが、今回の調査期間中には確認されなかった。また、都立大学牧野標本館には、1937年に青梅市御岳山で採られた標本がある。

■ **生存を脅かす要因**：元来記録が非常に少なく、分布情報の収集継続が望まれる。生態的には陽地生であり、樹林管理の放棄が生存を脅かす要因と考えられる。

■ **特記事項**：本種は中央構造線に沿って日本列島を分布する襲速紀要素の種かもしれない。もしそうであれば、分布東限が都内に達している、稀少な例となる。

執筆者池田博・宮崎卓

文献一覧198, 366



シロバナカザグルマ

Clematis patens f. leucantha

被子植物
キンボウゲ科

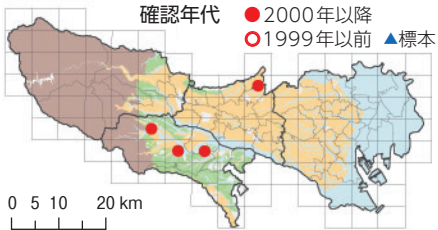
■ **種の特性と生育状況**：本州、四国、九州（北部）に分布する木本性のつる植物。茎は褐色で木化する。葉は羽状複葉、小葉は3～5枚。花期は5～6月。花は径7～12cm。萼片は花弁状で通常8枚、白色、狭倒卵形。そう果は広卵形で長さ5mm、長い毛が生える。林縁に生える。都内では、台地部崖線から丘陵地、山地下部の林縁に生育する。南多摩では段丘崖の林縁や川筋の落葉広葉樹林の林縁などに残存している。

■ **生存を脅かす要因**：自生地は極めて限定されており、園芸目的の採取、生育地の管理放棄、各種開発が主な要因とされる。自生地の保全管理にあたっては、林縁整備などの際に、木化した地下茎が除去されないように注意が必要である。

■ **特記事項**：カザグルマの仲間は栽培方法が確立されており、栽培下での発芽率もよく、挿し木でも活着する。栽培により、個体を増やして自生地に戻す増殖方法も有効と考えられる。

執筆者池田博・宮崎卓

文献一覧17, 263



トリガタハンショウヅル

Clematis tosaensis

被子植物
キンボウゲ科

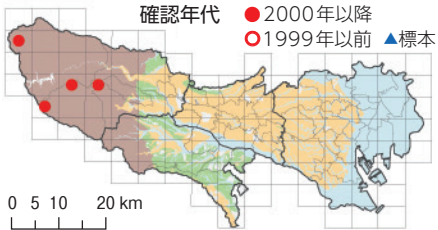
■ **種の特性と生育状況**：本州、四国、九州に分布する木本性のつる植物。葉は長い柄のある3出複葉で、小葉は卵状長楕円形で長さ2～8cm、鋭頭。花期は4～5月。前年枝の葉腋から長さ2～7cmの花柄を出し、淡黄白色で鐘状の花を下垂させる。萼片は花弁状で4個、長さ15～25mm、先端はやや反り返る。西多摩のごく限られた山地の落葉樹林の林縁に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：局所分布の種である。有毒植物ではあるが、草食動物への忌避効果は疑問であり、動物の被害も危惧される

■ **特記事項**：都立大学牧野標本館の標本では、採取地が石灰岩（雲取山など）、斑レイ岩（三頭山）の分布に対応しており、本種の分布には地質や地史が関係すると考えられる。

執筆者池田博・宮崎卓

文献一覧126, 152, 173, 364, 366



	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	EX	EX	EX	CR	CR	
2010	EX	EX	EX	CR		
1998						



羽村市 2018 年 8 月 15 日

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	EW	EX	●	●	EW	VU
2010	EX	●	●	●		
1998						



板橋区 1915 年 4 月 25 日

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	EX	●	CR	CR	CR	
2010	EX	●	CR	CR		
1998						



八王子市 2007 年 8 月 13 日

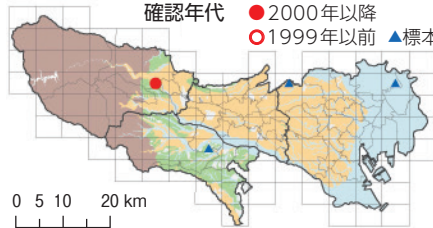
	被子植物 キンボウゲ科
2020	●
2010	●
1998	●

■ **種の特性と生育状況**：北海道と本州に分布する沈水～抽水性の多年草。茎は長さ1～2m。沈水葉は長さ2～7cm、葉身は3～4回3出し、裂片はさらに2分裂して、全体は房状になる。花は葉腋に単生し、径約1.5cm、萼片、花弁ともに5枚。花弁は薄く、白色で光沢がない。花柄は長さ3～5cm で、花後さらに伸びる。西多摩東部では主に用水路に残っており、非常に少ない。浅い流れの水域で、湧水などの流入のある清流を好む。

■ **生存を脅かす要因**：水質悪化や水量の減少、集中豪雨などによる河川増水や浸食、外来種との競合、栽培目的の採取などが本要因である。また、用水路に残っている例がほとんどであることから、用水路の工事、改修などによる影響も危惧される。

■ **特記事項**：鈴木ほか（2014）では、東京都の用水路2か所（内1カ所は湧水の流入あり）で本種が確認されている。また、その内の1カ所では「まとまった群落を形成した」という。現在では、富栄養化の進んでいない用水路が、本種の主な生育地になっているようである。

執筆者	池田博・宮崎卓
文献一覧	17, 174, 245



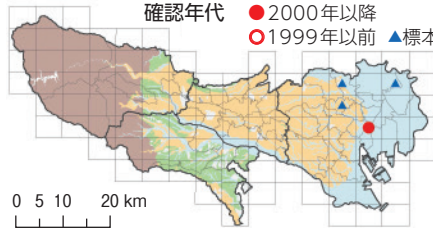
	被子植物 キンボウゲ科
2020	●
2010	●
1998	●

■ **種の特性と生育状況**：本州（関東以西）、四国、九州に分布する多年草。茎は高さ10～30cm、全体に毛を散生する。根生葉の葉身は掌状で3～5浅裂から深裂する。花期は4～5月。花は黄色。集合果は広楕円形、そう果は円形で径1.2mm。日当たりの良い湿った草地、河川敷の低茎草地に生育する。区部の千代田区皇居で生育が確認された。北多摩でも記録があるが、絶滅したと考えられている。南多摩では、高尾山の標本が都立大牧野標本館にあるが、採集者（牧野富太郎）の行動記録（採集年には高尾山には行っていない）により、採集地の誤りと考えられる。

■ **生存を脅かす要因**：東京都が発展する過程で行われた各種開発、湿地・原野の開発、宅地造成、河川・水路の改修、整備などにより減少したと考えられる。

■ **特記事項**：区部に現存する個体は下道灌漑より土と一緒に持ち込まれたものであるが、在来個体の可能性もある。また、生態的に増水などの攪乱を受ける立地の植物であり、埋土種子などからの発芽力も強いと考えられる。現存個体は、今後の状況を見て、ランク判定の変更も検討する必要がある（現在は野生絶滅）。

執筆者	池田博・宮崎卓
文献一覧	223, 270, 366



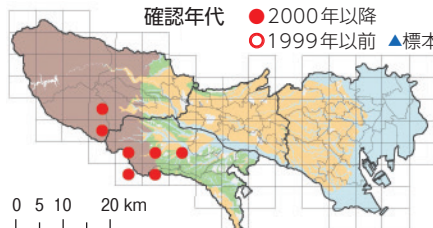
	被子植物 キンボウゲ科
2020	●
2010	●
1998	●

■ **種の特性と生育状況**：本州（関東以西）、四国、九州に分布する多年草。草丈は30～70cmで全体無毛。茎葉は数個、2～3回3出複葉、裏面は灰白色で葉脈は隆起する。花期は6～7月。花序は複散房状、花は径約1cm で、雄しべは多数。そう果は4～8個。都内では、関東山地の山裾、また南多摩の丘陵地にわずかながら生育地があり、明るい林縁から林内にかけて生育する。

■ **生存を脅かす要因**：もともと分布の少ない種である。栽培目的の採取や自生地の不適切な管理も本要因と考えられる。

■ **特記事項**：都立大学牧野標本館には、1935年に八王子市小仏峠で採集された標本がある。同じ場所のもの（おそらく同一個体群）は、2011年ごろまで確認されている。林縁ではなく、日光の通る土壤の厚い林内に生育している。

執筆者	池田博・宮崎卓
文献一覧	17, 99, 270, 366



	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	●	●	EN	VU	VU	
2010	●	●	VU	VU		
1998						



八王子市 2000 年 4 月 12 日

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	●	●	EX	●	EX	NT
2010	●	●	EX	●		
1998				D		



調布市（植栽）1997 年 3 月 7 日

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	EX	EX	EX	EX	EX	VU
2010	EX	EX	EW	EW		
1998		A		A		



八王子市 1999 年 3 月 22 日

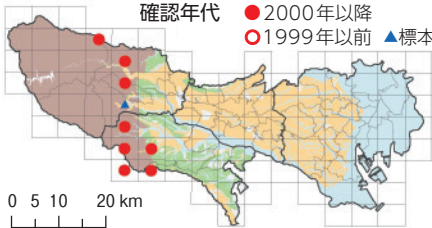
	被子植物 キンボウゲ科
2020	●
2010	●
1998	●

■ **種の特性と生育状況**：本州（宮城以南）、四国、九州に分布する多年草。茎は高さ10～20cm で、基部に数枚の根生葉を束生する。茎葉は対生し、頂小葉は広卵形から倒卵形。花期は4～5月。花はやや垂れ下がって咲き、径6～8mm、淡黄緑色から白色。花弁の腋部は單配形で直立する。茎の基部に閉鎖花をつける。暖帯林中に生育する。南多摩から西多摩にかけての山地の斜面下部、谷筋などの落葉樹林、スギ植林内に生育する。分布はやや局所的である。

■ **生存を脅かす要因**：不適切な樹林の管理、山林の伐採などが考えられる。また、栽培目的の採取の対象にもなっている。

■ **特記事項**：地上部は夏まで残るが、花の時期以外は目立たない。また、沢筋の狭い範囲にたまって生育していることが多く、小さな改変でも多くの個体数が失われるおそれがある。

執筆者	池田博・宮崎卓
文献一覧	17, 219



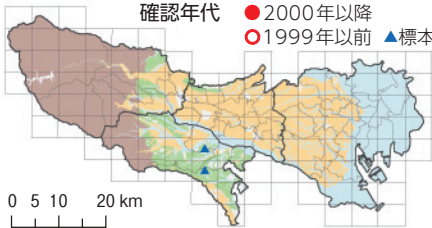
	被子植物 キンボウゲ科
2020	●
2010	●
1998	●

■ **種の特性と生育状況**：本州（関東以西）、四国、九州（北部）に分布する常緑多年草。根生葉は鋭頭から鈍頭。花期は3～4月頃。高さ10～15cmの花茎を出し、径1～1.5cm ぐらいの花を頂生する。萼片は6～10枚、卵状披針形、披針形、長楕円形、線状楕円形など多様で、色も白色、淡青色、淡紅色と変異に富む。南多摩の丘陵地の疎林内に生育していたが、開発により絶滅した。一般的には低山の明るい落葉広葉樹林に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：樹林の伐採と土地造成により、自生地が消失したと考えられる。

■ **特記事項**：南多摩に隣接する小仏地域（八王子市、旧相模湖町、旧藤野町）の神奈川県側では本種の現存が確認されていることから、この現存地に近い東京都側にも自生地が残っている可能性もある。

執筆者	池田博・宮崎卓
文献一覧	17, 99, 301



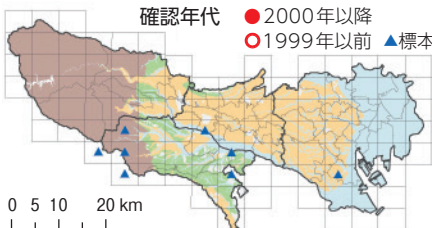
	被子植物 キンボウゲ科
2020	●
2010	●
1998	●

■ **種の特性と生育状況**：本州、四国、九州に分布する多年草。根生葉は束生し、2回羽状複葉。花茎は高さ10cm 前後で開花し、花後伸長して30～40cm。花期は4～5月。花は1個が頂生し、鐘型で下向きに開く。そう果は多数が集まってつき、狭卵形、長い冠毛を持つ。春先に日当たりの良い管理された草地、崖地、露岩地に生育する。檜山（1965）では北多摩の草地に自生していたようであるが、現在は絶滅したと考えられる。北多摩以外でも、都内では野生絶滅の状況にある。

■ **生存を脅かす要因**：北多摩では元々の個体数が少なかったため、宅地開発などで消滅したと考えられる。ただし、一般的（全国的）には管理された草地の減少と観賞用の乱獲と考えられている。

■ **特記事項**：隣接県では渓谷部の崖地に現存が確認されている。このため、同じような立地、環境のある西多摩の渓谷部などにも、本種が残っている可能性はある。

執筆者	池田博・宮崎卓
文献一覧	17, 270, 301



	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	●	●	CR	EN	EN	NT
2010	●	●	CR	CR		
1998			A			



三頭山 2021 年 5 月 4 日

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	●	●	EN	CR	EN	VU
2010	●	●	CR	CR		
1998			A			



八王子市 1990 年 6 月 4 日

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	●	●	●	VU	VU	NT
2010	●	●	●	CR		
1998			B			



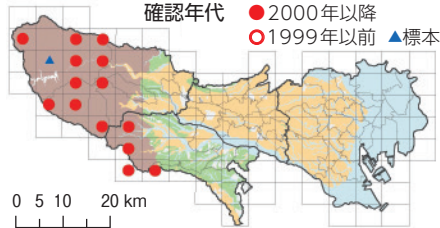
三頭山 2016 年 4 月 24 日

被子植物 ボタン科
ヤマシャクヤク <i>Paeonia japonica</i>

■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州、四国、九州に分布する多年草。茎は高さ 30 ～ 40cm、葉は 2 回 3 出複葉で、小葉は楕円形から倒卵形、両面無毛、裏面は帯白色。5 月頃、茎の先端に径 4 ～ 5cm の花を 1 個つける。花弁は白色、5 ～ 7 枚で倒卵形。花柱は短く外に曲がる。南多摩では非常に少ないが現存する。また、西多摩では広く点在し、山地の落葉広葉樹林に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：山林の改変や森林の荒廃が主な要因である。また、栽培目的の採取の対象となることも考えられる。有毒植物のため、シカの食害は免れていると考えられる。

■ **特記事項**：東京都 RDB2013 版に比べ、西多摩では判定ランクが 1 ランク下がった。これは新たな生育地が確認されたためであるが、どの地域においても十分な個体数が回復したわけではなく、引き続き個体群の存続に関しては危機的な状況にあると考える。



執筆 者 池田博・宮崎卓

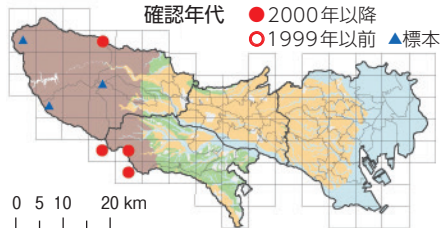
文献一 覧 152, 243, 366

被子植物 ボタン科
ベニバナヤマシャクヤク <i>Paeonia obovata</i>

■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州、四国、九州に分布する多年草。茎は高さ 30 ～ 40cm。3 ～ 4 枚の茎葉を互生する。葉はふつう 2 回 3 出複葉で、小葉は倒卵形、裏面は白色を帯びる。花期は 5 月、茎の先端に径 4 ～ 5cm の淡紅色の花を 1 個上向きに開く。花弁は 5 ～ 7 枚。雌しべの柱頭は長くて先が巻くようになる。南多摩、西多摩の明るい落葉広葉樹林内に生育するが、個体数は非常に少ない。

■ **生存を脅かす要因**：山林の改変や森林の荒廃である。特に、人為管理をされている林分では人為管理の放棄、不適切な管理によりネサザ類、常緑樹などの鬱閉を引き起こし、短期間で個体群の消滅につながる。また、栽培目的の採取の対象にもなる。

■ **特記事項**：都立大学牧野標本館には、1980 年採集の奥多摩町日原～雲取山、1930 年採集の同町三頭山の標本がある。一般に、ヤマシャクヤクよりも少ないと考えられる。



執筆 者 池田博・宮崎卓

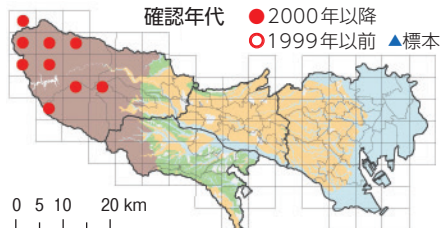
文献一 覧 152, 173, 243, 366

被子植物 スグリ科
ヤシャビシャク <i>Ribes ambiguum</i>

■ **種の特性と生育状況**：本州、四国、九州に分布する落葉小低木。幹はよく分枝し、高さは 30 ～ 50cm、ときに 1m になる。葉は互生し、葉身は腎円形または丸みを帯びた五角形、掌状に 3 ～ 5 裂する。花期は 4 ～ 5 月。花弁はへら形で、長さ 2.5 ～ 4mm、直立する。液果は球形または卵球形で長さ 7 ～ 12mm、径 7 ～ 10mm、前面に針状の毛が生え、緑色に熟す。冷温帯林の樹幹上に生育する。西多摩の山地深部のブナやイヌブナ、クリ、ミズナラなどの老木上に着生する。

■ **生存を脅かす要因**：山林の伐採や森林の荒廃、園芸目的の採取など。現在は、ブナ林の大規模な伐採は考えられないが、ブナの個体が立ち枯れをした場合、本種の生育基盤そのものが失われる。また、林内が動物の食害を受けて乾燥化すれば、着生植物である本種は少なからず悪影響を受ける。

■ **特記事項**：本種は、ブナなどの老木に多く着生する。したがって、ブナ林全体が衰退すると、本種も同時に衰退していくと考えられる。



執筆 者 池田博・宮崎卓

文献一 覧 173, 199

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	●	●	●	CR	CR	CR
2010	●	●	●	CR		
1998			A			



奥多摩町 2010 年 7 月 15 日

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	EX	●	●	●	EX	VU
2010	EX	●	●	●		
1998						



八王子市 (渡良瀬遊水地産植栽) 2022 年 7 月 2 日

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	●	●	●	EN	EN	
2010	●	●	●	VU		
1998						



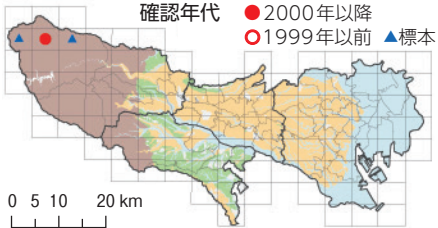
奥多摩町 2019 年 10 月 7 日

被子植物 キンボウゲ科
ミョウギカラマツ <i>Thalictrum minus</i> var. <i>chionophyllum</i>

■ **種の特性と生育状況**：本州（群馬県、埼玉県、東京都）に分布する多年草。アキカラマツに似るが、小葉の裏面は著しく雪白色となるのが特徴。全体無毛。小葉の脈は平坦。花期は 7 ～ 8 月。花序はやや密生する。萼片は卵状楕円形。果実は 1 ～ 6 個で、果柄は果実の 1 ～ 3 倍ある。妙義山塊の集塊岩上に生育し、多くは断崖から下垂する。西多摩の高標高地の石灰岩露頭に稀に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：局所分布の種である。一般的には石灰岩の採掘事業が主な要因であるが、現時点では生育地が石灰岩採掘事業の対象になる可能性は低い。また、自然災害による生育立地の崩落、消滅による個体数の減少や、動物の食害も危惧される。

■ **特記事項**：アキカラマツとは同種内の変種関係である。現地調査ではアキカラマツとの移行的な個体も確認されており、本変種は、妙義山塊の石灰岩地に適応した基本種 *T. minus* の地域変異個体群と考えられる。



執筆 者 池田博・宮崎卓

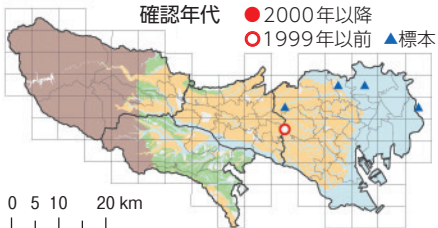
文献一 覧 136, 232, 366

被子植物 キンボウゲ科
ノカラマツ <i>Thalictrum simplex</i> var. <i>brevipes</i>

■ **種の特性と生育状況**：本州（東北南部以西）、四国、九州に分布する多年草。全体無毛で、茎は高さ 60 ～ 120cm、鋭い稜がある。茎葉は 1 ～ 2 回 3 出複葉。花期は 6 ～ 8 月。花序は細い円錐状。花は黄緑色、径約 1cm。萼片は 4 ～ 5 個、楕円形で長さ 3 ～ 4mm、早落性。そう果は 2 ～ 6 個、紡錘形で長さ約 5mm、隆起した 8 ～ 10 本の稜があり、柄はない。日当たりの良い草地に生育する。区部の低地の原野に自生していたが、絶滅したと考えられる（都立大学の標本記録としては 1949 年の北区戸田のものが最後）。

■ **生存を脅かす要因**：河川の管理、整備を目的とした工事、河川敷の整備、開発などにより絶滅したと考えられる。ただし、生育当時から、河川の増水や草刈りの頻度により、個体数は大きく変動していたとも考えられる。

■ **特記事項**：檜山（1965）では荒川流域で確認されており、荒川流域には、埼玉県側に現存地がある。埼玉県側からの散布体の漂着、発芽の可能性は今後もあり得るため、植物調査の際には気に留めておく必要がある。



執筆 者 池田博・宮崎卓

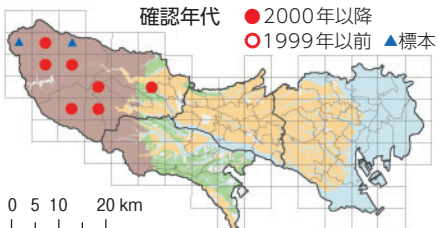
文献一 覧 136, 223, 270, 366

被子植物 ツゲ科
ツゲ <i>Buxus microphylla</i> var. <i>japonica</i>

■ **種の特性と生育状況**：本州、四国、九州に分布する常緑の低木～小高木。葉は対生し全縁、長さ 1 ～ 3cm、厚い革質で光沢がある。花は雄花と雌花をつける。花弁はない。さく果は球形。種子は黒色。花期は 3 ～ 4 月。風衝地や露岩地に生育する。西多摩では、森林の発達しにくい石灰岩地に局所的に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：西多摩の石灰岩地に数か所自生しているが、もともと分布が非常に限られている。山林の伐採、石灰岩の採掘が生存を脅かす要因となる。また、一般には園芸目的の採取の対象とされる植物である。

■ **特記事項**：標高 1200 ～ 1400m の冷温帯で採られた標本もあるが、本来は暖温帯性の植物である。西多摩の自生地は古い地質（1 億年以上前の海底堆積層）の分布に対応しており、本種の分布には地史的な要因が関係していることも考えられる。



執筆 者 池田博・宮崎卓

文献一 覧 168, 173, 364, 366

ヤブサンザシ

Ribes fasciculatum

被子植物
スグリ科

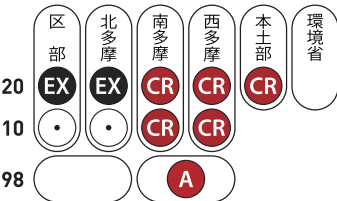
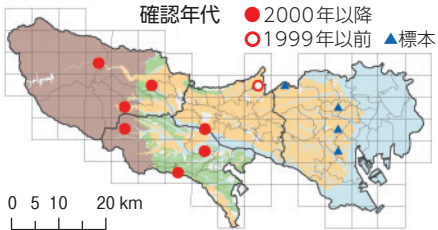
■ **種の特性と生育状況** : 本州、四国、九州に分布する雌雄異株の落葉低木。幹は高さ1m くらいになり、よく分枝する。葉は早春に展開して互生し、短枝に相接してつく。葉身は広卵形、長さ2 ～6cm、掌状に3浅裂から中裂する。花期は4 ～5月。花は短枝の葉腋に束状につく。花弁はへら形で長さ約0.7mm。液果は球形、径7 ～8mm、無毛で赤く熟す。南多摩から西多摩にかけての台地、丘陵地の河畔林や段丘崖の藪、低山地の林縁などに稀に生育する。

■ **生存を脅かす要因** : 樹林地や荒地、河川敷などの整備、植生遷移の進行などが主な要因と考えられる。また、河畔林の個体については数十年に一度の増水も、その生存を脅かすことになる。

■ **特記事項** : 丘陵地から低山地の人里に近いところに散発的に生育していることがあるが、本来の自生なのか疑わしい場合もある。里山環境に生育することの多い植物ではあるが、分布状況については慎重な判断が必要である。

執筆 者 池田博・宮崎卓

文献一覧 136, 270



町田市 2009年3月21日

ザリコミ

Ribes maximowiczianum

被子植物
スグリ科

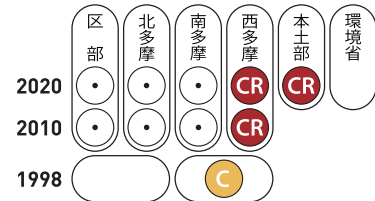
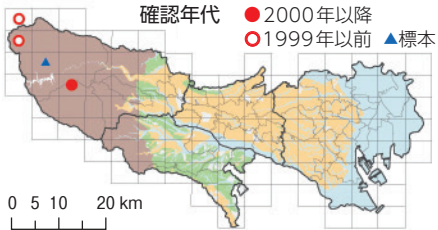
■ **種の特性と生育状況** : 本州（東北南部から中国）、四国（高知）に分布する落葉低木。幹はよく分枝し、高さ2m になる。葉身は三角状卵形、径2.5 ～5cm で掌状に3中裂する。花期は5月。花序は総状で、長枝の先端と短枝に葉とともにつく。花弁はへら形、長さ0.5mm ほど。液果は狭卵状球形、径6mm ほどで、赤く熟す。西多摩の深山の林縁に生育する。

■ **生存を脅かす要因** : 生育地が高標高地に限られており、分布域が非常に狭い。シカの食害により消滅した個体群が複数ある。また、雌雄異株で生殖能力も高くない。

■ **特記事項** : 鈴木（1984）、都立大学牧野標本館の標本、および今回の調査結果によれば、本種の分布は石灰岩の分布に対応していた。本種の分布は、生育立地の地質との関連が強いと考えられる。

執筆 者 池田博・宮崎卓

文献一覧 97, 168, 173, 364, 366



長野県 1994年5月21日

チダケサシ

Astilbe microphylla

被子植物
ユキノシタ科

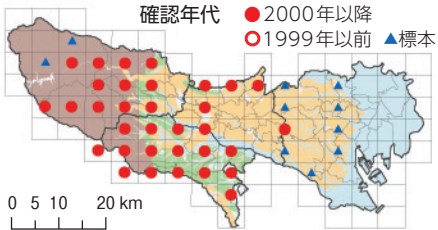
■ **種の特性と生育状況** : 本州、四国、九州に分布する多年草。葉は2回奇数羽状複葉から4回奇数羽状複葉。小葉は深裂する。花期は6月下旬～8月。花茎は高さ40 ～80cm。花序は複総状で、密に花を付け、花弁は淡紅色。さく果は長さ3 ～4mm。湿地生であり、日当たりの良い湿地や湿った林縁などに生育する。区部では、湧水などの湿地のある都市緑地内に現存し、北多摩では群生地も残っている。南多摩、西多摩はランク外。

■ **生存を脅かす要因** : 湿地や山林の改変、植生遷移の進行、園芸目的の採取などが本種の生存を脅かす主な要因である。本種の生育立地がほぼ湿地に限定される点も、一度の改変で多くの個体数が失われる要因となる。

■ **特記事項** : ランク外の南多摩、西多摩では、数百個体の群生地も稀ではない。しかし、その生育面積は1ha にも満たない狭い谷戸奥の湿地であることがほとんどである。そのため、土地の転用やこれまでの管理の放棄などで容易に個体群の存続が脅かされる状況にある。南多摩、西多摩でも、今後の個体数の推移を見守る必要がある。

執筆 者 池田博・宮崎卓

文献一覧 17, 43



八王子市 2006年7月2日

ネコノメソウ

Chrysosplenium grayanum

被子植物
ユキノシタ科

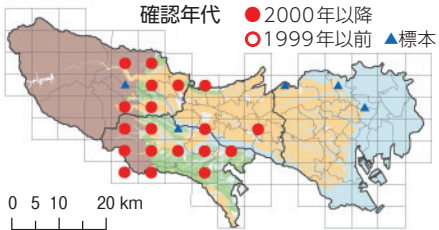
■ **種の特性と生育状況** : 北海道、本州、四国（高知）、九州（北部）に分布する多年草。花茎は高さ4 ～20cm。葉は対生し、葉身は広卵形から卵形で、基部は円形または切形。花期は4 ～5月。花は径1.5 ～2mm。萼裂片は花時に直立し、淡黄緑色または淡黄色で長さ約1mm、長楕円形で円頭。山麓の湿地や谷筋、時には水田などにも生育する。台地から丘陵地、山地の麓にかけての小川のほとりや遊水湿地などに群生する。区部では板橋区小豆沢の記録があるが現状は不明。北多摩、南多摩にはまだ群生地も見られる。西多摩はランク外。

■ **生存を脅かす要因** : 湿地や湧水部の開発整備、異常出水による浸食、水辺の林縁荒廃など。自生地周辺の生育環境を一体的に保全することが望ましい。

■ **特記事項** : 南多摩では、主に谷戸奥の放棄された水田跡の湿地に見られる。そのような立地は、遷移の進行や土地の転用によって容易に消滅する可能性がある。

執筆 者 池田博・宮崎卓

文献一覧 17, 63, 194, 270, 360



ヤマネコノメソウ

Chrysosplenium japonicum

被子植物
ユキノシタ科

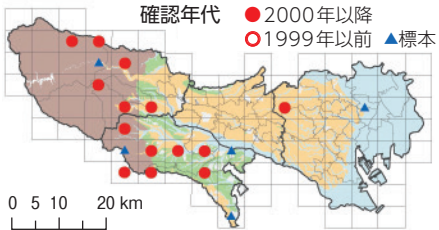
■ **種の特性と生育状況** : 北海道（西南部）、本州、四国、九州に分布する多年草。根生葉は長さ2 ～7cm、葉身は腎円形で長さ5 ～20mm、幅8 ～30mm、基部は心形。花茎は高さ10 ～20cm。花期は3 ～4月。花は径4 ～5mm。萼裂片は緑色で基部は黄色を帯び、広卵形で長さ約1.3mm。裂開直前の葯は黄色。種子は卵状楕円形。低地から山地までの半日陰の湿地や路傍林縁などに生育する。区部、北多摩では、檜山（1965）に稀とあり、もともと少なかった可能性がある。なお、南多摩、西多摩では個体数は十分にあり、ランク外とした。

■ **生存を脅かす要因** : 絶滅危惧の対象である区部や北多摩では、これまでの都市開発、宅地開発による土地造成や山林（里山）の改変により、個体数が減少したと考えられる。それらの地域では、現状を把握したうえで自生地を保全することが望ましい。

■ **特記事項** : ネコノメソウとは異なり、流れのそば、水湿地以外にも生える。土壌が深く、適湿な立地に生育する。

執筆 者 池田博・宮崎卓

文献一覧 17, 194, 270



チシマネコノメ(チシマネコノメソウ)

Chrysosplenium kamschaticum

被子植物
ユキノシタ科

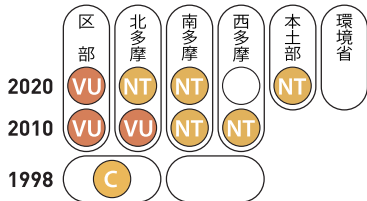
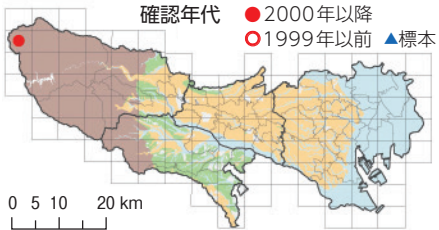
■ **種の特性と生育状況** : 南千島、北海道、本州（近畿以北の日本海側）に分布する多年草で、沢沿いの陰湿地に生える。花序の分枝点と葉腋を除き、全株無毛。根生葉（4 ～6葉）を束生したロゼットは、ふつう花時まで残る。花茎は高さ3 ～20cm。茎葉は対生し、扇状で長さ3 ～10mm。花期は4 ～6月。花は径3 ～4mm で、ごく短い柄がある。萼裂片は花時に平開し、黄緑色、卵形で長さ1mm くらい。西多摩の亜高山帯、もしくは冷温帯上部に少数が確認されている。

■ **生存を脅かす要因** : 冷温帯から亜寒帯（亜高山帯）に分布する植物であり、東京都では分布域がもともと限られる。また、動物による食害も危惧される。

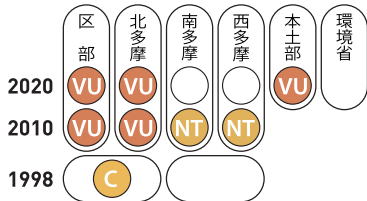
■ **特記事項** : 西多摩の個体群のように、関東以西に分布する個体群は高標高地を飛び石状に分布しており、それぞれ山塊ごとに隔離された状態にある。このような個体群は生殖的に隔離されており、種の遺伝的多様性を保つためにも重要と考えられる。

執筆 者 池田博・宮崎卓

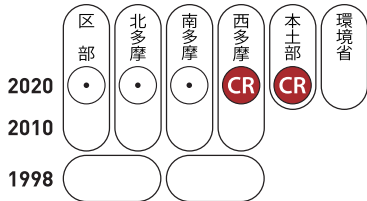
文献一覧 63



八王子市 1980年4月7日



八王子市 1997年3月29日



奥多摩町 2019年5月30日

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020				VU	VU	
2010				EN		
1998			B			



奥多摩町 2019年9月30日

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020				CR	CR	
2010				CR		
1998						



奥多摩町 2010年9月4日

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020				EX	EX	
2010				CR		
1998			A			



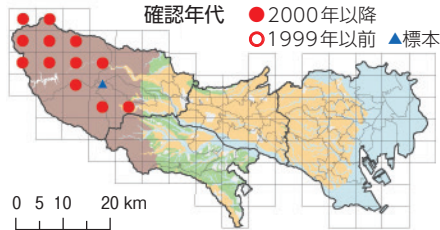
ダイモンジソウ	被子植物 ユキノシタ科
---------	----------------

■ **種の特性と生育状況** : 北海道、本州、四国、九州に分布する多年草。葉身は腎円形で長さ3～15cm、幅4～20cm。花期は7～10月。花弁は白色、稀に淡紅色。上側の3弁は橢円形で、長さ4～15mm。裂開直前の葯は橙赤色または暗紫色。さく果は卵形。山地の水のしたたる岩上に生育する。西多摩の山地の石灰岩地、または冷温帯林域の岩上や樹上に着生する。

■ **生存を脅かす要因** : 生育立地が水のしみ出る岩壁や溪流沿いの飛沫がかかる岩場、空中湿度の高い苔むした樹幹などに限られる。そのため、砂防治水の小規模な工事でも個体数に影響を受けることがある。森林環境の荒廃、栽培目的の採取などが本種の生存を脅かす主な要因である。

■ **特記事項** : 都立大学牧野標本館の標本では、中生代に海溝で変成した地層の分布する地域の中でも、より古い地質が分布する西多摩北部から採集されており、松原村など比較的新しい地質の分布域からは採集されていない。この様に、本種の分布と地質には、興味深い対応が見られる。

執筆者	池田博・宮崎卓
文献一覧	173, 205, 270, 364, 366



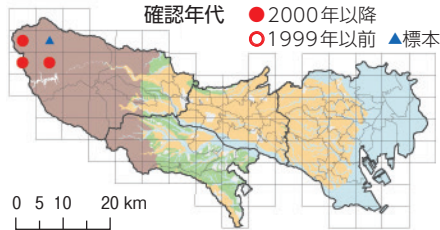
クロクモソウ	被子植物 ユキノシタ科
--------	----------------

■ **種の特性と生育状況** : 本州（近畿以北）、四国、九州の主に冷温帯上部に分布する多年草で、北海道、東北の亜高山帯から高山帯に分布するエゾノクロクモソウ (var. *fusca*) の変種。根生葉の葉身は腎円形。花期は7～8月。花茎上部にまばらな円錐花序が生じる。花は径5～8mm。花弁は長卵形で、紫褐色、まれに淡緑色。さく果は長さ4～6mm。種子は紡錘状楕円形。西多摩の高標高地の溪流沿いの岩上、岩隙に生育する。分布が極めて局限される。

■ **生存を脅かす要因** : もともと個体数は少ない。本種の垂直分布域は冷温帯上部であり、東京都では分布に適した気候帯が狭い。また、生育立地が主に岩上、岩隙であるため、生育状態は立地の日照条件や水分条件など微環境に大きく左右される。栽培目的の採取の対象にもなる。

■ **特記事項** : 鈴木（1984）の時点で、「深山溪流沿いに稀」とある。一応、1980年代以降の動物の食害や、その他の自然要因（温暖化、生育立地の崩壊など）による個体数の大きな減少は認められていない。

執筆者	池田博・宮崎卓
文献一覧	168, 173, 232



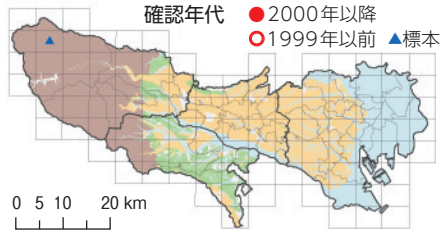
イワユキノシタ	被子植物 ユキノシタ科
---------	----------------

■ **種の特性と生育状況** : 本州（東京、神奈川、山梨、静岡）、四国（徳島、高知）に分布する常緑の多年草。走出枝を出す。葉は楕円形から卵状楕円形で、葉身は長さ2～9cm、幅1～5cm。花期は5～6月。萼裂片は白色、長円形、長さ1～1.5mm。裂開直前の葯は白色。さく果は長さ3～4mm で垂れ下がる。水のしたたるような岩に生育する。西多摩の天祖山に記録があるが、近年確認されていない。

■ **生存を脅かす要因** : もともと分布が局限されていた。東京都では確認地が石灰岩地のため、個体の減少には石灰岩採掘との関係が推測される。また、一般的には園芸目的の採取も生存を脅かす要因となる。

■ **特記事項** : 1980年代の時点で、「深山岩場に稀」ということであった。調査の行き届いていない西多摩の深山に残っている可能性もあるが、近年の奥多摩植物誌調査プロジェクトの精力的な調査でも確認されておらず、現時点では絶滅判定とする。

執筆者	池田博・宮崎卓
文献一覧	168, 173, 205



	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020				VU	VU	
2010				VU		
1998						



群馬県 2006年5月8日

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020				CR	CR	
2010				CR		
1998			B			



八王子市 (植栽) 1986年7月23日

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020				VU	VU	
2010				EN		
1998						



奥多摩町 2007年11月7日

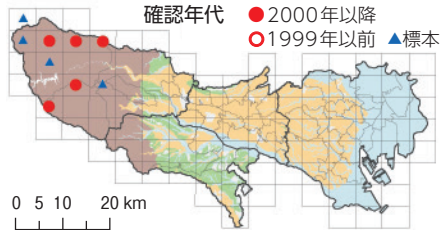
オオコガネネコノメ(オオコガネネコノメソウ)	被子植物 ユキノシタ科
------------------------	----------------

■ **種の特性と生育状況** : 本州（関東以西）、四国、九州に分布する多年草。走出枝は発達し、白色軟毛が密生する。葉は扇形から円形で長さ3～15mm、縁に円鋸歯がある。走出枝の先端につく葉は大型となり、楕円形から卵形で長さ15～30mm、縁に9～17個の鋸歯がある。花茎は高さ4～10cm、白毛が密生する。花期は4～5月。萼裂片は広鐘形、花時に鮮黄色または黄緑色を呈する。母種コガネネコノメソウに比べ全体に多毛で葉もやや大きい。西多摩では主に暖温帯の沢筋、湿潤な林床、岩礫地などに生育する。

■ **生存を脅かす要因** : 治水治山、林道の管理・増設などによる渓谷部の改変が個体数減少につながる要因と考えられる。栽培目的の採取の対象でもある。

■ **特記事項** : 西多摩での分布要因としては、他の地域に比べて地質が古く、複雑なためと考えられる。しかし、本種の分類群としての独立性や西多摩での分布の詳細については不明な点が多く、さらなる調査が望まれる。

執筆者	池田博・宮崎卓
文献一覧	152, 173, 366



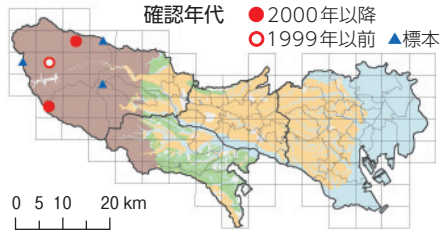
ヤワタソウ	被子植物 ユキノシタ科
-------	----------------

■ **種の特性と生育状況** : 本州（中部以北）に分布する多年草。根生葉は円形から卵円形、基部は浅い心形、径20～30cm、7～13浅裂する。花期は5～7月。花茎は高さ30～60cm。花弁は淡黄色、倒卵形から楕円形。葯は淡黄色で、裂開後は黒色に変わる。さく果は卵形で、長さ13～16mm。種子は長さ0.8mm ぐらい。西多摩の空中湿度が高い谷筋の落葉広葉樹林下や林縁に生育する。

■ **生存を脅かす要因** : もともと冷温帯以上に垂直分布域が限られている。生育地の遷移進行によるササ類の鬱閉、それにシカの食害により、さらに個体数を減らしている。栽培目的の採取の対象ともなっている。

■ **特記事項** : 1980年代の時点で、「山地にやや少ない」状況であった。近年はシカの食害により、三頭山などでは極端に減っているようである。

執筆者	池田博・宮崎卓
文献一覧	152, 168, 173



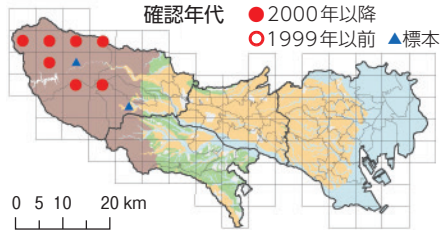
ジンジソウ	被子植物 ユキノシタ科
-------	----------------

■ **種の特性と生育状況** : 本州（関東以西）、四国、九州に分布する多年草。根生葉の葉身は円腎形から円形で、長さ2～11cm、幅3～16cm、縁は7～11の裂片に中裂する。花期は9～11月。花茎は高さ10～35cm、花序は集散状。花弁は白色で、上部の3弁は広卵形で長さ約4mm、基部に黄色（または紅色）の斑点がある。下側の2弁は長楕円形で長さ12～25mm、鋭頭。西多摩の山地溪流の岩壁などに着生する。

■ **生存を脅かす要因** : 岩隙生の植物であるため、生育立地が水のしみ出る岩壁や溪流沿いの岩場に限られる。治水治山目的による渓谷の改変、栽培目的の採取が主な要因である。

■ **特記事項** : 都立大学牧野標本館の標本では、青梅市御岳山、奥多摩町日原、鷹ノ巣山など、中生代に海溝で変成した古い地層の分布する地域で採集されている。そのため、本種の分布には地史との関係も考えられる。

執筆者	池田博・宮崎卓
文献一覧	173, 364, 366



	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	●	●	●	●	●	●
2010	●	●	●	●	●	●
1998				●	●	●



奥多摩町 1972 年 8 月 18 日

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	●	●	●	●	●	●
2010	●	●	●	●	●	●
1998	●	●	●	●	●	●



八王子市 1999 年 5 月 25 日

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	●	●	●	●	●	●
2010	●	●	●	●	●	●
1998	●	●	●	●	●	●



多摩川 1976 年 9 月 7 日

被子植物
ベンケイソウ科

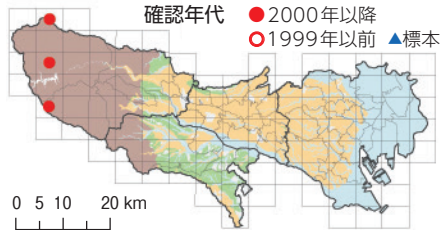
■ **種の特性と生育状況**：フォッサマグナ要素の分布型を示し、埼玉、東京、神奈川、山梨、静岡に分布する多年草。茎は密生し、花茎は長さ5～10cmで濃紅紫色を帯びる。葉は互生し線形、長さ1～2.5cm、幅1～3mm、肉質でやや扁平となる。花期は7～8月。花序は花茎の先に集散状につき、10～20個の花をつける。花は4数性。花弁は濃黄色、楕円状披針形から狭卵形、長さ3.5～4mm。裂開直前の葯は赤色または橙色。種子は線状披針形、長さ1～1.3mm。落葉広葉樹の樹幹や岩上などに着生し、西多摩の県境尾根に生育が確認されている。

■ **生存を脅かす要因**：本種は水分環境に非常にデリケートであり、水分の供給は主に雲霧による。そのため、温暖化により雲霧の発生頻度が低下すれば、著しい影響を受けると考えられる。また、自然（暴風など）、人為（伐採など）の原因によるブナ林の衰退や荒廃は、生育基盤そのものの消失になる。また栽培目的の採取も脅威となる。

■ **特記事項**：本種は栽培が非常に難しいため、栽培のための流通はなく、山取りをしても無駄になることを強調したい

執筆者 池田博・宮崎卓

文献一覧 152, 173, 363



被子植物
ベンケイソウ科

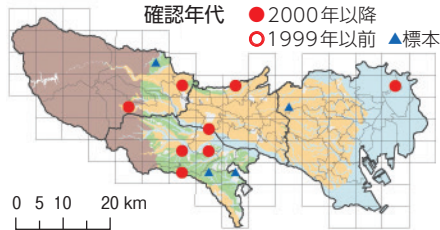
■ **種の特性と生育状況**：北海道と本州に分布する一年草。茎は基部で分枝して束生し、高さ2～5cm。葉は線状披針形で鋭頭。花期は4～8月。花は4数性で、茎の上部の葉腋に単生する。花弁は白色、長さ約1.5mm、卵状披針形で円頭。裂開前の葯は淡黄色。袋果は淡紅色。低地の河川沿いの湿地、台地から丘陵地の休耕田などの湿性裸地に生育する。区部では近年現状が確認できていない。

■ **生存を脅かす要因**：都市開発、宅地開発による湿地や谷戸、水田の消失、耕地整備や放棄による水湿地の乾燥化などが主な要因である。

■ **特記事項**：本種は1888年に牧野富太郎と池野誠一郎により、大箕谷八幡（現杉並区堀之内大宮の大宮八幡宮）下の田んぼで、日本で最初に採集された。檜山（1965）には、この大宮八幡の産地があげられており、この頃までは生育していたと考えられる。

執筆者 池田博・宮崎卓

文献一覧 17, 196, 270, 298



被子植物
タコノアシ科

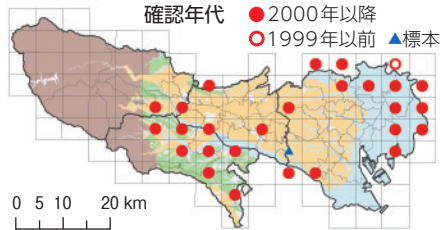
■ **種の特性と生育状況**：本州、四国、九州、南西諸島（奄美大島）に分布する多年草。茎は高さ30～80cm。葉は狭披針形から披針形で、細鋸歯がある。花期は8～10月。花は径4～5mmで花弁はなく、黄緑色で目立たない。さく果は径6～7mm。都内では、低地から台地、丘陵地にかけての河川の湿地や休耕田、荒地などの湿性裸地に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：湿地の埋め立てや開発、水田の転用、河川の改修、河川敷の整備など。日当たりの良い湿性立地の植物であるため、立地の乾燥化と競争種による被覆に非常に弱い。

■ **特記事項**：河川の堆積作用により形を変える砂州の水際によく生育し、その場合は個体数、生育範囲が1年単位で変動する。さらに、砂州への大きな攪乱が働いた場合は、個体数が大きく変動する。そのため、その生育実態の把握は難しい。

執筆者 池田博・宮崎卓

文献一覧 263, 266



	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	●	●	●	●	●	●
2010	●	●	●	●	●	●
1998				●	●	●



奥多摩町 2011 年 6 月 16 日

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	●	●	●	●	●	●
2010	●	●	●	●	●	●
1998				●	●	●



神奈川県 2010 年 10 月 3 日

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	●	●	●	●	●	●
2010	●	●	●	●	●	●
1998				●	●	●



岐阜県 2019 年 8 月 21 日

被子植物
ユキノシタ科

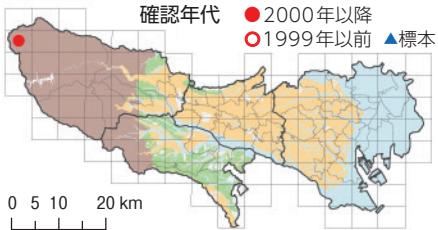
■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州（近畿以東）、四国に分布し、冷温帯林上部から亜高山帯の林床に生える。根茎は細く這う。根生葉の葉柄は長さ2～12cm、腺毛が密生し、葉身は心円形～広卵形で浅く5裂し、基部は深い心形で両面に毛が生える。花期は6～8月。花茎は高さ10～40cm。花序は総状で、数個～25個の花をやや間隔をおいてつける。苞は線形～狭披針形、花柄は長さ2～7mm。萼片は白色。花弁は針形で、白色、長さ2～2.5mm。西多摩では雲取山周辺の亜高山帯に分布するが少ない。

■ **生存を脅かす要因**：主に亜高山帯に分布し、ももとの分布域が非常に狭い。温暖化による分布下限の上昇が危惧される。林床生であり、シカなどの動物の食害も危惧される。栽培目的の採取対象にもなる植物である。

■ **特記事項**：鈴木（1984）の時点で「深山亜高山帯に少ない」とされ、個体数の少なさはこの時点ですでに指摘されていた。

執筆者 池田博・宮崎卓

文献一覧 63, 168



被子植物
ベンケイソウ科

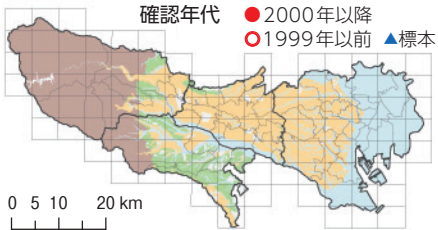
■ **種の特性と生育状況**：本州（東京、岡山）、四国（香川、高知）に分布する多年草。ミツバベンケイソウの変種。斜上または基部で匍匐し、葉は対生する。葉身は長楕円形、卵状楕円形、広披針形、縁に浅い鈍鋸歯が6～8個ある。葉柄は長さ1～1.8cm。花期は9～10月。花弁は5個、黄緑色で長さ約4mm。雄しべは10個で花弁より長い。葯は裂開前は淡黄色、稀に暗褐色。石灰岩の岩上に生育する。西多摩の高標高地の石灰岩上などに生育する。

■ **生存を脅かす要因**：主に石灰岩地に分布するため、石灰岩の採掘により個体数が減少したと考えられる。また、本種の含まれるベンケイソウ属は、一般に園芸（商業）目的の採取の対象とされた。このことも個体減少に影響していると考えられる。

■ **特記事項**：東京都では高標高地でも確認されているが、一般には垂直的に暖温帯上部を中心に分布する。そのため、より人間活動と接点の多い低標高地にも分布していることが考えられる。東京都に分布する個体はミツバベンケイソウと紛らわしく、分類学的検討を含め、今後詳しく調べる必要がある。

執筆者 池田博・宮崎卓

文献一覧 88, 92, 126



被子植物
ベンケイソウ科

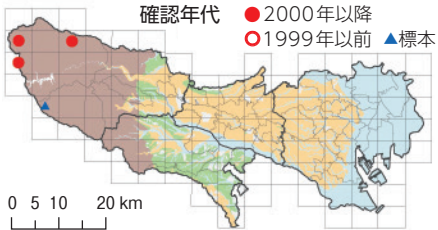
■ **種の特性と生育状況**：本州（関東以西）、四国、九州に分布する常緑多年草で、山地の樹上、岩上に生える。花茎は長さ20～50cmで斜上する。葉は対生し、卵形で長さ3～10cm、幅1.5～4cm、円頭～鈍頭、縁にはゆるい波状鋸歯があり、長さ1～2cmの柄がある。花期は9～10月。花序は散房状で球形。萼片は三角形、長さ1.5mm。花弁は淡黄緑色、楕円状披針形、長さ約4.5mm、鋭頭。裂開直前の葯は淡褐色。西多摩の冷温帯林に少数の個体が確認されている。

■ **生存を脅かす要因**：局所分布の種で個体数が非常に少ない。自然災害などにより、生育基盤である樹木の倒壊や岩盤の崩落が危惧される。また、温暖化による雲霧発生頻度の低下にも影響を受けると考えられる。

■ **特記事項**：垂直分布域が冷温帯であり、今後の調査によっては新産地が確認される可能性もある。しかし、生育基盤が脆弱で、水分供給を空中水分に依存しており、いずれにせよ分布は非常に限られたものと考えられる。

執筆者 池田博・宮崎卓

文献一覧 63, 168, 366



区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	EN	EN	EN	EN	
2010	VU	VU	VU	●	
1998			B		



国分寺市 2000 年 9 月 19 日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	●	VU	VU	NT	VU
2010	●	VU	NT	NT	
1998		C			



奥多摩町 2001 年 8 月 24 日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	EX	●	EX	—	EX
2010	●	●	EX	●	
1998			D		



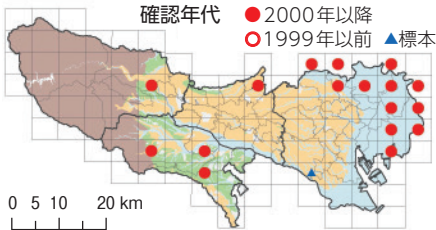
岩手県 1998 年 7 月 30 日

被子植物 マメ科
クサネム <i>Aeschynomene indica</i>

■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州、四国、九州、南西諸島に分布する一年草。高さ 50 ～ 100cm。葉は小葉が 40 ～ 60 枚の偶数羽状複葉。花期は 8 ～ 10 月。花は淡黄色。豆果は広線形で 4 ～ 8 個の小節果からなる。主に区部の低地において、河川の湿地や水田、水路周辺の湿地に生育する。台地、丘陵地にかけては散発的に発生するのみである。

■ **生存を脅かす要因**：水田耕作の停止や衰退による水田とその周辺の湿地の減少、河川改修や湿地の改変、除草剤の多用など。

■ **特記事項**：現在でも、江戸川に近い埼玉県の水田や神奈川県相模川沿いの水田では本種は少なくない。それに比べ、都内では本種が極端に少ない。同様に、近隣県に比べ東京都に少ない水田雑草には、ウリカワ（埼玉県準絶滅危惧種）やアゼガヤがあるが、それらに比べても本種は際立って少ない。都内では、上記の生存を脅かす要因以外に、本種に対する何らかの分布抑制要因が存在することも考えられる。



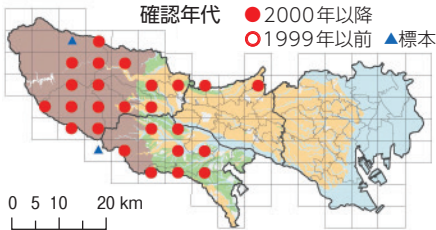
執筆者 池田博・宮崎卓
文献一覧 17, 99, 136, 270

被子植物 マメ科
ホドイモ <i>Apios fortunei</i>

■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州、四国、九州に分布するつる性の多年草。茎は 2m 以上に達し、地下に紡錘形あるいは球形の塊根をつける。小葉は 3 ～ 5 枚で、頂小葉は卵形から広卵形。花期は 7 ～ 9 月で、花は黄緑色。都内では、台地や丘陵地、低山地などの明るい林内や林縁などに生育する。

■ **生存を脅かす要因**：山林の改変、里山管理の放棄など。

■ **特記事項**：植生の遷移途中の環境に生育する場合が多い。樹林内にも生えるが、遷移途中の藪や林縁の個体の方がよく開花・結実する。そのため、管理された里山に関しては、林縁や明るい林内を好む本種の生態を考慮した管理が望ましい。



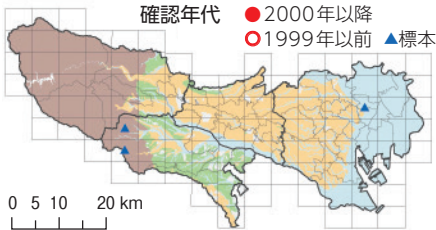
執筆者 池田博・宮崎卓
文献一覧 17, 270

被子植物 マメ科
モメンヅル <i>Astragalus reflexistipulus</i>

■ **種の特性と生育状況**：北海道と本州に分布する多年草。高さ 30 ～ 80cm。茎はやや伸びて這い、上部は斜上する。花期は 6 ～ 8 月。花序は長さ 2 ～ 3cm で、8 ～ 15 花をつける。花は黄色で、長さ 12 ～ 13mm。豆果は熟して直立し、細い円柱形で湾曲し、鋭尖頭、長さ 3.5 ～ 4.5cm、幅約 4mm、短褐色の短伏毛が生える。山麓の明るい草地に生育する。区部、南多摩に古い記録があるが、近年確認例はなく、絶滅したものと考えられる。

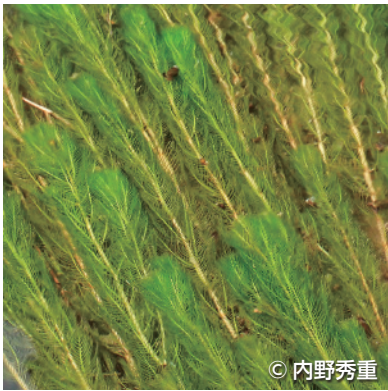
■ **生存を脅かす要因**：標本のほとんどが 100 年以上前のものであり、絶滅要因は憶測の域を出ない。区部では、歴史的に東京都が都市として発展する過程で生育地が消滅したと推測される。南多摩では里山利用の変化。特に、記録のある小仏峠は街道として廃れたことにより、周辺が暗くなり生育に適さなくなったことが考えられる。

■ **特記事項**：文京区弥生、向ヶ丘や練馬区大泉町、八王子市小仏峠で採集された標本が都立大学牧野標本館にある。しかし、最も新しい標本でも、1928 年採集の練馬区大泉町のものであり、檜山（1965）の時点で絶滅と記されている。



執筆者 池田博・宮崎卓
文献一覧 136, 270, 366

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	CR	DD	EN	DD	EN
2010					
1998					



日野市 2019 年 7 月 3 日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	EX	EX	●	●	EX
2010	EX	EX	●	●	
1998					



江戸川区 1895 年 6 月 23 日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	EX	EX	—	DD	DD
2010	EX	EX	●	DD	
1998					



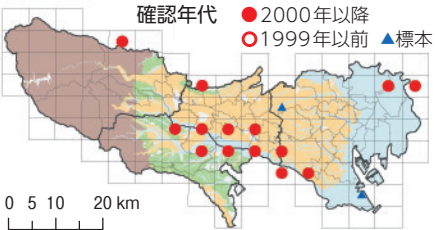
山形県 2009 年 8 月 22 日

被子植物 アリノトウグサ科
ホザキノフサモ <i>Myriophyllum spicatum</i>

■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州、四国、九州、南西諸島に分布する沈水性の常緑多年草。広く北半球の温帯から亜熱帯に分布する。茎は細長く伸びて枝を分け、時に 3m にもなる。水中葉は 4 枚が輪生し、無柄、卵形で羽状に深裂し、裂片は糸状で対生する。花期は 5 ～ 10 月。頂生する穂状花序は長さ 3 ～ 8cm、各節に 4 花を抽水状につける。花序の上部には雄花、下部には雌花をつける。雄花は先に開き、花弁は淡紅色、楕円形で、雄しべは 8 個。雌花の萼裂片はごく小さい。果実は 4 分果となり、長楕円形。区部では公園内に残された池に、多摩部では多摩川本流のワンドや主に多摩川に並行して作られた用水路に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：用水路の改修などにより、生育環境が消失する危険があるため、その際には移植などの保全策を講じる必要がある。また、水質保全や競合する外来植物の除去を行うことが望ましい。

■ **特記事項**：帰化種オオフサモなどと間違える可能性があるため、必要に応じて個体数に影響しない範囲で証拠標本を残すことが望ましい。



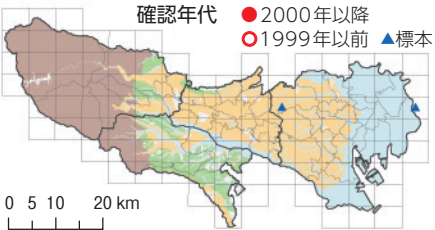
執筆者 池田博・宮崎卓
文献一覧 243

被子植物 アリノトウグサ科
タチモ <i>Myriophyllum ussuriense</i>

■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州、四国、九州の沼や湿地に生育する沈水または抽水性の多年草。茎は水中で伸長し、長さ 5 ～ 20cm。葉は 3 ～ 4 枚が輪生し、羽状に深く裂ける。雌雄異株。花は柄がなく、葉腋に単生する。越冬芽（殖芽）を小枝の先端につける。花期は 6 ～ 9 月。低地のため池や湿地に生育する。区部、北多摩の記録はあるが、都立大学牧野標本館の標本では 1932 年、文献での記録も 1960 年代を最後に確認できていない。絶滅したものと考えられる。

■ **生存を脅かす要因**：宅地開発、都市整備により水湿地、沼、池が埋め立てられて生育地が減少したことによる。区部における池や沼は水質の富栄養化、湧水量の減少により、本種の生育に適さなくなったことも絶滅の理由と考えられる。

■ **特記事項**：本種の生存の可能性としては、現在も池や沼として残る過去の生育地に埋土種子が存在している場合が考えられ、何らかの攪乱により種子が発芽するかもしれない。再発見の場合には、自生地を保全することや、水質管理を行うことが望ましい。



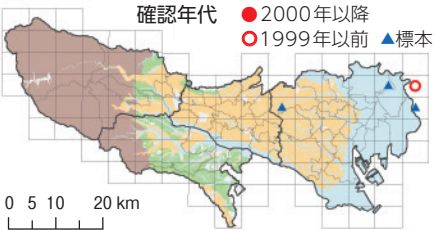
執筆者 池田博・宮崎卓
文献一覧 224, 270, 366

被子植物 アリノトウグサ科
フサモ <i>Myriophyllum verticillatum</i>

■ **種の特性と生育状況**：北海道（南西部）、本州、四国、九州に分布する沈水生の多年草。茎は水中にあり、柔らかい。葉は輪生し、羽状に分裂する。花は水上葉の腋につき、上部に雄花、下部に雌花をつける。雌花はつぼ状。茎の先端付近に越冬芽（殖芽）をつける。花期は 5 ～ 7 月。低地のため池や湿地に生育する。区部では 1960 年代以前に、葛飾区小合溜、練馬区石神井公園三宝寺池で標本があり、1998 年にも葛飾区で確認されているが、現状は不明である。西多摩からの記録はあるが、証拠標本はない。

■ **生存を脅かす要因**：宅地開発などにより池や沼が埋め立てられ、生育地が減少したことによる。都市部では水質の富栄養化や湧水量の減少（水温の上昇を伴う）により、残された生育地も本種に適さなくなったことが絶滅の要因と考えられる。

■ **特記事項**：花のない状態ではホザキノフサモとの識別は困難である。現時点でホザキノフサモと認識されている個体群の中に本種が混在している可能性もある。ホザキノフサモを含めた現状確認調査を行う必要がある。



執筆者 池田博・宮崎卓
文献一覧 99, 174, 221, 270, 289, 366

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	DD	DD	EX	CR	CR	
2010	●	VU	VU	VU		
1998	B		B			



八王子市（植栽）2018年9月1日

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	●	●	●	CR	CR	
2010	●	●	●	CR		
1998			B			



山梨県 1986年7月28日

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	－	EX	CR	CR	CR	
2010						
1998						



山梨県 2019年7月20日

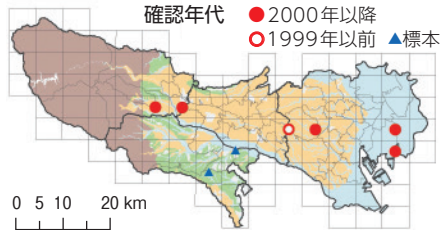
被子植物 マメ科

■ **種の特性と生育状況** : 本州、四国、九州、南西諸島（奄美大島）、小笠原諸島に分布する性の多年草。葉は3出複葉で、小葉は広卵状菱形、長さ幅ともに1～3cm。花期は8～9月で、黄色い花をつける。日当たりの良い林縁、河川敷などの草地に生育する。都内における確実な自生地は西多摩の河川草地一か所のみである。

■ **生存を脅かす要因** : 河川・草地の改变、里山の管理放棄など。もともと都内における本種の分布は稀であったと考えられる。

■ **特記事項** : 本種は分布量の多い西南日本でも、植栽樹の植え込みや造成地によく出現する。都内でも、そのような場所に出現した場合は人為分布の可能性もあり、分布由来の判断に困る場合が想定される。

執筆者	池田博・宮崎卓
文献一覧	17, 196, 270, 357



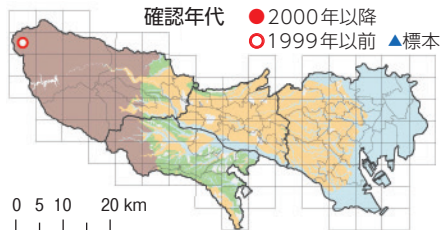
被子植物 マメ科

■ **種の特性と生育状況** : 北海道、本州（中部以北）に分布する。亜高山帯、高山帯の草地、岩礫地に生育する多年草で、高さ20～80cm。小葉は11～25枚で狭卵形または狭楕円形、長さ1～3cm、幅4～10mm、裏面に伏した白軟毛が生える。花期は6～8月。花序は多数の花をつけ、長さ3～8cm。花は長さ12～20mm。節果は広線形、長さ2～4cm、幅4～6mm、2～4個の小節果からなり、短柄をつけ、縫合線に幅狭い翼があり、翼の縁には不規則な鋸歯がある。西多摩では、亜高山帯の尾根草原から岩礫地にわずかな自生地がある。

■ **生存を脅かす要因** : 現存する個体が非常に少ないため、自生地である岩礫地の自然崩壊や登山道のオーバーユースによる踏みつけによって、その生存が脅かされる。また、自生地はシカの分布域にあり、その食害も危惧される。事実、東京の自生地に近い埼玉県側では、本種は岩壁にカrouうじて生育する状況であり、これがシカの食害の結果であることを示唆している。

■ **特記事項** : 本種の垂直分布域である亜高山帯は、東京都では面積が非常に狭い。このため、本種はもともと局所的に分布する、個体数の少ない植物と考えられる。

執筆者	池田博・宮崎卓
文献一覧	63, 136, 173



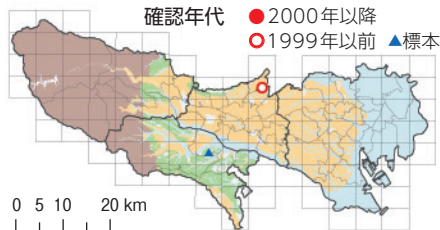
被子植物 マメ科

■ **種の特性と生育状況** : 北海道、本州、九州に分布する多年草で、山麓の草地や林縁に生育する。高さ60～200cm。小葉は4～8枚で楕円形～卵形、鈍頭で裏面は緑白色。葉軸の先は分枝した巻きひげとなる。托葉は緑色、大型で狭楕円形～扁扇形、先端はやや鋭尖頭。花期は7～8月。花は総状花序に10～30個つき、淡黄色でのちに黄褐色になる。豆果は扁平な線形で無毛、中に11～17個の種子を入れる。北多摩、南多摩、西多摩に記録はあるが、現状不明である。

■ **生存を脅かす要因** : 一般的には、戦後の経済成長による都市化（草地の開発、山林伐採、土地造成）のため、生育立地が失われたと考えられる。

■ **特記事項** : 記録が非常に少ない。西多摩の青梅市や北多摩の清瀬市にも記録があるが標本が残っていない。南多摩は1940年の高幡不動の標本が都立大学牧野標本館にある。北多摩に関しては、飯泉（1961）の標本が牧野標本館に残っているはずだが、現時点では未確認である。

執筆者	池田博・宮崎卓
文献一覧	25, 58, 63, 105, 270, 366



	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	VU	VU	VU	VU	VU	
2010	EX	VU	VU	VU		
1998						



国分寺市 1994年10月15日

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	●	DD	EN	VU	VU	
2010						
1998						



町田市 2021年6月9日

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	VU	DD	CR	CR	CR	
2010						
1998						



八王子市 2019年8月31日

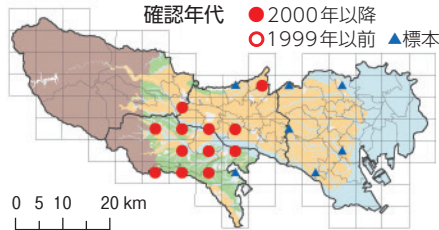
被子植物 マメ科

■ **種の特性と生育状況** : 本州、四国、九州に分布する一年草または多年草。茎は高さ30～60cm。葉は偶数羽状複葉で長さ3～7cm、小葉は15～35対。花期は8～10月。葉腋のやや上に黄色い花を1～2個つける。低地の河原や河川敷から、丘陵地、台地にかけての谷戸の草地、造成地などに生育する。都内では、多摩川とその支流の河原や河川敷が主な自生地である。

■ **生存を脅かす要因** : 河川の管理による改变、改修、侵略的外来種との競合など。人為管理下にある草地では、本種の成長時期が緑地や路傍の草刈り期と一致することがあるため、本種が刈り取られないための草地管理上の配慮が必要である。

■ **特記事項** : 生態的に河川による攪乱後の裸地にすばやく進出し、繁茂する特徴がある。そのため、1年単位で個体数が大きく変動し、正確な個体数の把握が困難な種である。

執筆者	池田博・宮崎卓
文献一覧	43, 196



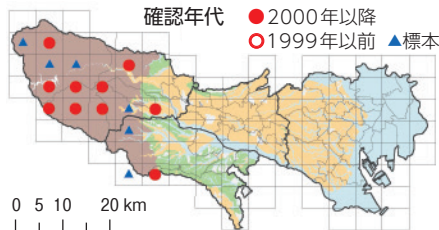
被子植物 マメ科

■ **種の特性と生育状況** : 本州（関東・中部地方以西）、四国、九州（熊本県以北）の山地に生育する落葉高木で、高さ15mに達する。葉は偶数または奇数羽状複葉。小葉は8～13枚、互生まれに対生し、長楕円形で鋭尖頭。表面は無毛、裏面は粉白色。花序は頂生する複総状花序。花期は6～8月、花弁は白色。豆果は広線形で翼はなく、熟すと無毛となる。南多摩では主に山裾の湿潤な樹林に生育し、西多摩では主に石灰岩地の暖温帯林上部に生育する。

■ **生存を脅かす要因** : 山林伐採、林道の整備や砂防堤の改修など

■ **特記事項** : 南多摩の町田市大戸には標高205mに自生があり、これに隣接する神奈川県相模原市の相模川沿いにも標高200～300mで本種がまとまった個体数で出現する。南多摩とその隣接地では、本種の分布の中心は西多摩よりも人里に近い低標高地にあると考えられる。

執筆者	池田博・宮崎卓
文献一覧	63, 366



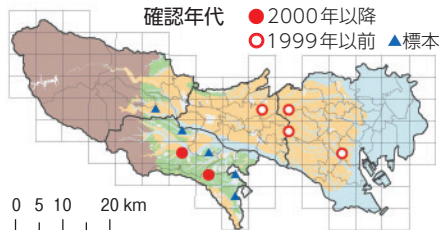
被子植物 マメ科

■ **種の特性と生育状況** : 本州（東北南部以西）、四国、九州、琉球に分布する一年草。日当たりの良い草地や道ばたに生える。高さ20～70cm。葉は1小葉でほとんど無柄、線形～長楕円形、鋭頭。托葉は線形。花期は7～9月。総状花序で青紫色の2～20花をつける。豆果は褐色の長毛に覆われた萼に包まれ、長楕円形で無毛、長さ10～15mm、熟して2片に裂開し、4～15個の種子を含む。区部、北多摩、西多摩では現状不明である。南多摩では丘陵部の草地に現存するがきわめて局限され、危機的な状況にある。

■ **生存を脅かす要因** : 山林・草地の土地造成、河川の護岸工事、河川の土手や河川敷の草刈りなど管理の放棄、それに谷戸奥の耕作地周囲の管理放棄などが主な要因である。

■ **特記事項** : 一年草であり、短期間で個体数が大きく変動する。そのため、個体数を継続的に追跡していないと、知らずに消滅する危険がある。

執筆者	池田博・宮崎卓
文献一覧	54, 63, 243



区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	EN	EN	CR	EN	VU
2010	VU	VU	VU	VU	
1998	B	B			



八王子市 1990 年 9 月 2 日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	CR	VU	VU	VU	
2010	EX	VU	VU	VU	
1998	B	B			



八王子市 2022 年 8 月 20 日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	CR	DD	DD	CR	
2010	VU	VU	・	・	
1998					



江戸川区 2007 年 11 月 25 日

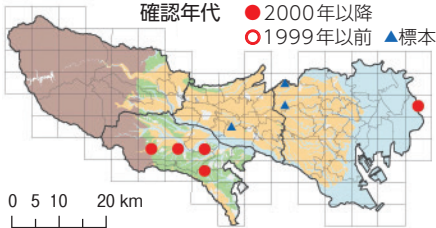
被子植物 マメ科

■ **種の特性と生育状況**：本州、四国、九州、南西諸島に分布する落葉小低木。高さは1.5mに達する。全体に黄褐色の軟毛が生える。頂小葉は長楕円形で長さ3～6cm。花期は7～9月。花は帯黄白色で長さ8～10mm、長い総状花序に多数つく。閉鎖花はやや多数が葉腋に集まってつく。節果は卵形、長さ4～5mm、閉鎖花からできたものはやや小型。河川敷の管理されたシバ草地や法面草地などに生育し、区部、北多摩、南多摩では現存が確認されているが、西多摩では近年確認例がない。

■ **生存を脅かす要因**：生育地のある河川敷や土手に改変を加える河川改修。人為的な管理下の生育地では、管理放棄が主な要因である。なお、本種の生育に適した採草地、牧場などの減少も根本的要因としてあげられる。

■ **特記事項**：他種からの被陰に弱い反面、茎からの出芽力は強い。そのため、年に数度の草刈りに耐え、人為的な道端や公園の芝地に出現することがある。

執筆 者 池田博・宮崎卓
文献一 覧 17, 43



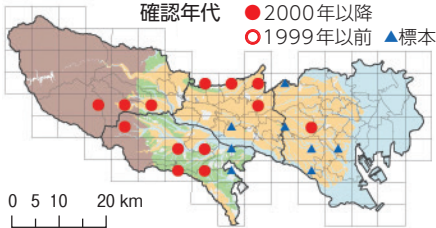
被子植物 マメ科

■ **種の特性と生育状況**：本州、四国、九州、南西諸島に分布する落葉低木。茎は高さ40～60cm。頂小葉は長楕円形で、長さ1～2cm。花期は8～9月。開放花と閉鎖花をつける。開放花は淡紅紫色を帯びた白色で、長さ4～5mm、短い総状花序に2～5花をつける。閉鎖花は葉腋に数個が束生する。節果は広い卵形でほぼ無毛、網状脈が目立ち、長さ約4mm。区部では非常に少ないが、それ以外では丘陵から低山地の林縁、草地、路傍、芝地などに生育する。一般的には群生せず、生育地でも少数個体が生育している場合が多い。

■ **生存を脅かす要因**：特に区部、北多摩では戦後から続く都市開発における土地造成による。また、全域を通して人為草地の管理放棄により、本種の生育に適さない植生へと遷移したことが考えられる。

■ **特記事項**：東京都 RDB 2013 版では絶滅判定だった区部で、少数だが現存が確認できた。近縁種のイヌハギ同様、刈りこみ、踏圧に強く、公園の芝地などにも生育可能である。

執筆 者 池田博・宮崎卓
文献一 覧 43, 196



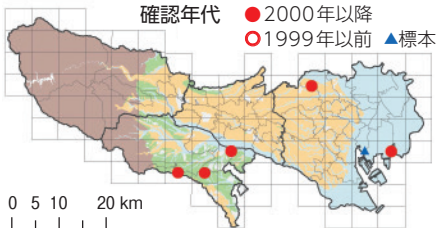
被子植物 マメ科

■ **種の特性と生育状況**：本州（関東以西）、四国、九州、南西諸島に分布するつる性の多年草。茎は長さ2m以上に達し、葉は3出複葉。小葉は菱状倒卵形から広倒卵形。花期は7～10月で、淡黄色の花をつける。豆果は扁平な楕円形で紅熟し、種子は黒色で光沢がある。海に近い常緑樹林の林縁や河口部の原野などが本来の生育環境であるが、区部や南多摩の都市公園や緑地内でも確認されている。

■ **生存を脅かす要因**：暖地性植物であり、元来都内本土部は分布の北限に近く、分布量も少ない。また、気候的に山地域での生育は難しく、主な生育範囲が低地から丘陵部の人間活動の影響を強く受ける場所である。そのため、開発や土地の改変により生育地が消滅するおそれがある。

■ **特記事項**：近年、丘陵部の公園で確認されており、それらは客土あるいは植栽木に伴う人為分布の可能性が考えられる。ただし、一般的に本種の侵略的分布拡大の例は聞かないため、丘陵部の個体は今後の経過観察をした上で取り扱いを決めてもよい。また、根株に付着した暖地性種の侵入につながることから、安易な常緑樹の導入には慎重を期す必要がある。

執筆 者 池田博・宮崎卓
文献一 覧 223, 270



区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	CR	・	・	CR	
2010					
1998					



新潟県 1995 年 6 月 4 日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	EX	EN	EN	EN	EN
2010	EX	EN	VU	VU	
1998			B		



町田市 2021 年 5 月 4 日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	EN	VU	NT	VU	
2010	VU	VU			
1998	C				



奥多摩町 2001 年 8 月 24 日

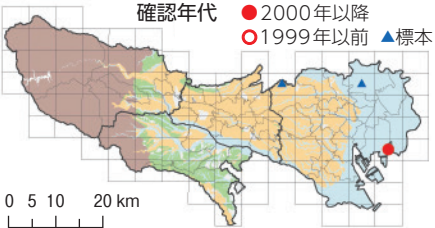
被子植物 マメ科

■ **種の特性と生育状況**：北海道から琉球まで分布し、海岸、まれに湖や川原などの砂地に生育する多年草。茎は斜上し、下部は長く這い、稜角がある。葉は8～12枚の小葉からなり、葉軸の先端は巻きひげとなる。小葉は卵形～長楕円形、長さ1.5～4cm。托葉は矢じり形から三角状卵形で、長さ1～4cm、幅5～25mm。花期は4～7月。豆果は無毛。区部の人工的な砂州で現存が確認されているが、現状の確認が必要である。

■ **生存を脅かす要因**：東京都本土部では、本来の生育地は海岸や河口の砂地と考えられる。自然の海岸や河口が失われたことが、本種が減少した主な要因である。また、海岸が主な生育地であるため、海岸線の短い東京都本土部では、本種の自生地はもともと少なかったと考えられる。

■ **特記事項**：区部の確認地点は湾岸造成地であり、自然に漂着したと考えられる。本種のような砂地に生える植物は、土砂の堆積や流失により、個体数が大きく変動することがある。

執筆 者 池田博・宮崎卓
文献一 覧 63, 239



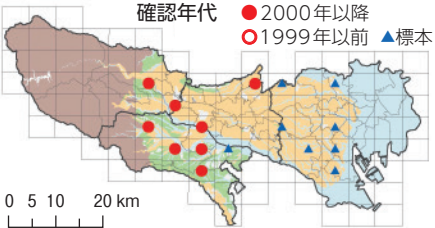
被子植物 マメ科

■ **種の特性と生育状況**：本州、九州に分布する多年草。直立して高さ80cmに達する。茎は三稜形で、幅1～2mmの2枚の翼がある。小葉は2～6枚、狭楕円形で、長さ5～10cm、幅4～7mm、巻きひげは分枝しない。花期は5～7月。花は紫色で長さ1.5～2cm、総状花序に4～8花がつく。豆果は広線形、長さ3～4.5cm、幅約0.5cm。明るい湿性草地に生育する。南多摩、西多摩の河川の土手や河川敷の低茎草地、丘陵地の谷戸の湿地に自生地が残されている。北多摩では多摩川河川敷などの人為管理下の低茎草地に残存する。

■ **生存を脅かす要因**：湿地や斜面草地の改変、管理放棄による高茎草地への遷移など。生育期間中の日照の確保と同時に、冬季の草刈りなど適切な時期の草地管理を行うことが望ましい。

■ **特記事項**：生育地にはある程度残っているものの、その多くは本種の保護を目的とした人為管理下の個体群である。現在では、保全目的の管理下でない本種の生育立地（氾濫により維持される河原の低茎草地など）は非常に少なくなっている。

執筆 者 池田博・宮崎卓
文献一 覧 196, 270



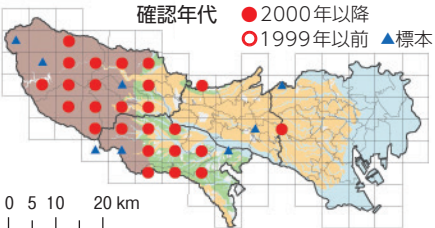
被子植物 マメ科

■ **種の特性と生育状況**：本州、四国、九州に分布する落葉低木。高さ2m以上になる。頂小葉は卵形または長楕円形。花期は6～9月。花序は長さ2～7cm。花は長さ約10mmで、淡黄色、翼弁は紫紅色。山肌の露出した崖地、切通し面、露岩地の岩隙に生育する。東京都本土部全域に分布する。西多摩ではランク外だが、区部では非常に少なく、北多摩でも分布範囲が限定されている。

■ **生存を脅かす要因**：丘陵部や台地の各種開発・土地造成や、生育立地である崖地や自然斜面のモルタル吹付や草止めの施工が本要因である。また、法面緑化の目的で導入された他のハギ類も、本種の生育環境を圧迫している可能性がある。

■ **特記事項**：檜山(1965)では、産地が特にあげられておらず、生育立地として「林地」と記されるのみである。当時は区部でも着目される種でなかったと推測される。

執筆 者 池田博・宮崎卓
文献一 覧 17, 196, 270



区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	EX	EX	EX	CR	
2010	●	VU	VU	VU	
1998			B		



あきる野市 2021 年 9 月 21 日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	●	CR	EN	VU	EN
2010	●	VU	VU	VU	
1998			B		



町田市 2007 年 9 月 27 日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	EN	EN	VU	NT	VU
2010	VU				
1998			C		



八王子市 1989 年 5 月 2 日

ヨツバハギ

Vicia nipponica

被子植物
マメ科

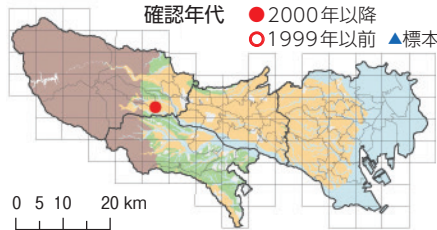
■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州、四国、九州に分布する多年草。高さ 30 ～ 80cm。葉は 4 ～ 8 枚の小葉を対生してつけ、葉軸の先端は巻きひげとなるか小突起に終わる。小葉は楕円形から広楕円形で、長さ 2.5 ～ 5cm、幅 1 ～ 3.5cm。花期は 7 ～ 10 月。花序は長さ 2 ～ 8cm で、密に 5 ～ 15 花をつける。花は紅紫色または青紫色で、長さ 10 ～ 12mm。豆果は狭長楕円形、長さ 3 ～ 4.5cm、幅 6 ～ 7mm で、3 ～ 5 個の種子を入れる。低山地や山麓の草地に生育する。都内では、過去に区部、北多摩、南多摩の記録があるが絶滅し、現在は西多摩に局所的に残るのみである。

■ **生存を脅かす要因**：現在では人為的に管理された河川周辺にのみ生育しており、河川改修などの改変、または草地管理の放棄により消滅する危険がある。

■ **特記事項**：北多摩と南多摩では、今回は絶滅の判定がなされた。しかし、南多摩に関しては現存しているという情報もあり、継続的調査が必要である。

執筆者 池田博・宮崎卓

文献一覧 223, 270, 366



オオバクサフジ

Vicia pseudo-orobus

被子植物
マメ科

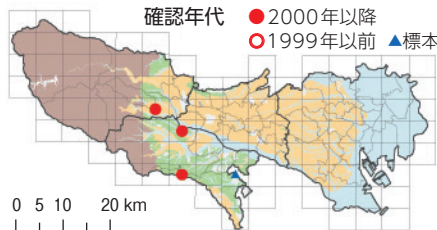
■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州、四国、九州に分布するつる性の多年草で、長さ 80 ～ 150cm。葉は偶数羽状複葉で先端は分枝する巻きひげとなる。小葉はクサフジやツルフジバカマに比べて大きく、数は少ない。花期は 8 ～ 10 月、総状花序に多数の花をつけ、花は青紫色。豆果は狭長楕円形で、黒色の種子を数個入れる。台地から丘陵地にかけての谷戸斜面や山地草原など、日当たりの良い草地に生育し、南多摩と西多摩の丘陵地にわずかに点在するのみとなっている。

■ **生存を脅かす要因**：草地造成、管理放棄、外来種による競合、除草剤の使用などが主たる減少の要因である。自生地の定期的な草刈りが必要である。

■ **特記事項**：檜山（1965）の時点では、清瀬、国立の産地が挙げられているが、北多摩での現状は詳細不明である。現存個体は非常に少ない。

執筆者 池田博・宮崎卓

文献一覧 17, 243, 263, 270



ヒメハギ

Polygala japonica

被子植物
ヒメハギ科

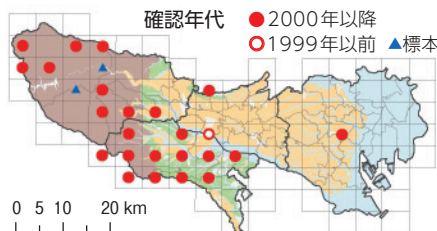
■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州、四国、九州、南西諸島に分布する多年草。茎の基部は分枝して地上を這い、長さ 10 ～ 20cm。葉はまばらにつく。花は紅紫色。下の花弁 1 個は細裂する。さく果は扁平。種子は長さ 2.5mm。花期は 4 ～ 6 月。明るいシバ草地、関東ローマ質の半裸地などに生育する。区部では渋谷区で確認されており、北多摩では非常に少ない。南多摩でも近年減少傾向のようである。西多摩では現在も所々に見られる。

■ **生存を脅かす要因**：人為的な芝地では、管理放棄による植生遷移が要因となる。谷戸奥の関東ローマの斜面や丘陵部の半裸地（地滑り跡など）の個体は宅地開発などの土地造成により減少した。

■ **特記事項**:小型の植物で、関東ローマ（粘土質の明るい土壌）の半裸地であれば、墓地のふち、公園内の植え込みの下、谷戸奥の段差による法面などに生育する。しかし、多くの場合生育面積は狭く、わずかな改変（掃除、草むしりなど）により個体数が減少する。

執筆者 池田博・宮崎卓

文献一覧 196, 202, 270



区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	CR	VU	VU	VU	
2010					
1998					



日野市 2021 年 6 月 3 日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	CR	EN	EN	EN	
2010					
1998					



日野市 2021 年 9 月 15 日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	CR	EX	EX	EX	CR
2010					
1998					



長野県 2019 年 8 月 8 日

クララ

Sophora flavescens

被子植物
マメ科

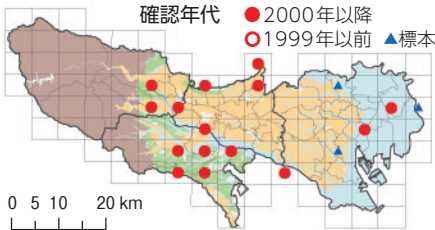
■ **種の特性と生育状況**：本州、四国、九州に分布する多年草。日当たりのよい草地、河原などに多い。茎は高さ 80 ～ 150cm。托葉は早落性、糸状で長さ 5 ～ 8mm。葉は長さ 15 ～ 25mm。小葉は 15 ～ 41 枚、長楕円形～狭卵形で長さ 2 ～ 4cm、幅 7 ～ 15mm。花期は 6 ～ 7 月。花は淡黄色、長さ 15 ～ 18mm。萼は長さ 7 ～ 8mm。豆果は線形、やや鈍4稜形で長さ 7 ～ 8cm、短伏毛があり、4 ～ 5 種子を入れる。南多摩、西多摩、北多摩では主に河川敷や堤防草地、林縁草地などに生育する。

■ **生存を脅かす要因**：主に人為的に管理された草地に生育するため、生育地である谷戸の周囲や河川敷、河川の土手などの草刈りの放棄が本種の生存を脅かす要因と言える。また、明るい林縁などの個体は、宅地化を伴う土地造成でも失われたと考えられる。

■ **特記事項**：区部の記録のひとつは 2011 年の千代田区のものであるが、翌年には記録されていない。また、世田谷区との境界の狛江市駒井の多摩川で、2015 年に本種の自生が確認できた。このため、隣接する世田谷区の河原などでも出現が期待される。

執筆者 池田博・宮崎卓

文献一覧 63, 201



ツルフジバカマ

Vicia amoena

被子植物
マメ科

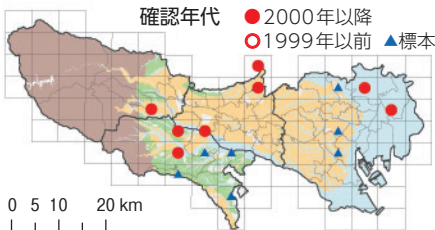
■ **種の特性と生育状況**：南千島、北海道、本州、四国、九州に分布し、山野の草原、林縁、河原に見られるつる状の多年草。茎は長さ 2m に達する。葉は両面に白軟毛があるが、時に無毛。托葉には数個の荒い歯牙が目立つ。花期は 8 ～ 10 月。花は紅紫色で総状花序につく。萼は長さ 6 ～ 7mm、萼裂片は不同長。豆果は狭楕円形で鋭頭、3 ～ 5 個の種子を入れる。南多摩と西多摩以外は 10 年以上前の確認記録である。南多摩では河川敷や鉄道法面などの人為草地で確認されている。

■ **生存を脅かす要因**：もともと非常に少ない。現存地に関しては、草刈りなどの管理の放棄が考えられる。また、現存地が河川敷の場合は、数十年に一度の増水により流される危険もある。

■ **特記事項**：本種は東京都本土部では非常に少ないが、隣接の神奈川県では少なくはない。このような種の存在（シロバナハンショウヅルの項も参照）は今後解明すべき、地域フローラの課題である。

執筆者 池田博・宮崎卓

文献一覧 63, 99, 105, 264, 270



クサフジ

Vicia cracca

被子植物
マメ科

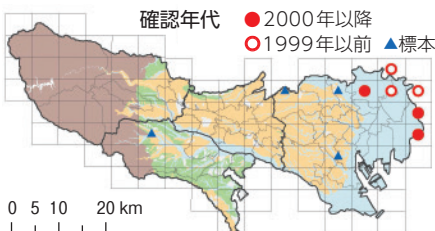
■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州、九州に分布するつる性の多年草。茎は長さ 1.5m に達する。葉は羽状複葉で長さ 8 ～ 15cm、小葉は狭卵形で、18 ～ 24 枚。花期は 5 ～ 9 月。花は総状花序で青紫色、長さ 10 ～ 12mm。萼筒は花柄の後ろに突き出さず、花弁（旗弁）の基部は反り返った部分と同長。豆果は無毛、2 ～ 6 個の種子を入れる。区部東縁の低地川岸、目黒区自然教育園内において、わずかに現存が確認されているのみである。

■ **生存を脅かす要因**：元々、河川敷草地や原野に生育する種であり、管理放棄や遷移進行、数十年に 1 度の水害などが生存を脅かした。加えて、近年では帰化種ナヨクサフジなどにその生育立地を取って代わられた。

■ **特記事項**：檜山（1965）には産地が特に明記されず、生育立地のみ「草地」とある。当時は特に着目する種ではなかったと考えられる。この点から見れば、わずか 50 余年での本種の激減は、非常に危機的な状況と言える。

執筆者 池田博・宮崎卓

文献一覧 3, 51, 143, 270



	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	●	●	EN	VU	VU	
2010	●	●	●	VU		
1998				C		



長野県 2018 年 8 月 1 日

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	●	●	●	CR	CR	
2010	●	●	●	CR		
1998						



	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	●	●	●	EN	VU	
2010	●	●	●	VU	VU	
1998				C	C	



青梅市 2019 年 5 月 15 日

被子植物

バラ科

オオダイコンソウ

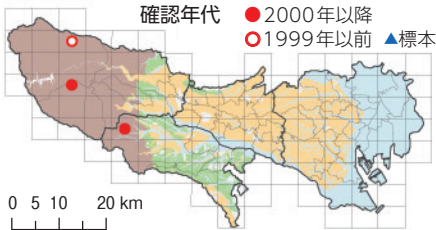
Geum aleppicum

■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州（中部以北）に分布する多年草。茎は直立し、高さ60～100cm。根生葉は有柄の羽状複葉。頂小葉は菱状卵形、長さ5～10cmで鋭頭、基部はくさび形。花期は7～9月。花は枝の先に1個ずつつき、径15～20mm。花弁は5枚で黄色。集合果はやや大型で倒卵形、そう果は紡錘形で粗い毛がある。南多摩と西多摩で生育が確認されている。山地草原から林縁、路傍の草地などに生育する。

■ **生存を脅かす要因**：南多摩、西多摩では、生育地である人為草地や林縁の管理放棄が要因となる。また、西多摩ではシカなど動物の食害も個体数の減少を招く要因となり得る。

■ **特記事項**：都立大学牧野標本館には、戦前の区部、北多摩産の標本もある。しかし、これらの中には「栽培」と記されている標本もあり、これらの地域のランク評価には慎重を要する。一方、神奈川県では横浜市や鎌倉市の記録もあり、都内低地域にも分布する可能性はある。

執筆者 池田博・宮崎卓
文献一覧 97, 168, 173, 243, 366



被子植物

バラ科

コキンバイ

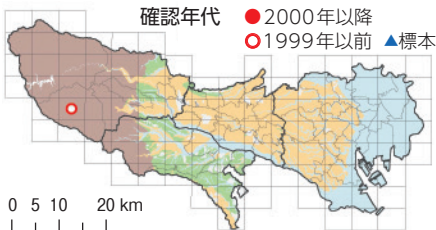
Geum ternatum

■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州（近畿以北）に分布する多年草。葉は根生し3小葉、葉柄は長さ5～10cm。花期は5～6月。花茎は高さ10～20cmで1～3花をつける。花は黄色で平開し、径約2cm、長い柄がある。そう果は長さ3～4mmで白毛が多い。山地の樹林内に生育する。西多摩から記録されているが、現状不明である。もともと冷温帯の樹林内などに生育する種である。

■ **生存を脅かす要因**：報告された地域は垂直分布の点からも下限に近い可能性があり、近年の温暖化は十分脅威になる。また、もともと個体数が少なく、自生地が改変された可能性もある。花が美しく、栽培目的の採取の対象にもなる。

■ **特記事項**：1972年に青梅市から記録があるが、その後の報告はない。また、公的な標本庫に標本も残っていない。当時の目録で貴重種になっていることから、目録作成時には自生かどうかは検討されたものと思われる。当時の標本の確認、現地での再確認など、今後も情報収集に努めるべきである

執筆者 池田博・宮崎卓
文献一覧 58, 136, 152



被子植物

バラ科

ズミ

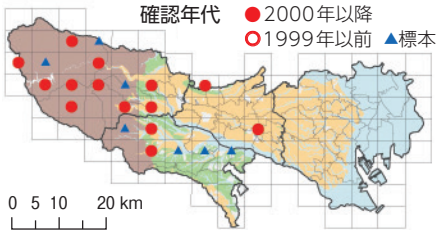
Malus toringo

■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州、四国、九州に分布する落葉性の低木～小高木。高さ10mに達する。短枝はしばしば刺状となる。葉は狭卵形、楕円形から長楕円形または狭倒卵形、長さ3～10cm。花は白色で初め紅色を帯び、径2～3cm。4～8個が短枝に散形状につき、5～6月に咲く。果実は球形で無毛、径6～10mm、赤色に熟す。山林原野に生育する。北多摩および南多摩の丘陵地の林縁や明るい林内、西多摩では渓谷の岩上や河原、冷温帯林内の尾根に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：河川改修、植生遷移の進行による生育環境の変化、宅地開発などが本種の生存を脅かす主要要因である。強光下を好むので、暖温帯の林内に生育するものは、ズミ以外の樹木を間伐するなど、日照条件の確保が保全対策として重要である。

■ **特記事項**：山地域では礫質の多い土壌を好むようである。また、丘陵部では粘土質の多い関東ローム質を好み、黒ボク土を嫌うようである。

執筆者 池田博・宮崎卓
文献一覧 17, 173



	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	●	●	●	EN	EN	EN
2010	EX	●	●	CR		
1998				B		



奥多摩町 1983 年 9 月 12 日

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	●	CR	CR	CR	CR	VU
2010	●	EN	EN	EN		
1998				A		



八王子市（陣馬山産植栽）2022年7月24日

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	●	●	EX	CR	CR	
2010	●	●	EX	CR		
1998				A		



多摩市（植栽）1996 年 4 月 23 日

被子植物

ヒメハギ科

ヒナノキンチャク

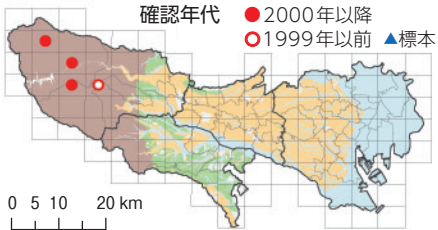
Polygala tatarinowii

■ **種の特性と生育状況**：本州、四国、九州に分布する一年草。茎は基部から分枝し、高さ4～12cm。葉は薄く卵円形、長さ1～3cm、縁に毛が生える。花期は7～10月。枝先に多数の花を総状につける。花は小型で薄紫色。花弁は3個で下の1個の先が房状になる。さく果は扁円形。西多摩の貧栄養で疎らな草地、陽地に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：主な要因は生育立地の植生遷移であり、植生遷移は人為管理の放棄以外にも、富栄養な水や土壌の流入などに起因する場合がある。また、生育立地の狭さゆえに、わずかな人為改変により個体数を大きく減らすことがある。

■ **特記事項**：西多摩では、今回新たな確認地点が見つかったため、東京都 RDB 2013 版に比べて判定ランクが1ランク下がった。しかし、小さな個体が密集して生育し、一年草でもあることから、短期間で個体数が大きく変動する危険性がある。引き続き生育状況を見守る必要がある。

執筆者 池田博・宮崎卓
文献一覧 168, 173



被子植物

バラ科

チョウセンキンミズヒキ

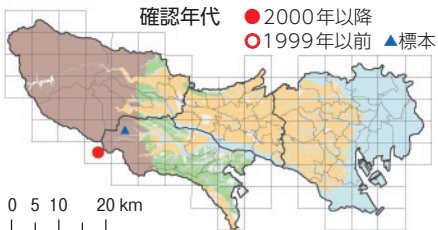
Agrimonia coreana

■ **種の特性と生育状況**：北海道（南西部）、本州、四国、九州に分布する多年草。茎には長軟毛が多い。葉は3～5小葉からなり、裏面には長軟毛と不明瞭な腺点が多い。托葉は大きく、扇形、粗く大きな歯牙がある。花期は7～8月。花は黄色で、花径は6～11mm。雄しべは12～30個である。南多摩、北多摩に記録があり、台地、丘陵地では、谷戸の林縁などに生育し、山地では人為草地や明るい樹林内に生育していたという。近年は確認されていない。

■ **生存を脅かす要因**：もともと分布が局限されていた。加えて、開発による山林伐採や土地造成、人為草地、樹林の管理放棄により減少した。

■ **特記事項**：近年、本種に似たオオキンミズヒキ *A. noguchii* が記載され、その変種ハコネキンミズヒキ（subsp. *hakonensis*）が神奈川県から報告されている。したがって、東京都から報告されたチョウセンキンミズヒキも、今後ハコネキンミズヒキと扱われる可能性がある。

執筆者 池田博・宮崎卓
文献一覧 64, 99, 173, 226, 253



被子植物

バラ科

ザイフリボク

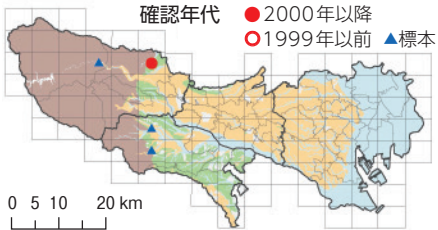
Amelanchier asiatica

■ **種の特性と生育状況**：本州（岩手以南）、四国、九州に分布する落葉樹で、高さ12mに達する。葉は倒卵形～楕円形で鋭頭、基部は円形から鈍形、縁に細鋸歯がある。花期は4～5月。花弁は白色で狭楕円形。果実はほぼ球形で径6～10mm、紫黑色に熟する。落葉樹が優占する明るい疎林内などに生育し、西多摩には現存するが非常に少ない。また、南多摩では絶滅したと考えられる。

■ **生存を脅かす要因**：もともとの分布が非常に少ない。開発、改変の予定地に本種の生育が確認された場合は、移植などの保全策を取ることが望ましい。

■ **特記事項**：都立大学牧野標本館には、青梅市惣岳山で採集された標本があり、ここは文献記録のある陣馬山や元八王子丘陵とともに中生代に海溝で変成した古い地層が分布する地域である。本種の分布には、地史との関係が考えられる。

執筆者 池田博・宮崎卓
文献一覧 152, 243, 253, 364, 366



区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	EX	●	EN	VU	VU
2010	●	●	VU	VU	
1998			C		C



日野市 2019 年 6 月 13 日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	●	●	VU	EN	VU
2010	●	●	VU	VU	
1998				B	



町田市 2019 年 3 月 25 日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	－	－	NT	NT	NT
2010					
1998					



八王子市 2016 年 3 月 24 日

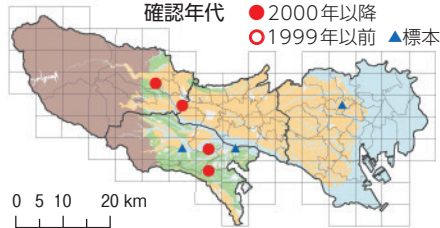
被子植物 バラ科
ヒロハノカワラサイコ <i>Potentilla niponica</i>

■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州（北部、中部）に分布する多年草。根生葉は7～13個の小葉からなる奇数羽状複葉で、カワラサイコに似るが、小葉間に小裂片がない。小葉の縁は羽状中裂またはやや深裂し、裏面には白綿毛が密生する。花期は6～8月。花は黄色い5弁花で、径13mm。萼、副萼ともに白綿毛が生える。そう果は無毛、平滑。南多摩では谷戸の低茎草地に生育する例もあるが、主に西多摩の多摩川河川敷や堤防斜面、堤防上の管理された低茎草地に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：河川改修による、河原を構成する礫や石の粒度の変化、河川の増水（植物に対する適度な攪乱）頻度の減少、水質の富栄養化による河川植生の高茎化などが考えられる。また、人為管理による立地（堤防、河川敷、谷戸など）に生育していた場合は、管理放棄による高茎草本の被圧も要因となる。

■ **特記事項**：多摩川では、カワラサイコよりも上流域に分布する。本種の方が、カワラサイコよりも大きな丸い礫や石が存在する河原を好むようである。

執筆者	池田博・宮崎卓
文献一覧	196, 270



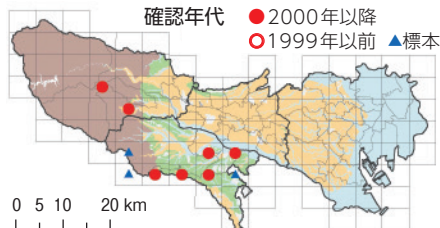
被子植物 バラ科
ヤブザクラ <i>Cerasus hisauchiana</i>

■ **種の特性と生育状況**：本州（関東、中部）に分布する落葉小高木。フォッサマグナ要素。マメザクラに似ているが、葉はひと回り大きく、長さ5～6cmになる。花柄は短く、長さ約1cmで、開出する軟毛が生える。萼筒は萼裂片の長さの約1.5倍、萼裂片は卵形で縁に鋸歯がある。花もマメザクラに比べ、ひと回り大きく、花弁は長さ12～13mmになる。マメザクラとエドヒガンの間に生じた雑種起源の種と考えられている。西多摩から南多摩の低山地から丘陵にかけて雑木林の明るい林内から林縁に生育する。稀に群生するが、分布は極めて局地的である。林内では低木層に出現し、林冠構成種にはならない。

■ **生存を脅かす要因**：丘陵部が分布の中心であり、住宅開発などにより、生育地の多くが失われた。また、一般に種子ができず、地下茎に生じたシュートで増殖するため、生殖力が弱く、遺伝的な多様性にも乏しい。さらに、樹高が低く、管理の廃れた雑木林では他の種に被圧されやすい。

■ **特記事項**：一般に種子は出来ないが、南多摩でも、大きな個体群から離れた場所に生育する1～少数の個体を見かけることがある。また、本種のかかった雑種も確認されており、稔性のある種子も稀に生じさせていると考えられる。

執筆者	池田博・宮崎卓
文献一覧	72, 91



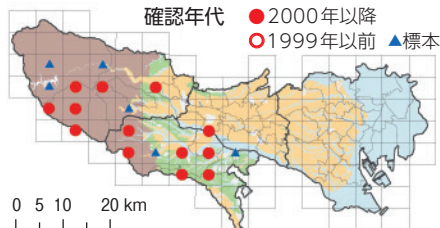
被子植物 バラ科
マメザクラ <i>Cerasus incisa</i>

■ **種の特性と生育状況**：本州（関東・中部地方）に分布する高さ3～8mの落葉低木。葉柄は有毛。葉身は倒卵形または卵形で、辺縁は二重鋸歯、両面に伏毛が生える。花期は3月下旬から4月上旬。花は1～3個で下向きにつく。萼筒は筒形で、萼片の約2.5倍長になる。萼片は全縁。都内では西多摩の山地域から南多摩の丘陵部にかけて分布する。

■ **生存を脅かす要因**：南多摩の丘陵部に関しては、土地造成や山林改変など。また、管理放棄により林内がアズマネザサなどに鬱閉されると、本種の生育が阻害される。西多摩では、山林改変が主な要因と考えられる。

■ **特記事項**：南多摩の丘陵部では近縁種との交雑個体と思われるものが多く、純粋な個体は意外と少ない可能性がある。そのような交雑個体の存在は、純血種の危機と捉えることもできるが、交雑起源種のヤブザクラやタマノホシザクラの例から、多種の遺伝子を取り込み、遺伝的多様性を促進させている側面も考えられる。

執筆者	池田博・宮崎卓
文献一覧	64



区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	●	－	EN	EN	EN
2010	●	●	EN	●	
1998				A	



八王子市 1991 年 6 月 17 日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	CR	VU	VU	VU	VU
2010	●	VU	VU	VU	
1998		B			



日野市 2021 年 6 月 20 日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	●	●	●	EW	EW
2010	●	●	●	CR	
1998				D	



北海道 1991 年 6 月 25 日

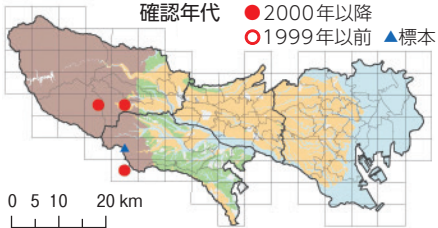
被子植物 バラ科
カナウツギ <i>Neillia tanakae</i>

■ **種の特性と生育状況**：本州（関東・中部の太平洋側）に分布する落葉低木。高さ2.5mに達する。葉は三角状広卵形で、長さ5～11cm、浅く3～5裂し、欠刻状の鋭鋸歯があり、先は尾状に伸びる。花は5～6月。花は円錐花序につき、花序の長さは4～10cm。花弁はほぼ円形で径約2mm、縁に微毛が生える。袋果は楕円形、長さ約2.5mm、短毛を密生し、1～2個の種子を入れる。南多摩、西多摩の落葉樹林内とその林縁に生育するが、もともと非常に少ない。

■ **生存を脅かす要因**：一般的には河川、渓谷の開発による。渓谷部での道路建設、砂防堤などの建設による河川水位の変動などが主要因と考えられる。林縁に残存している場合は、樹林の管理放棄も生存を脅かす要因と言える。

■ **特記事項**：フォッサマグナ要素の植物であり、隣接の神奈川県相模原市緑区では、相模川支流域や道志川流域に稀ではない。都内には分布東限の個体群が分布していると考えられる。

執筆者	池田博・宮崎卓
文献一覧	17, 99, 186, 228



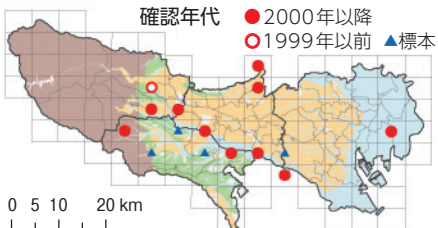
被子植物 バラ科
カワラサイコ <i>Potentilla chinensis</i>

■ **種の特性と生育状況**：本州、四国、九州に分布する多年草。根茎は太く、茎は長さ30～70cm。葉は羽状複葉。小葉は15～29個で倒披針形、長さは2～5cm。茎の先は分枝した花序になり、多数の花をつける。花期は6～8月、花は黄色で径10～15mm。花弁は倒卵形で、花床は有毛。河原の丸い礫が見られる半裸地や、定期的な草刈りを受ける土手の低茎草地に生育し、時には踏み固められた河川敷の運動場にも見られる。都内の多摩川では主に河川敷、土手、河原に自生する。

■ **生存を脅かす要因**：夏季の高温、乾燥や踏圧に強い反面、他種による被圧に弱い。また、肥沃で柔らかい土壌を嫌う性質もある。このため、河川改修などによる河川の水位変動、肥沃な土壌の堆積による河原環境の変化、土手や河川敷の低茎草地の管理放棄が本要因である。

■ **特記事項**：今回の調査期間に、北多摩に隣接する区部でも確認できた。ここでは、河川敷の散策路の縁や、土手の低茎草地に少数が見られた。土手や河川敷として、草刈りなどの管理が継続されれば、この個体群は今後も生存可能と考えられる。

執筆者	池田博・宮崎卓
文献一覧	17, 196



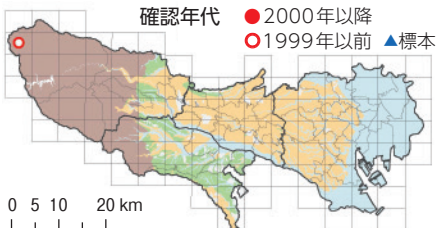
被子植物 バラ科
ギンロバイ(ハクロバイ) <i>Potentilla fruticosa</i> f. <i>mandshurica</i>

■ **種の特性と生育状況**：本州（近畿以東）、四国に分布する落葉小低木。幹は30～100cm。葉は互生、有柄、奇数羽状複葉で、長さ15～35mm、小葉は5～7個、卵状長楕円形で長さ1～2cm、幅3～10mm。花期は6～8月。花は白色、5花弁で径2～2.5cm。垂高山帯に生育する。西多摩の高標高地の岩場に生育していたが、今回の調査では自生を確認できず、野生絶滅の判定がなされた。

■ **生存を脅かす要因**：もともと分布が限られており、個体数も少なかった。乱獲の対象にもなったが、生育地が容易に盗掘できない岩場であることを考えれば、乱獲だけが絶滅の要因ではないと思われる。

■ **特記事項**：挿し木の可能な植物であり、技術的な困難は予想されるが、栽培品からの増殖を試みてもよい。また、現地調査は今後も継続すべきである。

執筆者	池田博・宮崎卓
文献一覧	1, 136, 173



	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020			EN	EN	EN	
2010			VU	VU		
1998						



八王子市 1997 年 4 月 2 日

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	－	－	EN	EN	EN	
2010			VU	VU		
1998				B		



調布市（植栽） 2006 年 9 月 22 日

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020				DD	DD	
2010				DD		
1998				A		



群馬県 1987 年 6 月 23 日

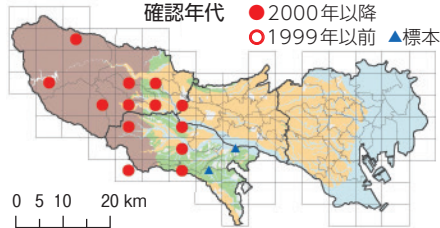
被子植物 バラ科

■ **種の特性と生育状況**：本州、四国、九州に分布する落葉高木。幹は高さ 20m に達する。葉身は長楕円形または狭倒卵形、長さ 3.3 ～ 8.8cm、幅 1.8 ～ 4.5cm、縁に 2 重鋸歯がある。花期は 4 月。花は葉より先に開き、径 1.5 ～ 2cm。萼筒は短い筒形で紅色を帯びる。花弁は淡紫色、長さ 10 ～ 12mm。果実は球形で、径約 9mm。南多摩の丘陵部（稀）から西多摩にかけての山地に自生個体が点在すると推定されるが、植栽個体との区別がつきにくく、近年の生育実態には不明な点が多い。

■ **生存を脅かす要因**：南多摩の丘陵部では個体数が少なく、宅地開発などによる土地造成や山林の伐採が生存を脅かす要因となる。西多摩では、山林伐採などの開発が生存を脅かす主な要因である。

■ **特記事項**：八王子に隣接する神奈川県の小仏地域（主に相模原市緑区藤野）には大きな個体群があり、南多摩の低山地に見られる個体はこの小仏地域から繋がる個体群の一部ではないかと推測される。昔から植栽され、丘陵部の個体に関しては、林内に生育していても植栽起源の可能性がある。分布、生育状況には、今後見直しが必要と考えられる。

執筆者	池田博・宮崎卓
文献一覧	17, 152



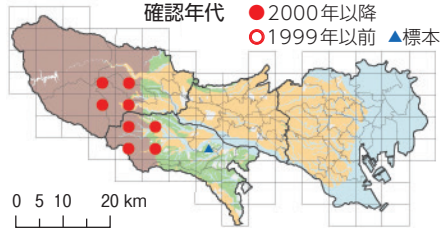
被子植物 バラ科

■ **種の特性と生育状況**：本州（福島県以南）、四国、九州、南西諸島に分布する常緑小高木。高さ 7m、径 30cm になる。葉は硬い革質。葉身は倒卵状長楕円形で、若い木に着く葉の縁には鋭い鋸歯があるが、老木の葉はほとんど全縁となる。花は白色で、花期は 9 ～ 10 月。果実は長楕円形で、長さ 9mm 内外、紫褐色～黒紫色に熟す。南多摩から西多摩にかけて、褐色森林土の分布する暖温帯の丘陵地上部から低山地の谷間などの樹林内に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：山林の伐採による生育環境の消滅が本種の生存を脅かす最大の要因と考えられる。また、もともと暖地性の樹種であり、東京都本土部（特に西多摩）は温度的に分布の限界に近い。

■ **特記事項**：温度的には区部や北多摩の低地域に生育していてもいいはずだが、これらの地域には確実な記録がない。全国的にも粘土質の多い褐色森林土、黄褐色森林土の分布域で見かけることが多い。

執筆者	池田博・宮崎卓
文献一覧	15, 17, 158, 200, 368



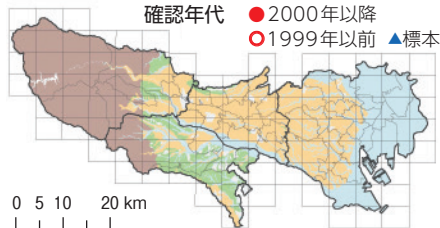
被子植物 バラ科

■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州（中部以北）に分布する落葉高木。幹は高さ 20m に達する。葉身は倒卵状長楕円形から長楕円形で先は尾状鋭尖形、腺に終わる細く鋭い鋸歯がある。花期は 5 ～ 6 月。花は葉より遅れて咲き、径約 10mm。花弁は円形で白色、長さ 4 ～ 5mm。果実は卵状球形、長さ 7 ～ 10mm、径 8mm、暗紫色～黒色に熟す。山地の落葉樹林内に生育する。西多摩の山地上部からの記録はあるが、現状は確認されていない。

■ **生存を脅かす要因**：西多摩に現存しているとすれば、予想される生育地は高標高域であり、林道敷設、管理などによる山林改変（不適切な管理）が、本種の生育に影響を及ぼすと考えられる。その他、サクラスガの幼虫による葉の食害、病気への感染などによる枯死や衰退などの報告事例がある。また、稚樹には動物による食害も考えられる。

■ **特記事項**：冷温帯性の種であり、標高の高い山地に現存している可能性はある。一方、残っていたとしても、山地の限られた範囲に島状に隔離されて分布していると想定されるため、遺伝的な多様性が低くなっている可能性がある。

執筆者	池田博・宮崎卓
文献一覧	192, 199



	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020				CR	CR	EN
2010				CR		
1998				A		



奥多摩町 2018 年 4 月 3 日

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020				VU	VU	
2010						
1998						



山梨県 2017 年 6 月 10 日

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020			CR		CR	CR
2010			CR			
1998						



八王子市 2015 年 4 月 6 日

ブコウマメザクラ

Cerasus incisa var. *bukosanensis*

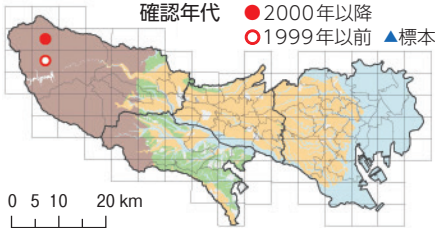
被子植物
バラ科

■ **種の特性と生育状況**：関東地方に分布する落葉小低木。マメザクラの変種で葉が大きく、長さ 5 ～ 8cm、両面にほとんど毛が生えない。西多摩の山地の石灰岩地の一部に稀に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：もともと分布が少なく、生育地も石灰岩地に限定されていた。自生地での石灰岩の採掘により、個体数も局限まで減少している。

■ **特記事項**：西多摩の石灰岩の岩山で現存が確認されている。この場所は位置的、立地的に十分な調査が難しく、今後は生育状況、個体数など、より十分な現状把握を行う必要がある。

執筆者	池田博・宮崎卓
文献一覧	173, 205



タカネザクラ

Cerasus nipponica

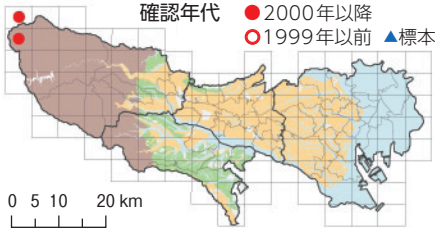
被子植物
バラ科

■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州（中部以北）の冷温帯から亜寒帯に分布する落葉小高木。葉身は倒卵形から倒卵状楕円形、先は尾状に伸び、縁には欠刻状の二重鋸歯がある。両面無毛で、長さ 8 ～ 12mm の柄がある。花期は 5 ～ 6 月。花は葉と同時に咲き、径 1.6 ～ 2.3cm。長さ 2mm ほどの短い花序柄があり、花柄は長さ 1.4 ～ 2.2cm、通常無毛。萼筒は長い鐘形または鐘形で、長さ 6 ～ 7mm、萼片の 1.5 ～ 2 倍の長さがある。西多摩の冷温帯から亜高山帯に分布するが、個体数は少ない。

■ **生存を脅かす要因**：高標高地に分布するため、東京都ではももとの分布域が限られており、温暖化による分布下限の上昇が危惧される。また、若木に関してはシカなど草食動物の食害が懸念される。

■ **特記事項**：高標高域に分布するため、現況において不明な点が多い。今後、個体数や食害の有無、温暖化の影響に関して、詳細を把握することが望まれる。

執筆者	池田博・宮崎卓
文献一覧	64, 168



タマノホシザクラ

Cerasus tamaclivorum

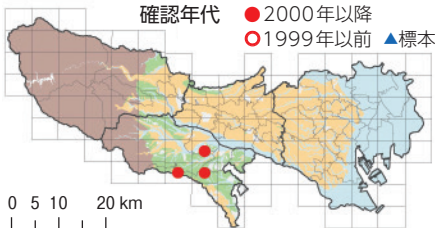
被子植物
バラ科

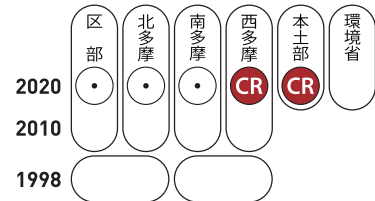
■ **種の特性と生育状況**：東京都固有の落葉小高木。高さ 12m ほどになる。葉は卵状楕円形で長さ 4 ～ 8cm、幅 2.5 ～ 4cm、鋸歯はやや不規則。花期は 3 ～ 4 月。花は淡紅色、1 ～ 2 個が下垂して咲き、花弁は全開しない。丘陵地に生育し、日あたりのよい雑木林や林縁を好む。3 倍体で不稔性、地下茎により栄養繁殖をする。南多摩のみに分布する。

■ **生存を脅かす要因**：栄養繁殖により増えるため分布範囲が狭く、遺伝的な多様性にも乏しい。現在は公園内などに残っているが、本種の記載（2004 年）以前に気づかれないまま失われた個体も多いと考えられる。

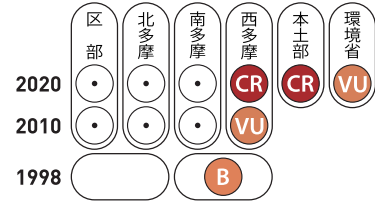
■ **特記事項**：分布域が約 170 ～ 15 万年前の堆積層に対応する。そのため、非常に短時間で分化したと考えられる。主に栄養繁殖で増え、実生個体が少ないことも本種が「新しい種」である可能性を示唆する。南多摩固有の植物として、自生地の保全管理を行うことが望まれる。

執筆者	池田博・宮崎卓
文献一覧	72, 73, 364

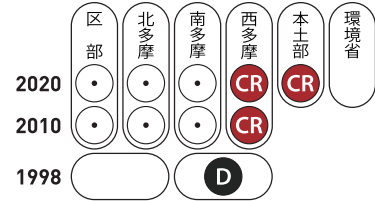




奥多摩町 2019年5月30日



長野県 1994年5月20日



奥多摩町

ヒメゴヨウイチゴ

Rubus pseudojaponicus

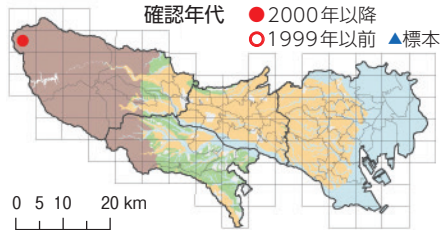
被子植物
バラ科

■ **種の特性と生育状況** : 南千島、北海道、本州（中北部）の、亜寒帯・亜高山帯から冷温帯に分布する、高さ10～30cmの草本状小低木。葉は5小葉からなる鳥足状複葉で、長さ幅ともに5～10cm、小葉は菱状楕円形で重鋸齒縁。葉柄は長さ4～9cm。花は単生で上向きに咲き、7数性で径0.8～1cm。萼片は披針形で鋭尖頭、両面に毛が生え、長さ約5mm、花時にはしばしば反り返る。花弁は狭卵形で白色、長さ約7mm、幅約4mm。果実は赤色。西多摩、雲取山の鹿柵内で確認された。周辺にも生育しているのか、たまたま遠隔地から進入した個体であるのかは不明。

■ **生存を脅かす要因** : 現時点では偶発的な分布の可能性もあり、個体数も限られていることから、自然条件ほかさまざまな要因で消滅の危険性がある。

■ **特記事項** : 現時点では情報が少ないため、確認個体の今後の生育状況や別個体の発生有無などをモニタリングする必要がある。

執筆者 池田博・宮崎卓
文献一覧 64



サナギイチゴ

Rubus pungens var. oldhamii

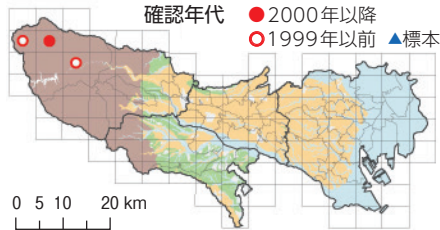
被子植物
バラ科

■ **種の特性と生育状況** : 本州、四国、九州の冷温帯の石灰岩地に分布する落葉小低木。茎は細く伸長し、細い刺を散生する。葉は5～7小葉よりなり、小葉は薄く、縁に深い欠刻と鋸齒がある。花期は5～6月。花弁は白色または淡紅色で倒卵状へら形、長さ10～12mm。果実は小型で紅熟し、小核果は大きい。西多摩の高標高地で、石灰岩礫地の草地に生育するが、非常に少ない。

■ **生存を脅かす要因** : 西多摩の石灰岩地に分布が限られ、もともと個体数が少ない。岩礫地に生育するため、自然災害による立地の改変が危惧される。また、葉や茎に刺があることから、食害を受けにくいと考えられるが、楽観視は出来ない。

■ **特記事項** : 地に伏した茎から盛んに発根し、栄養繁殖もおこなう。しかし、栄養繁殖による個体（クローン）は遺伝的に同一であるため、現存する個体群の遺伝的多様性は低い可能性がある。

執筆者 池田博・宮崎卓
文献一覧 165, 168, 173



コジキイチゴ

Rubus sumatranus

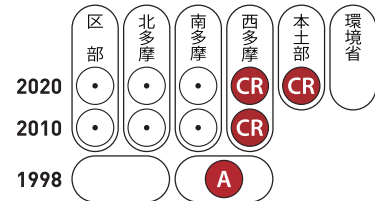
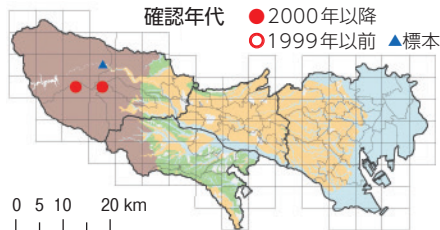
被子植物
バラ科

■ **種の特性と生育状況**: 本州（関東以西）、四国、九州に分布する落葉小低木。茎は高さ1～1.5m。茎、枝、羽軸などに暗紅色の長腺毛を密生し、さらに鉤状の刺を疎生する。葉は5～7小葉よりなる。花期は5～6月。花弁は倒卵形または長楕円形で、長さ約10mm。果実は長楕円状円柱形で黄熟する。西多摩で現存が確認できたが、個体数は少ない。

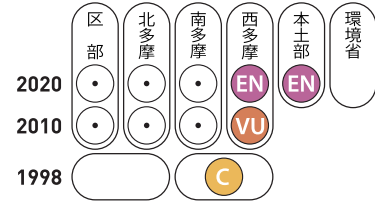
■ **生存を脅かす要因** : もともと分布量が少ない種であるが、自生地に対する直接的な改変・開発行為が本要因と言える。一般的に、生育立地・生育環境に関しては、同属のクサイチゴなどと同様である。そのため、西多摩の自生地も、林縁などの人為的な立地であれば、草刈りや低木の除伐などの管理が必要である。

■ **特記事項** : 関東以西に分布する暖地性植物であるが、関東南部の千葉県や神奈川県には未記録である。一方で、内陸部の茨城県、埼玉県には分布する。東京都（西多摩）も含め、関東地方における本種の自生地は、概ね古い地層（新生代古第三紀以前の堆積岩）が分布する地域に対応している。

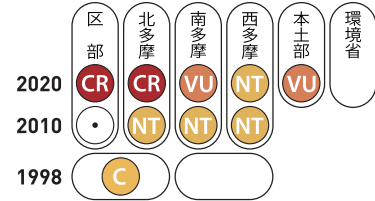
執筆者 池田博・宮崎卓
文献一覧 33, 36, 90, 99, 138, 165, 364



埼玉県 2008年7月2日



北海道 2005年7月8日



八王子市 1993年7月23日

タカネバラ

Rosa nipponensis

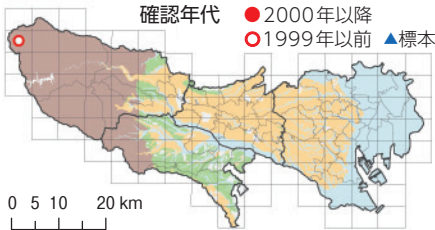
被子植物
バラ科

■ **種の特性と生育状況** : 本州と四国の、主に亜高山帯から高山帯（四国では冷温帯の石灰岩地）に分布する落葉低木。茎は無毛で高さ1～1.5m。葉は7～9小葉からなり、葉の表面は緑色、裏面は帯白色。花期は6～7月。花は小枝の先に1～2個つき、径3.5～4cm。花弁は広倒卵形、紅紫色で長さ約2cm。果実は倒卵状狭紡錘形、長さ1.5～2cm、黄赤色に熟す。西多摩の亜高山帯の石灰岩地に分布するが、個体数は非常に少ない。

■ **生存を脅かす要因**: 高山帯、亜高山帯に分布の中心があるため、もともと分布域が局限される。一般には、温暖化による分布下限の上昇が危惧され、シカなどの動物による食害も懸念される。乱獲の実情は不明だが、栽培目的の採取の対象にもなる種である。

■ **特記事項** : 本種は、その分布と石灰岩地とのつながりが指摘されている。特に、分布南限に当たる四国では、冷温帯の石灰岩地に出現し、この立地が分布南限でのレフュージア（避難所）になっていると考えられる。

執筆者 池田博・宮崎卓
文献一覧 126, 136, 168, 173



エゾキイチゴ(エゾイチゴ)

Rubus idaeus subsp. melanolasius

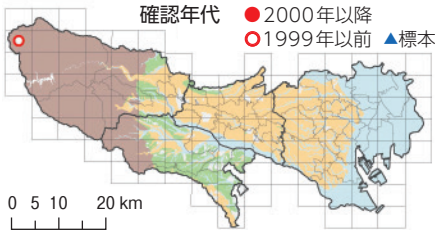
被子植物
バラ科

■ **種の特性と生育状況** : 北海道、本州（中部以北）、四国に分布する落葉小低木。茎には刺針が密生し、短軟毛や腺毛が生える。葉は3～5小葉からなり、小葉は卵状楕円形で、長さ4～7cm、鋭頭、裏面には白毛が密生する。葉柄や羽軸には刺針がある。花枝は数個の葉をつけ、先端に数個の花をつける。花期は6～7月。花は白色、花弁は長さ5～7mm、斜開し、萼裂片は先端が尾状に伸長する。果実は径10～15mm、赤く熟する。西多摩の雲取山周辺の亜高山帯に分布するが少ない。

■ **生存を脅かす要因** : 亜高山帯に分布の中心があるため、東京都では垂直分布域が限られる。個体数が少なく自然災害による生育立地の消滅、荒廃も危惧される。茎に刺があるものの、若葉や若芽は動物の食害が懸念される。

■ **特記事項** : 母種はユーラシアに広く分布するラズベリーであり、本変種も食用に適した有用植物として知られる。しかし、食用はあくまで多産地域での利用とすべきである。

執筆者 池田博・宮崎卓
文献一覧 165, 168, 173, 372



エビガライチゴ

Rubus phoenicolasius

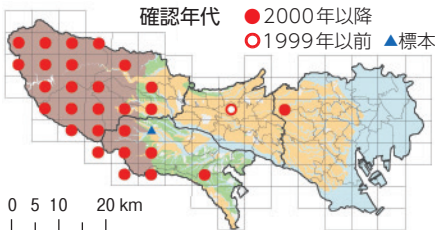
被子植物
バラ科

■ **種の特性と生育状況** : 北海道、本州、四国、九州に分布する落葉小低木。茎には鉤状の刺を疎生する。茎、枝、花序、葉柄に紅色の腺刺毛を密生する。葉はふつう3小葉。花期は6～7月。花弁は小型で淡紅紫色。倒卵形で、長さ4～5mm、直立し、萼裂片の長さの約1/3。果実は球形で紅熟する。区部や北多摩にも現存するが、主な分布域は南多摩と西多摩で、林縁の草地、荒地などに生育する。南多摩では、主に明るい林縁に生育していたが、近年激減した。

■ **生存を脅かす要因** : 山林の伐採や荒地整備、里山の管理放棄が本種の生存を脅かす要因と考えられる。また、非人為的环境下では、崩壊地などの不安定な立地に生育するため、遷移の進行により個体群が衰えることが多い。

■ **特記事項** : 生育に適した条件下では、林縁に繁茂して刺のある藪を形成するので、山林管理の立場から駆除の対象にされることが多い。この点では、本種の保全に関する啓発活動も必要と考えられる。

執筆者 池田博・宮崎卓
文献一覧 165, 219



	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	●	●	●	●	●	
2010	●	●	●	●	●	
1998				●		



奥多摩町 2019年9月1日

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	●	●	●	●	●	
2010	●	●	●	●	●	
1998				●		



奥多摩町 2018年6月19日

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	●	●	●	●	●	
2010	●	●	●	●	●	
1998				●		



奥多摩町 2020年5月20日

ミヤマクマヤナギ

Berchemia pauciflora

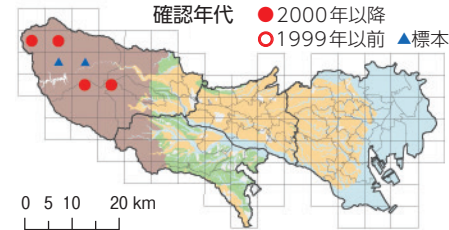
被子植物
クロウメモドキ科

■ **種の特性と生育状況**：本州（関東・中部地方）に分布する落葉低木。高さ2～3mで直立し、つるにはならない。葉は互生、卵形または楕円形で長さ1.5～4cm、全縁で裏面の脈状には毛がある。花序は長さ1～3.5cm。花は径3mm、黄白色でまばらに着く。果実は狭い楕円形で、長さ7～8mm。花期は8月。山地の岩塊地に生育する。都内では西多摩の山地の石灰岩地に極めて稀に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採、石灰採掘、シカの食害、基質・基物の減少および消失、局所分布。生育環境は石灰岩地などの特殊な立地にあり、石灰採掘や自生地の崩落、山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。

■ **特記事項**：日本固有種。

執筆者 田畑伊織
文献一覧 63, 168



ヨコグラノキ

Berchemiella berchemiifolia

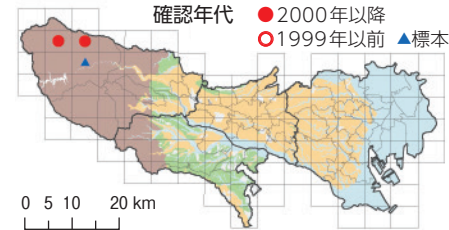
被子植物
クロウメモドキ科

■ **種の特性と生育状況**：本州、四国、九州に分布する落葉小高木。高さ10mほどになる。葉は互生、長楕円形で長さ6～13cm、全縁で先はとがる。花期は6月。花は黄色、直径約3mmで集散花序につく。果実は長楕円形、長さ5～7mm、熟すと暗紅色になる。山地の林内や岩礫地に生育する。都内では西多摩の石灰岩地の急斜面に極めて稀に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採、石灰採掘、シカの食害、基質・基物の減少および消失、局所分布。生育環境は石灰岩地などの特殊な立地にあり、石灰採掘や自生地の崩落、山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。

■ **特記事項**：

執筆者 田畑伊織
文献一覧 205



クロカンバ

Rhamnus costata

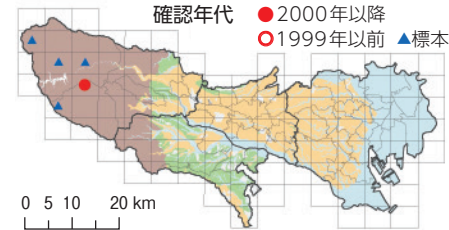
被子植物
クロウメモドキ科

■ **種の特性と生育状況**：本州、四国、九州に分布する落葉小高木。高さ6～7m。葉は対生し、葉身は8～17cmの倒卵状長楕円形。側脈が平行して斜上し目立つ。微細な鋸歯がある。葉の下面脈上には黄褐色の軟毛がある。雌雄別株、花は4～5mmで数個腋生し、黄緑色。花期は5～6月。果実は径8～9mm。山地、岩礫地に生育する。都内では西多摩の山地の石灰岩地に極めて稀に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採、石灰採掘、シカの食害、局所分布。生育環境は石灰岩地などの特殊な立地にあり、石灰採掘や自生地の崩落、山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。

■ **特記事項**：日本固有種。

執筆者 田畑伊織
文献一覧 63, 168



	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	●	●	●	●	●	
2010	●	●	●	●	●	
1998				●		



奥多摩町 2012年6月26日

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	●	●	●	●	●	
2010	●	●	●	●	●	
1998						



奥多摩町 2021年5月23日

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	●	●	●	●	●	
2010	●	●	●	●	●	
1998						



栃木県 2010年8月18日

アイズシモツケ

Spiraea chamaedryfolia var. *pilosa*

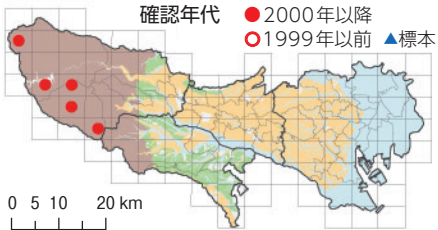
被子植物
バラ科

■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州（中部以北）、九州に分布する落葉低木。高さは2mほどになる。葉は卵型から広卵形または狭卵形、長さ3～6cm、幅1.5～3.5cm。花序は今年枝に頂生し、散房状。花は径約10mm、5～6月に咲く。花弁は白色で円形から横に広い楕円形、長さ2.5～3.5mm、円頭。袋果は長さ約3mm、全体に短毛が生える。都内では、奥多摩の高標高地の林縁や岩礫地などに生育する。

■ **生存を脅かす要因**：高標高の石灰岩地に分布が局限されており、もともとの分布範囲が狭い。温暖化による分布下限の上昇や、シカなど動物の食害が危惧される。栽培目的の採取の対象にもなる。

■ **特記事項**：南多摩に隣接する小仏地域（八王子市、旧相模湖町、旧藤野町）の神奈川県側では、標高260～300mの相模川沿いの崖地に自生する。ここでは、玄武岩や安山岩類の立地に本種が生育している。

執筆者 池田博・宮崎卓
文献一覧 99, 168, 173, 205, 364



イワシモツケ

Spiraea nipponica

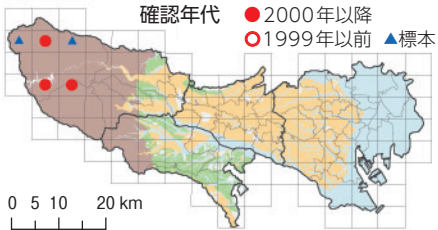
被子植物
バラ科

■ **種の特性と生育状況**：本州（近畿以東）に分布する落葉低木。茎はよく分かれ、高さ1～2m。葉は多型で、狭長楕円形、倒卵形から楕円形。長さ1～4.5cm。花序は頂生し、散房花序ときに複散房花序。花期は5～6月、径6～7mm。花弁は白色で楕円形から円形、長さ約2mm、幅2.5～3mm。西多摩の高標高地で、石灰岩質の岩礫地に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：自生地での個体数は多いという報告もあるが、高標高の石灰岩地に限定され、もともとの分布範囲が非常に狭い。温暖化により分布下限の上昇も危惧される。栽培目的の採取の対象にもなる。

■ **特記事項**：本種は、広く石灰岩や蛇紋岩など、特殊な基盤の立地に分布することが知られている。

執筆者 池田博・宮崎卓
文献一覧 64, 144, 173, 205, 270



ツクバグミ(ニッコウグミ)

Elaeagnus montana var. *ovata*

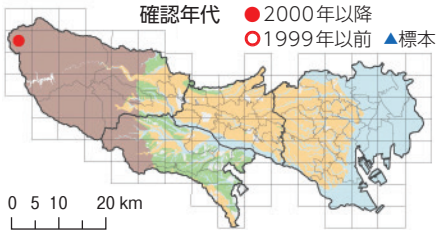
被子植物
グミ科

■ **種の特性と生育状況**：本州（東北南部、関東、中部）に分布する落葉小高木。マメグミの変種。葉は卵状楕円形で縁は波打ち、下面に白い鱗片が密生する。花期は6～7月。葉腋に花を1～3個つける。萼筒は長さ6～7mm。果期は7～8月。果実は卵状楕円形。奥多摩の二次林に生育するが、個体数は少ない。グミ属の他の種のように、ガレ場や露岩地など、上層を高木が覆いにくい立地に生育していると考えられる。

■ **生存を脅かす要因**：山林の改変等による生育環境の変化など。

■ **特記事項**：本変種はこれまできちんと認識されてこなかったのか、鈴木（1984、1986）の目録にもリストアップされておらず、現状は十分に把握されていない。今後継続して現況把握に努めるべきである。

執筆者 池田博・宮崎卓
文献一覧 168, 173



	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	●	●	－	NT	NT	
2010						
1998						



奥多摩町 2019 年 6 月 5 日

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	EX	CR	EN	EN	EN	VU
2010	EX	CR	CR	CR		
1998	A		A			



八王子市 2007 年 10 月 24 日

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	VU	VU			VU	
2010	VU	VU				
1998	C					



八王子市 1978 年 4 月 21 日

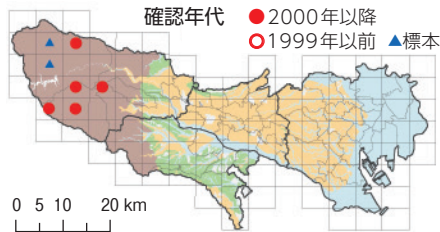
	被子植物 ニレ科
オヒョウ	<i>Ulmus laciniata</i>

■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州、四国、九州に分布する落葉高木。葉は楕円形、基部はくさび形で左右不同、先の方は浅く3～5裂し、重鋸歯縁。花期は4月。果実には翼があり、扁平で広卵形。都内では西多摩のみに分布し、山地の斜面地や溪谷に稀に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採、河川開発、自然災害。

■ **特記事項**：

執筆者	御手洗望
文献一覧	4, 63, 261



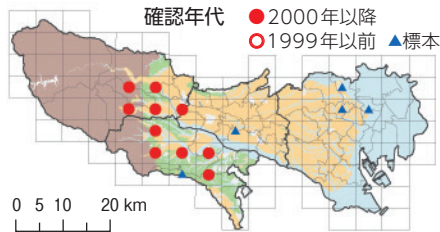
	被子植物 イラクサ科
トキホコリ	<i>Elatostema densiflorum</i>

■ **種の特性と生育状況**：北海道（西南部）、本州（中部以北）に分布する一年草。茎は高さ10～25cmで、開出する毛がある。葉はウワバミソウに似るが先が短い。花は9～10月。雄花と雌花が無柄の花序に集まり、腋生する。本来の自生地は河川中流域のオギやヨシの群落内と考えられ、安定した多湿の環境に生育する。多摩部では山地山麓部の路傍や社寺境内などの人里、丘陵の谷戸や池のほとり、台地脚部の低地に点在する。区部では古い記録があるが絶滅したと考えられる。

■ **生存を脅かす要因**：河川開発、湿地開発、道路建設、人の踏みつけ、遷移進行・植生変化・自然遷移。

■ **特記事項**：区部では庭園や寺社での残存の可能性があり、現状の把握が必要である。

執筆者	御手洗望
文献一覧	4, 130, 243



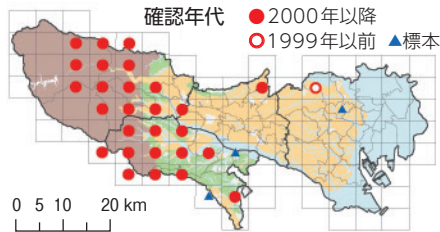
	被子植物 イラクサ科
カテンソウ	<i>Nanocnide japonica</i>

■ **種の特性と生育状況**：本州、四国、九州に分布する多年草。葉は互生し、葉身は扇状卵形で、先は円く、基部は切形。花は4～5月。低地の河畔林、台地や丘陵、山地の山林の林床に春植物と混在して生育していることが多い。区部・北多摩では自生地が減少している。南多摩・西多摩では広く普通にみられる。

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採、人の踏みつけ、管理放棄、遷移進行・植生変化・自然遷移。

■ **特記事項**：

執筆者	御手洗望
文献一覧	4, 161, 216, 243



	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	EX	EX	EX	CR	CR	
2010	EX	CR	CR	CR		
1998	A		A			



檜原村 2021 年 6 月 17 日

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	DD	DD	EN	EN	EN	
2010						
1998						



八王子市 2017 年 4 月 18 日

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	●	DD	VU	NT	NT	
2010						
1998						



八王子市 2014 年 4 月 23 日

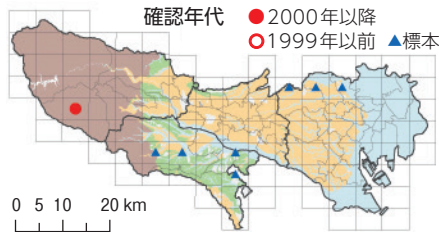
	被子植物 クロウメモドキ科
クロツバラ	<i>Rhamnus davurica</i> var. <i>nipponica</i>

■ **種の特性と生育状況**：本州（中部以北）に分布する落葉低木。雌雄異株。葉は互生で狭い楕円形。花は小枝の下部に数個腋生する。花は黄緑色、果実は球形で黒く熟す。花期は5月。林縁、河原に生育する。西多摩では山地の草原にごく稀に生育する。南多摩では近年まで存続していたが、消失のおそれがある。区部・北多摩では古い生育情報があるのみで絶滅したものと考えられる。

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採、河川開発、遷移進行・植生変化・自然遷移。

■ **特記事項**：

執筆者	御手洗望
文献一覧	243



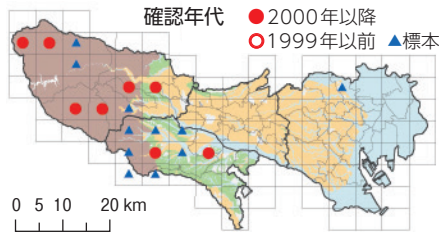
	被子植物 クロウメモドキ科
クロウメモドキ	<i>Rhamnus japonica</i> var. <i>decipiens</i>

■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州、四国、九州に分布する落葉低木。短枝は刺針に変わる。葉は狭倒卵形。花は葉腋に束生し、黄緑色、果実は黒く熟す。林縁、湿地、河原に生育する。西多摩・南多摩では丘陵から山地の林縁や露岩地に稀に生育するが、特に丘陵での減少が著しい。区部・北多摩では過去の生育情報があるのみで現状は不明である。

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採、河川開発、湿地開発、遷移進行・植生変化・自然遷移。

■ **特記事項**：矮小型のコバノクロウメモドキ、葉裏面が有毛のシナノクロウメモドキも含む。

執筆者	御手洗望
文献一覧	26, 63, 170, 243



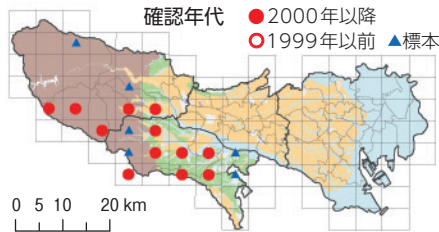
	被子植物 ニレ科
ハルニレ	<i>Ulmus davidiana</i> var. <i>japonica</i>

■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州、四国、九州に分布する落葉高木。葉は楕円形、基部はくさび形で左右不同、重鋸歯縁。花期は3～5月。果実には翼があり、扁平で楕円形。山地から丘陵地、台地にかけて林縁、溪谷、河原に生育する。西多摩では山地の斜面地や溪谷に生育し、南多摩では丘陵地の谷戸や河川敷低地にも生育する。区部・北多摩では過去の記録があるが、植栽の可能性がある。

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採、河川開発、自然災害。

■ **特記事項**：

執筆者	御手洗望
文献一覧	4, 63, 243



区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	EX	NT	NT	NT	
2010	EX	NT	NT	NT	
1998		C	B		



八王子市 1996 年 10 月 25 日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	●	●	—	VU	VU
2010	●	●	●	VU	
1998			C		



岩手県 1998 年 7 月 29 日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	●	●	EN	EN	EN
2010	●	●	EN	EN	
1998					



八王子市 2020 年 8 月 19 日

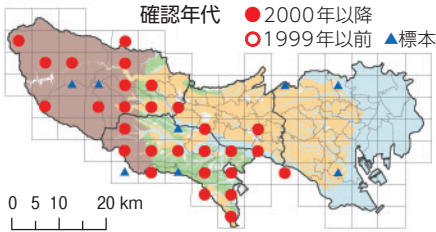
被子植物 イラクサ科
ミズ
<i>Pilea pumila</i> var. <i>hamaoi</i>

■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州、四国、九州に分布する一年草。多汁で軟質。茎は紫褐色を帯びることが多いが、緑色型も多い。アオミズに似るが高さ 20 ～ 30cm と小型。花は葉腋からほとんど無柄の密集した花序につく。雌雄同株。多摩部に広く分布し、山地の溪流、林床、丘陵の谷戸、台地脚部の湧水地周辺、河川沿いの湿地などに生育する。区部では過去に記録があるが、絶滅したと考えられる。

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採、シカの食害。

■ **特記事項**：

執筆者	御手洗望
文献一覧	4, 161, 243



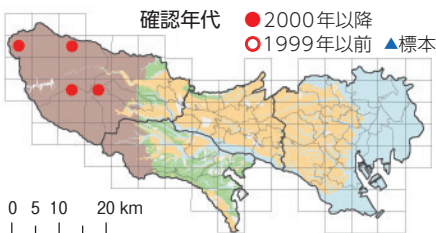
被子植物 イラクサ科
コバノイラクサ
<i>Urtica laetevirens</i>

■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州（近畿以北）に分布する多年草。高さ 50 ～ 100cm。刺毛が茎葉とともにまばらに生える。葉が小型で、鋸歯は単鋸歯、托葉が 4 個あることが特徴。西多摩の山地の湿った林内から林縁、溪流沿いなどに稀に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採、遷移進行・植生変化、シカの食害。

■ **特記事項**：ニホンジカによる食害を受けるため、西多摩でも生育地は限定されている。

執筆者	御手洗望
文献一覧	170



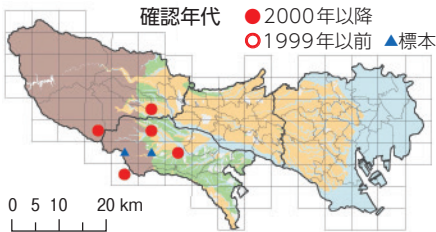
被子植物 ブナ科
ナラガシワ
<i>Quercus aliena</i>

■ **種の特性と生育状況**：本州（岩手、秋田以南）、四国、九州に分布する落葉高木。幹は高さ 25m に達する。樹皮は黒褐灰色、深く不規則に割れる。葉身は倒卵状長楕円形、長さ 12 ～ 30cm、鈍頭または鋭頭の鋸歯がある。葉の裏面は灰白色。花期は 4 月。堅果は楕円形。長さ 2cm 内外。南多摩と西多摩の丘陵から山地に点在し、丘陵に接した河川沿いの低地に河畔林を形成することがある。

■ **生存を脅かす要因**：管理放棄、遷移進行・植生変化、局所分布。

■ **特記事項**：山地での情報が少なく生育状況が不明のため、現状の把握が必要である。また、コナラ属コナラ節では様々な組み合わせで種間雑種ができ、これらとの識別が重要である。

執筆者	御手洗望
文献一覧	5, 176, 243



区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	●	●	CR	CR	VU
2010	●	●	CR		
1998			B		



奥多摩町 2018 年 8 月 26 日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	●	●	CR	CR	
2010					
1998					



奥多摩町 2018 年 7 月 14 日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	DD	—	EN	VU	VU
2010	VU	VU	VU	VU	
1998			C		



青梅市 1993 年 8 月 13 日

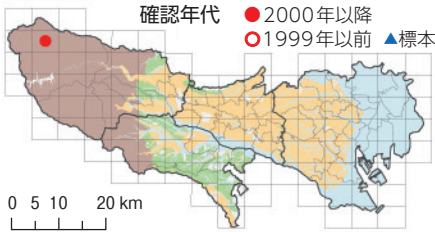
被子植物 イラクサ科
タチゲヒカゲミズ
<i>Parietaria micrantha</i> var. <i>coreana</i>

■ **種の特性と生育状況**：北海道（西部）、本州、九州に自生する一年草。小型で、茎は高さ 10 ～ 20cm、全体に長軟毛が開出する。葉身は卵形で、長さ 1 ～ 2 cm、先は鈍形、同長の柄がある。花期は 8 ～ 9 月。花は単性、ときに両性の数花が葉腋につく。山地深部の樹林内に生育する。都内では西多摩の山地の洞窟状になったところに極めて稀に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採、石灰採掘、洞窟の消失や環境悪化、局所分布。生育環境は石灰岩地などの特殊な立地にあり、石灰採掘や自生地の崩落、山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。

■ **特記事項**：母種のヒカゲミズは分枝して曲がった短毛が密生することで区別される。現在の生育地の周辺が採石現場となっており、危機的な状況である。

執筆者	田畑伊織
文献一覧	205



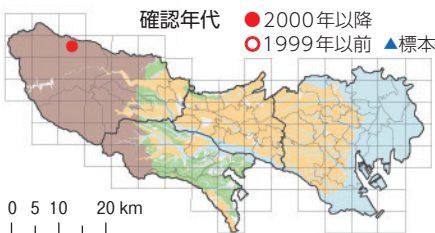
被子植物 イラクサ科
ヒカゲミズ
<i>Parietaria micrantha</i>

■ **種の特性と生育状況**：本州（関東・中部地方）、九州に自生する一年草。茎は高さ 10 ～ 20cm、分岐して曲がった短毛が密生する。葉身は卵形で、長さ 1 ～ 2 cm、先は鈍形、同長の柄がある。8 ～ 9 月、数花が葉腋につく。そう果は黒色、広卵形で光沢があり長さ 1mm 内外ある。深山の林下に生える。都内では西多摩の山地の洞窟状になったところに極めて稀に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採、石灰採掘、洞窟の消失や環境悪化、局所分布。生育環境は石灰岩地などの特殊な立地にあり、石灰採掘や自生地の崩落、山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。

■ **特記事項**：全体に長軟毛が開出するものはタチゲヒカゲミズとして区別される。

執筆者	田畑伊織
文献一覧	63



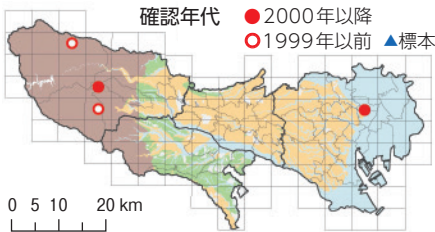
被子植物 イラクサ科
コケミズ
<i>Pilea peploides</i>

■ **種の特性と生育状況**：本州（関東以西）、四国、九州、南西諸島に分布する一年草。茎は下部で分岐し、高さ 5 ～ 15cm。葉は卵円形、先はやや円く基部はくさび形。花期は 3 ～ 7 月。雄花と雌花が混生して頭状に集まる。山地の渓谷沿い斜面や湿地に生育する。区部、南多摩と西多摩でごく稀に生育するが、南多摩では絶滅のおそれが高まっていると考えられる。

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採。

■ **特記事項**：南多摩では絶滅のおそれがあり、現状の把握が必要である。

執筆者	御手洗望
文献一覧	63, 211



	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	●	●	●	NT	NT	
2010						
1998						



奥多摩町 2021 年 7 月 26 日

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	●	●	CR	CR	CR	NT
2010	●	●	CR	CR		
1998				A		



奥多摩町 2016 年 5 月 28 日

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	●	●	●	EN	EN	
2010	●	●	●	CR		
1998						



奥多摩町 2018 年 5 月 26 日

被子植物
カバノキ科

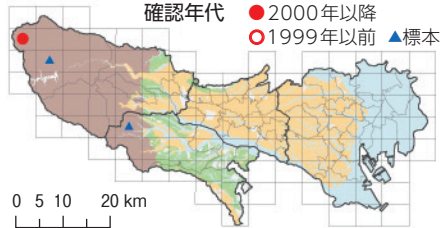
ネコシデ
Betula corylifolia

■ **種の特性と生育状況**：本州（大峰山脈以北）に分布する落葉高木。 葉は卵状長楕円形、長さ 4～8 cm、幅 3～6 cm、先は鋭くとがり、縁には鋭く粗い鋸歯がある。カバノキの仲間ではもっとも鋸歯が目立つ。花期は 5 月頃。果穂は長さ 3～5 cm で細長く、上向きにつく。山地帯上部から亜高山帯に生育する。都内では西多摩の亜高山帯、稀に山地帯上部の山頂付近に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採。山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。

■ **特記事項**：日本固有種。

執筆者 田畑伊織
文献一覧 132, 332



被子植物
カバノキ科

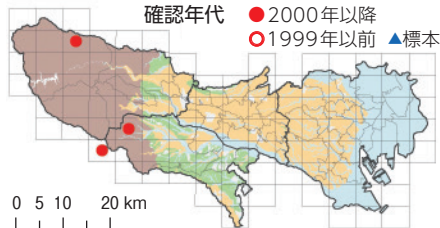
ヤエガワカンバ
Betula davurica

■ **種の特性と生育状況**：北海道と本州中部に分布する落葉高木。樹皮は灰褐色または灰白色で、「八重皮」の名のとおり、縦横に幾重にも割れて剥がれ、幹に残る。 葉身は卵形からひし状卵形、長さ 3～7 cm、幅 2～4 cm、鋭頭または鋭尖頭。果穂は小型で分解しやすい。堅果は扁平な倒卵形で両側に膜質の翼があり、翼は果体の幅の 1/2 以上。山地の日当たりの良い緩傾斜地に生育する。都内では南多摩と西多摩の山地に極めて稀に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採、遷移進行・植生変化、局所分布。山林の改変などによる生息環境の変化や、植生遷移の進行が本種の生存を脅かす主な原因であると考えられる。

■ **特記事項**：全国的にも稀。本種は、斜面崩壊による地表攪乱あとに更新し、早い周期の地表攪乱によって維持されていると言われ、都内の現在の生育環境・状況では更新が非常に難しいと思われる。

執筆者 田畑伊織
文献一覧 33, 132, 140, 168, 332



被子植物
カバノキ科

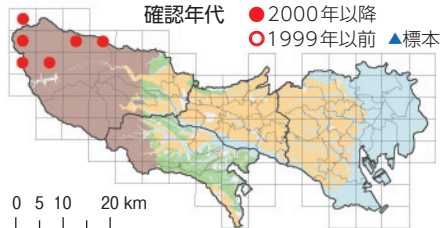
ジゾウカンバ
Betula globispica

■ **種の特性と生育状況**：本州（関東、中部）に分布する落葉高木。 幹は直立することは少なく、斜めに曲がる。高さ 10～15 m、樹皮は灰白色、厚くて堅く、表皮が薄く横にはがれる。 葉は幅が広く、広卵形で、長さ 4～7 cm、幅 3～5 cm。果穂は上向きで球形。堅果は扁平卵形で、翼は狭い。山地の日当たりの良い岩がちな場所に生育する。都内では西多摩の標高 1,400 m 以上の表土の薄い、岩の露出した急峻な尾根などに生育する。

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採、過剰利用、局所分布。森林環境の未発達な山地の尾根に生育が限られており、山林の改変（登山道のオーバーユースによる乾燥化も含む）などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。

■ **特記事項**：日本固有種。都内では比較的に見られるが、全国的には稀。

執筆者 田畑伊織
文献一覧 33, 132, 140, 168, 332



	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	VU	VU	VU	NT	VU	
2010	VU	VU	VU	VU		
1998						



立川市 2020 年 9 月 16 日

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	●	●	●	EN	EN	
2010						
1998						



埼玉県 2007 年 9 月 9 日

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	●	●	●	EN	EN	EN
2010	●	●	●	CR		
1998					A	



奥多摩町 2018 年 5 月 2 日

被子植物
カバノキ科

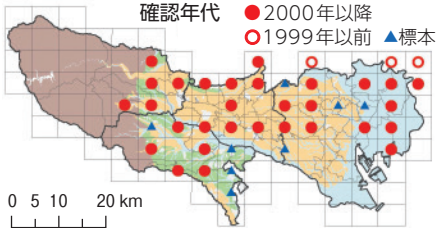
ハンノキ
Alnus japonica

■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州、四国、九州、南西諸島に分布する落葉高木。幹は高さ 15～20 m。花は早春に葉の展開に先だって開く。雄花序は前年枝の先に 2～5 個、散房状につく。雌花序は雄花序の葉腋に 1 個ずつつく。都内本土部の低地から台地、丘陵に広く分布するが、湿地やその周辺に生育が限定される。低地の河川沿いの湿地、台地の崖線沿い、丘陵の谷戸に生育し、ときに群落をつくる。

■ **生存を脅かす要因**：河川開発、湿地開発、湧水の減少・枯渇、管理放棄、遷移進行・植生変化。

■ **特記事項**：生育地は比較的多いが、大径木化して世代交代ができていない群落がみられる。

執筆者 御手洗望
文献一覧 4, 238, 243



被子植物
カバノキ科

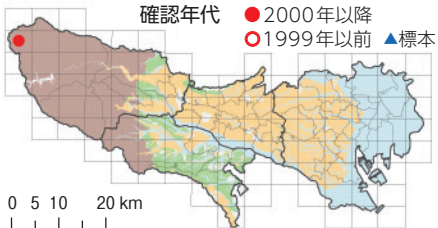
ヤハズハンノキ
Alnus matsumurae

■ **種の特性と生育状況**：本州（中部地方、山形県～福井県の主に日本海側）に分布する落葉小高木。葉は長卵形で鋭尖頭、長さ 5～10 cm、幅 3～9 cm、先端がへこんで矢筈に似た形をしている。基部は広い楔形。花期は 4 月頃。果穂は長さ 1.5～2 cm の楕円形。山地帯上部から亜高山帯の多雪地方の崩壊地や沢沿いに多い。都内では西多摩の亜高山帯の日当たりの良い場所に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採、遷移進行・植生変化。植生遷移の進行などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。

■ **特記事項**：日本固有種。

執筆者 田畑伊織
文献一覧 132



被子植物
カバノキ科

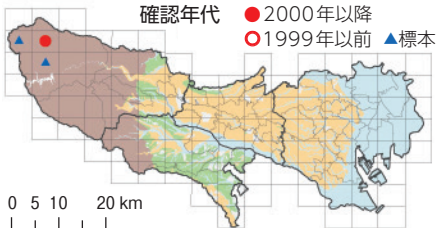
チチブミネバリ
Betula chichibuensis

■ **種の特性と生育状況**：岩手県と秩父山地の石灰岩地に隔離分布する落葉小高木。高さ 5～10 m、直径 20 cm ほどになる。樹皮は灰黒色で平滑にはならない。葉は卵形から卵状長楕円形、長さ 3～6 cm、幅 1.5～3.5 cm、短鋭尖頭で、大きさの割に側脈が 14～18 対と多く、裏面に隆起し目立つ。下面脈状には白毛が密生する。果穂は小形で上向きにつく。堅果に翼はほとんど発達しない。石灰岩地の岩壁や尾根部に生育する。都内では山地帯～亜高山帯の石灰岩地に稀に生育している。

■ **生存を脅かす要因**：石灰等採掘、地球環境の変化に伴う温暖化や異常気象災害（台風・集中豪雨による環境変化）、基質・基物の減少及び消失、局所分布。生息地が石灰岩地の岩場であるため、採石による生息地の破壊・消失、大型台風や集中豪雨による生息環境荒廃など。

■ **特記事項**：日本固有種。生育条件として、石灰岩壁の断崖際に限定されており、崩壊による自然消滅の可能性も高く、自生地を周辺環境と一体的に保全することが望ましい。

執筆者 田畑伊織
文献一覧 33, 140, 168, 205, 332



区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	●	●	CR	NT	NT
2010	●	●	VU	VU	
1998					



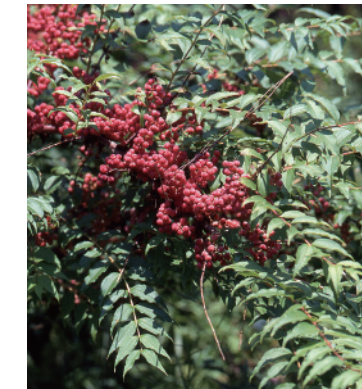
千葉県 1981 年 4 月 26 日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	EX	EX	●	DD	EX
2010					
1998					



山梨県 2019 年 5 月 31 日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	EX	EX	CR	CR	CR
2010	EX	EX	CR	CR	
1998					



神奈川県 1996 年 7 月 14 日

オノオレカンバ

Betula schmidtii

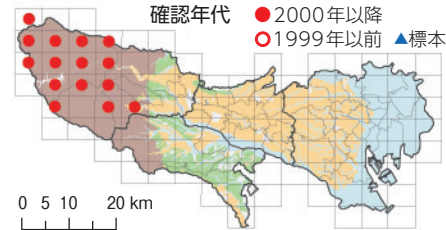
被子植物
カバノキ科

■ **種の特性と生育状況**：本州（中部以北の主に太平洋側）に分布する落葉高木。樹皮は黒褐色から暗灰色で、厚く縦に割れる。葉は長卵形で鋭尖頭、長さ 4～9 cm、幅 3～6 cm、裏面に腺点を散在する。花期は 5 月頃。果穂は長さ 2～4 cm の長円筒形で上向きにつく。岩礫地や土壌の浅い尾根に生育する。都内では南多摩と西多摩の山地の急峻で乾燥した尾根部、または岩上に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採、遷移進行・植生変化、過剰利用、基質・基物の減少及び消失。森林環境の未発達な山地の尾根に生育が限られており、植生遷移の進行や、登山道のオーバーユースなどが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。

■ **特記事項**：

執筆者 田畑伊織
文献一覧 332



ハシバミ

Corylus heterophylla var. *thunbergii*

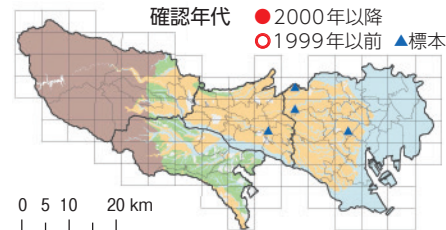
被子植物
カバノキ科

■ **種の特性と生育状況**：別名オオハシバミ。北海道、本州、九州に分布する落葉低木。葉は三角状広倒卵形から広卵円形、長さ 5～12 cm、やや欠刻状または不整重鋸歯状の鋸歯があり、ときにオヒョウの葉に似る。花は 3～4 月。堅果はほぼ球形。日当たりのよい樹林に生育する。区部や北多摩、西多摩で過去の記録があるのみで、現状は不明であるが、地域によっては絶滅したと考えられる。

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採。

■ **特記事項**：上原（1941）は特徴ある武蔵野の樹木として本種を挙げている。また、東京都立大学牧野標本館には、府中市浅間山産の標本が収められており、かつて台地部には本種が広く産した可能性がある（MAK260046府中市浅間山1960.6.4飯泉優）。

執筆者 御手洗望
文献一覧 28, 39, 64, 289



ドクウツギ

Coriaria japonica

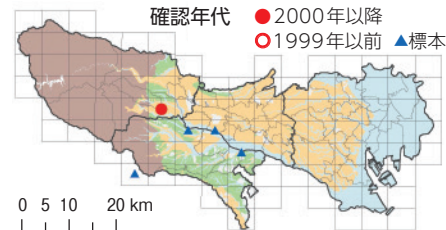
被子植物
ドクウツギ科

■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州（近畿以北）に分布する落葉低木。雌雄同株。葉は対生、全縁、長さ 6～8 cm。花は総状花序につく。花期は 5 月。果実は多汁で赤色～紫黒色に変わり、有毒である。河川敷や崩壊地、ときに二次林に生育する。南多摩や西多摩でごく稀、区部や北多摩では絶滅したと考えられる。

■ **生存を脅かす要因**：採取。有毒植物として除去されてきたことが主な要因である。

■ **特記事項**：

執筆者 御手洗望
文献一覧 243, 270



区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	—	—	VU	NT	NT
2010					
1998					



奥多摩町 2019 年 8 月 25 日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	●	●	VU	NT	VU
2010					
1998					



奥多摩町 2013 年 5 月 27 日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	●	●	NT	NT	NT
2010					
1998					



長野県 2022 年 9 月 4 日

ミズメ(ヨグソミネバリ)

Betula grossa

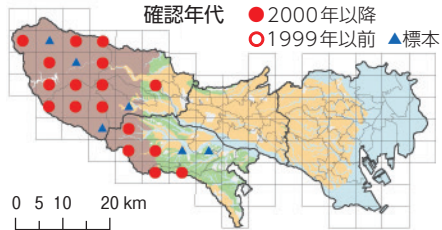
被子植物
カバノキ科

■ **種の特性と生育状況**：本州、四国、九州に分布する落葉高木。葉は卵形で鋭尖頭、基部は浅いハート形～円形。長さ 3～10 cm、幅 2～8 cm。枝は傷つけるとサロメチールの匂いがする。花期は 4 月頃。果穂は長さ 2～4 cm の楕円形で上向きにつく。丘陵地から山地に生育する。都内では南多摩・西多摩の丘陵地から山地に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採。山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。

■ **特記事項**：日本固有種。

執筆者 田畑伊織
文献一覧 332



ウダイカンバ

Betula maximowicziana

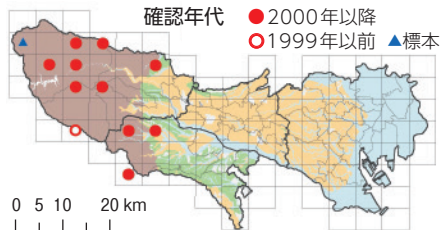
被子植物
カバノキ科

■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州（福井・岐阜県以北）に分布する落葉高木。樹皮には横に長い皮目がある。葉は、広卵形で基部はハート形、長さ 8～14 cm、幅 6～10 cm、カバノキの仲間では最大。裏面の脈腋には毛が密生する。花期は 5～6 月頃。果穂は長さ 9 cm の長円筒形で垂れ下がる。山地の傾斜が緩やかで比較的肥沃な斜面に生育する。都内では南多摩と西多摩の山地に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採。山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。

■ **特記事項**：日本固有種。

執筆者 田畑伊織
文献一覧 243, 332



シラカンバ(シラカバ)

Betula platyphylla var. *japonica*

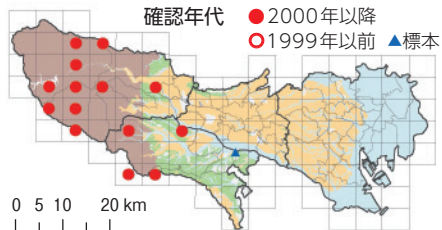
被子植物
カバノキ科

■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州（福井・岐阜県以北）に分布する落葉高木。樹皮は白色で薄い紙状に剥がれる。葉は三角状広卵形、長さ 5～8 cm、幅 4～7 cm。花期は 4 月頃。果穂は長さ 3～4.5 cm の長円筒形で柄があり垂れ下がる。山地の日当たりの良い場所、山火事跡や崩壊地に一斉林を形成することもある。都内では南多摩と西多摩の山地の明るい林内に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採、遷移進行・植生変化。植生遷移の進行が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。

■ **特記事項**：

執筆者 田畑伊織
文献一覧 332



区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	●	●	●	●	
2010	●	●	●		
1998			●		



福岡県

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	●	●	●	●	
2010					
1998					



奥多摩町 2008 年 6 月 28 日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	●	●	●	●	
2010	●	●	●		
1998			●		



奥多摩町 2018 年 9 月 13 日

オオツルウメモドキ(シタキツルウメモドキ)

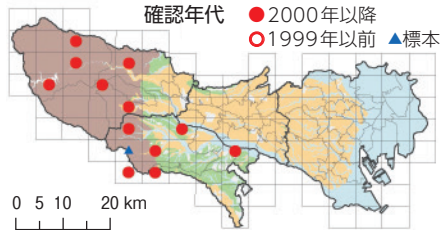
被子植物
ニシキギ科

■ **種の特性と生育状況** : 本州（関東以西）、四国、九州に分布するつる性の落葉低木。雌雄異株。葉は互生、円形または広楕円形で基部がくさび形になる。若い枝、葉の下面脈上、花序などに短い剛毛がある。葉腋に数個の花をつける。花は淡緑色で花期は5～6月。多摩部の丘陵から山地の樹林林縁や藪に稀に生育する。

■ **生存を脅かす要因** : 森林伐採。

■ **特記事項** :

執筆者 御手洗望
文献一覧 4, 243



サワダツ

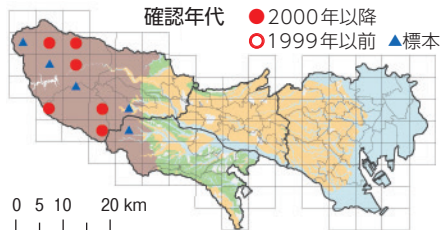
被子植物
ニシキギ科

■ **種の特性と生育状況** : 本州、四国、九州に分布する落葉低木。高さ1～2m。対生で葉は長さ2～8cmの卵型、先は尾状に長くとり細かい鋸歯がある。両面無毛。花は6～7月、葉腋から花序を出し、直径約8mmの暗紫色の花を1～3個つける。さく果は約1cmの球形で10月頃紅色に熟し、4裂して橙赤色の仮種皮に包まれた種子を出す。山地の沢筋など湿った林内に自生する。都内では西多摩の山地の沢沿いの岩壁や岩棚などに稀に生育している。

■ **生存を脅かす要因** : 森林伐採。遷移進行・植生変化、基質・基物の減少および消失。自生地の崩落や樹林内の乾燥化による生育環境の変化が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。

■ **特記事項** : 日本固有種。南多摩では記録はあるが現状不明。

執筆者 田畑伊織
文献一覧 168, 243



シラヒゲソウ

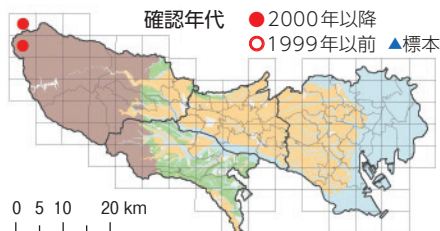
被子植物
ニシキギ科

■ **種の特性と生育状況** : 本州（中部以西の太平洋側）、四国、九州に分布する多年草。茎葉は無柄で茎を抱くようにつき、葉身は広卵形で、長さ幅とも1.5～4cm。花期は8～9月。花茎は高さ10～30cmで、花は径2～2.5cm。花弁は卵形で、長さ9～12mm、縁は糸状に細裂する。仮雄しべの先端には小球状の黄色の腺体がつく。山地谷沿いの湿地に生育する。都内では西多摩の高標高地の、石灰岩質の岩礫地や崩壊地などに極めて稀に生育する。

■ **生存を脅かす要因** : 森林伐採、石灰採掘、採取、遷移進行・植生変化、基質・基物の減少及び消失、局所分布。もともと自生地が限られているうえに、植生遷移の進行、園芸目的の採取などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。

■ **特記事項** :

執筆者 田畑伊織
文献一覧 132



区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	●	●	●	●	
2010	●	●	●		
1998			●		



葛飾区 2020 年 8 月 31 日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	●	●	●	●	
2010	●	●	●		
1998					



群馬県 2007 年 9 月 14 日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	●	●	●	●	
2010	●	●	●		
1998			●		



青梅市 1986 年 6 月 15 日

ゴキツル

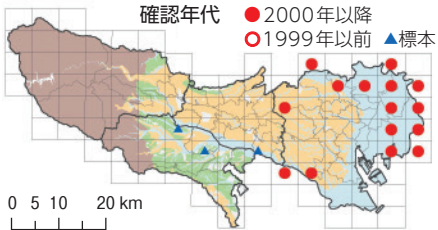
被子植物
ウリ科

■ **種の特性と生育状況** : 北海道、本州、四国、九州に分布する一年草。葉身は狭い三角状心形。花は小型、黄緑色。果実は卵形でとげ状の突起があり、熟すと上下に割れ、2個の種子が現れる。花期は8～12月。都内本土部の河川沿いの河畔湿地や草地に少数が生育する。

■ **生存を脅かす要因** : 河川開発、湿地開発。

■ **特記事項** : 南多摩や西多摩では近年の情報が不足しており、現状の把握が必要である。

執筆者 御手洗望
文献一覧 151, 243, 307, 361



ミヤマニガウリ

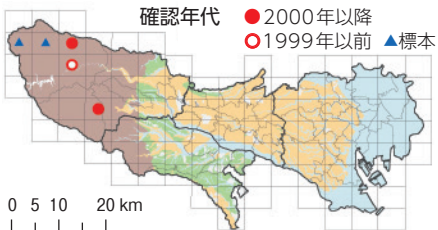
被子植物
ウリ科

■ **種の特性と生育状況** : 北海道、本州、九州に分布するつる性の一年草。茎は細く繊細で数枚の葉を束生する。葉身は薄く、円心形で先はとがる。巻きひげは二叉する。花期は8～9月。花は白色で花弁は5深裂する。果実はゆがんだ卵形、径約1cm。都内では西多摩のみに分布し、山地の川沿いの草原、林縁に稀に生育する。

■ **生存を脅かす要因** : 森林伐採、シカの食害。

■ **特記事項** :

執筆者 御手洗望
文献一覧 152, 170



イワウメツル

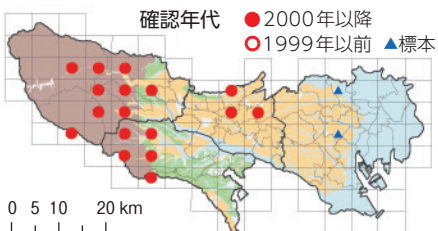
被子植物
ニシキギ科

■ **種の特性と生育状況** : 本州（関東以西）、四国、九州に分布するつる性の落葉低木。茎は地表を這い、木の幹などに絡んで伸長する。托葉は反曲するカギ状のとげとなる。葉は互生し、卵形。花は1～3個葉腋につく。花期は6月。落葉樹林や植林地などの林内や林縁に生育する。しばしば群生する。区部では絶滅したと考えられる。西多摩と南多摩では山地から丘陵地に広く点在するが、北多摩では一部の樹林地に限定されている。

■ **生存を脅かす要因** : 森林伐採。

■ **特記事項** :

執筆者 御手洗望
文献一覧 10, 243, 250



	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	EX	EX	EN	EN	EN	
2010	EX	EX	VU	VU		
1998		C				



八王子市 2014年6月21日

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	EX	EX	EX	●	EX	EN
2010	CR	EX	EX	●		
1998				UK		



渡良瀬遊水池 2022年8月21日

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	CR	EX	CR	●	CR	
2010	EX	EX	CR	●		
1998		D		A		



八王子市 2021年7月17日

トモエソウ

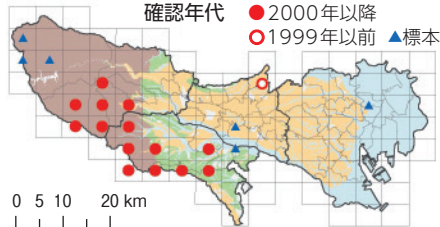
被子植物
オトギリソウ科

■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州、四国、九州に分布する多年草。茎は四稜があり、高さ50～130cm。葉は披針形で、長さ4～8cm、基部はなかば茎を抱き、多くの明点があり黒点はない。花は径5cm。花弁は黄色で巴形を呈す。低地から山地の草原や攪乱地、切り土斜面、伐採跡地などで、やや湿り気のある場所に生育する。西多摩と南多摩の伐採跡地、草地等にごく稀に生育する。区部や北多摩では絶滅したと考えられる。

■ **生存を脅かす要因**：河川開発、草地開発、管理放棄、遷移進行・植生変化。

■ **特記事項**：

執筆者	御手洗望
文献一覧	10, 243



アゼオトギリ

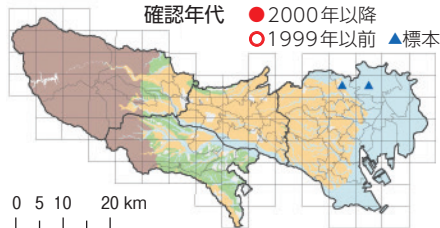
被子植物
オトギリソウ科

■ **種の特性と生育状況**：本州（関東以西）、四国、九州に分布する多年草。茎は多数分枝し、高さ10～40cm。葉は倒卵形または長楕円形、鈍頭。明点が密に入り、縁には黒点が密に並ぶ。花弁は長楕円形で、長さ7～8mm、黒点と明点が入り、縁に少数の柄のない黒色腺球がつく。原野、河川敷の湿地、水田の畔などの湿った環境に生育する。かつては都内本土部の各所に生育していたが、絶滅したと考えられる。

■ **生存を脅かす要因**：河川開発、湿地開発、草地開発、管理放棄、遷移進行・植生変化。

■ **特記事項**：

執筆者	御手洗望
文献一覧	270



ミズオトギリ

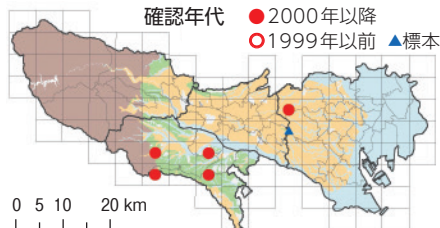
被子植物
オトギリソウ科

■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州、四国、九州に分布する多年草。茎は高さ50～100cm、葉は披針状長楕円形、大小の明点が多く、縁にも明点がある。花期は8～9月。花弁は紅色。低地から丘陵にかけての日当たりの良い湿地、池沼の周辺部に生育する。都内本土部の自生地は局所的で、南多摩ではごく稀、北多摩と西多摩では現状不明で絶滅した可能性もある。区部では、国の天然記念物である石神井公園三宝寺池沼沢植物群落において植生管理等の対策により生育地が維持されている。

■ **生存を脅かす要因**：河川開発、湿地開発、管理放棄、遷移進行・植生変化。

■ **特記事項**：

執筆者	御手洗望
文献一覧	222, 243, 290



	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	●	●	CR	EN	EN	
2010	●	●	EN	EN		
1998						



八王子市 1979年10月27日

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	EW	CR	NT	○	NT	
2010	EW	CR	NT	NT		
1998		UK				



八王子市 2002年3月31日

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	●	●	CR	CR	CR	VU
2010	●	●	CR	CR		
1998				A		



八王子市

ウメバチソウ

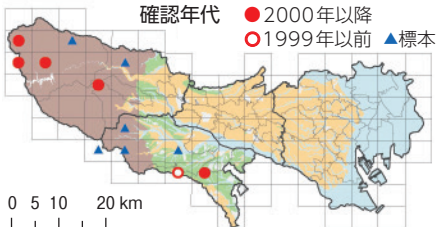
被子植物
ニシキギ科

■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州、四国、九州に分布する多年草。葉身は卵形または広卵形で、長さ幅ともに2～4cm。花期は8～10月。花茎は高さ10～50cmで、花は径2～2.5cm。花弁は白色で5枚。仮雄しべは糸状に12～22裂し、先端に小球状の黄色の腺体がつく。山野の日当たりの良い湿地に生育する。都内西多摩の山地では尾根部の草地、南多摩の丘陵地では谷戸の湿地に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：遷移進行・植生変化、人の踏みつけ、採取。湿地の改変や植生遷移の進行、踏みつけなどによる生育条件の悪化、また園芸目的の採取が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。

■ **特記事項**：南多摩では近年生育地点が減少し、かなり危うい状況である。

執筆者	田畑伊織
文献一覧	243



カントウミヤマカタバミ

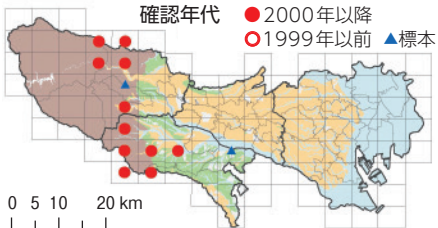
被子植物
カタバミ科

■ **種の特性と生育状況**：本州（関東南西部、伊豆半島、東海東部）に分布する多年草。高さ10cmほど。葉身は3裂し、裂片は倒心形。花は白色。花弁は5個。基本変種のミヤマカタバミとは、葉の裏の毛が少なく、果実はやや小型であることで区別できる。花期は3～4月。多摩部の丘陵から山地下部に分布し、谷沿い樹林内の陰湿地に群生する。南多摩と西多摩には比較的好く見られるが、北多摩ではごく稀。

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採、人の踏みつけ。

■ **特記事項**：

執筆者	御手洗望
文献一覧	7, 243



オオヤマカタバミ

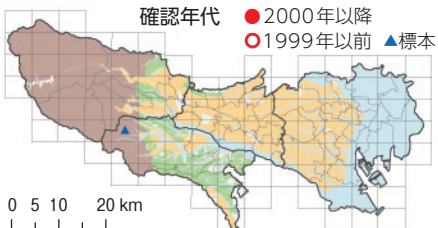
被子植物
カタバミ科

■ **種の特性と生育状況**：本州（中部以西）、四国、九州に分布する多年草。ミヤマカタバミに似るが、全体が大型である。葉の裂片が切形で、両側がとがる。花のすぐ下に一對の苞がある。花は径2.5～3.5cm。花期は4～5月。主に冷温帯の樹林内のやや湿った場所に生育するが、南多摩から西多摩の山地の二次林や植林地にごく稀に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採。

■ **特記事項**：南多摩・西多摩での少数の記録があるのみで、現状の把握が必要である。

執筆者	御手洗望
文献一覧	170, 243



区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	●	DD	VU	VU	VU
2010	●	DD	VU	VU	
1998					



八王子市 2011 年 5 月 2 日

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	●	●	CR	EN	EN
2010	●	●	CR	CR	
1998					



八王子市 2009 年 4 月 3 日

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	●	●	CR	CR	CR
2010	●	●	CR	CR	
1998					

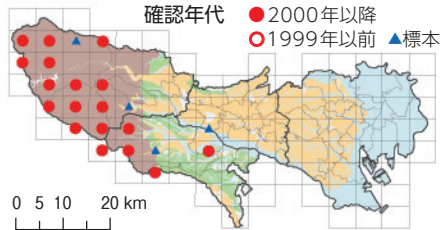


八王子市 2004 年 5 月 24 日

被子植物 スミレ科
ヒゴスミレ <i>Viola chaerophylloides</i> var. <i>sieboldiana</i>

- **種の特性と生育状況**：本州、四国、九州に分布し、本州中部の内陸部に多く自生する多年草。地上茎はなく、草丈は5～10cm。花は白色で、側弁基部に毛がある。花期は4～5月。葉は3全裂し、さらに側裂片が2全裂するので、ほぼ5全裂のように見える。山地の日当たりの良い草原や乾燥気味の落葉樹林下に生育する。都内では、南多摩や奥多摩の山地の明るい林縁や草原に分布するが少ない。
- **生存を脅かす要因**：森林伐採、草地開発、採取、遷移進行・植生変化、動物による食害。
- **特記事項**：最近、人家付近やこれまで生育記録のなかった山地の尾根などでの報告があるが、その多くは繁殖力の強い大陸産の園芸品種が逸出したものや植えられたもので、注意が必要である。

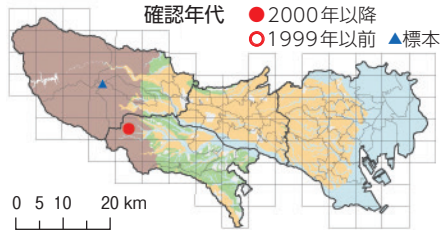
執筆者	新井二郎
文献一覧	21, 163, 168, 180, 243, 253



被子植物 スミレ科
エゾノアオイスミレ <i>Viola collina</i>

- **種の特性と生育状況**：北海道、本州中部以北に分布する多年草。アオイスミレによく似ているが、ふつつ匍匐茎を出さず、冬期に地上部は枯れる。花は淡紫色で側弁の基部に毛がある。花期は3月下旬～4月中旬。葉は卵形で先が尖り、両面にピロード状の毛を密生するものが多い。アオイスミレより標高の高い所に多く、落葉樹林下や林縁に生育する。都内では南多摩や西多摩の山地に分布する。
- **生存を脅かす要因**：森林伐採、採取、遷移進行・植生変化。
- **特記事項**：アオイスミレによく似ているために生育していることに気づかないことも多く、調査によって生育地が増える可能性も大きいと思われる。

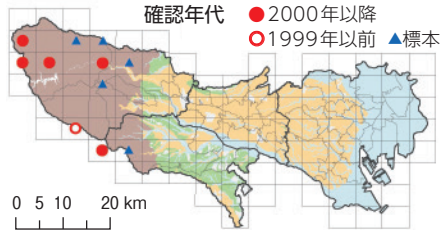
執筆者	新井二郎
文献一覧	21, 164, 168, 243, 253



被子植物 スミレ科
サクラスミレ <i>Viola hirtipes</i>

- **種の特性と生育状況**：北海道、本州、四国、九州に分布する多年草で、山地の日当たりの良い草原や路傍、落葉樹林下に生育する。草丈8～15cm で全体に長い軟毛がある。葉は長さ5～8cmの三角状長卵形で、葉柄は長くてほぼ直立し、ふつつ長い白毛がある。花は大型で淡紅紫色、側弁の基部には毛が密生する。花期は4月上旬～5月中旬。都内では、南多摩や西多摩の山地尾根部の草地や林縁に分布するが少なく、南多摩では最近の確認報告がない。
- **生存を脅かす要因**：森林伐採、草地開発、採取、管理放棄、遷移進行・植生変化、動物による食害。
- **特記事項**：

執筆者	新井二郎
文献一覧	21, 163, 168, 180, 243, 253



区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	CR	CR	CR	CR	
2010	EX	CR	CR	CR	
1998			A		



日野市 2018 年 11 月 8 日

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	●	●	EX	VU	VU
2010	●	●			
1998					



奥多摩町 2018 年 6 月 8 日

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	●	●	●	EN	EN
2010	●	●	●	EN	
1998					

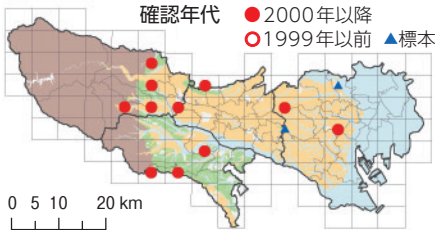


奥多摩町 1992 年 6 月 6 日

被子植物 ミゾハコベ科
ミゾハコベ <i>Elatine triandra</i> var. <i>pedicellata</i>

- **種の特性と生育状況**：主に、本州以西の水田や休耕田、河川湿地等に生える一年生の沈水～湿生植物。植物体は小さく地面を這い、狭卵形の葉を対生する。6～10月、紅紫色で3数性の小さな花を開く。都内では南多摩から西多摩の丘陵地に残る水田において散見される状態である。また、区部では絶滅となっていたが、2020年、皇居外濠泥土の埋土種子から復活した事例がある。
- **生存を脅かす要因**：水田への依存度が高く、耕作停止により生育環境が失われるほか、農業の使用にも大きく影響を受ける。
- **特記事項**：都立大学牧野標本館には牧野富太郎や檜山庫三収集による板橋区志村、杉並区高井戸などの標本が収められている。

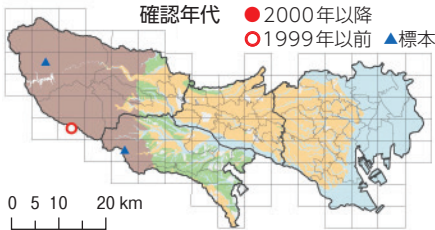
執筆者	内野秀重
文献一覧	28, 263, 270, 287, 295, 310



被子植物 スミレ科
エゾノタチツボスミレ <i>Viola acuminata</i>

- **種の特性と生育状況**：北海道、本州中部を中心に分布する多年草。地上茎を伸ばし草丈が20～40cmになる。花は淡紫色から白色で、側弁の基部に毛があり、また花柱の先に突起毛がある。距の背面に溝があるのも特徴。花期は4月下旬～5月中旬。葉は心形～長卵形で先端が急に尖り、葉柄に毛があるものが多い。山地帯の草地や林縁に生育する。都内では南多摩・西多摩の山地草原に分布するが少なく、南多摩のものは近年確認されていない。
- **生存を脅かす要因**：草地開発、採取、遷移進行・植生変化、シカの食害。
- **特記事項**：

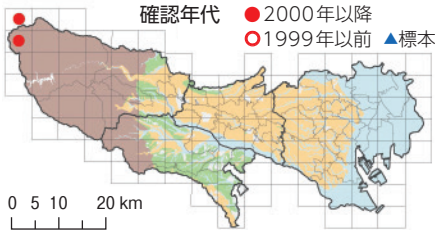
執筆者	新井二郎
文献一覧	21, 163, 168, 180, 219, 253



被子植物 スミレ科
キバナノコマノツメ <i>Viola biflora</i>

- **種の特性と生育状況**：北海道、本州（中部以北）、四国、九州（屋久島）の亜高山帯から高山帯に分布する多年草。地上茎があり、草丈5～15cm。花は黄色で、上弁と側弁が上方にそり返り、唇弁は長く下に突き出す。花期は5月中旬～6月上旬。葉は腎形から円形で表面に微毛があり柔らかく、光沢がない。都内では奥多摩の山地帯上部から亜高山帯のやや湿気のある草地や林縁に生育する。
- **生存を脅かす要因**：草地開発、石灰採掘、採取、遷移進行・植生変化、シカの食害。
- **特記事項**：

執筆者	新井二郎
文献一覧	24, 164, 168



区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	●	●	●	●	
2010	●	●	●	●	
1998					



八王子市 1988 年 4 月 20 日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	●	●	●	●	
2010	●	●	●	●	
1998					



奥多摩町 1997 年 5 月 22 日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	●	●	●	●	
2010	●	●	●	●	
1998					



奥多摩町 2015 年 4 月 27 日

ナガハシスミレ

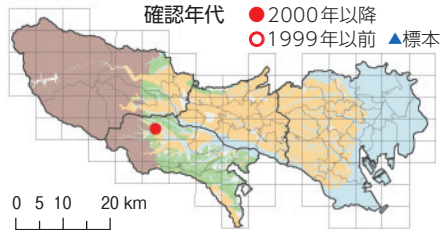
被子植物
スミレ科

■ **種の特性と生育状況**：北海道南部から島根県の主に日本海側に分布するが、太平洋側にも点在する多年草で、低山地の落葉樹林下や林縁に生育する。地上茎を出し、葉は先の尖った心形でやや光沢があり、托葉は櫛の歯状。花は淡紫色で4月中旬～下旬に咲き、側弁は無毛、非常に長い距が目立つ。都内では南多摩北部の丘陵のごく限られたところに生育するだけであったが、近年開発により自生地が崩され、現状不明。

■ **生存を脅かす要因**：各種開発、市街地開発、採取、局所分布。

■ **特記事項**：既存自生地に生育していたものは一部移植され、また種子採取もされている。

執筆者 新井二郎
文献一覧 19, 21, 243



ミヤマスミレ

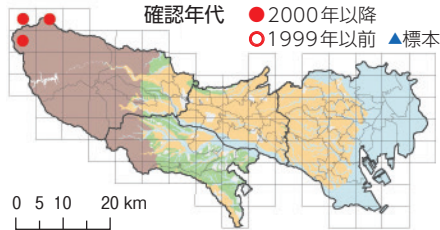
被子植物
スミレ科

■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州（中部以北、広島県）、四国（徳島県）に分布する多年草で、山地の樹林内や林縁に生育する。葉は心形で先が尖り、両面明るい色をしている。花は紅紫色で5月中旬から6月上旬に開花し、側弁基部は無毛。都内では、奥多摩の標高の高い湿り気のある林内や林縁、路傍に生育するが少ない。

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採、採取、遷移進行・植生変化、シカの食害。

■ **特記事項**：

執筆者 新井二郎
文献一覧 163, 168



シコクスミレ

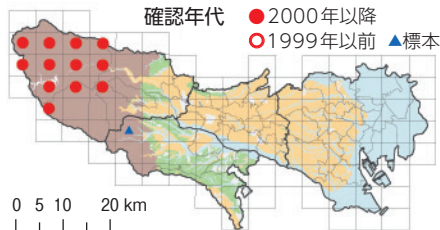
被子植物
スミレ科

■ **種の特性と生育状況**：本州（関東以西の太平洋側から中国）、四国、九州に散在的に分布する多年草で、山地の落葉広葉樹林内に生育し、地下茎を伸ばし群生することも多い。草丈は5 cm ほど、葉は長さ2～4 cm の心形で先が尖る。花は径1.5 cm ほどの白色で、側弁基部は有毛のものが多い。花期は4月中旬～5月上旬。都内では、西多摩の山地谷沿いのやや湿った樹林下や林縁に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採、採取、遷移進行・植生変化。

■ **特記事項**：

執筆者 新井二郎
文献一覧 163, 168



区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	●	●	●	●	
2010	●	●	●	●	
1998					



八王子市 2014 年 4 月 5 日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	●	●	●	●	
2010	●	●	●	●	
1998					



奥多摩町 2003 年 6 月 5 日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	●	●	●	●	
2010	●	●	●	●	
1998					



栃木県 2015 年 6 月 4 日

イブキスミレ

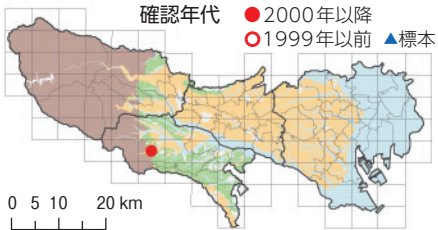
被子植物
スミレ科

■ **種の特性と生育状況**：北海道や本州のごく限られた地域に隔離分布し、丘陵地から山地の麓や中腹にかけ、やや湿り気のある林下や林縁に生育する多年草。有茎種だが花期は無茎状で、花後に伸ばした茎の先に柄の短い葉をほぼ対生状に出し、閉鎖花をつける。葉は円心形で質が薄く柔らかな感じがする。花は淡紫色で側弁の基部に毛が密生する。花期は4月上旬。都内の分布は、南多摩のごく限られた狭い地域で、河川に面した湿り気のある林下や林縁にわずかに生育する。過去、北多摩にあった自生地では消滅した。

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採、市街地開発、採取、遷移進行・植生変化、その他の動物による食害、局所分布。

■ **特記事項**：

執筆者 新井二郎
文献一覧 21, 105, 180, 243, 248, 270



シロスミレ

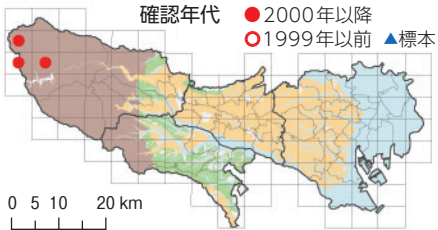
被子植物
スミレ科

■ **種の特性と生育状況**：北海道から東北地方の太平洋側、関東から中部地方の山地に分布する多年草で、やや湿り気のある日当たりの良い草原や明るい林内に生育する。地上茎がなく、草丈10～15 cm。葉は直立し、長披針形か長卵形で両面無毛。花期は5月中旬～6月上旬。側弁と唇弁に紫条がある白色の花を咲かせ、側弁基部に毛がある。都内では、西多摩の標高の高い山地尾根部の草原に生育するが少ない。

■ **生存を脅かす要因**：草地開発、採取、遷移進行・植生変化、シカの食害。

■ **特記事項**：

執筆者 新井二郎
文献一覧 163, 168



タチスミレ

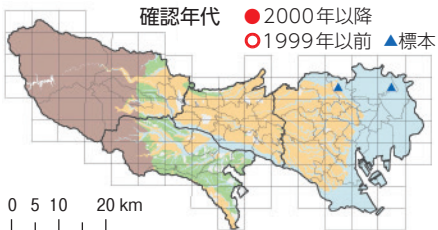
被子植物
スミレ科

■ **種の特性と生育状況**：関東と九州に分布する多年草で、河川敷の湿り気のあるアシ原や草地に生育する。地上茎が高く伸び、花期は30 cm 前後で花後には1 m ほどになるものもある。葉は長さ4～6 cm の三角状披針形で托葉は2～5 cm と大きく、まばらな鋸歯がある。花は小型で花弁の外側が淡紫色、側弁基部に短毛がある。都内では、1930 年代の標本など区部北部での記録があるが、絶滅したと考えられる。

■ **生存を脅かす要因**：河川開発、湿地開発、管理放棄、遷移進行・植生変化。

■ **特記事項**：

執筆者 新井二郎
文献一覧 77, 270, 314



区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	●	●	NT	NT	NT
2010	●	●	NT	NT	
1998			A		



八王子市 2009年3月26日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	●	●	CR	CR	
2010	●	●	CR		
1998			D		



奥多摩町 2006年5月15日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	DD	CR	NT	NT	NT
2010	DD	CR			
1998		C			



八王子市 1995年4月10日

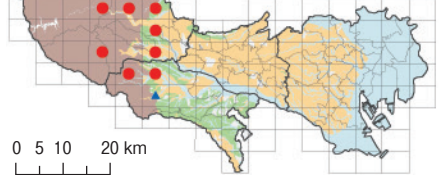
シハイスミレ

Viola violacea

被子植物
スミレ科

- **種の特性と生育状況**：本州（関東以西）、四国、九州に分布する多年草で、丘陵地尾根部のやや乾いた林下や林縁に生育する。葉は三角状卵形～披針形で斜上し、表面は光沢のある濃緑色、裏面は紫色を帯びる。花は紅紫色で3月中旬～4月上旬に咲き、側弁基部は無毛。都内では南多摩と西多摩の丘陵地尾根部の明るく乾き気味の林内や林縁に生育する。
- **生存を脅かす要因**：各種開発、市街地開発、採取、遷移進行・植生変化、動物による食害。
- **特記事項**：変種のマキノスミレによく似ているため、以前は認識されていなかった。丘陵地に見られるものの多くはシハイスミレで、注意が必要である。

執筆者	新井二郎
文献一覧	21, 243



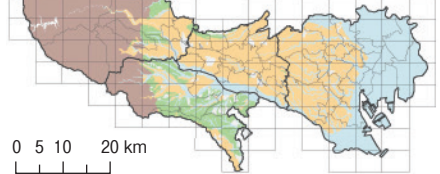
ヒメスミレサイシン

Viola yazawana

被子植物
スミレ科

- **種の特性と生育状況**：本州本州（中部・関東地方）に分布し、フォッサマグナ要素の植物ともいわれる多年草で、亜高山帯の針葉樹林下などに生育する。草丈は4～8cm、葉は花期には十分開いていないが、展開すると細長い心形で先が細く尖り、縁には粗い鋸歯がある。花は径1.5cm前後の白色で、側弁は無毛、距は短い。花期は5月。都内では、奥多摩の亜高山帯の針葉樹林下や石灰岩地に生育する。
- **生存を脅かす要因**：森林伐採、石灰採掘、採取、遷移進行・植生変化、シカの食害。
- **特記事項**：天祖山にも生育するが、石灰岩採掘のため現状不明。

執筆者	新井二郎
文献一覧	24, 163, 168



ヒカゲスミレ

Viola yezoensis

被子植物
スミレ科

- **種の特性と生育状況**：北海道～九州に分布するが、東北・関東・中部の太平洋側の山地に多い多年草。谷沿いのやや湿った樹林下や林縁、路傍に生育する。草丈は5～12cm、葉は長さ3～6cmの長卵形～長三角形で柔らかな毛がある。花は径2cm前後で白色、唇弁に細かな紫条があり、側弁基部はふつう毛がある。花期は3月下旬～4月中旬。都内では、区部や多摩地域の台地・丘陵・山地に分布するが、山地山麓部の谷筋の湿り気のある樹林下、林縁、路傍に多く生育する。
- **生存を脅かす要因**：森林伐採、人の踏みつけ、採取、遷移進行・植生変化、動物による食害。
- **特記事項**：花期に葉の表面が焦げ茶色のものを品種タカオスミレ (f. *discolor*) といい、ヒカゲスミレの生育地に普通に見られる。

執筆者	新井二郎
文献一覧	21, 163, 168, 180, 219, 243, 253, 270



区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	DD	VU	EN	NT	VU
2010					
1998					



瑞穂町 2022年3月31日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	●	●	CR	CR	CR
2010	●	●	CR	CR	
1998			B		



八王子市 2010年5月14日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	●	●	CR	VU	VU
2010	●	●	CR	VU	
1998					



奥多摩町 2017年4月24日

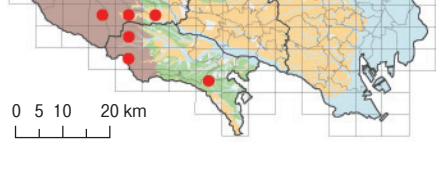
フモトスミレ

Viola sieboldii

被子植物
スミレ科

- **種の特性と生育状況**：本州（岩手県以南）、四国、九州の屋久島まで分布し、本州では太平洋側を中心に分布する多年草で、林内や林縁、草地などに生育する。草丈は3～6cm、葉は長さ1～3cmの卵形や広卵形でやや水平に広がり、裏面は紅紫色を帯びる。葉に斑が入ったものもある（フィリフモトスミレ）。花は径1cm前後で白色、唇弁には細かな紫条があり、側弁基部は毛が目立つ。花期は3月下旬～4月下旬。都内では、区部の台地、多摩地域の丘陵地や南多摩・西多摩の山地の尾根部のやや乾いた樹林下、林縁、路傍に生育する。
- **生存を脅かす要因**：森林伐採、採取、遷移進行・植生変化、その他の動物による食害。
- **特記事項**：狭山丘陵に生育するものは、山地のものとは葉形などに少し違う印象を受ける。

執筆者	新井二郎
文献一覧	21, 163, 168, 180, 243, 270



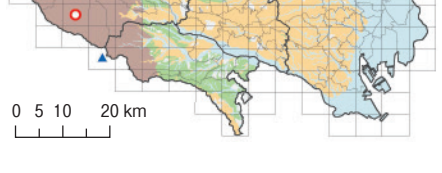
ゲンジスミレ

Viola variegata var. nipponica

被子植物
スミレ科

- **種の特性と生育状況**：東北地方北部の太平洋側、関東・中部地方の内陸部、岡山県、愛媛県と隔離分布する多年草で、明るい林縁、土手、路傍など日当たりが良く乾燥気味のところに生育する。草丈5～10cm、葉は2～4cmの円形～卵形で、表面は暗緑色、裏面は紅紫色を帯びる。花期は4月上旬～下旬、ごく淡い紅紫色で表側は白に近く、裏側の方が色の濃い花を咲かせる。側弁基部には毛がある。都内では、南多摩と西多摩の山地の林縁や草地、土手に生育するが少なく、南多摩のものは最近の確認記録がない。
- **生存を脅かす要因**：森林伐採、草地開発、採取、遷移進行・植生変化、その他の動物による食害、局所分布。
- **特記事項**：

執筆者	新井二郎
文献一覧	21, 163, 168, 180, 243, 253



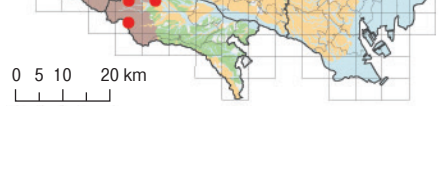
マキノスミレ

Viola violacea var. makinoi

被子植物
スミレ科

- **種の特性と生育状況**：本州（青森県～兵庫県）に分布する多年草で、山地尾根部のやや乾いた林下や林縁に生育する。シハイスミレの変種で、数枚の葉を束生する。葉は無毛の長披針形で立ち上がり、裏面はふつうシハイスミレより淡い紅紫色を帯びる。花は紅紫色で4月上旬～中旬に咲き、側弁基部は無毛。都内では、南多摩と西多摩の山地尾根筋の乾燥気味の林下や林縁に分布するが、南多摩では少なく、また西多摩北東部では山地に隣接した丘陵地にも生育する。
- **生存を脅かす要因**：各種開発、森林開発、採取、遷移進行・植生変化、動物による食害。
- **特記事項**：南多摩の丘陵に接した所に自生するマキノスミレには、シハイスミレとも思えるものが見られ、検討を要する。

執筆者	新井二郎
文献一覧	21, 163, 168, 180, 243



区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	CR	DD	VU	VU	VU
2010	●	●	VU	VU	
1998	C				



町田市 2000 年 4 月 9 日

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	●	●	●	CR	CR
2010	●	●	●	CR	
1998			A		



埼玉県 2018 年 5 月 12 日

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	NT	NT	NT	NT	NT
2010	NT	NT	VU	VU	
1998					



あきる野市 2006 年 9 月 25 日

シバヤナギ

Salix japonica

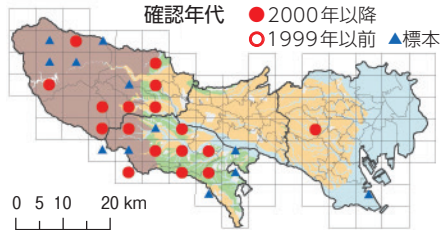
被子植物
ヤナギ科

■ **種の特性と生育状況**：本州（関東南部から東海）に分布する落葉低木。成葉は長さ4～10cm、葉身は披針形から長楕円状披針形、狭倒卵状披針。花期は3月中旬～4月中旬で、葉の展開と同時に開花する。台地から丘陵、山地にかけての崩壊地や露頭、段丘崖、谷戸底部などに生育する。南多摩と西多摩では各地に点在するが、区部ではごく稀。北多摩では過去の記録があるが現状は不明である。

■ **生存を脅かす要因**：管理放棄、遷移進行・植生変化。

■ **特記事項**：

執筆者	御手洗望
文献一覧	161, 170, 243, 290



シライヤナギ

Salix shiraii

被子植物
ヤナギ科

■ **種の特性と生育状況**：本州（東北南部～関東北西部）に分布する落葉小低木。高さ0.2～1m。成葉の葉身は卵形、長楕円状卵形、上部のものは長楕円状披針形、長さ4～8cm、幅2～4cm、先端部は鋭形または鋭尖形。裏面は粉白色。花期は4月下旬～5月上旬。花穂は葉と同時に現れ、細い円柱形。雄花穂は長さ2.5～3.5cm、径約7mm。雌花穂は、長さ2.5～5cm、径5mm 程度。山地の崖地や岩上に生育する。都内では西多摩の山地の石灰岩上に、極めて稀に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：石灰等採掘、遷移進行・植生変化、基質・基物の減少及び消失、局所分布。生息地が石灰岩の岩場であるため、採石による生息地の破壊・消失、大型台風や集中豪雨による生息環境荒廃など。

■ **特記事項**：日本固有種。生育条件として、石灰岩壁に限定されており、崩壊による自然消滅の可能性も高く、自生地を周辺環境と一体的に保全することが望ましい。関東山地に分布し、葉裏に長軟毛が密生するか少なくとも主脈上に毛が見られるものは、変種チチブヤナギとされる。

執筆者	田畑伊織
文献一覧	29, 53, 328, 330, 344



ニシキソウ

Chamaesyce humifusa

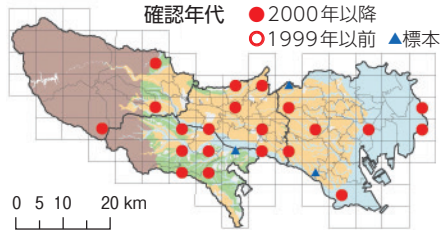
被子植物
トウダイグサ科

■ **種の特性と生育状況**：本州、四国、九州に分布する一年草。茎は地を這い、2又分岐する。葉はゆがんだ卵形で、表面の斑紋は明瞭ではない。杯状花序は小型で淡紅色。さく果は無毛であり、類似種のコニシキソウと区別できる。花期は6～9月。都内本土部の各地の耕作地、路傍などに生育する。

■ **生存を脅かす要因**：人の踏みつけ、管理放棄、遷移進行・植生変化。除草剤の使用も要因と考えられる。

■ **特記事項**：

執筆者	御手洗望
文献一覧	161, 243



区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	NT	NT	VU	VU	VU
2010	●	VU	VU	VU	
1998	C				



立川市 1992 年 3 月 20 日

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	NT	NT	VU	VU	NT
2010	NT	VU	VU	VU	
1998	C				



八王子市 1999 年 10 月 10 日

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	EX	CR	CR	EN	CR
2010					
1998					



新潟県 2008 年 7 月 20 日

コゴメヤナギ

Salix dolichostyla subsp. serissifolia

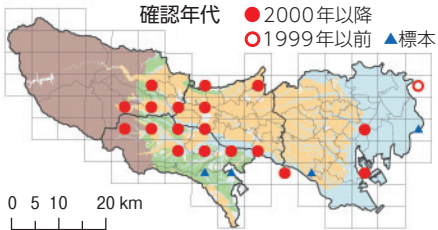
被子植物
ヤナギ科

■ **種の特性と生育状況**：本州（関東、中部、近畿）に分布する落葉高木。高さ25mに達する。成葉の葉身は狭長楕円状披針形、長さ4～7cm。先端は次第に狭く鋭尖頭、裏面は粉白色、両面とも無毛。花期は4月上旬～5月上旬で、葉の展開と同時に開花する。都内本土部の各地の河川中流域から下流域における高水敷に単生、または群生する。

■ **生存を脅かす要因**：河川開発、外来種による競争（競合）、温暖化や異常気象災害。

■ **特記事項**：河川敷の開発や河川のかく乱頻度の低下などに起因するハリエンジュの繁茂による自生地の環境変化に留意する必要がある。

執筆者	御手洗望
文献一覧	105, 161, 243, 323



ジャヤナギ

Salix eriocarpa

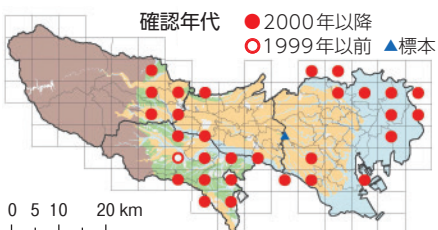
被子植物
ヤナギ科

■ **種の特性と生育状況**：別名オオシロヤナギ。本州（関東以西）、四国、九州に分布する落葉高木。高さ5～10mになる。葉は狭楕円形で長さ10～15cm、裏面は粉白色で、両面とも無毛である。雌雄別株だが国内では雌株だけが知られている。花期は3～4月で、葉の展開と同時に開花する。都内本土部の各地で河川中流域から下流域にかけての河川敷、また丘陵の谷戸の湿地に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：河川開発、湿地開発。

■ **特記事項**：大株になるが比較的短命な樹種のため、萌芽更新や挿し木などが個体保全に有効である。

執筆者	御手洗望
文献一覧	243, 323



オオキツネヤナギ

Salix futura

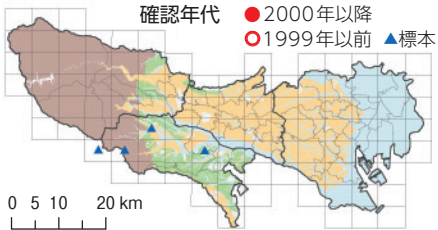
被子植物
ヤナギ科

■ **種の特性と生育状況**：本州（東北南部から関東、中部）に分布する落葉低木。高さ1～2m。葉は長楕円形、狭倒卵形あるいは楕円形で、長さ10～21cm。葉の表面は緑色でややしわがあり、裏面は粉白色で伏軟毛を散生し、主脈上の毛はやや密にある。花期は3～5月で、葉の展開より先に開花する。かつては都内本土部の各地でみられたが、区部では絶滅したと考えられる。多摩部では丘陵から山地にごく稀。

■ **生存を脅かす要因**：不明。

■ **特記事項**：多摩部でも少数の記録があるのみで、現状の把握が必要である。

執筆者	御手洗望
文献一覧	64, 170, 243



	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	DD	—	EX	—	EX	CR
2010	●	●	EX	●		
1998						



愛知県 2017 年 9 月 26 日

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	VU	VU	EN	EN	VU	
2010						
1998						



あきる野市 2020 年 9 月 30 日

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	EX	EX	CR	EN	EN	
2010	EX	CR	EN	EN		
1998	UK		B			



八王子市 1980 年 8 月 21 日

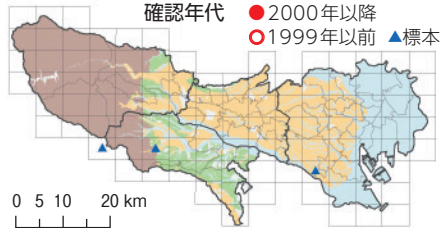
被子植物 アマ科
マツバニンジン
<i>Linum stelleroides</i>

■ **種の特性と生育状況**: 全国の乾燥した山地草原に生育する一年生草本。全体無毛。茎は直立し、高さ 40 ～ 60cm で断面は円形。葉は互生し、長さ 1 ～ 3cm の線形で 3 脈がある。葉柄は無い。茎上部で分枝した枝先が集散花序となり、淡紫色の 5 弁花を複数個、上向きに付ける。午前中のみ開花する 1 日花で、花期は 8 ～ 9 月。萼片は 5 枚で縁に少数の黒い腺点がある。さく果は球形で 5 裂する。同属で北アメリカ原産のキバナノマツバニンジン（*L. medium*）が各地の向陽草地で確認されているが、本種とは花色の違いで区別できる。都内では、区部および南多摩の向陽草地や山地草原などに生育していた記録があるものの、近年は生育情報が無く、絶滅した可能性が高い。

■ **生存を脅かす要因**: 草地開発、管理放棄、遷移進行・植生変化、局所分布。産地が局限されることに加え、山地草原の管理放棄や植生遷移の進行などが生存を脅かす主な要因であると考えられる。

■ **特記事項**: 全国的に絶滅が危惧される希少種であり、都内で自生地が再発見された場合には、生育状況を調査の上、速やかに適切な保全措置を講じることが望ましい。

執筆者	小林健人
文献一覧	25, 223, 253, 270, 287



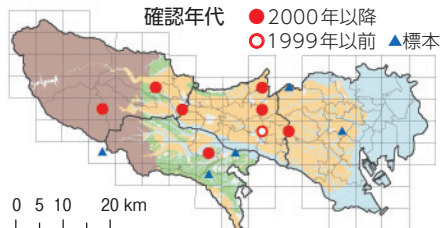
被子植物 コミカンソウ科
ヒツバハギ
<i>Flueggea suffruticosa</i>

■ **種の特性と生育状況**: 東北以西の平地から低山地に分布する雌雄異株の落葉低木。明るい林縁や原野に生育する。高さ 1 ～ 3m で、幹は灰褐色。枝は細く、よく分枝して先が枝垂れる。葉は互生し、長楕円形～卵状楕円形で両面無毛、長さ 4 ～ 5cm。葉腋に淡緑色の小花を束生、雌雄ともに 5 個の萼片を持ち、花弁は無い。花期は 6 ～ 8 月。10 ～ 11 月頃に熟すさく果には長い柄があり、花期とはまるで異なる姿となる。都内では、本土部全域に分布するが、用水沿いの緑地や河川中流部の堤防草地など、自生地はごく限られる。特に、南多摩と西多摩の丘陵地から低山地においては減少が著しい。

■ **生存を脅かす要因**: 河川開発、草地開発、管理放棄、遷移進行・植生変化、局所分布。本種の主たる生育環境である河川堤防草地の遷移進行や過度な草地管理などが生存を脅かす主な要因であると考えられる。

■ **特記事項**: 自生地の適度な草刈りによる草地の維持に加え、本種の生育に配慮した選択的草刈りの実施が望まれる。また、近年の生育状況については情報が不足しており、再調査が急がれる。

執筆者	小林健人
文献一覧	14, 17, 25, 28, 196, 249, 270, 294



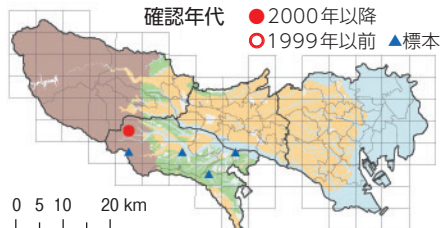
被子植物 フウロソウ科
タチフウロ
<i>Geranium krameri</i>

■ **種の特性と生育状況**: 本州、四国、九州に分布する多年草。高さ 60 ～ 80cm。茎はほぼ直立する。葉は長い柄があり、深く 5 裂する。花は薄紅色で径約 2.5cm。花弁に濃色の脈がある。花の柄は果実の時に反曲する。花期は 8 ～ 9 月。台地から丘陵、山地かけての明るい草地に生育する。区部と北多摩では絶滅したと考えられる。南多摩と西多摩では山地の草原にごく稀に生育する。

■ **生存を脅かす要因**: 管理放棄、遷移進行・植生変化、シカの食害。

■ **特記事項**:

執筆者	御手洗望
文献一覧	170, 243



	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	EX	●	●	●	EX	NT
2010	EX	●	●	●		
1998	D					



茨城県 1997 年 4 月 19 日

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	●	●	CR	CR	CR	NT
2010	●	●	CR	CR		
1998				B		



青梅市 2020 年 3 月 3 日

	区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
2020	EX	EX	—	CR	CR	NT
2010	EX	●	●	CR		
1998						



茨城県 1988 年 5 月 9 日

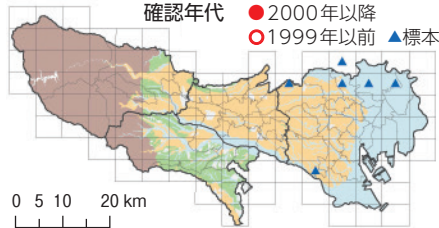
被子植物 トウダイグサ科
ノウルシ
<i>Euphorbia adenochlora</i>

■ **種の特性と生育状況**: 北海道、本州、四国、九州に分布する多年草。高さ 40 ～ 50cm。傷をつけると乳液がでる。葉は互生。長楕円形で円頭、長さ 5 ～ 8cm、質は軟らかい。上部では輪生する。花序は密に出る。花序の下部の苞葉は鮮やかな黄色で、花弁のように見える。花期は 4 ～ 5 月。低地の湿原に生育する。荒川付近の沖積地や久我山に古い記録はあるが、区部では絶滅したものと考えられる。

■ **生存を脅かす要因**: 河川開発、湿地開発、草地開発、管理放棄、遷移進行・植生変化。

■ **特記事項**:

執筆者	御手洗望
文献一覧	270, 293



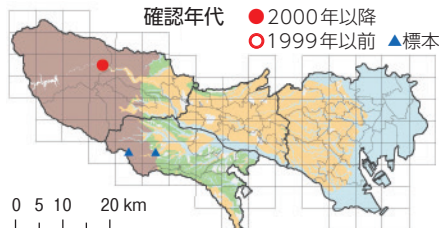
被子植物 トウダイグサ科
マルミノウルシ
<i>Euphorbia ebracteolata</i>

■ **種の特性と生育状況**: 別名ベニタイゲキ。北海道、本州に分布する多年草。地下茎は太い。高さ 40 ～ 50cm。長い白毛がまばらにある。さく果は平滑無毛である。雄花の基部に鱗片がない。花期は 5 月。南多摩や西多摩の丘陵や山地斜面下部の湿り気のある場所にごく稀に生育する。南多摩では絶滅の可能性がある。

■ **生存を脅かす要因**: 局所分布。

■ **特記事項**:

執筆者	御手洗望
文献一覧	243



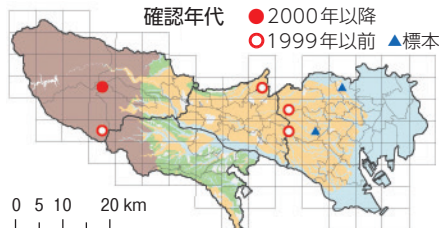
被子植物 トウダイグサ科
センダイタイゲキ
<i>Euphorbia sendaica</i>

■ **種の特性と生育状況**: 本州（関東以北）に分布する多年草。高さ約 40cm で全体無毛、地下茎を長くひく。葉は互生し、茎頂の数個は小型で輪生。まばらに集散花序を伸ばし、5 月頃、先端に杯状花序をつける。さく果は平滑。やや湿り気のある草地や湿地に生育する。西多摩の山地にごく稀に生育する。区部と北多摩では過去の記録があるが、絶滅したと考えられる。

■ **生存を脅かす要因**: 管理放棄、遷移進行・植生変化、局所分布。

■ **特記事項**: 東京都産の個体は変種ムサシタイゲキ var. *musashiensis* とされたことがあるが、現在は本種に含まれると考えられる。

執筆者	御手洗望
文献一覧	124, 152, 270



区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	EX	EX	－	DD	DD
2010	EX	EX	・	DD	
1998	UK				



国分寺市（植栽）2021年7月27日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	CR	CR	CR	CR	VU
2010	CR	CR	CR	CR	
1998	B				



八王子市 1985年9月26日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	EX	－	－	－	VU
2010					
1998					



葛飾区 1937年8月15日

被子植物
ミソハギ科

エゾミソハギ

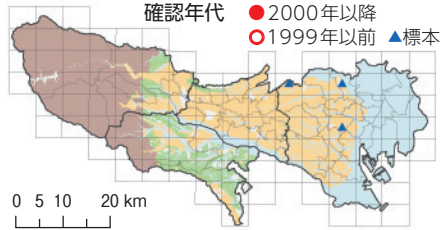
Lythrum salicaria

■ **種の特性と生育状況**：全国の湿原や水湿地に生える多年草。茎は直立し150cmに達する。同属のミソハギに似るが花序周囲は有毛、葉は茎を抱く。7～8月に開花し、花弁は6個で紅紫色、萼裂片間にある付属片は直立する。都内では区部及び北多摩南部に分布していたとされ、標本も残っている。現在ではほぼ絶滅していると判断されるが、一部の緑地等には、植栽か自生かはっきりしないものもあり、自然分布かどうかの判断は難しい。西多摩においても実態が明らかでない。

■ **生存を脅かす要因**：土地造成、河川湿地の埋め立て等により自生地が失われた。

■ **特記事項**：本種はミソハギとともに古くから盆花用、あるいは鑑賞用にしばしば栽培されることがある。

執筆者 内野秀重
文献一覧 28, 223, 270, 294, 295



被子植物
ミソハギ科

ミズマツバ

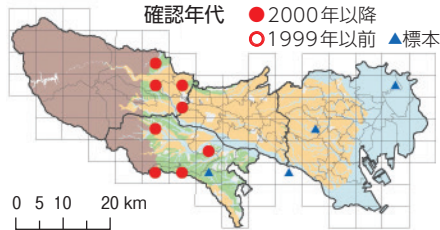
Rotala mexicana

■ **種の特性と生育状況**：本州以西の水田や休耕地に生える小形の一年生湿生植物。葉は3～4個輪生し狭披針形。花期は8～10月、花は淡紅色でごく小さく、5個の萼片のみで無花弁。果実はほぼ球形で熟すと3裂する。都内全域に分布しているが、近年、区部においては生育情報が得られておらず、狭山丘陵域および南多摩、西多摩の一部の谷戸田などに散見されるのみとなっている。

■ **生存を脅かす要因**：依存する水田の減少により自生地が失われるとともに、除草剤の使用により生育地が激減。農業使用の少ない湧水性の水田などに生育が見られるのみとなっている。

■ **特記事項**：

執筆者 内野秀重
文献一覧 17, 28, 108, 243, 270, 294



被子植物
ミソハギ科

ヒメビシ

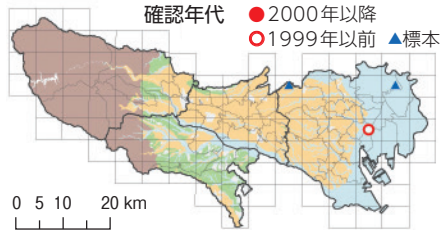
Trapa incisa

■ **種の特性と生育状況**：本州以西の湖沼やため池、水路、水田などの浅水域に生育する一年生の浮葉植物。ヒシ類中最小で葉裏や葉柄はほぼ無毛、葉形は縦長の菱形で鋸歯は粗く見える。開花は7～8月で花弁は白～淡紅色。果実は小形で4本の刺がある。区部、荒川及び江戸川水系の低地の水辺に生育していたが絶滅。皇居内の濠や池にも見られたが、1986年の確認後消滅している。多摩丘陵における記録もあるが詳細は不明である。

■ **生存を脅かす要因**：水湿地の埋め立て等により自生地が局限される状況となっていたことに加え、湧水の枯渇や水湿汚濁に影響を受けて消滅したものと推測される。

■ **特記事項**：本種は全国的にも減少傾向が強く各地できわめて稀な植物となっている。

執筆者 内野秀重
文献一覧 179, 191, 288, 294, 295



区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	・	・	－	EX	EX
2010	・	・	EX	EX	
1998			D		



長野県 2019年7月3日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	・	・	・	CR	CR
2010	・	・	・	EN	NT
1998			B		



神奈川県 2008年8月22日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	・	・	・	EN	EN
2010	・	・	・	EN	
1998			A		



山梨県 1999年9月5日

被子植物
フウロソウ科

グンナイフウロ

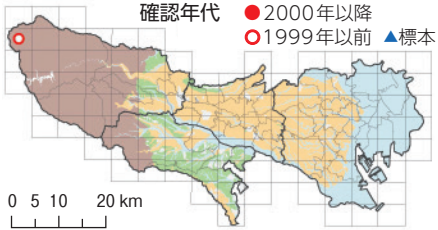
Geranium onoei

■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州（伊吹山以北）に分布する多年草。高さ30～50cm。全体に開出する粗毛がある。葉は五角形から七角形で浅く裂け、縁に鋸歯がある。花は薄紅色で径2.5～3cm。果実は長さ3cm。花期は6～8月。山地から亜高山にかけての明るい草地に生育する。西多摩の山地での記録があるが、90年代にすでに絶滅の可能性が指摘されており、現在は絶滅したと考えられる。

■ **生存を脅かす要因**：採取、管理放棄、遷移進行・植生変化、シカの食害、温暖化や異常気象災害。

■ **特記事項**：

執筆者 御手洗望
文献一覧 79, 170, 205



被子植物
フウロソウ科

アサマフウロ

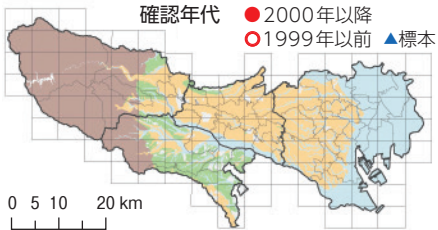
Geranium soboliferum var. *hakusanense*

■ **種の特性と生育状況**：本州（中部）に分布する多年草。高さ60～80cm。葉は深く5～7裂し、短い伏毛がある。花は濃い紅紫色、濃い色の脈が目立つ。花弁の基部には白毛を密生する。小花柄は果時に直立する。花期は8～9月。都内では西多摩の山地上部の湿った草地にごく稀に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：採取、管理放棄、遷移進行・植生変化、シカの食害、温暖化や異常気象災害。

■ **特記事項**：西多摩の山地の近年の生育状況が不明のため、現状の把握が必要である。

執筆者 御手洗望
文献一覧 170



被子植物
フウロソウ科

コフウロ

Geranium tripartitum

■ **種の特性と生育状況**：本州、四国、九州に分布する多年草。高さ30～50cm。茎は基部が倒れ、上部で枝分かれする。葉柄は長く、葉身は3裂する。花は白色5弁で径1.5cm。普通2個ずつつく。花期は8～9月。西多摩の各地の山地上部の落葉樹林、針葉樹植林の林床に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採、人の踏みつけ。

■ **特記事項**：ニホンジカが高密度に生息する地域でも、矮性化して存続している。

執筆者 御手洗望
文献一覧 152, 170

